

Ⅲ. 調査結果詳細

1. 保育士有資格者全体の実態

1-1. 保育士資格取得方法 (Q3)

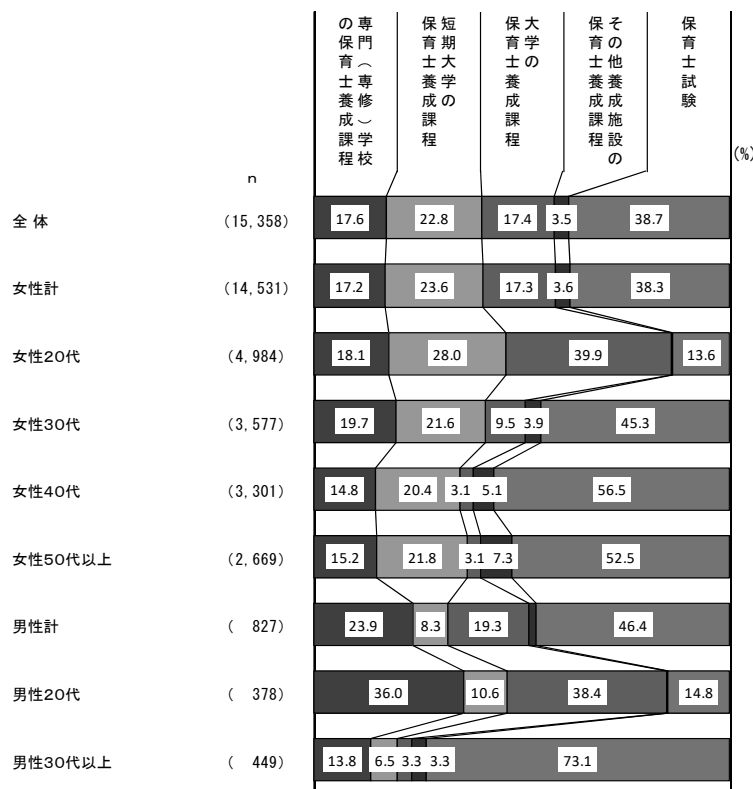
保育士資格の取得方法については、全体で「保育士試験」が4割近く(38.7%)、次いで「短期大学の保育士養成課程」(22.8%)、「専門(専修)学校の保育士養成課程」(17.6%)である。

保育士養成課程で資格を取得している者が6割強(61.3%)となっている。

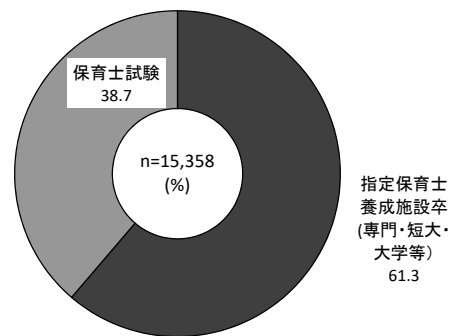
性・年代別で見ると、『女性 40代以上』と『男性 30代以上』で「保育士試験」が5割以上と高い。

Q3 あなたの保育士資格の取得方法をお答えください。(○は1つだけ)

Q3 保育士資格の取得方法



Q3 保育士資格の取得方法(2分類)



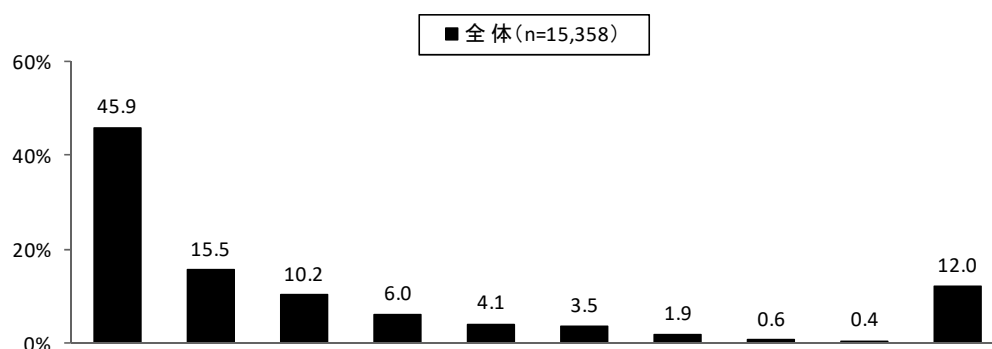
1-2. 保育士資格取得理由 (Q4)

保育士資格の取得理由については、全体で「子どもと接することが好きだったから」が4割半ば(45.9%)を占めており、次いで「保育士に興味があったから」(15.5%)、「あこがれの職業だったから」(10.2%)となっている。以下「就職に困らないと思ったから」(6.0%)や「身近な資格だったから」(4.1%)、「将来の自分の子育てに役に立つと思ったから」(3.5%)等は1割未満である。

性・年代別で見ると、いずれの区分でも「子どもと接することが好きだったから」の割合が高く、特に『女性20代』、『男性20代』で5割以上と高くなっている。

Q4 あなたが保育士資格を取得した主な理由をお答えください。(○は1つだけ)

Q4 保育士資格の取得理由



性別・年代	n	1	2	4	7	3	8	6	9	5	10
		子どもと接することが好きだったから	保育士に興味があったから	あこがれの職業だったから	就職に困らないと思ったから	身近な資格だったから	将来の自分の子育てに役に立つと思ったから	親や家族に勧められたから	大学または専門学校で学んだから	中学校・高校から勧められたから	その他
全体	15,358	45.9	15.5	10.2	6.0	4.1	3.5	1.9	0.6	0.4	12.0
女性計	14,531	45.8	15.3	10.5	6.2	4.1	3.5	1.9	0.6	0.4	11.6
女性20代	4,984	54.3	11.2	17.0	5.0	1.9	2.6	2.6	0.6	0.8	4.0
女性30代	3,577	44.8	16.9	9.1	6.6	4.2	5.2	1.3	0.4	0.3	11.3
女性40代	3,301	39.2	17.7	6.8	7.8	6.1	3.9	1.2	0.8	0.2	16.4
女性50代以上	2,669	39.6	18.0	4.7	6.1	5.6	2.7	2.1	0.6	0.3	20.4
男性計	827	46.8	17.4	4.8	2.9	3.7	3.3	2.3	0.6	0.5	17.7
男性20代	378	○ 56.3	14.6	8.2	2.6	2.9	1.3	3.2	1.1	1.1	8.7
男性30代以上	449	38.8	19.8	2.0	3.1	4.5	4.9	1.6	0.2	0.0	○ 25.2

1-3. 保育士以外の取得資格 (Q5)

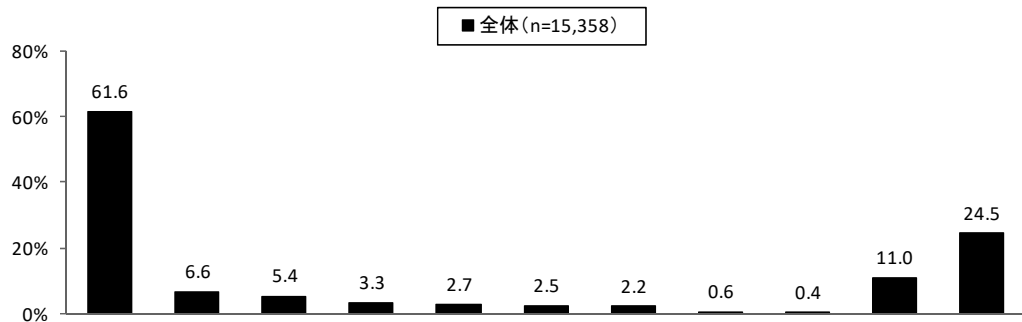
保育士以外に取得している資格については、全体で「幼稚園教諭」が6割強(61.6%)を占める。それ以外の資格はすべて1割未満である。

性・年代別で見ると、『女性20代』の8割半ば(84.3%)、『男性20代』の7割(70.9%)は「幼稚園教諭」資格取得者である。

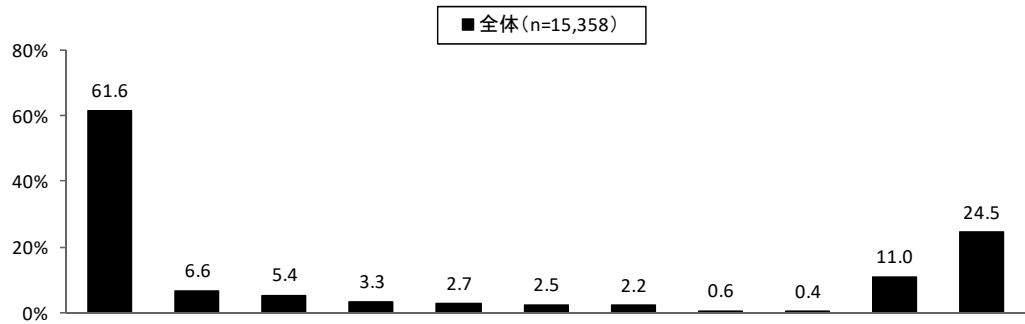
保育士資格の取得方法別で見ると、「短期大学の保育士養成課程」及び「その他養成施設の保育士養成課程」では9割が幼稚園教諭を取得している。保育士試験で資格を取得した者の5割近く(48.6%)は他に資格を保有していない。

Q5 あなたが保育士資格以外に取得している資格(H30年7月1日現在)をお答えください。(○はいくつでも)

Q5 保育士以外の取得資格(H30.7.1現在)(複数回答)



性別・年代	n	1	2	3	8	6	7	4	9	5	10	11
		幼稚園教諭	小学校教諭	中学校・高等学校教諭	社会福祉士	子育て支援員	介護職員初任者研修	介護福祉士	看護師・助産師・保健師	精神保健福祉士	その他保育・教育関係の資格	特にない
全体	15,358	61.6	6.6	5.4	3.3	2.7	2.5	2.2	0.6	0.4	11.0	24.5
女性計	14,531	62.5	6.5	5.2	3.2	2.7	2.5	2.1	0.6	0.3	10.8	24.0
女性20代	4,984	○ 84.3	6.8	1.2	4.6	0.9	1.0	1.1	0.1	0.2	12.4	△ 10.6
女性30代	3,577	56.1	6.5	5.9	3.9	1.4	1.5	1.7	0.7	0.3	10.2	29.2
女性40代	3,301	△ 45.5	5.8	7.0	1.6	4.2	3.3	2.8	0.8	0.4	9.4	○ 36.0
女性50代以上	2,669	△ 51.3	7.0	9.7	1.6	6.0	5.8	3.6	0.9	0.5	10.5	27.5
男性計	827	△ 46.3	8.1	8.0	6.0	2.4	2.2	4.6	0.8	2.1	13.9	33.1
男性20代	378	70.9	8.7	1.1	5.6	1.1	1.6	2.4	0.0	0.5	13.2	21.4
男性30代以上	449	△ 25.6	7.6	13.8	6.5	3.6	2.7	6.5	1.6	3.3	14.5	○ 43.0



Q3 保育士資格取得方法	n	1	2	3	8	6	7	4	9	5	10	11
		幼稚園教諭	小学校教諭	中学校・高等学校教諭	社会福祉士	子育て支援員	介護職員初任者研修	介護福祉士	看護師・助産師・保健師	精神保健福祉士	資格 その他保育・教育関係の	特にない
全体	15,358	61.6	6.6	5.4	3.3	2.7	2.5	2.2	0.6	0.4	11.0	24.5
専門(専修)学校の保育士養成課程	2,702	○ 80.2	2.5	1.3	3.0	1.5	2.4	3.6	0.2	0.1	7.5	15.7
短期大学の保育士養成課程	3,496	○ 90.6	2.1	0.3	2.9	1.4	1.6	2.7	0.3	0.0	9.1	△ 7.1
大学の保育士養成課程	2,673	○ 89.0	8.5	0.7	4.6	1.1	0.7	0.5	0.0	0.1	13.4	△ 6.7
その他養成施設の保育士養成課程	539	○ 92.2	○ 23.0	2.8	1.1	2.0	2.0	0.9	0.4	0.0	6.3	△ 4.8
保育士試験	5,948	△ 20.9	8.8	12.5	3.4	4.8	4.0	2.3	1.2	0.9	13.1	○ 48.6

F1 現在の就業状況(3分類)

就業状況	n	1	2	3	8	6	7	4	9	5	10	11
現在保育士就業中	9,379	66.6	5.1	3.9	2.9	2.9	2.3	1.6	0.3	0.2	10.7	22.5
過去保育士就業経験有	1,917	65.7	5.5	4.2	3.5	2.5	3.3	3.7	0.8	0.4	10.0	21.9
保育士就業経験無	4,062	△ 48.2	10.6	9.4	4.3	2.5	2.8	2.9	1.1	1.0	12.3	30.5

1-4. 現在の就業状況 (F1)

現在の保育士としての就業状況については、「働いている」が6割強(61.1%)となり、「働いていない」は4割弱(38.9%)となっている。

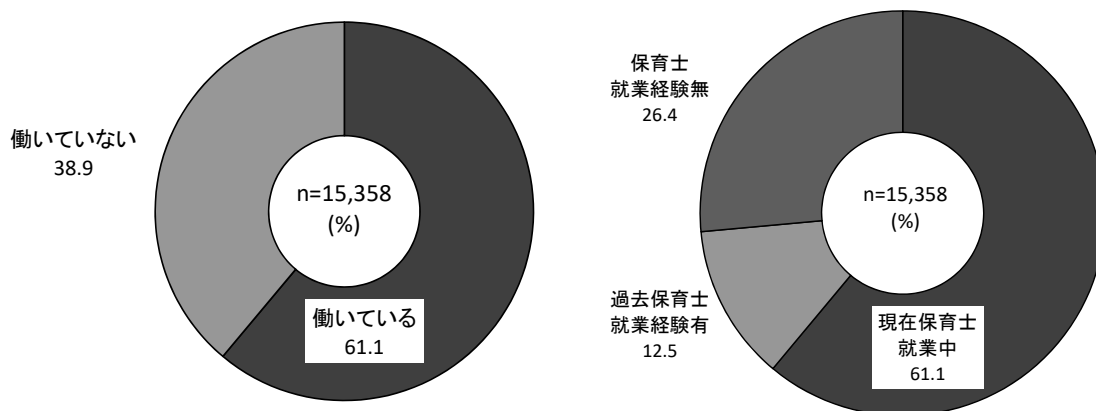
また、「働いていない」の内訳について見ると、「過去保育士就業経験有」が12.5%、「保育士就業経験無」が26.4%となっている。

性・年代別で見ると、『男性 30代以上』(44.1%)で「働いている」が4割半ばと他層より低い。

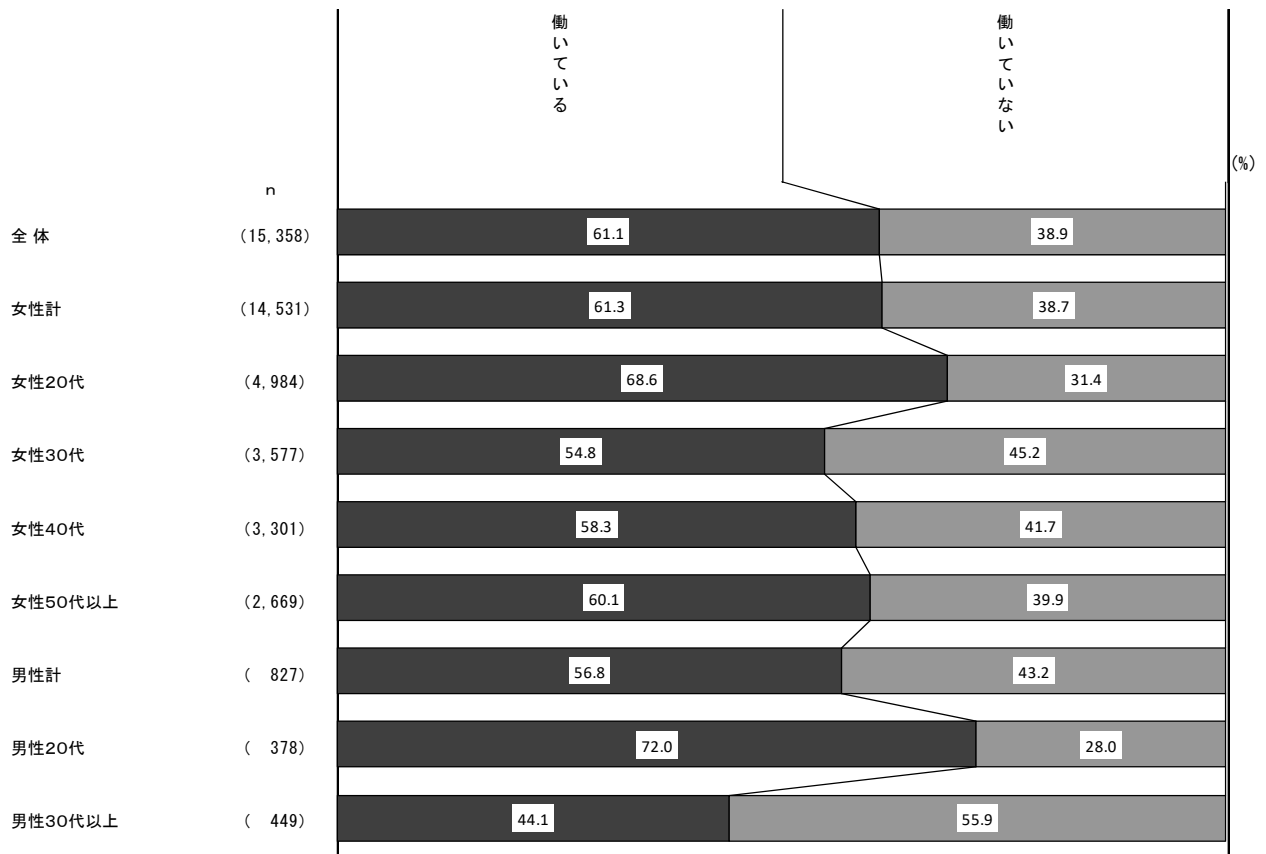
F1 あなたは現在保育士として働いていますか。

※現在、休職中の方(産休・育休含む)は、「働いている」としてお答えください。

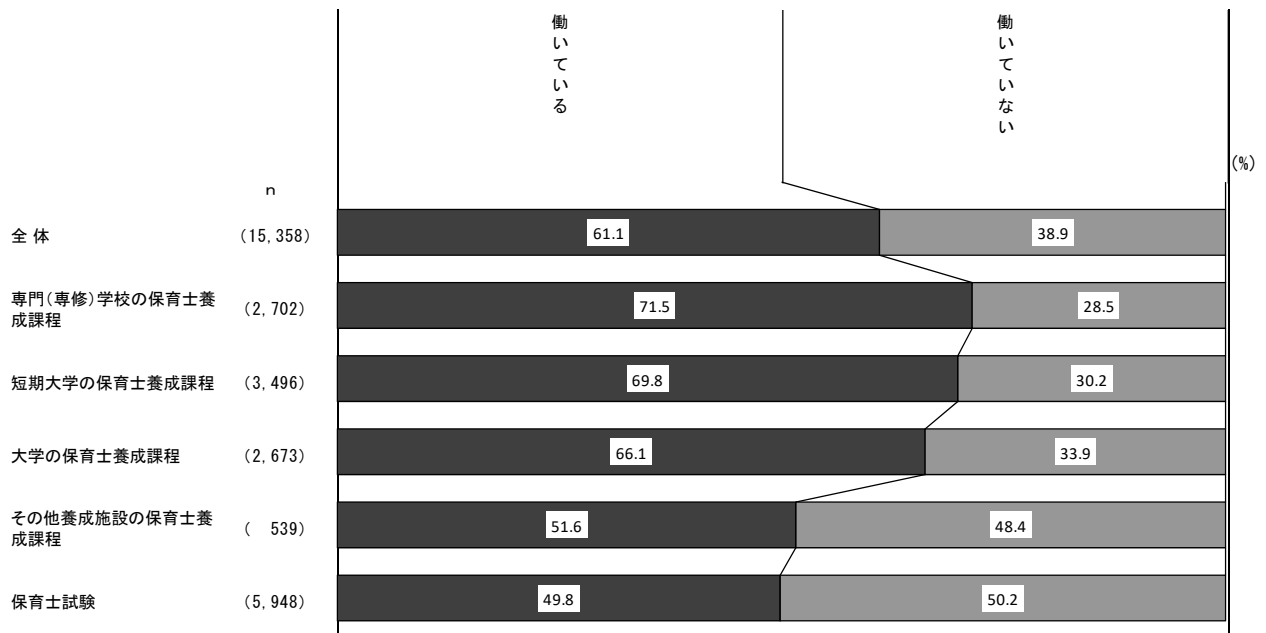
F1 現在の就業状況



F1 現在の保育士就業状況(性・年代別)



F1 現在の保育士就業状況(資格取得方法別)



1-5. 東京都の取組に対する認知 (AQ34・BQ28)

東京都の行っている取組に対する認知は「保育士就職支援研修・相談会」が約3割(26.7%)、「就職支援セミナー」が約3割(29.1%)となっており、約6割はいずれの取組も認知していない。

性・年代別で見ると、「いずれも知らなかった」が『男性 20代』で70.9%、『女性 20代』で72.5%となっており、他層よりも高い。

AQ34・BQ28 東京都では、「東京都福祉人材センター」と協力して、保育士の就職支援として以下のような取組を行っています。

あなたをご存知のものをお選びください。(〇はいくつでも)

AQ34,BQ28 東京都の取組に対する認知(複数回答)



2. 現在保育士就業中の者の実態

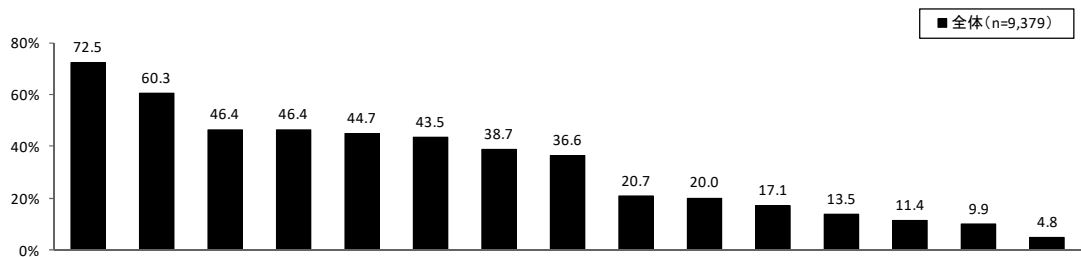
2-1. 職場選択時に重視した項目 (AQ6)

保育士として職場を選択する際に重視した項目は、全体で「勤務地」が7割強(72.5%)で最も多く、次いで「職場の人間関係」が約6割(60.3%)となっている。そのほか「給与が高いこと」と「やりがい」(共に46.4%)、「勤務時間・交代制の融通がきく」(44.7%)や「休暇が多い・とりやすい」(43.5%)が4割を超えている。

性・年代別で見ると、『男性』の方が『女性』よりも職場を選択する際に「昇給制度」を重視しており、『女性』の方が『男性』よりも「勤務地」を重視している。

AQ6 あなたが保育士として職場を選ぶ際、どのようなことを重視していましたか。(〇はいくつでも)

AQ6 職場選択時に重視した項目【現在保育士就業中】(複数回答)



性別・年代	n	4	7	11	2	10	8	13	1	3	9	14	5	6	12	15
		等勤務地 (自宅から近い)	職場の人間関係	給与が高いこと	やりがい	が勤務時間・交代制の融通がきく	休暇が多い・とりやすい	保育理念への共感	福利厚生の実度	ブ昇給制度 (キャリアアップ)	園 (など) の施設や設備の充実度 (新しさ等)	法人や園 (など) の評判	職員の数	研修制度の実度	寮や家賃補助制度の有無	その他
全体	9,379	72.5	60.3	46.4	46.4	44.7	43.5	38.7	36.6	20.7	20.0	17.1	13.5	11.4	9.9	4.8
女性計	8,909	73.7	60.8	46.3	46.2	45.4	43.8	38.8	36.5	20.2	20.1	17.2	13.4	11.4	9.5	4.6
女性20代	3,420	66.3	67.0	54.6	40.8	△ 32.3	45.7	36.8	○ 50.1	25.7	25.6	18.7	14.5	12.3	14.5	3.6
女性30代	1,960	76.9	62.4	51.4	46.5	○ 55.6	51.9	40.0	42.3	23.7	19.8	17.8	15.2	11.6	10.4	4.7
女性40代	1,926	81.9	57.0	40.3	47.8	○ 57.9	44.4	40.3	△ 23.0	14.6	15.7	16.3	12.4	11.4	4.7	5.9
女性50代以上	1,603	75.7	50.4	△ 29.8	55.2	△ 45.6	△ 28.9	39.9	△ 16.8	10.9	14.2	14.6	10.2	9.0	3.6	5.2
男性計	470	△ 49.6	50.9	48.3	51.5	△ 32.3	38.3	36.0	37.4	○ 31.5	18.3	13.8	16.0	12.3	16.8	8.1
男性20代	272	△ 46.3	51.8	○ 57.0	48.2	△ 32.0	40.1	30.9	42.6	○ 38.6	21.0	12.1	15.8	14.0	19.5	6.3
男性30代以上	198	△ 54.0	△ 49.5	△ 36.4	56.1	△ 32.8	35.9	42.9	30.3	21.7	14.6	16.2	16.2	10.1	13.1	10.6

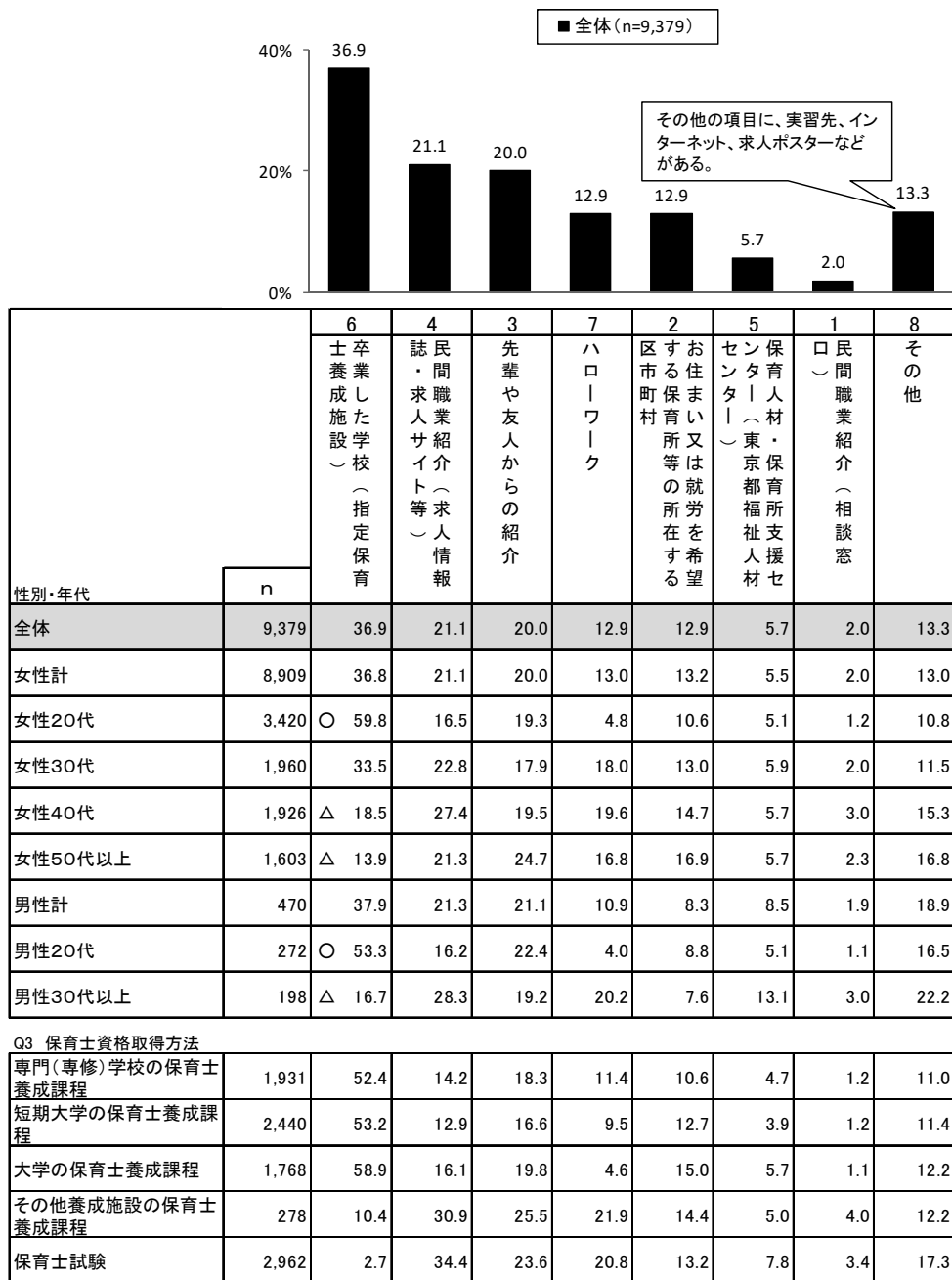
2-2. 初就業時に保育関係の求人を得るために利用した機関等 (AQ7)

保育士として初めて就業した際の情報取得元については、全体で「卒業した学校」が4割弱(36.9%)で最も多く、次いで「民間職業紹介」が2割強(21.1%)、「先輩や友人からの紹介」が2割(20.0%)、「ハローワーク」と「お住まい又は就労を希望する保育所等の所在する区市町村」は1割強(12.9%)となっている。

性・年代別で見ると、男女ともに『20代』では「卒業した学校」が最も多い。また、『30代以上』では「ハローワーク」の割合も高くなっている。

AQ7 あなたが初めて保育士として就職した際、どのようなところから得た情報を活用しましたか。(〇はいくつでも)

AQ7 初就業時に保育関係の求人を得るために利用した機関等【現在保育士就業中】(複数回答)



2-3. 就業前後の保育士イメージ (AQ8・AQ9)

就業前にもっていた保育士イメージについては、勤務時間の「長い」(90.2%)、給与の「低い」(95.3%)、体力面の「きつい」(92.6%)が9割を超え、休暇の「少ない」(88.2%)、保護者対応の「大変」(85.5%)、精神面の「きつい」(84.9%)が8割を超え、マイナスイメージが目立つが、他方、やりがいの「ある」(97.8%)が他のどの選択肢よりも高い回答率となり、モチベーションの高さがうかがえる。

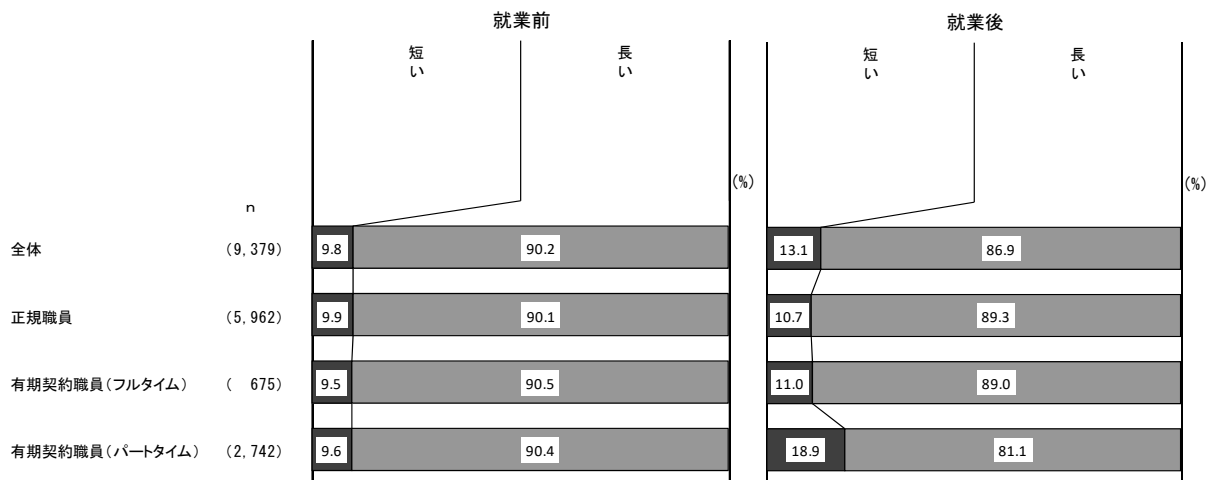
就業前後のイメージ変化を見ると、保育以外業務の「多い」(就業前76.9%→就業後90.9%)が高くなったことを除き、休暇の「少ない」(就業前88.2%→就業後81.0%)や精神面の「きつい」(就業前84.9%→就業後79.7%)等、マイナスイメージは弱まっている。

特に変化が見られたのは人間関係の「大変」(就業前74.0%→就業後51.5%)と保護者対応の「大変」(就業前85.5%→就業後65.3%)で、就業後に「良好」と捉える者の割合が増加している。

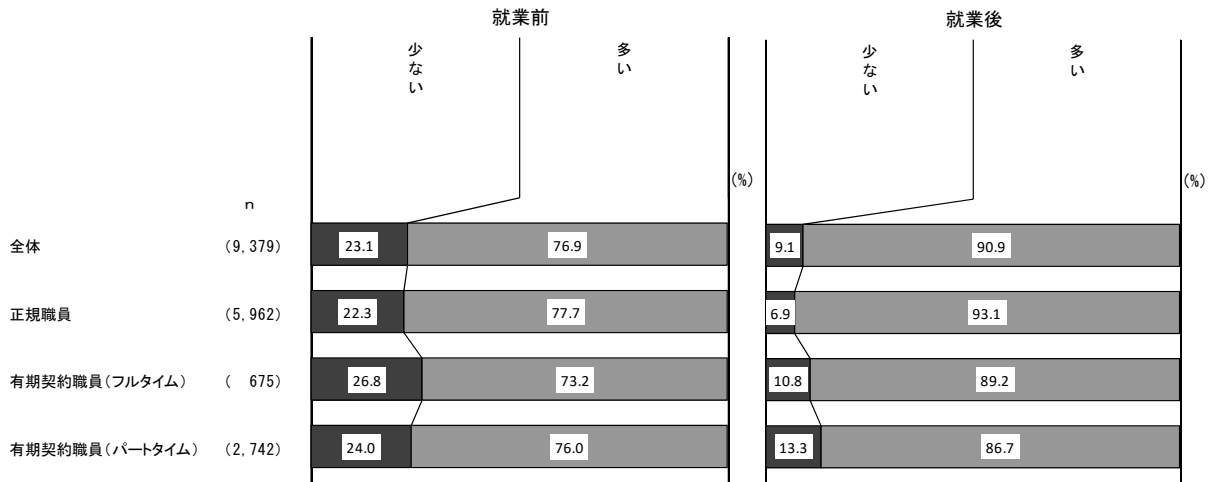
AQ8 保育士として働く前、保育士についてどのような印象をもっていましたか。次の1から11についてあなたのイメージに近い方の選択肢をそれぞれ1つずつお選びください。

AQ9 保育士として実際に働くなかで、あなたは保育士についてどのような印象を持っていますか。次の1から11についてあなたのイメージに近い方の選択肢をそれぞれ1つずつお選びください。

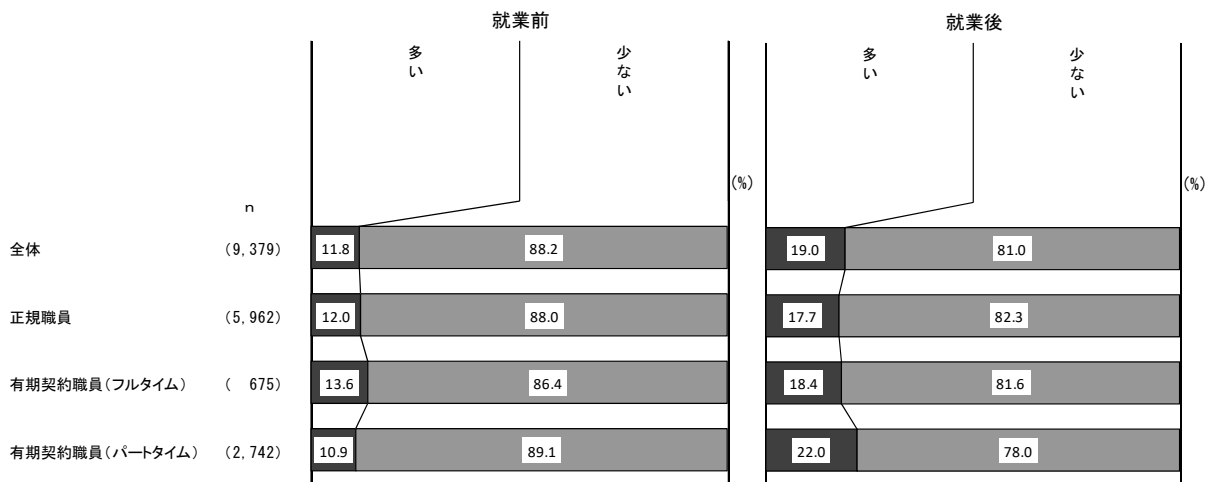
AQ8・9_1 就業前後の保育士イメージ<勤務時間>【現在保育士就業中】(雇用形態別)



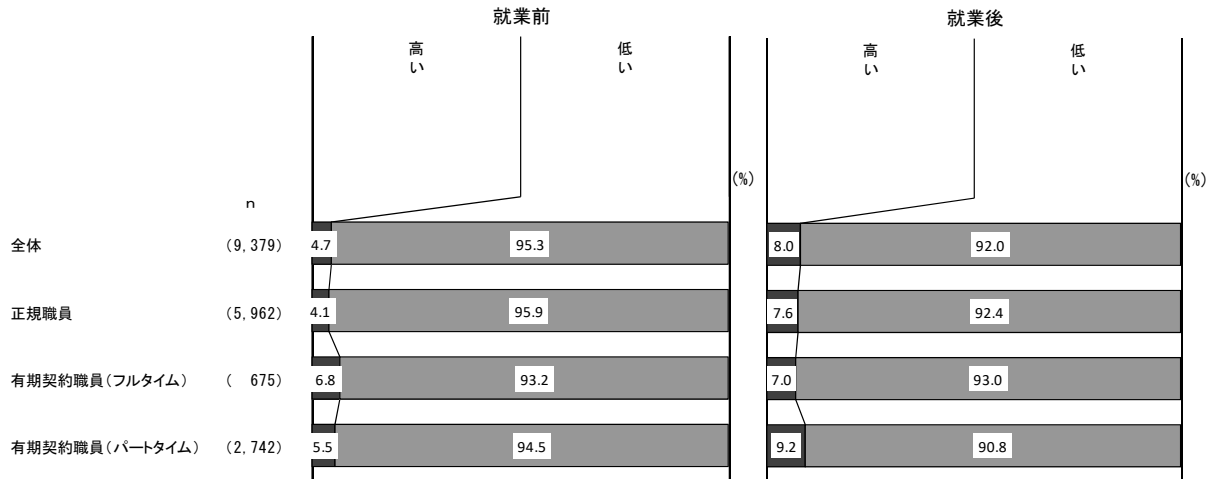
AQ8・9_2 就業前後の保育士イメージ<保育以外の業務>【現在保育士就業中】(雇用形態別)



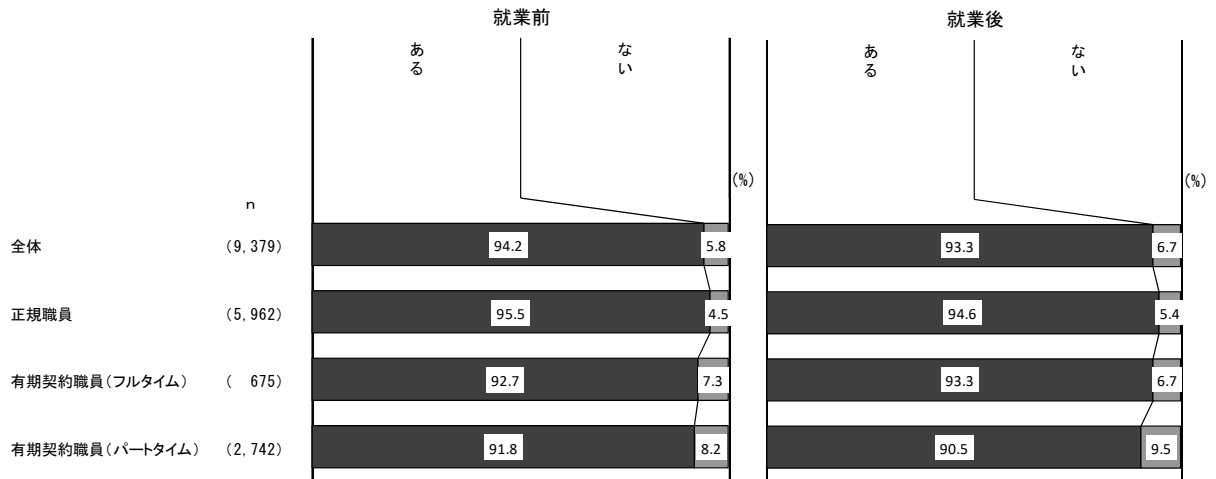
AQ8・9_3 就業前後の保育士イメージ<休暇>【現在保育士就業中】(雇用形態別)



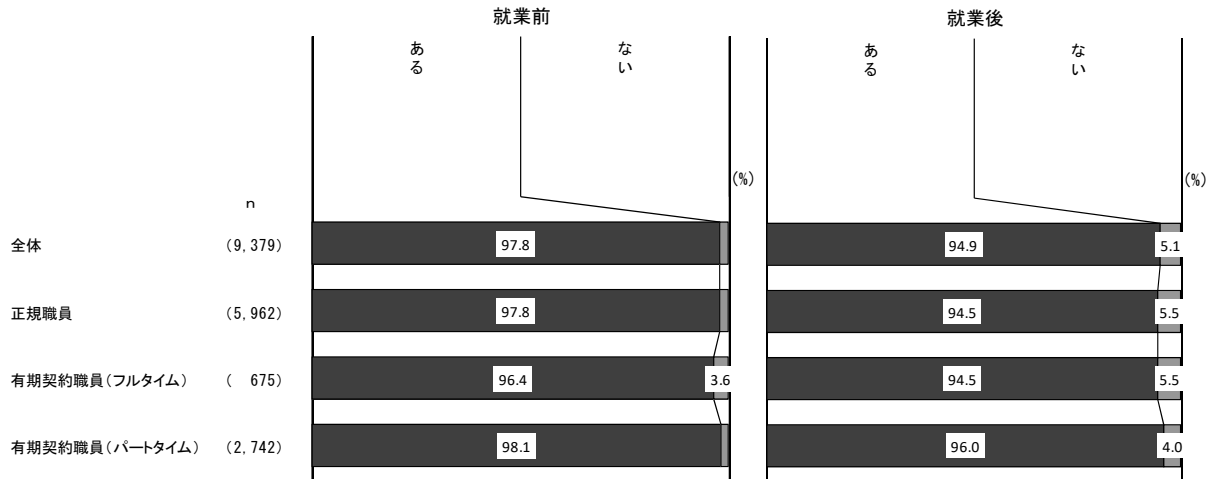
AQ8・9_4 就業前後の保育士イメージ<給与>【現在保育士就業中】(雇用形態別)



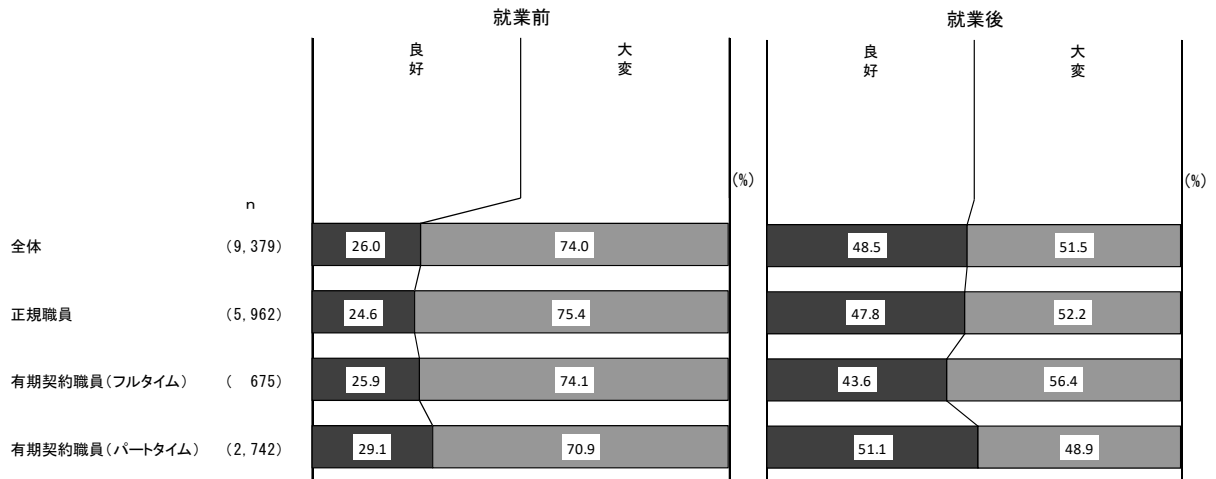
AQ8・9_5 就業前後の保育士イメージ<専門性>【現在保育士就業中】(雇用形態別)



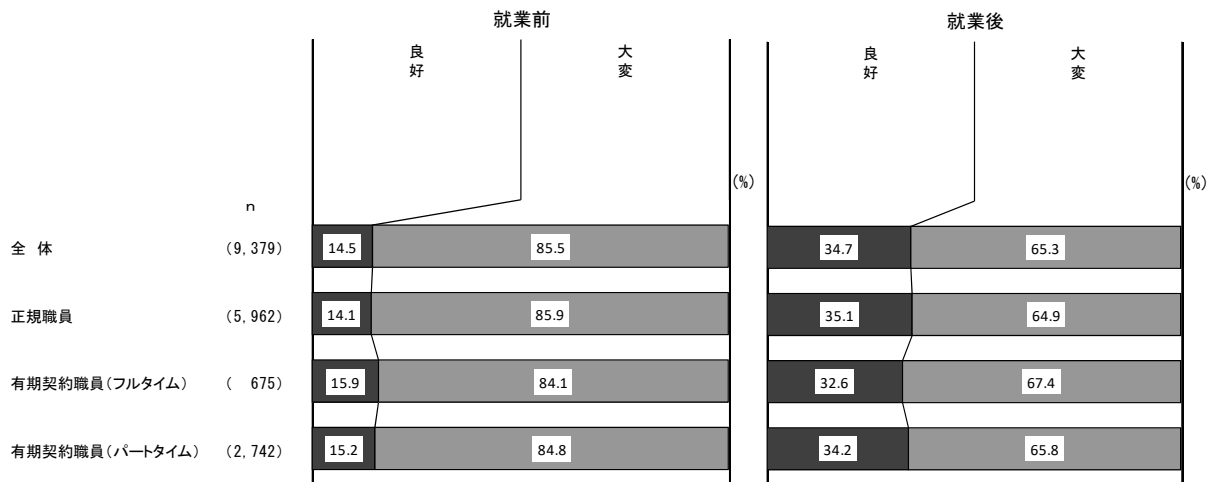
AQ8・9_6 就業前後の保育士イメージ<やりがい>【現在保育士就業中】(雇用形態別)



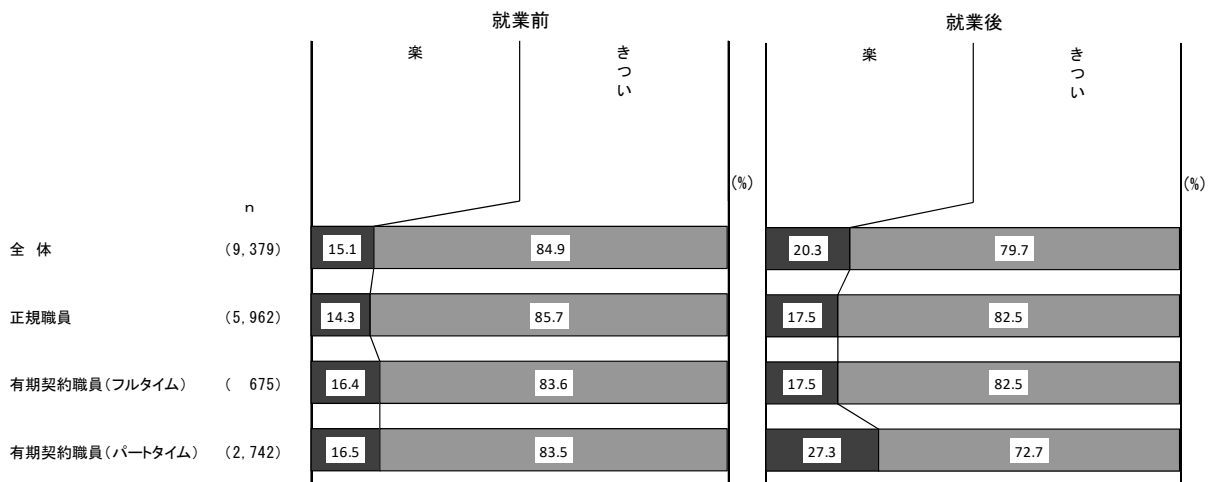
AQ8・9_7 就業前後の保育士イメージ<人間関係>【現在保育士就業中】(雇用形態別)



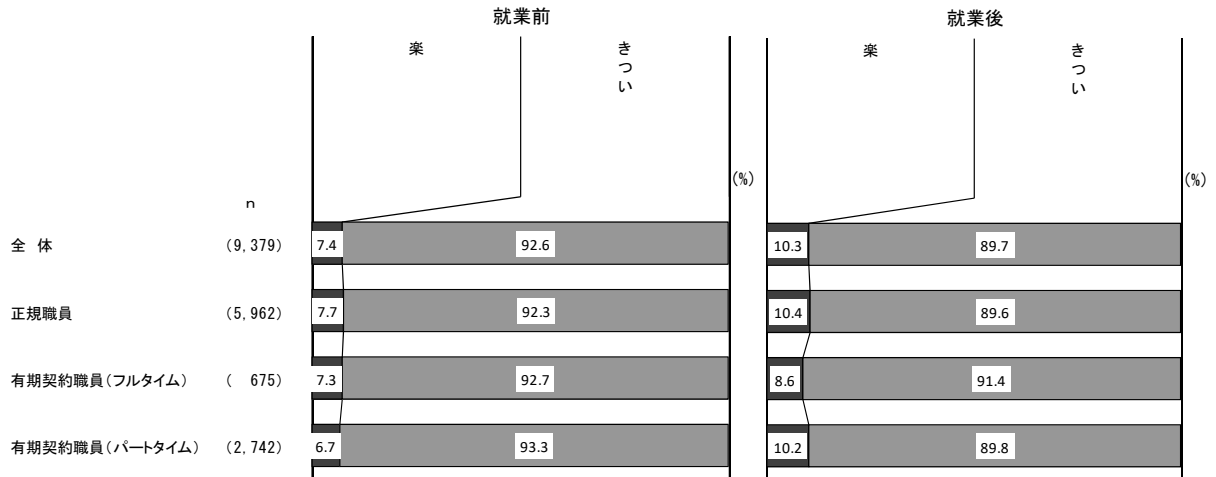
AQ8・9_8 就業前後の保育士イメージ<保護者対応>【現在保育士就業中】(雇用形態別)



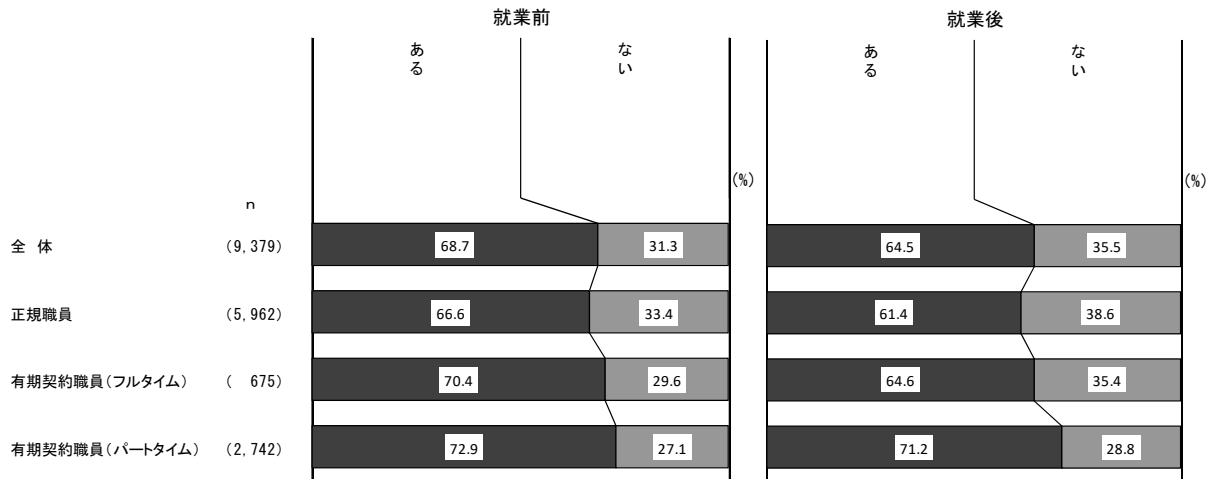
AQ8・9_9 就業前後の保育士イメージ<精神面>【現在保育士就業中】(雇用形態別)



AQ8・9_10 就業前後の保育士イメージ<体力面>【現在保育士就業中】(雇用形態別)



AQ8・9_11 就業前後の保育士イメージ<将来性>【現在保育士就業中】(雇用形態別)



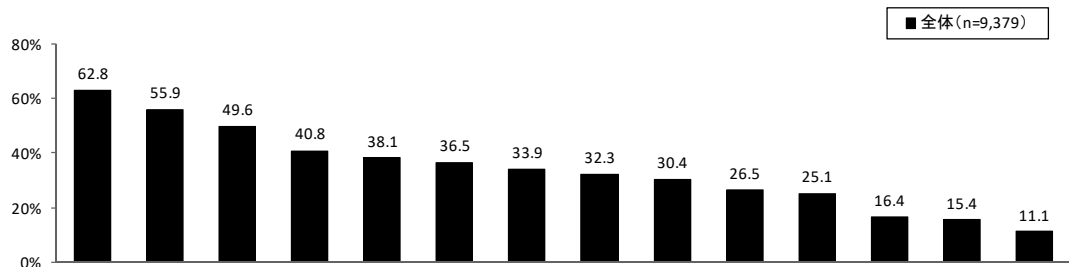
2-4. 負担に感じること (AQ10)

保育士として負担に感じることについては、全体で「行事」が6割を超えて(62.8%)最も多く、次いで「保育計画書の作成」が半数以上となっている(55.9%)。そのほか、「保護者対応」(49.6%)と「職員間の情報共有・打合せ」(40.8%)が4割を超える結果となっている。

性・年代別で見ると、「行事」、「保育計画書の作成」では男女ともに『20代』が6割以上と高い。
また、全体として男性の方が女性より負担に感じている割合が高くなっている。

AQ10 あなたが保育士として働くなかで、負担に感じることはありますか。あてはまるものに○をしてください(○はいくつでも)

AQ10 負担に感じること【現在保育士就業者】(複数回答)



性別・年代	n	2	12	1	6	5	8	3	9	11	4	10	7	13	14	
		行事 (準備含む)	保育計画書の作成	保護者対応	職員間の情報共有・打合せ	保育教材の準備	保育日誌の記入	監査等への対応	掲示物の作成	連絡帳の記入	職員の育成	児童の安全に関する(午睡・感染症など)の記録	保育計画書の作成	地域への対応	その他	
全体	9,379	62.8	55.9	49.6	40.8	38.1	36.5	33.9	32.3	30.4	26.5	25.1	16.4	15.4	11.1	
女性計	8,909	62.8	55.6	49.5	40.5	38.1	36.2	33.6	31.9	29.9	26.3	25.1	16.5	15.1	11.2	
女性20代	3,420	○ 75.3	○ 66.2	56.1	47.5	○ 49.9	41.9	33.6	39.4	32.5	23.7	25.2	15.8	16.8	10.2	
女性30代	1,960	64.6	61.6	53.5	40.8	39.2	38.7	○ 44.2	35.6	31.3	35.2	28.5	21.1	18.4	11.0	
女性40代	1,926	△ 52.7	△ 45.5	42.6	34.5	△ 26.8	30.3	30.0	24.1	26.7	25.3	23.6	15.3	12.6	12.3	
女性50代以上	1,603	△ 45.9	△ 37.7	△ 38.9	32.7	△ 24.8	27.9	24.9	△ 20.5	26.1	22.5	22.6	13.6	10.7	12.2	
男性計	470	64.0	61.1	51.5	46.0	39.1	42.8	40.0	40.0	40.2	29.1	24.7	16.0	20.2	10.4	
男性20代	272	69.5	○ 69.1	57.4	48.9	46.3	46.0	37.1	○ 45.2	○ 41.5	24.3	21.3	14.7	21.3	9.6	
男性30代以上	198	56.6	50.0	43.4	41.9	29.3	38.4	○ 43.9	32.8	38.4	35.9	29.3	17.7	18.7	11.6	
AQ15-4 雇用形態【現在保育士就業者】																
正規職員	5,962	72.0	65.6	55.7	46.4	45.2	41.1	39.3	37.5	32.8	31.2	27.5	17.0	18.4	11.5	
有期契約職員(フルタイム)	675	57.9	50.7	47.1	37.8	30.8	34.1	31.3	29.9	29.0	22.7	23.1	18.7	13.9	8.7	
有期契約職員(パートタイム)	2,742	△ 44.1	△ 36.0	△ 36.9	△ 29.4	△ 24.5	27.1	△ 22.9	△ 21.6	25.5	17.0	20.4	14.7	9.2	10.9	

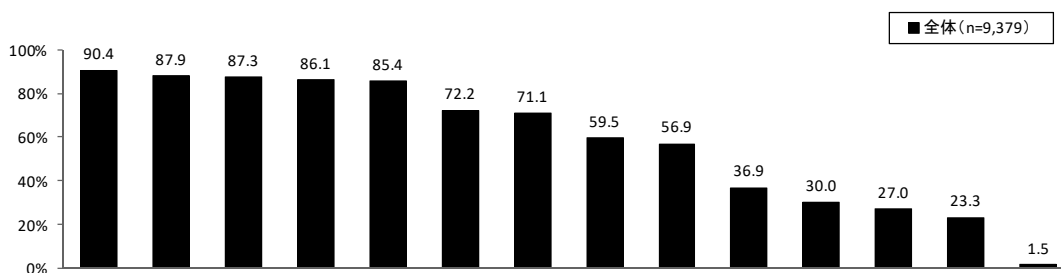
2-5. 保育士自身が行うべきと考える業務 (AQ11)

保育士自身が行うべきと考える業務については、全体で「保護者対応」(90.4%)が9割を超えて最も多く、「保育日誌の記入」(87.9%)と「職員間の情報共有・打合せ」(87.3%)、「連絡帳の記入」(86.1%)、「保育計画書の作成」(85.4%)が8割を超えている。

性・年代別、雇用形態別でも、特に大きな差は見られない。

AQ11 以下の保育士の業務のうち、保育士自身が行う必要があると、あなたが考えるものをお選びください。(〇はいくつでも)

AQ11 保育士自身が行うべきと考える業務【現在保育士就業中】(複数回答)



性別・年代	n	5	11	7	2	8	10	1	4	6	3	9	13	12	14
		保護者対応	保育日誌の記入	職員間の情報共有・打合せ	連絡帳の記入	保育計画書の作成	児童の安全に関する睡眠・感染症などの記入(午)	行事(準備含む)	保育教材の準備	職員の育成	掲示物の作成	食育計画書の作成	地域への対応	監査等への対応	その他
全体	9,379	90.4	87.9	87.3	86.1	85.4	72.2	71.1	59.5	56.9	36.9	30.0	27.0	23.3	1.5
女性計	8,909	90.5	88.2	87.4	86.2	85.4	72.2	71.0	59.2	56.6	36.6	29.7	26.5	22.9	1.5
女性20代	3,420	91.3	88.3	87.1	86.1	87.3	71.8	73.5	61.0	59.2	39.8	30.1	29.3	27.0	0.9
女性30代	1,960	93.5	89.3	90.2	88.1	87.1	75.6	72.1	59.8	65.5	36.2	31.8	29.8	25.5	1.3
女性40代	1,926	89.6	88.6	87.4	86.2	84.0	70.5	68.4	56.5	53.6	33.9	29.7	22.5	17.9	2.0
女性50代以上	1,603	86.1	86.0	85.0	84.3	81.0	71.1	67.6	58.0	43.7	33.6	26.6	21.1	16.9	2.4
男性計	470	88.5	83.0	85.1	84.0	85.7	71.9	72.8	64.7	63.6	43.4	34.9	37.4	30.6	1.5
男性20代	272	88.2	82.4	84.6	83.8	87.5	72.1	74.6	67.3	64.7	47.8	35.7	38.6	30.9	0.7
男性30代以上	198	88.9	83.8	85.9	84.3	83.3	71.7	70.2	61.1	62.1	37.4	33.8	35.9	30.3	2.5

AQ15-4 雇用形態【現在保育士就業中】

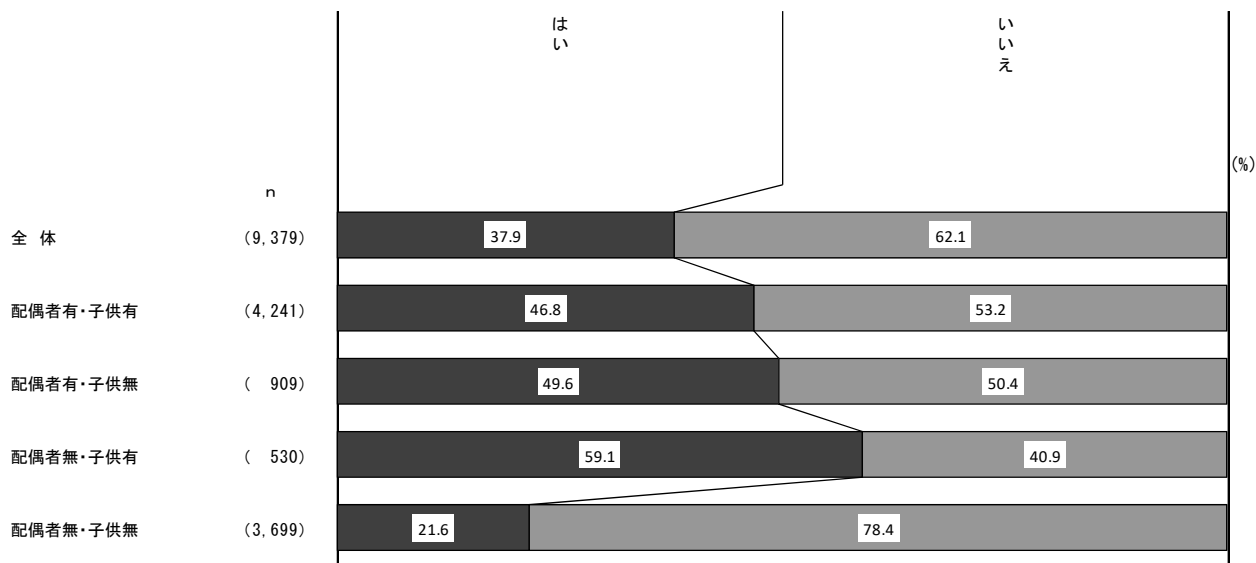
雇用形態	n	5	11	7	2	8	10	1	4	6	3	9	13	12	14
正規職員	5,962	91.9	89.1	88.0	86.9	87.6	72.7	73.8	62.4	61.4	39.0	30.9	30.2	26.1	1.4
有期契約職員(フルタイム)	675	88.9	86.7	87.1	85.2	84.3	72.1	68.4	56.0	49.2	34.8	31.0	22.7	20.9	1.3
有期契約職員(パートタイム)	2,742	87.5	85.6	85.9	84.7	81.0	71.1	65.9	54.1	49.1	32.9	27.8	21.0	17.8	1.8

2-6. 別職場での保育士就業経験 (AQ12)

以前に別の職場で保育士として働いた経験について、全体で「はい」(ある)が 37.9%、「いいえ」(ない)が 62.1%となっている。
 配偶者・子供の有無別で見ると、『配偶者無・子供無』で「いいえ」(ない)が 78.4%と最も多い。

AQ12 以前に別の職場で保育士として働いていたことはありますか。

AQ12 別職場での保育士就業経験【現在保育士就業中】(配偶者・子供の有無別)



2-7. 保育士を辞めた理由 (AQ13)

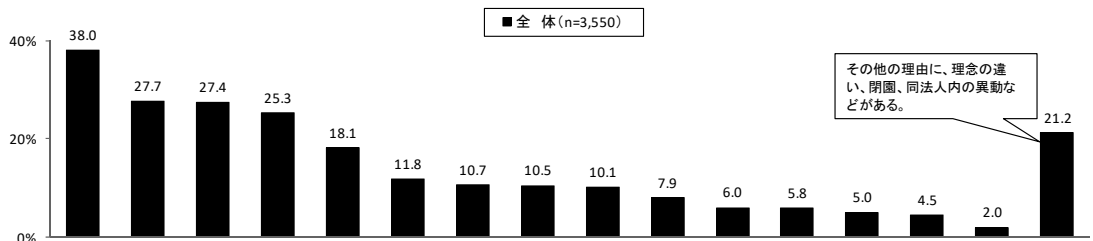
過去に保育士として働いていた職場の退職理由としては、全体で「職場の人間関係」(38.0%)が最も多く、次いで「仕事量が多い」(27.7%)、「給料が安い」(27.4%)、「労働時間が長い」(25.3%)となっている。

雇用形態別で見ると、いずれの層も「職場の人間関係」が最も高く、労働条件よりも労働環境のほうで退職の理由として大きい可能性がうかがえる。

配偶者と子供の有無別で見ると、「職場の人間関係」、「仕事量が多い」、「給料が安い」、「労働時間が長い」などにおいて『子供無』が『子供有』よりも高くなっている。

AQ13 その職場を辞めた理由をお選びください。(〇はいくつでも)

AQ13 保育士を辞めた理由【現在保育士就業中】(複数回答)



AQ15-4 雇用形態 【現在保育士就業中】	n	5	6	12	7	9	3	2	4	1	13	11	10	14	15	8	16	
		職場の人間関係	仕事量が多い	給料が安い	労働時間が長い	結婚	妊娠・出産	健康上の理由(体力含む)	雇用期間満了	転居	他業種への興味	職業適性に対する不安	子育て・家事	保護者対応の大変さ	家族の事情(介護等)	配偶者の意向	その他	
全体	3,550	38.0	27.7	27.4	25.3	18.1	11.8	10.7	10.5	10.1	7.9	6.0	5.8	5.0	4.5	2.0	21.2	
正規職員	1,867	41.6	33.5	33.6	31.2	11.8	6.6	8.5	9.7	9.3	7.9	5.6	3.5	5.2	3.5	1.7	25.5	
有期契約職員(フルタイム)	383	42.8	28.2	29.5	24.8	20.6	12.5	13.8	14.9	8.6	8.4	9.4	5.5	6.8	5.7	2.3	18.5	
有期契約職員(パートタイム)	1,300	31.5	19.2	17.8	16.8	26.3	19.0	12.9	10.2	11.8	7.8	5.6	9.2	4.2	5.6	2.2	15.7	
Q1-3&4 配偶者と子供の有無																		
配偶者有・子供有	1,986	32.1	23.2	22.3	21.1	21.7	18.4	8.7	10.4	10.0	7.3	4.2	8.5	3.3	4.4	2.4	19.8	
配偶者有・子供無	451	43.9	32.4	33.3	31.3	27.5	△ 1.1	12.4	10.4	16.9	11.1	8.4	0.2	7.8	5.3	2.9	19.3	
配偶者無・子供有	313	31.6	22.4	30.7	18.8	22.0	14.7	9.3	10.9	11.2	7.0	4.2	10.9	4.5	6.7	2.2	20.8	
配偶者無・子供無	800	〇 51.9	〇 38.1	35.5	34.8	△ 2.3	△ 0.3	15.1	10.5	6.3	8.3	10.0	0.3	7.9	3.4	0.3	25.8	

2-8. 転職時に保育関係の求人を得るために利用した機関等 (AQ14)

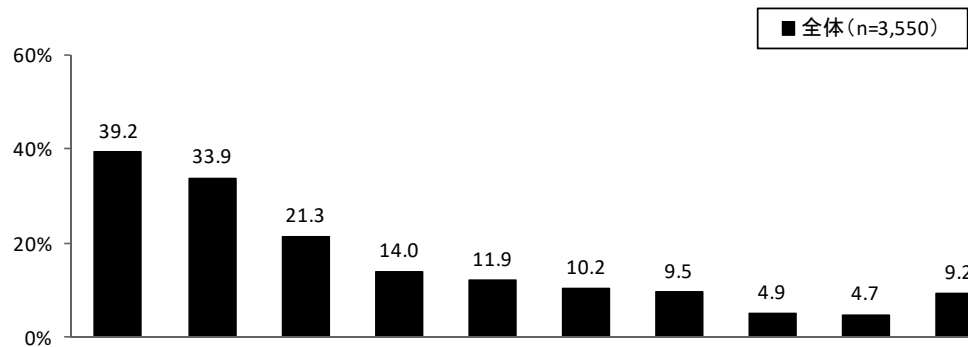
転職する際に活用した情報元は、全体で「民間職業紹介(求人情報誌・求人サイト等)」(39.2%)が最も多く、次いで「ハローワーク」(33.9%)、「先輩や友人からの紹介」(21.3%)となっている。

そのほかは、2割未満の回答となった。

性・年代別で見ると、『女性30代』と『男性30代以上』では「ハローワーク」が、それ以外の層では「民間職業紹介(求人情報誌・求人サイト等)」が最も高い。

AQ14 あなたが転職活動をする際、どのようなところから得た情報を活用しましたか。(〇はいくつでも)

AQ14 転職時に保育関係の求人を得るために利用した機関等【現在保育士就業中】(複数回答)



性別・年代	n	6	2	3	5	7	8	1	4	9	10
		民間職業紹介(求人情報誌・求人サイト等)	ハローワーク	先輩や友人からの紹介	区市町村	お住まいの地区又は希望する保育所等での就労を希望	保育士仲間	センター(東京福祉人材センター)	等(以前の勤め先からの紹介)	口(民間職業紹介(相談窓))	卒業した学校(指定保育士養成施設)
全体	3,550	39.2	33.9	21.3	14.0	11.9	10.2	9.5	4.9	4.7	9.2
女性計	3,430	39.4	34.1	21.2	14.1	11.9	10.1	9.6	4.8	4.5	9.1
女性20代	699	42.1	24.2	19.3	10.7	11.7	9.6	7.4	4.0	11.3	8.7
女性30代	1,035	37.9	41.1	19.3	14.4	12.2	9.9	10.3	4.5	4.1	9.5
女性40代	900	41.0	36.9	21.6	13.4	11.9	9.8	9.3	5.9	2.9	10.1
女性50代以上	796	37.3	30.7	24.7	17.5	11.6	11.4	10.7	4.5	1.1	7.8
男性計	120	34.2	26.7	25.0	10.0	13.3	12.5	7.5	8.3	9.2	12.5
男性20代	48	33.3	△ 12.5	27.1	14.6	14.6	6.3	10.4	8.3	14.6	4.2
男性30代以上	72	34.7	36.1	23.6	6.9	12.5	16.7	5.6	8.3	5.6	18.1

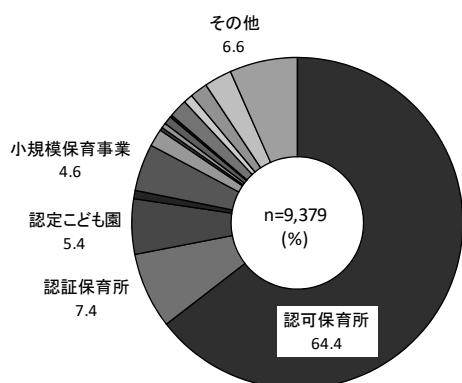
2-9. 現在就業施設の条件 (AQ15)

現在保育士として働いている者の施設類型は、全体で「認可保育所」が6割以上(64.4%)で最も高い。それ以外の施設類型の中では「認証保育所」(7.4%)と「認定こども園」(5.4%)と「小規模保育事業」(4.6%)がやや多い結果となった。

AQ15 現在、保育士としてお勤めの施設は下記のそれぞれの項目のいずれにあたりますか。

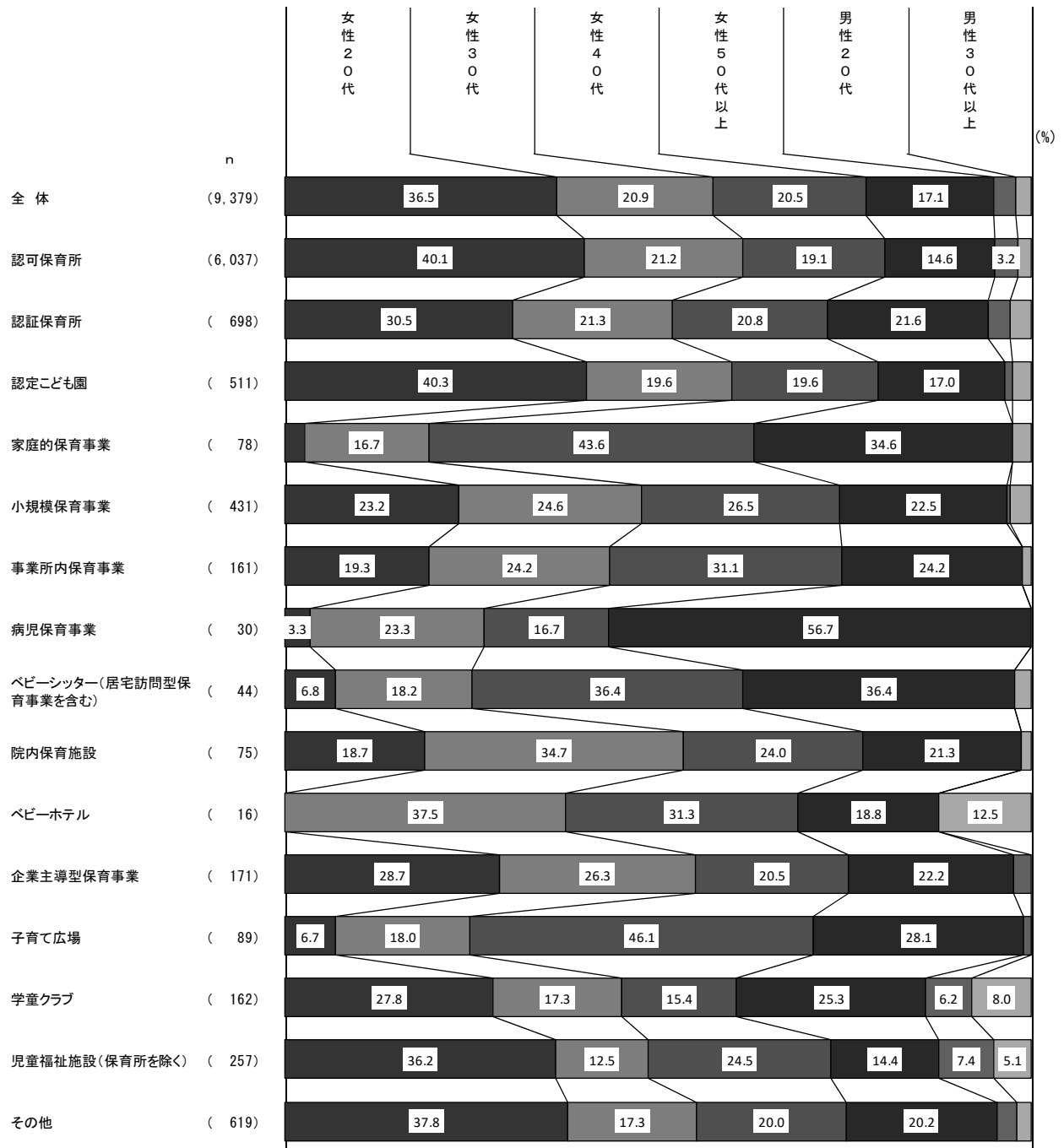
また、あなたの雇用条件としてあてはまるものをお選びください。複数の施設で働いている方は、最も長時間働いているところを主たる勤め先としてお答えください(以下同様に)。(○は各1つずつ)

AQ15_1 就業施設類型【現在保育士就業中】

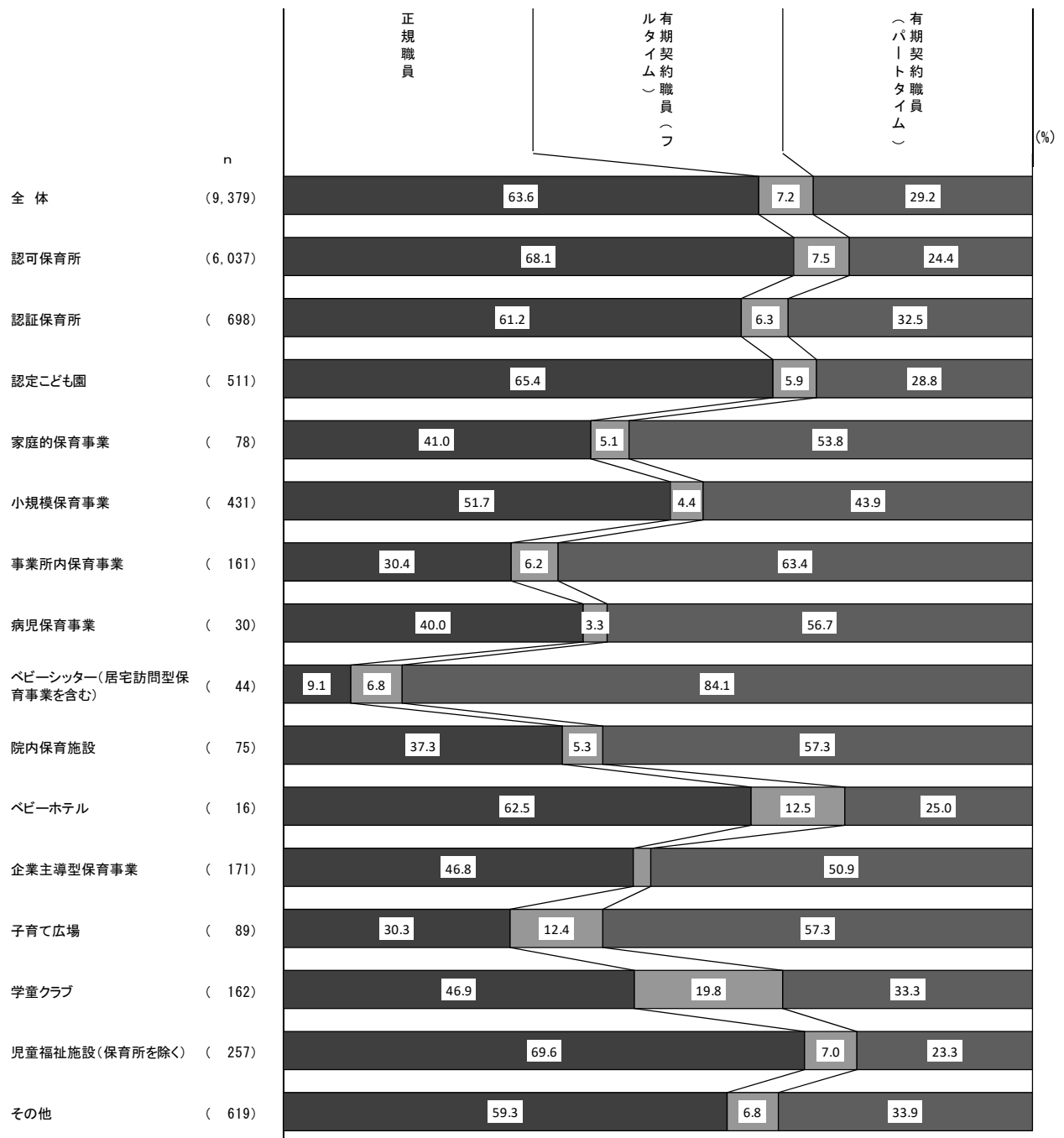


全体	100.0
認可保育所	64.4
認証保育所	7.4
認定こども園	5.4
家庭的保育事業	0.8
小規模保育事業	4.6
事業所内保育事業	1.7
病児保育事業	0.3
ベビーシッター(居宅訪問型保育事業を含む)	0.5
院内保育施設	0.8
ベビーホテル	0.2
企業主導型保育事業	1.8
子育て広場	0.9
学童クラブ	1.7
児童福祉施設(保育所を除く)	2.7
その他	6.6

AQ15_1 就業施設類型【現在保育士就業中】(性・年代別)



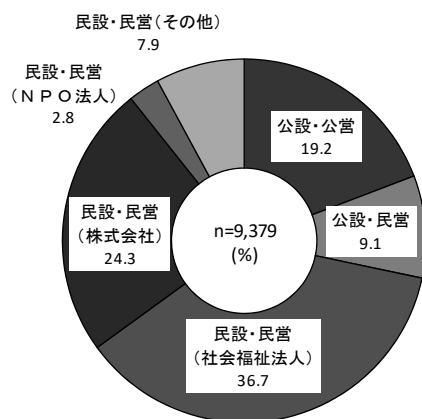
AQ15_1 就業施設雇用形態【現在保育士就業中】(施設類型別)



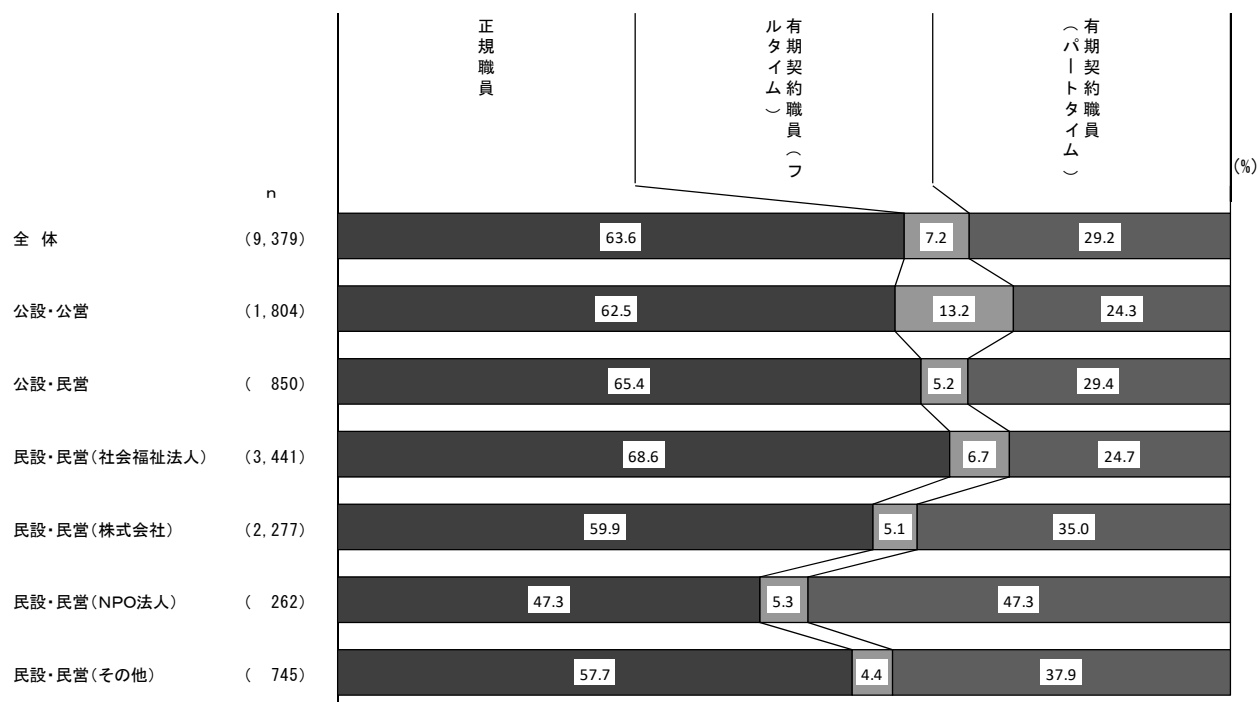
就業施設運営主体は、全体で「民設・民営(社会福祉法人)」(36.7%)が最も多く、次いで「民設・民営(株式会社)」(24.3%)と「公設・公営」(19.2%)となっている。

また、『民設・民営(社会福祉法人)』では、「正規職員」が7割弱(68.6%)と他層より高くなっている。

AQ15_2 就業施設運営主体【現在保育士就業中】

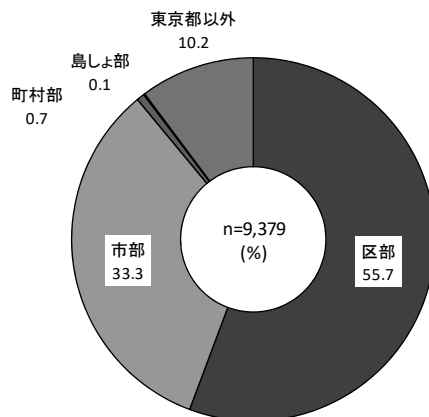


AQ15_2 就業施設雇用形態【現在保育士就業中】(運営主体別)

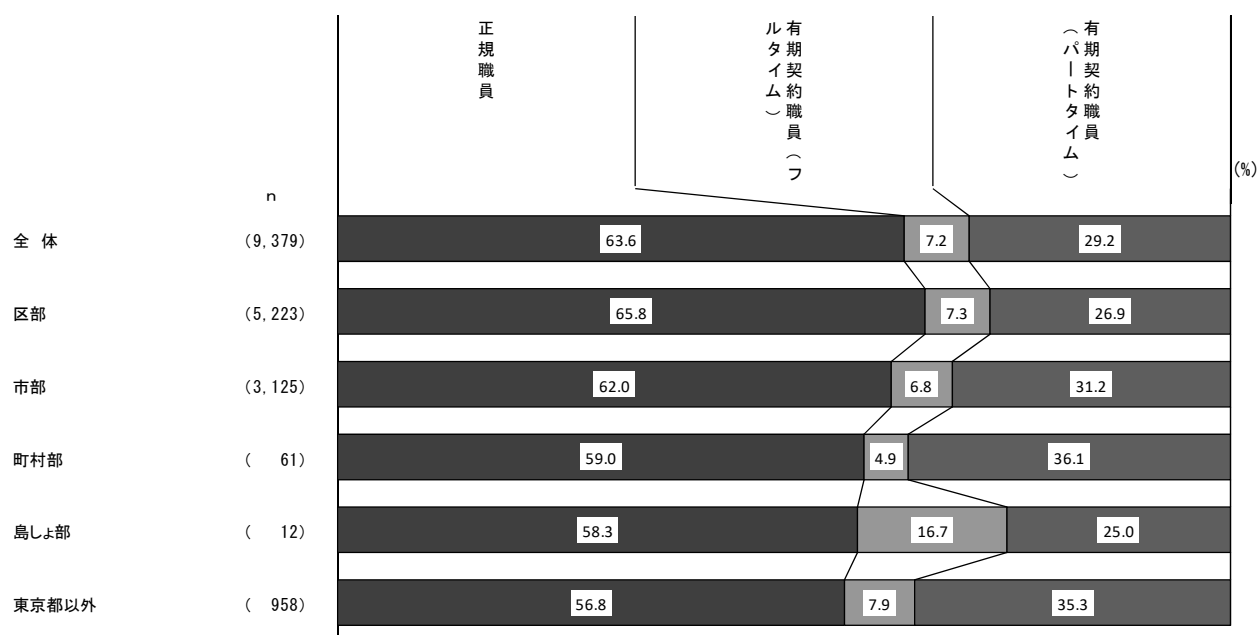


就業場所は、全体で「区部」(55.7%)が過半数、「市部」(33.3%)が3割強となっている。
 就業場所による雇用形態に大きな違いは見られない。

AQ15_3 就業施設場所【現在保育士就業中】



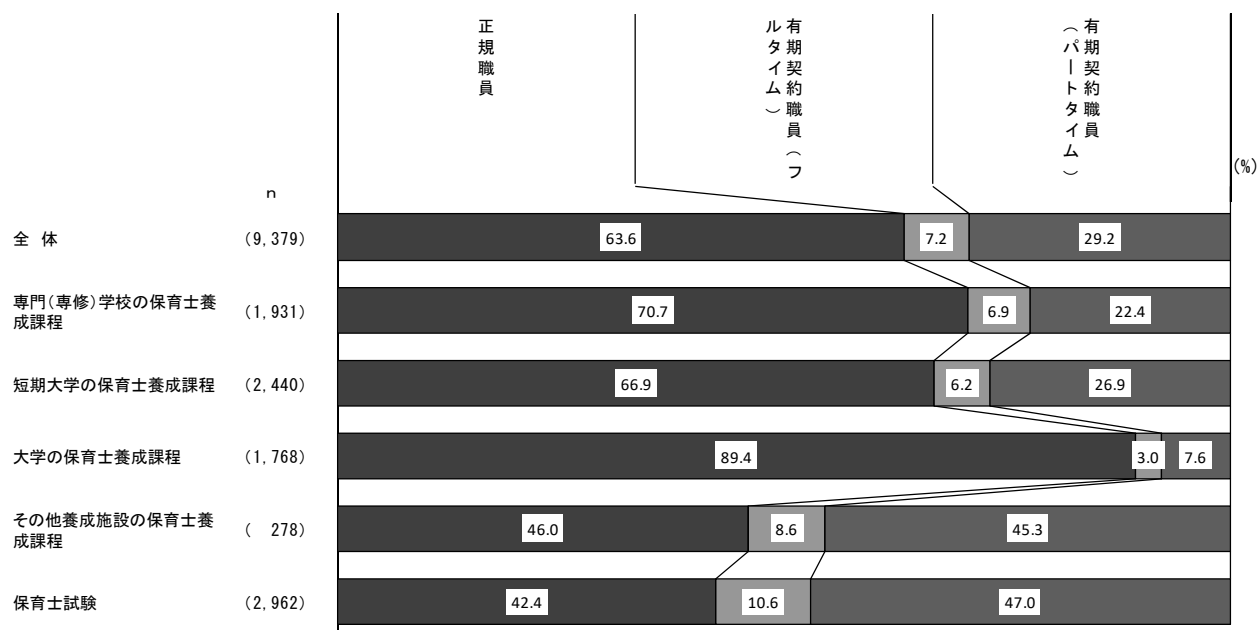
AQ15_3 就業施設雇用形態【現在保育士就業中】(施設場所別)



雇用形態は、全体で「正規職員」が6割強(63.6%)、「有期契約職員(フルタイム)」が1割弱(7.2%)、「有期契約職員(パートタイム)」が3割弱(29.2%)である。

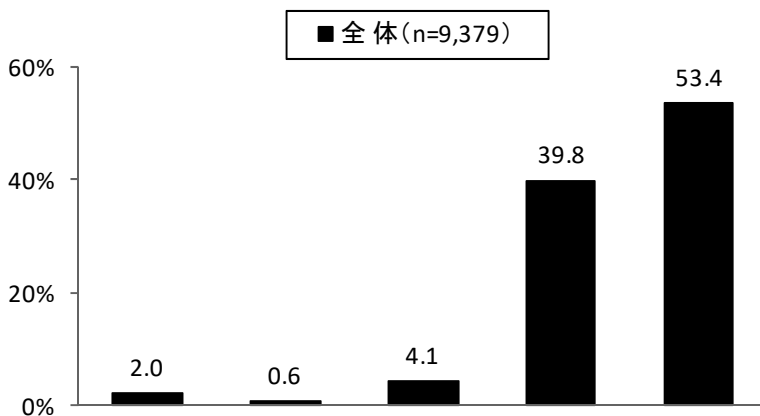
資格取得方法別で見ると、『大学の保育士養成課程』卒業者で「正規職員」の割合が9割弱(89.4%)と高くなっている。

AQ15_4 就業施設雇用形態【現在保育士就業中】(資格取得方法別)



現在の職場における役職は、全体で「なし」が過半数(53.4%)で最も多く、次いで「その他」が4割弱(39.8%)となっている。「園長」「副園長」「主任」の合計は1割未満(6.7%)である。
 性・年代別で見ると、「園長」「副園長」「主任」の合計は『女性』よりも『男性』が多い。

AQ15_5 就業施設の役職【現在保育士就業中】(性・年代別)



性別・年代	n	1	2	3	4	5
		園長	副園長	主任	その他	なし
全体	9,379	2.0	0.6	4.1	39.8	53.4
女性計	8,909	1.8	0.5	4.1	39.7	53.9
女性20代	3,420	0.1	0.1	1.4	○ 52.0	46.4
女性30代	1,960	2.4	0.5	7.4	40.7	48.9
女性40代	1,926	1.6	0.8	5.9	△ 28.7	63.0
女性50代以上	1,603	4.9	1.2	3.7	△ 25.4	○ 64.8
男性計	470	5.1	2.3	4.9	42.1	45.5
男性20代	272	0.0	1.1	1.1	○ 50.0	47.8
男性30代以上	198	○ 12.1	4.0	10.1	31.3	△ 42.4

2-10. 保育士就業年数 (AQ16)

現在の職場の就業年数は、全体で「1年以下」が約4割(40.9%)で最も多く、次いで「2～3年」(24.5%)、「4～5年」(14.3%)となり、概ね就業年数の少ない者の割合が高い。

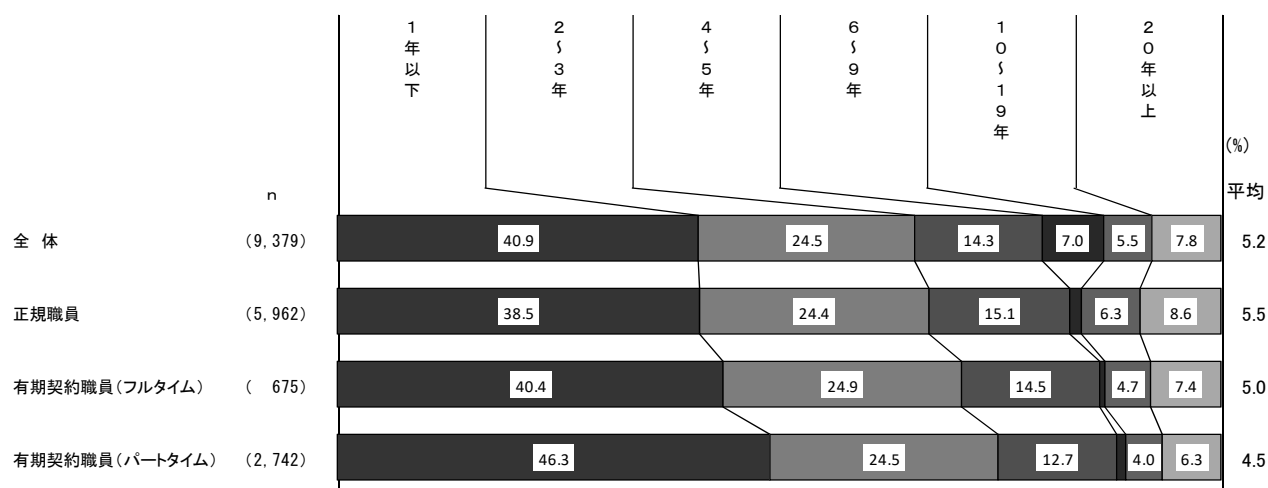
現在の職場の平均就業年数は、全体で5.2年、雇用形態別では「正規職員」が5.5年、「有期契約職員(フルタイム)」が5.0年、「有期契約職員(パートタイム)」が4.5年である。

※ただし、本調査は直近5年間の保育士登録者(書換え等含む)が対象のため、保育士登録者全体の就業年数よりも短くなっていることが予想される。

AQ16 あなたが現在働いている施設での就業年数をお答えください。

また、あなたは保育士として通算何年お仕事をされていますか。1箇所では保育士として最も長く継続して働いた年数もお答えください。(1年未満の方は1年とお書きください)。

AQ16_1 現在の職場の保育士就業年数【現在保育士就業中】(雇用形態別)

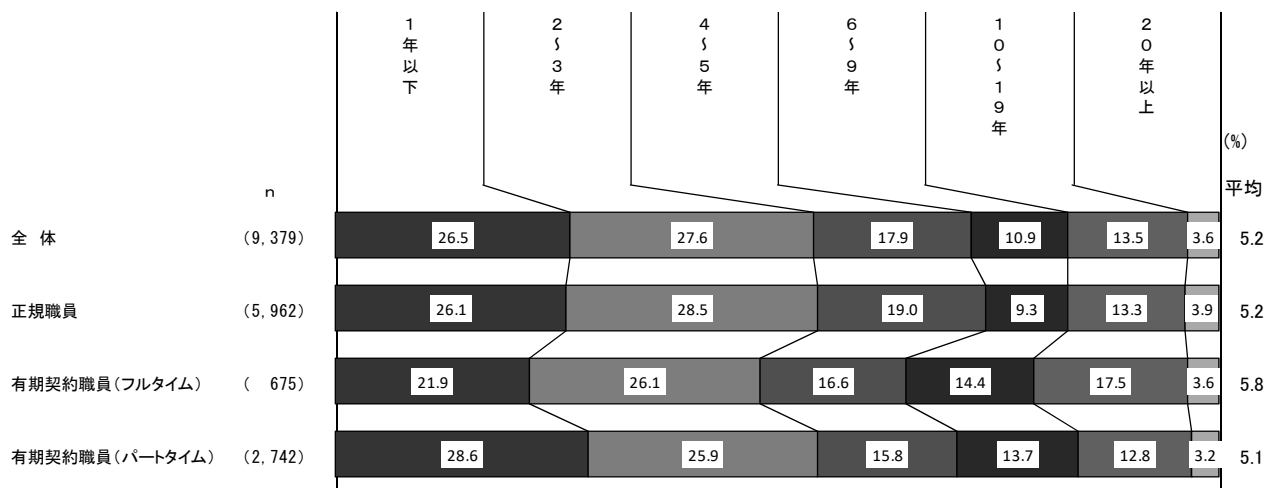


保育士としての通算就業年数は、全体で「2～3年」(27.6%)と「1年以下」(26.5%)が3割弱であり、「4～5年」(17.9%)、「10～19年」(13.5%)、「6～9年」(10.9%)が1割台となっている。

全体平均年数は約 5.2 年であるが、「3年以下」が全体の約5割を占めている。

※ただし、本調査は直近5年間の保育士登録者(書換え等含む)が対象のため、保育士登録者全体の就業年数よりも短くなっていることが予想される。

AQ16_2 保育士就業年数<通算>【現在保育士就業中】(雇用形態別)

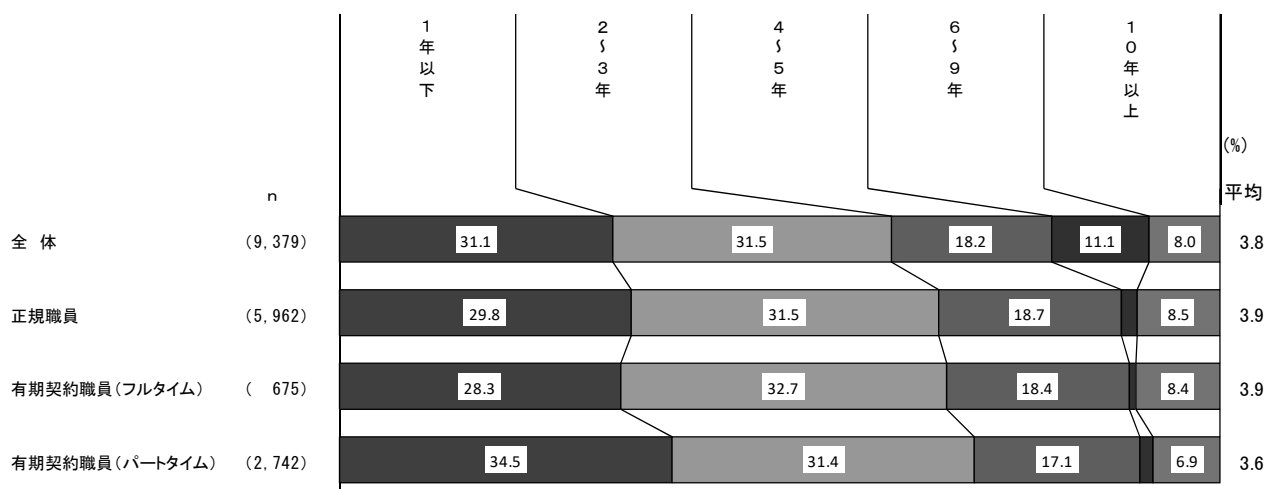


1箇所最長就業年数は、全体で「2～3年」が3割強(31.5%)で最も多く、次いで「1年以下」(31.1%)、「4～5年」(18.2%)となり、年数が長くなるにつれ割合は少なくなる傾向にあるが、「10年以上」も1割近く(8.0%)となっている。

1箇所最長就業年数の平均は全体で 3.8 年、「正規職員」、「有期契約職員(フルタイム)」が 3.9 年、「有期契約職員(パートタイム)」が 3.6 年である。

※ただし、本調査は直近5年間の保育士登録者(書換え等含む)が対象のため、保育士登録者全体の就業年数よりも短くなっていることが予想される。

AQ16_3 保育士就業年数<1箇所最長>【現在保育士就業中】(雇用形態別)



2-11. 現在の職場の実態 (AQ17-2)

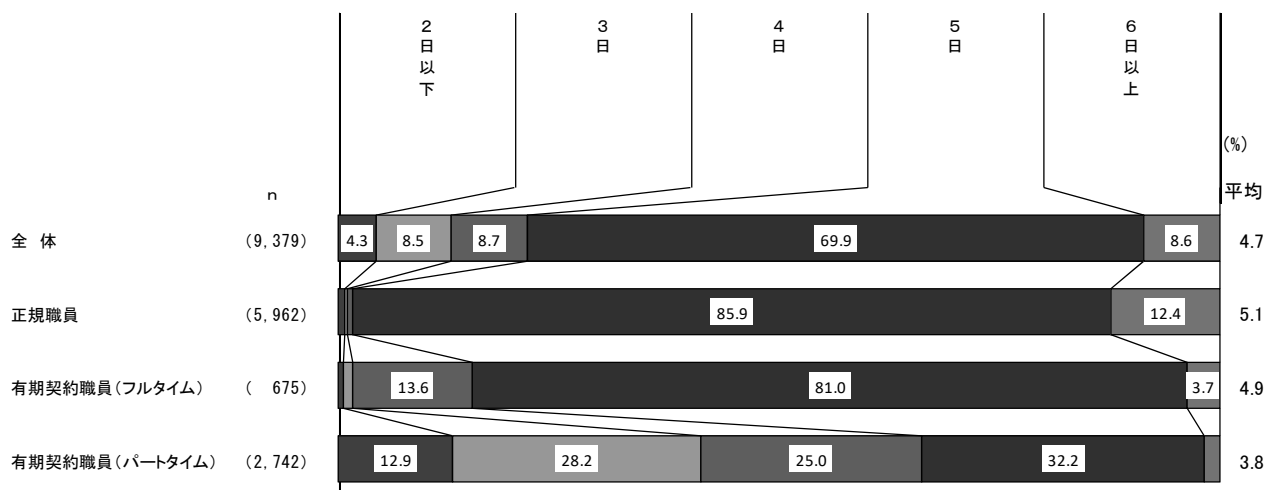
現在の職場の実態は全体で、平均勤務日数は4.7日、平均勤務時間は8.3時間、平均年収は232.4万円、平均通勤時間(片道)は28.6分である。

それぞれの平均を現在の雇用形態別で見ると、『正規職員』は、勤務日数週5.1日、勤務時間9.4時間、年収290.4万円、通勤片道32.1分、『有期契約職員(フルタイム)』は勤務日数4.9日、勤務時間8.6時間、年収218.8万円、通勤片道26.5分、『有期契約職員(パートタイム)』は勤務日数3.8日、勤務時間6.1時間、年収109.6万円、通勤片道21.6分となっている。

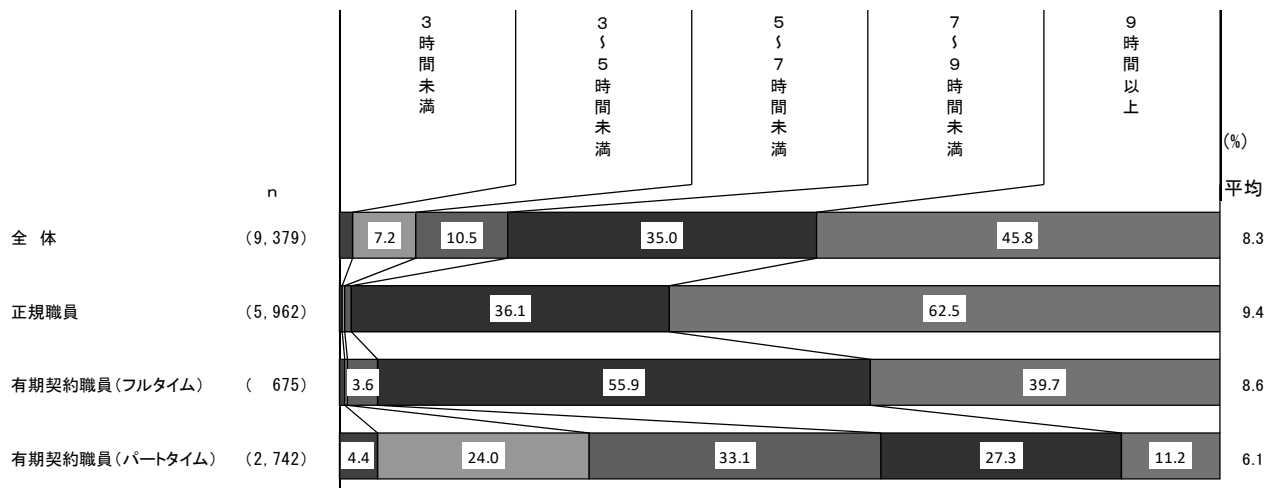
※ただし、本調査は直近5年間の保育士登録者(書換え等含む)が対象のため、保育士登録者全体の年収よりも低くなっていることが予想される。

AQ17 以下のそれぞれの項目について、一部、現在の職場の状況をご記入いただき、あなたの満足度をお答えください。(○は各1つずつ)

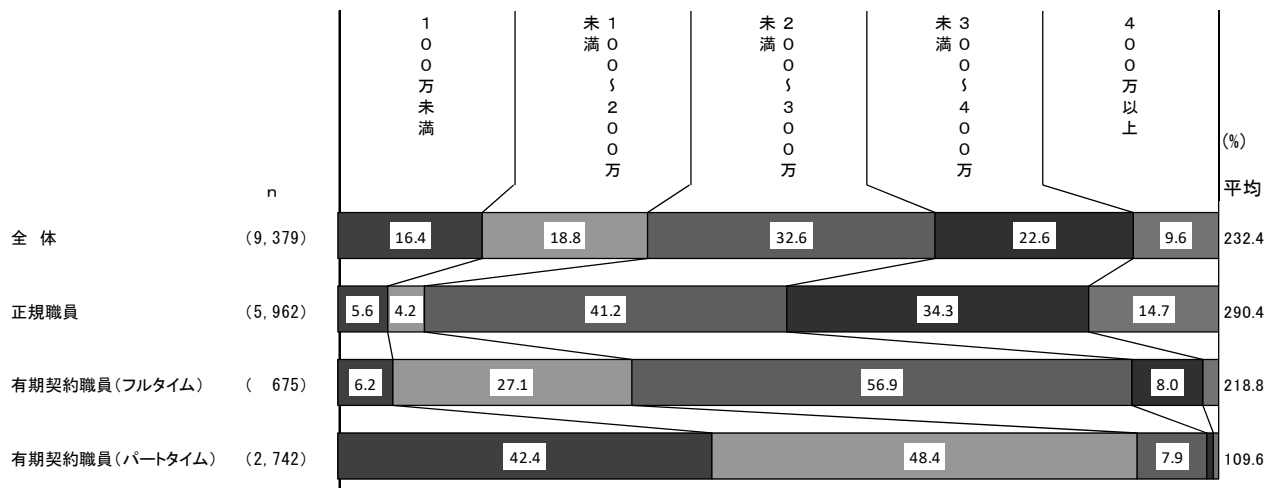
AQ17_2_1 勤務日数<週>【現在保育士就業中】(雇用形態別)



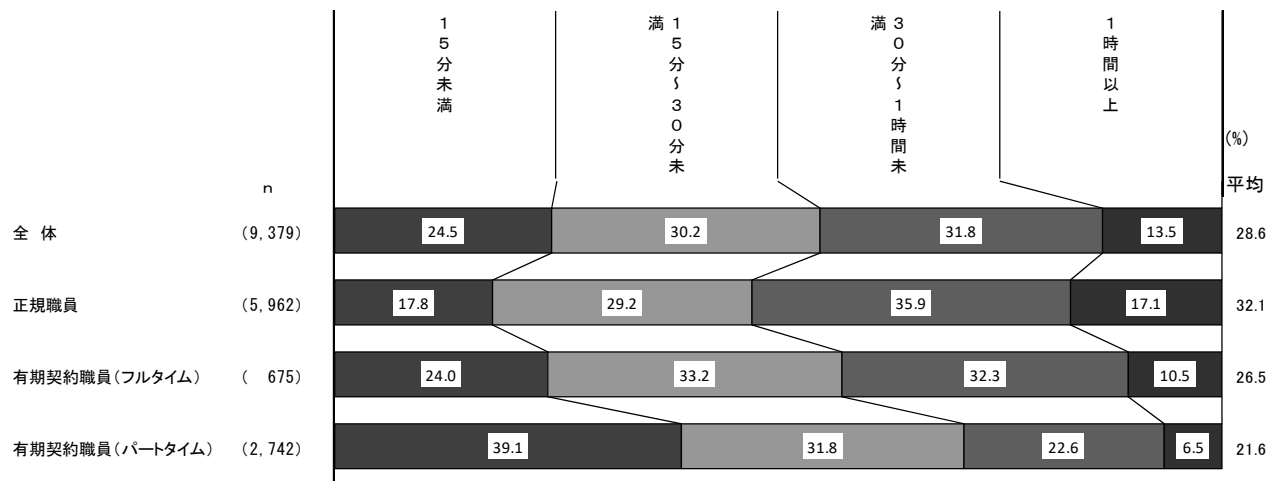
AQ17_2_2 勤務時間【現在保育士就業中】(雇用形態別)



AQ17_2_3 年収<万円>【現在保育士就業中】(雇用形態別)



AQ17_2_4 自宅からの通勤時間<片道:分>【現在保育士就業中】(雇用形態別)



2-12. 現在の職場の満足度 (AQ17-1)

< 職場の満足度 (項目別全体) >

項目別全体では「④自宅からの通勤時間」「⑩保育士としての仕事全体のやりがい度」などは比較的満足度が高く、「③給与・賞与等」では比較的満足度が低い。

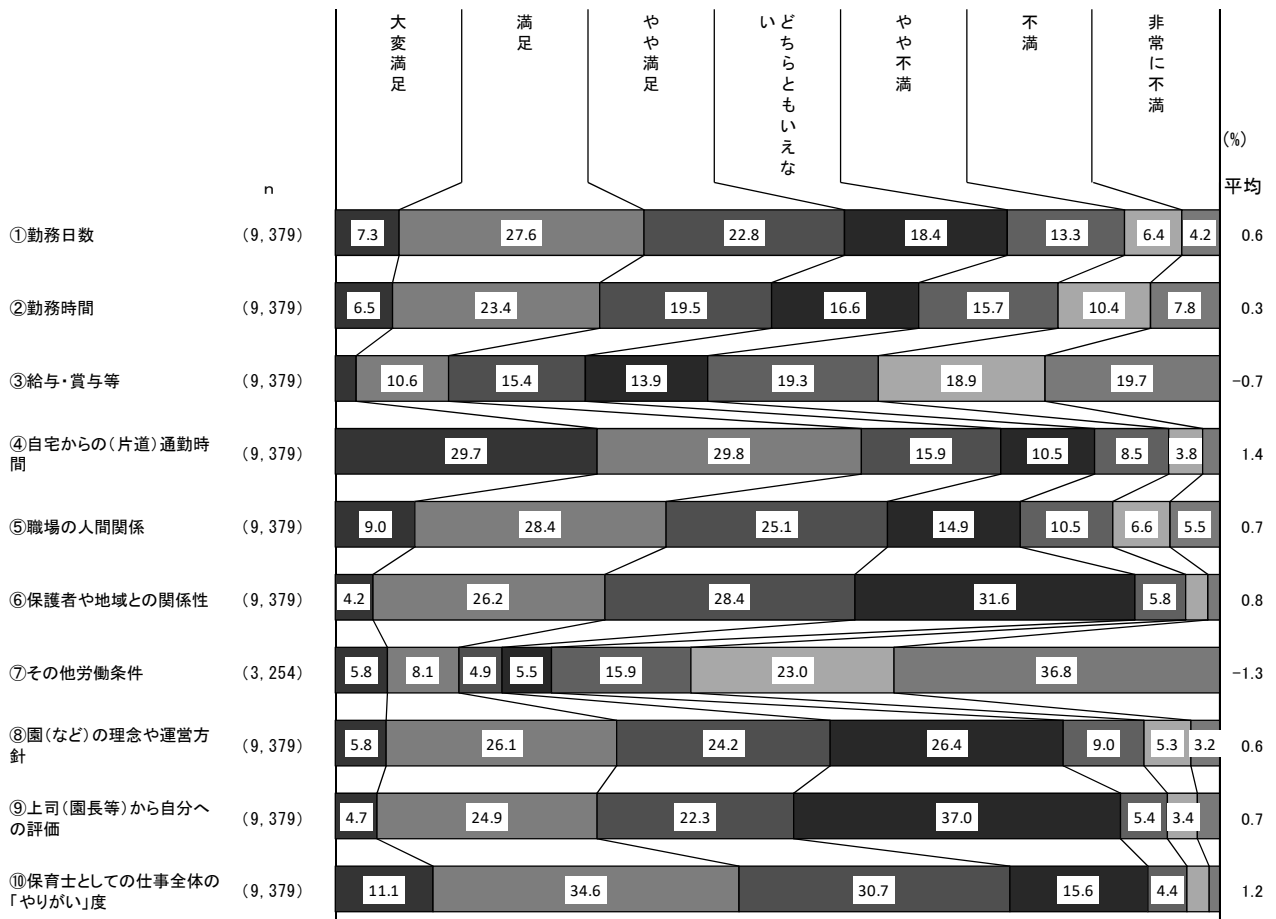
「大変満足」「満足」「やや満足」の合計では、「⑩保育士としての仕事全体のやりがい度」が7割台半ば以上(76.4%)と最も高い割合となっている。

«「平均」の意味»

※下記グラフの「平均」は、「大変満足」に3点、「満足」に2点、「やや満足」に1点、「どちらともいえない」に0点、「やや不満」に-1点、「不満」に-2点、「大変不満」に-3点を付与し、回答数を掛けて算出。

AQ17 以下のそれぞれの項目について、一部、現在の職場の状況をご記入いただき、あなたの満足度をお答えください。(〇は各1ずつ)

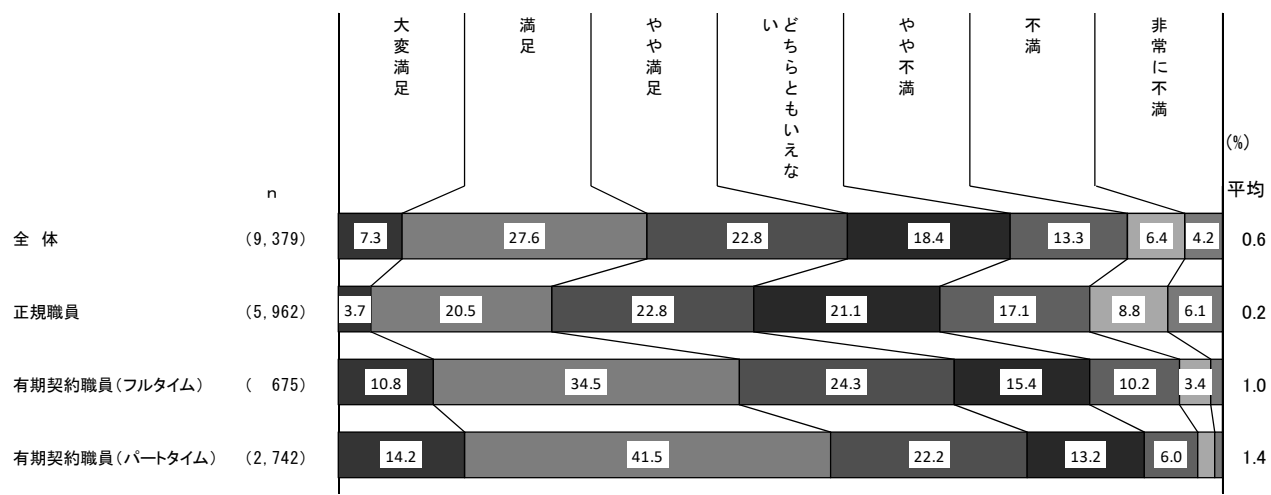
AQ17_1 職場満足度【現在保育士就業中】



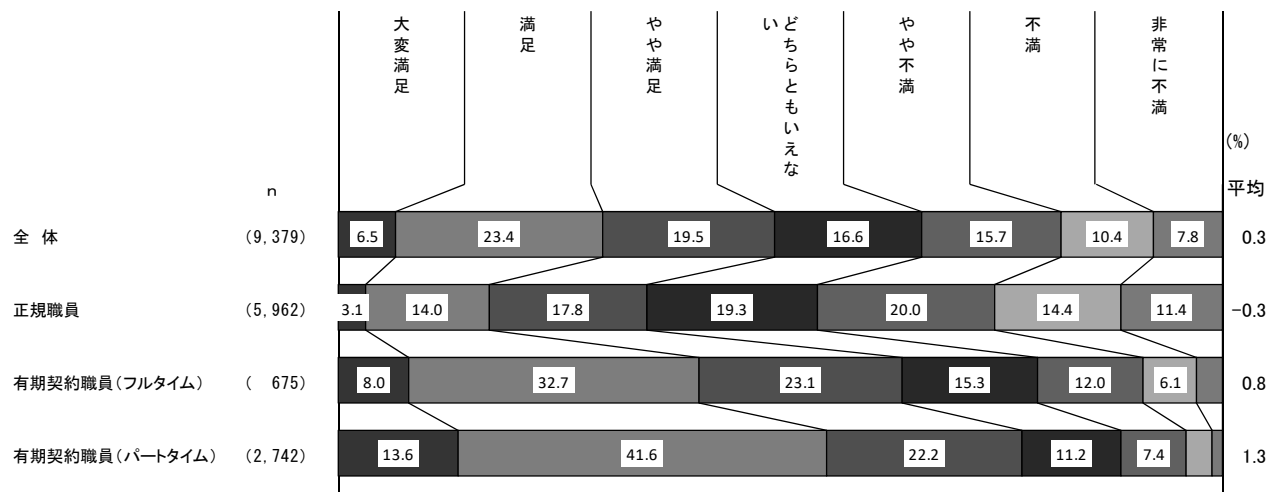
< 職場の満足度（雇用形態別） >

雇用形態別の各満足度を見ると、『正規職員』で「②勤務時間」「③給与・賞与等」の不満（やや不満～非常に不満の合計）の割合が高い。『有期契約職員（パートタイム）』では「③給与・賞与等」の満足（大変満足～やや満足の合計）の割合が高い。
 「⑩保育士としての仕事のやりがい度」については、雇用形態別の満足度に違いは見られなかった。

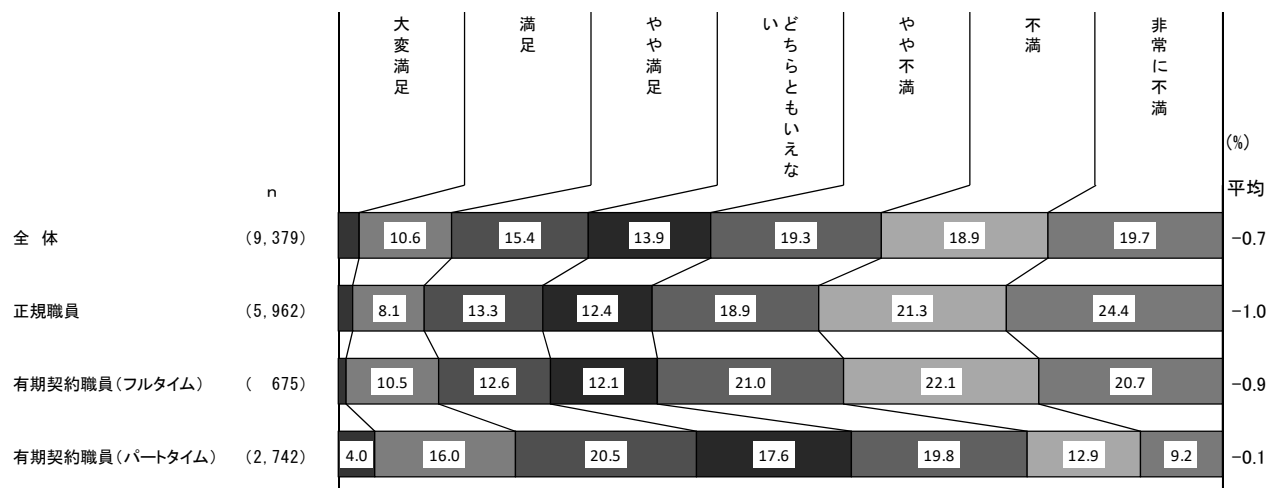
AQ17_1_1 職場満足度<①勤務日数>【現在保育士就業中】



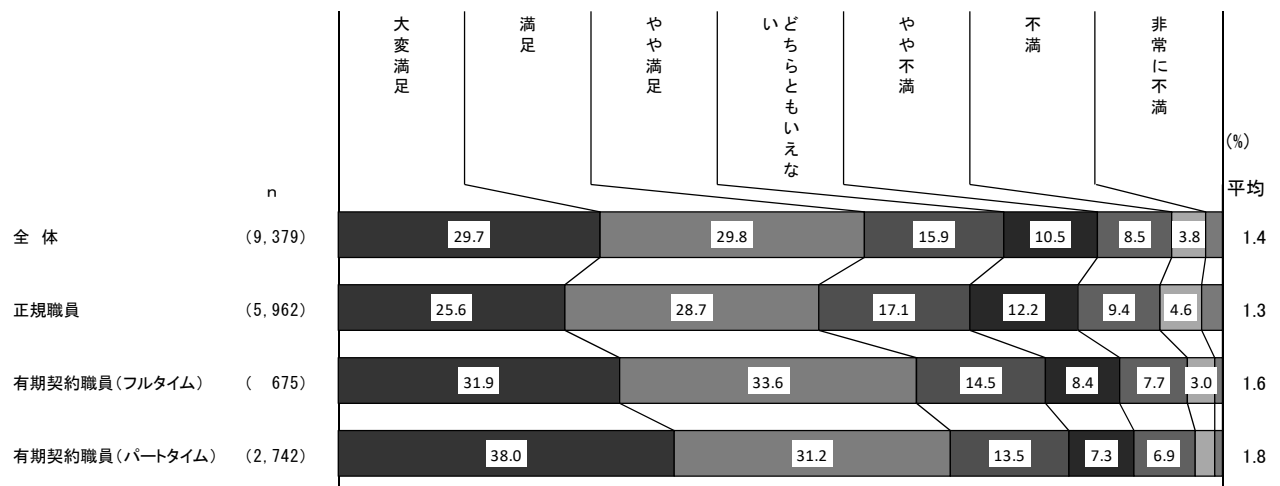
AQ17_1_2 職場満足度<②勤務時間>【現在保育士就業中】



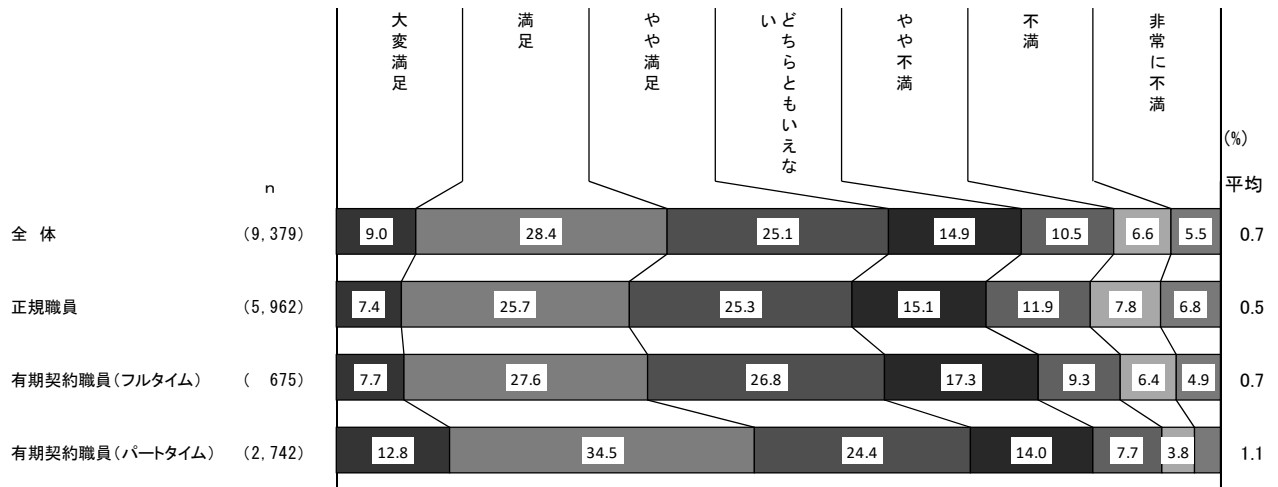
AQ17_1_3 職場満足度<③給与・賞与等>【現在保育士就業中】



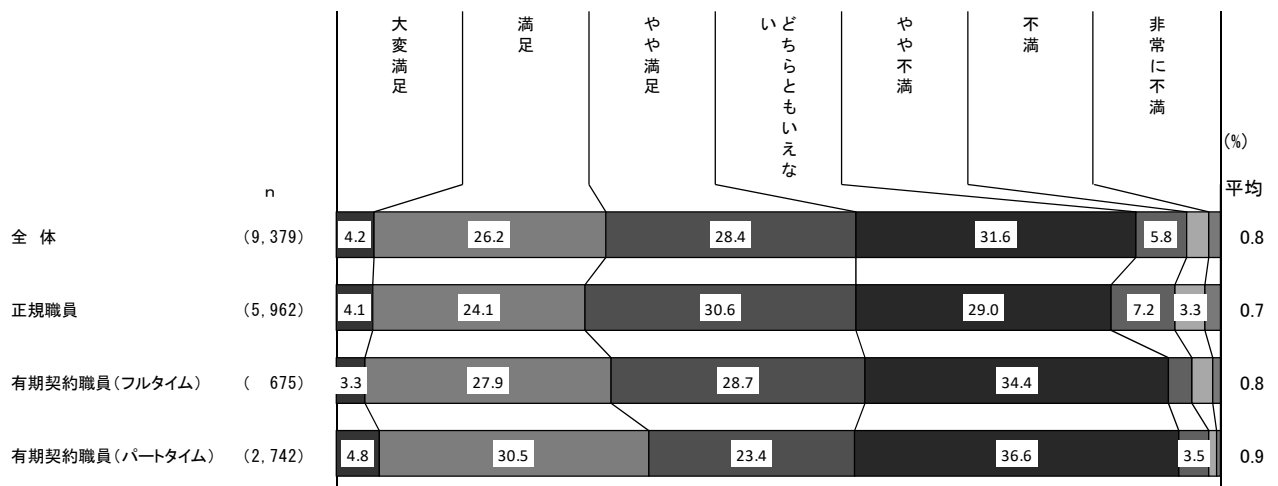
AQ17_1_4 職場満足度<④自宅からの(片道)通勤時間>【現在保育士就業中】



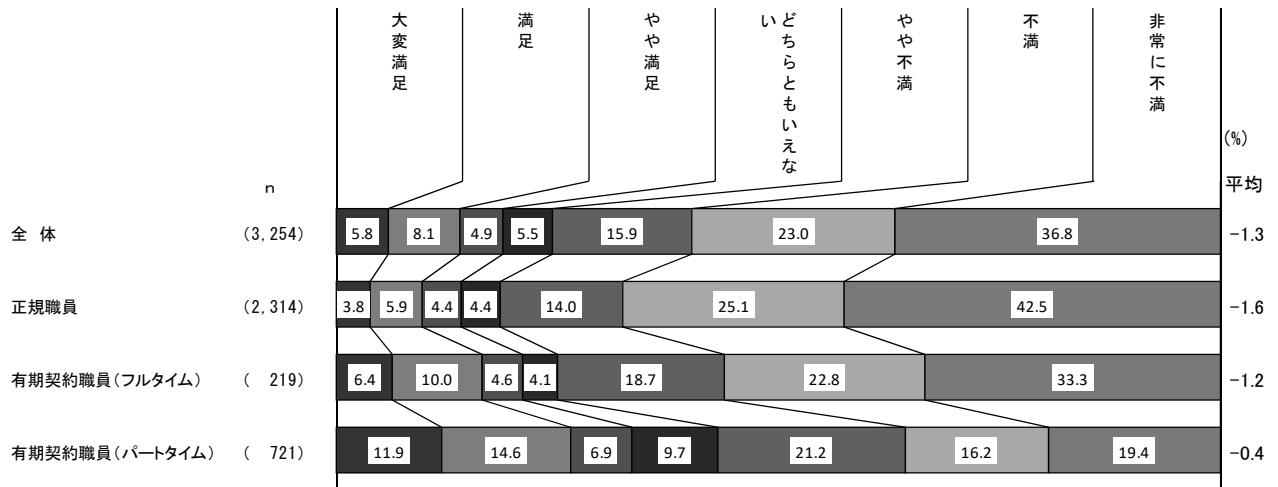
AQ17_1_5 職場満足度<⑤職場の人間関係>【現在保育士就業中】



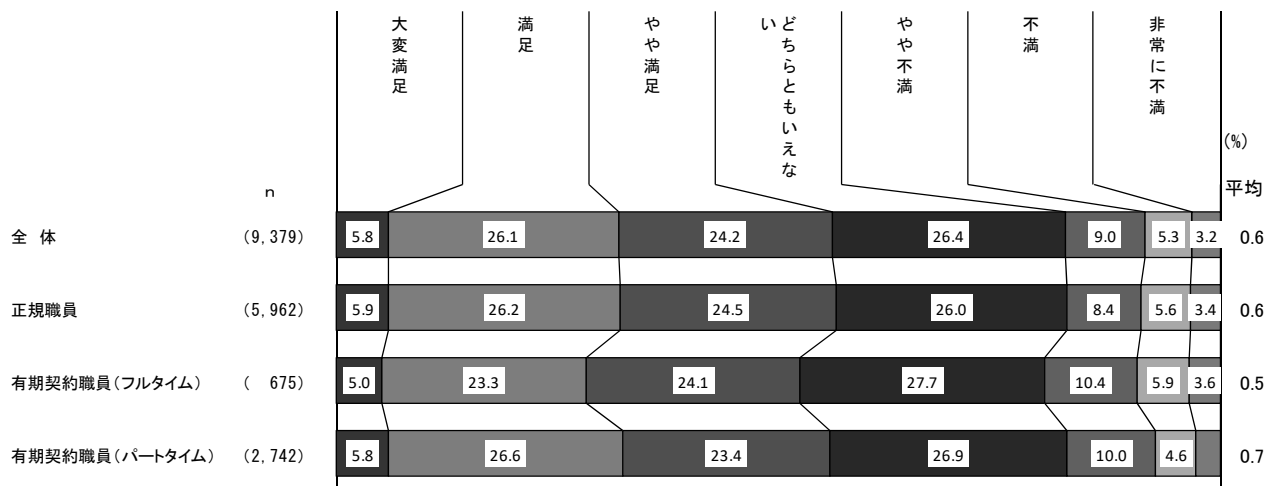
AQ17_1_6 職場満足度<⑥保護者や地域との関係性>【現在保育士就業中】



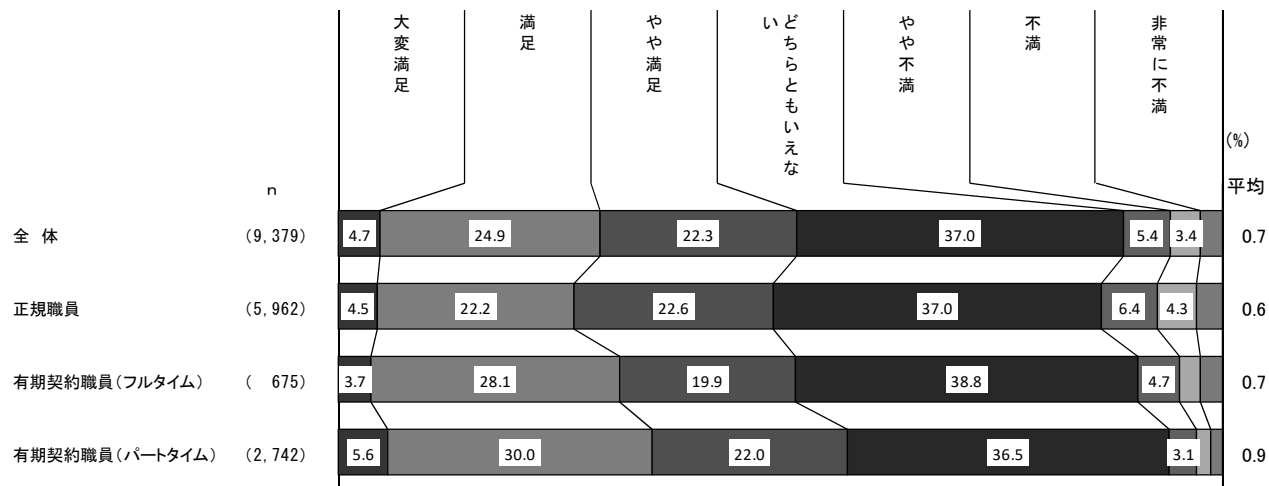
AQ17_1_7 職場満足度<⑦その他労働条件>【現在保育士就業中】



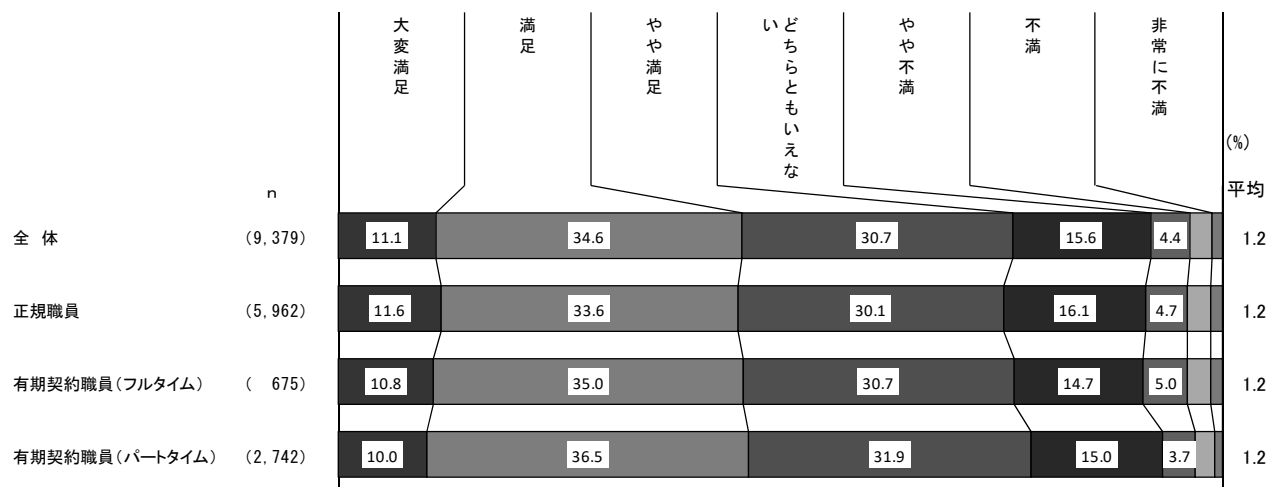
AQ17_1_8 職場満足度<⑧園(など)の理念や運営方針>【現在保育士就業中】



AQ17_1_9 職場満足度<⑨上司(園長等)から自分への評価>【現在保育士就業中】



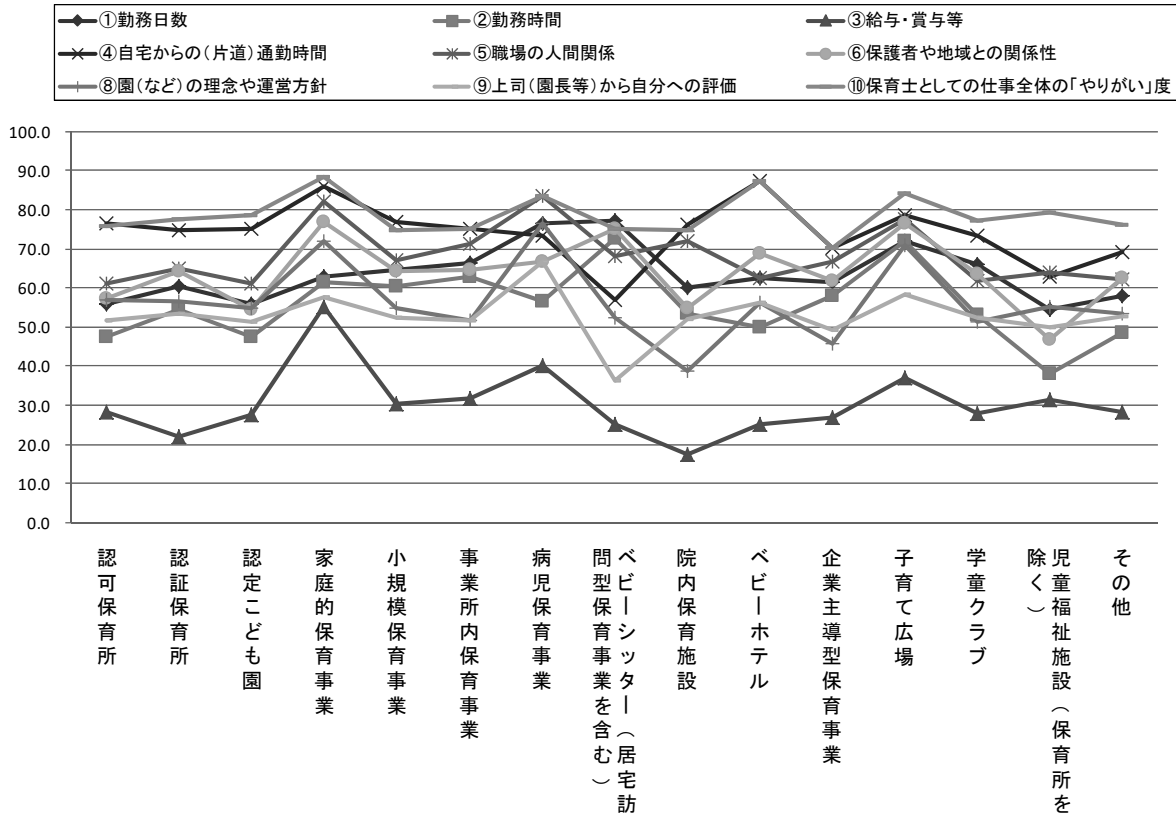
AQ17_1_10 職場満足度<⑩保育士としての仕事全体の「やりがい」度>【現在保育士就業中】



<施設類型別の満足度>

※施設類型別は累計数が多いため、満足(大変満足～やや満足の合計)の割合で分析した。

施設類型別の各満足度を見ると、『認可保育所』では『認証保育所』に比べて、「③給与・賞与等」「④自宅からの通勤時間」「⑧園(などの)理念や運営方針」の満足度が高くなる傾向にある。



	①勤務日数	②勤務時間	③給与・賞与等	④自宅からの(片道)通勤時間	⑤職場の人間関係	⑥保護者や地域との関係性	⑧園(などの)理念や運営方針	⑨上司(園長等)から自分への評価	⑩保育士としての仕事全体の「やりがい」度
認可保育所(n=6037)	56.0%	47.3%	28.3%	76.6%	61.0%	57.4%	56.8%	51.6%	75.8%
認証保育所(n=698)	60.3%	54.6%	22.1%	74.6%	64.9%	64.2%	56.6%	53.6%	77.7%
認定こども園(n=511)	56.0%	47.6%	27.6%	75.1%	61.3%	54.4%	55.0%	51.3%	78.5%
家庭的保育事業(n=78)	62.8%	61.5%	55.1%	85.9%	82.1%	76.9%	71.8%	57.7%	88.5%
小規模保育事業(n=431)	64.5%	60.6%	30.4%	76.8%	67.1%	64.3%	54.8%	52.4%	74.7%
事業所内保育事業(n=161)	66.5%	62.7%	31.7%	75.2%	71.4%	64.6%	51.6%	51.6%	75.2%
病児保育事業(n=30)	76.7%	56.7%	40.0%	73.3%	83.3%	66.7%	76.7%	66.7%	83.3%
ベビーシッター(居宅訪問型保育事業を含む)(n=44)	77.3%	72.7%	25.0%	56.8%	68.2%	75.0%	52.3%	36.4%	75.0%
院内保育施設(n=75)	60.0%	53.3%	17.3%	76.0%	72.0%	54.7%	38.7%	52.0%	74.7%
ベビーホテル(n=16)	62.5%	50.0%	25.0%	87.5%	62.5%	68.8%	56.3%	56.3%	87.5%
企業主導型保育事業(n=171)	61.4%	57.9%	26.9%	70.2%	66.7%	62.0%	45.6%	49.1%	70.2%
子育て広場(n=89)	71.9%	71.9%	37.1%	78.7%	77.5%	76.4%	70.8%	58.4%	84.3%
学童クラブ(n=162)	66.0%	53.1%	27.8%	73.5%	61.7%	63.6%	51.2%	52.5%	77.2%
児童福祉施設(保育所を除く)(n=257)	54.5%	38.1%	31.5%	63.0%	63.8%	46.7%	55.3%	49.8%	79.4%
その他(n=619)	58.0%	48.5%	28.3%	69.3%	62.2%	62.4%	53.3%	52.8%	76.1%

※⑦その他の労働条件は他の選択肢と母数が異なるため除外している。

2-13. 保育士のやりがい (AQ18: 自由回答より抜粋)

以降の自由回答は、記入者の中から「年齢」および「保育士資格の取得方法」のバランスを考慮して抽出している。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	AQ17 保育士としての仕事全体の「やりがい度」で「大変満足」と回答した人の主な意見(記入者計883人)
1	女性	20～24歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	大変なことが多いですが、子どもの笑顔や保護者からの「助かります」の言葉を聞くと「やって良かった」と思います。
2	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	子供たちの成長を近くで感じることができ、毎日新鮮な気持ちで仕事ができる。子どもと一緒に活動を考えたり、行事を進め成功した際の達成感は他の仕事では味わえないのではないか。
3	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	子どもの成長を感じる。子どもが主体的に過ごせるよう環境を整えたり、活動を考えること。やさしい人格に育つような日常の大人の優しい声かけを行うこと。子どもが身の回りのことを自分でできた達成感という喜びを共有できること。保護者の方と子どもの成長を喜び合えること子どもたちから先生大好きと愛されること。
4	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	大学で学んだことを実践できているな、と感じることが少しでもあるから。日々子どもと接する中で、関係性が築かれていき子どもにとって役にたっているのではないかと感じられる出来事が増えてきたから。実際に働いてみて、どんなに難しいお仕事なのかを実感するとともに、それができるようになりたいと改めて思えた。私も目指したいと思う憧れの保育士がいるから。それなりに給料をいただいて、自分の好きなことにお金を使える。毎日難しいこともあるが、絶対に笑っている。
5	女性	25～29歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	子どもの変化を一番近くで見られる。一日として同じ日はなく、毎日が違うことが、自分を豊かにしてくれる。お金には代えられない何かがある中に出ていく。乳児期にかかわった子が幼児になって走り回るのを見る感激。子どもとのひとつひとつのやりとりやわかかわりが、自分の人間としての芯を強くしてくれる。職業という枠を超えて、自身の心が拓かれていく感覚。
6	女性	25～29歳	短期大学の保育士養成課程	子どもの成長を保護者の方と一緒に悩んだりしながら、子育ての大変さを共感しあい、子ども一人ひとりの育ちを喜べること。
7	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	日々の子供たちの成長を感じられること、子供たちと真剣に向き合った分だけ、返ってくる。変化があること。行事の後、保護者が感謝の気持ちを述べてくれることにやりがいを感じます
8	男性	25～29歳	大学の保育士養成課程	子どもたちの成長に直接関わることができて、さらに自分の園での一つ一つの行動が子どもの興味を沸き立たせることにつながる。そのために、日々新しいことを考え、子どもの様子を見つづ新しいことを計画する。このことが何よりもやりがいのあることだと思います。
9	女性	25～29歳	保育士試験	未来を担う子供たちとの密な関わりは、日々戦いであり、反省も多いが、どんなに小さくても一人一人の成長に触れた時、言葉にできない大きな喜びとやりがいを感じる。
10	男性	30～34歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	三つ子の魂百までと言われるくらい性格形成されるのに大事な時期を預かる身としてどのようなことをしてあげられればその子にとってより良い保育となるのかを考えていくことはとてもやりがいのあるものだと思っています。
11	女性	30～34歳	短期大学の保育士養成課程	長年勤めているので、赤ちゃんから見ていた子たちが卒園しても遊びに来たり、日々の保育の中でも数日での成長が著しく、毎日一緒に過ごせることにやりがいを感じる。現在は時短もとっていて、働きやすい時間に配慮してもらい、仕事と育児の両立をしやすい環境で、ありがたいです。
12	女性	30～34歳	大学の保育士養成課程	現在勤務している保育園は、子どもの人数が少なく、ゆとりを持って保育をすることができている。一人ひとりにじっくり関わることができる。また事務仕事も勤務時間内に終わらせることができ、生活への安定にも繋がっている。子どもの成長を近くで見ることができると共に、保護者から感謝して頂けることが多くやりがいを感じる。
13	女性	35～39歳	短期大学の保育士養成課程	昨日できなかったことが今日できた、という一つ一つの成長を感じられ、同じ1日がないこと。毎日、笑って過ごせるやりがいのある仕事。
14	女性	35～39歳	保育士試験	パートの立場の私のアイデアでも、正規の先生方はしっかりと聞いて保育にも取り入れてくれる。また、私の得意なことを活かす場を園の中に作ってくれたことで、自身を向上させる機会が与えられ、充実感と存在価値を感じながら保育業務にあたることができるため。
15	女性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	現職場は副業のため週1日のパート勤務ではありますが10年続けて来ました。こちらの経営者が絶対的子どもファーストだからついていける。これに尽きます。また保護者、スタッフ、地域など、人を大切にしてくれています。体力、精神力共に仕事の大変さはもちろんありますし、運営方針を揉むこともあります。こちらは人を大切にすることを軸に運営されているので、何の不満も起こりません。これからも続けて行きたいです。
16	女性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	経済を支える働き手である保護者や問題を抱えている保護者の代わりとなって子どもたちを保育している社会的必要性を感じている。また、子どもたちにとっては、生活習慣や社会的ルールの基礎を集団生活のなかで教えていく大人として子どもたちと関わることにやりがいを感じる。
17	女性	40～44歳	短期大学の保育士養成課程	未来を担う子どもたちの大切な時期に関われること、給料が安くても休みがなくても、毎日クタクタで夜遅くまで働いてても、大好きな子どもたちの笑顔と未来のためなら、その思いだけで頑張れることです。
18	女性	40～44歳	保育士試験	看護師、理学療法士が常駐する児童発達支援事業所で働いています。医療ケアやリハビリが必要な子どもたち1人ひとりの発達とニーズを考えながら、看護師と理学療法士と共に療育を意識した保育を行なっています。療育、保育の面では、異年齢、また違う障害をもつ子どものグループで、制作等のテーブルアクティビティや体を動かすリミックや運動アクティビティを計画、実施すること一度に出来るだけ多くの子どもが参加できるように、制作なら教材のレベルを個々に合わせて準備するのが楽しいです。
19	女性	45～49歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	子ども達の成長を見ることや携われること。子ども達と触れ合えること。音楽や製作、遊びと一緒に楽しめること。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	AQ17 保育士としての仕事全体の「やりがい度」で「大変満足」と回答した人の主な意見(記入者計883人)
20	女性	45～49歳	保育士試験	いくつかの園で経験し、今の園は人間関係も良好で、保育に関してもある程度自由で子どもへの接し方も制限がなく、ある程度任せてもらえ、また、勤務形態も、家庭のことも理解してもらえてるのでとても満足している。
21	女性	45～49歳	保育士試験	自分の子育ての経験や保育を通して気付くことが多い。子供達から元気をもらう。子供達が本当にかわいいと思える。成長が楽しみ。などなどいろいろな理由でやりがいがある
22	男性	45～49歳	保育士試験	介護の仕事をしていましたが、「せんせい」かどうかが大きな違いだと思います。保育士のやりがいは、責任があること。同じ福祉の仕事で、同じような責任なのに、「せんせい」と呼んでもらえないのは非常にやりがいが変わってくると思います
23	女性	50～54歳	保育士試験	学生時代、幼稚園教諭の資格を取得したが、一般企業に就職をしました。就労できる時間の残りの時間を考えた際、子供と関わる仕事に就きたい思いが強く、保育士試験に挑戦しました。資格を取得出来たので、是非保育士として就労したく、就職活動を始め、自分の働き方や園の方針など満足できる園に就職することが出来、日々、子供たちの笑顔に囲まれ、子供たちの成長を感じながら楽しくやりがいをもって過ごしています。
24	女性	50～54歳	保育士試験	お子さまの大切な成長期に関わることができ、また子育てを手伝えることで社会貢献ができると実感できる素晴らしい仕事だと思う。将来を担う人材育成の基礎である生活の場としてとても重要な場である。
25	女性	50～54歳	保育士試験	幼稚園教諭18年経験あり。子育てひろばで働くために保育士資格取得しました。保育に関わることは、日々自分自身の成長につながります。人として大切なことを、何歳になっても学べます。こどもや保護者の笑顔や言葉が、人生の支え・励みとなります。
26	女性	55～59歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	今は遠くに引っ越してしまい、週1～2回にしてもらいましたが、保育園の近所だった時には週5勤務していました。毎日行っても、毎日早く子供たちに会いたい気持ちでした。こんなに天職の仕事はないと思います。
27	女性	55～59歳	保育士試験	子供の成長を肌でかんじられること。何もわからない真っ白な心を持つ子供に、人との関わり方、物事の良し悪しなどを教え、それがしっかりと子供に伝わった時。
28	女性	60～64歳	短期大学の保育士養成課程	介護の仕事をして10年以上しており、比べる訳ではありませんが、昨日出来なかった事が出来るようになる仕事に、今はとてもやりがいを持っています。
29	女性	60～64歳	保育士試験	補助者なので、月の保育日数の半分を出勤しています。年齢にあった働き方だと思います。今までの経験から「三つ子の魂百まで」と実感しているので、園児が安心して、自己肯定感、人への基本的信頼感をもてるように日々接しています。園児や保護者と信頼感が生まれているのを感じられることが喜びです。園児の成長も嬉しいし、卒園児が訪ねてきてくれるのも嬉しいです。
30	男性	60～64歳	保育士試験	かわいい子どもたちと一緒に過ごせて楽しい。しかし、子どもの成長に重要な役割をはたすため発達心理や遊び方などやりがいがあり、またこわさもある。とても大事な仕事だ。

2-14. 現在の職場への改善希望事項 (AQ19)

現在の職場への改善希望事項については、全体で「給与・賞与等の改善」が6割強(65.7%)で最も多く、次いで「職員数の増員」(50.1%)、「事務・雑務の軽減」(49.0%)など、勤務条件や労働条件に関する項目が高い割合を示している。

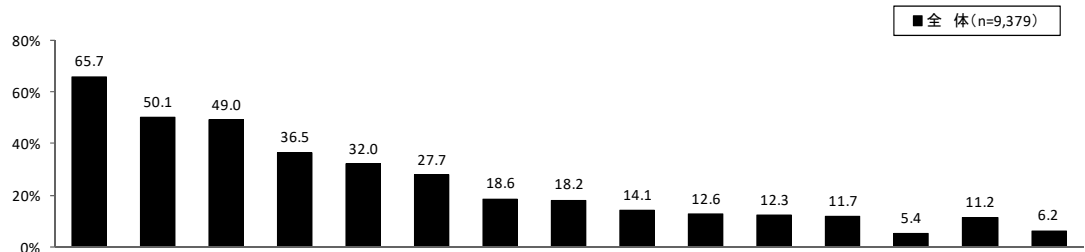
雇用形態別で見ると、『有期契約職員(フルタイム)』と『有期契約職員(パートタイム)』は概ね全体の傾向と同様だが、『正規職員』は「事務・雑務の軽減」が2番目に高くなっている。

就業施設運営主体別で見ると、『公設・公営』では「未消化(有給等)休暇の改善」が5割弱(49.8%)と他と比較して10ポイント以上高くなっている。

AQ19 現在の職場に対して、日ごろあなたが改善してほしいと思っている事柄はありますか。

下記の中から近いものをお選びください。(〇はいくつでも)

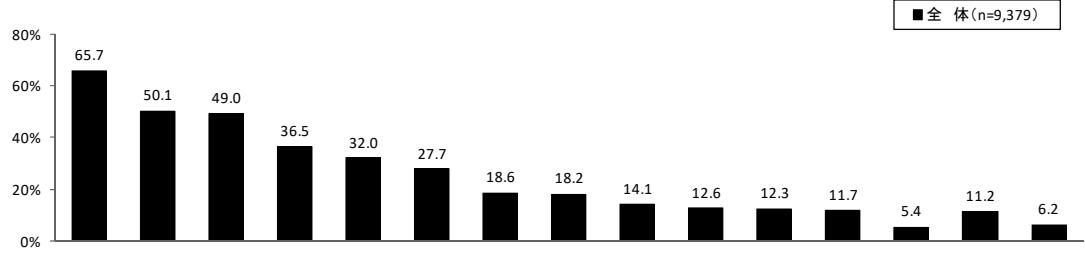
AQ19 現在の職場への改善希望事項【現在保育士就業中】(複数回答)



AQ15-4 雇用形態【現在保育士就業中】		4	6	1	3	2	7	9	12	13	11	5	10	8	14	15
		給与・賞与等の改善	職員数の増員	事務・雑務の軽減	改善未消化(有給等)休暇の	勤務シフトの改善	職員間のコミュニケーション	責任範囲の縮小	相談体制の充実	研修機会の充実	方針(など)の理念や運営	雇用の安定化(正社員登	評価制度の見直し	権限範囲の拡大	その他	特にな
全体	9,379	65.7	50.1	49.0	36.5	32.0	27.7	18.6	18.2	14.1	12.6	12.3	11.7	5.4	11.2	6.2
正規職員	5,962	72.2	58.1	〇 62.6	〇 47.6	38.0	27.2	21.8	18.7	12.4	12.4	10.8	14.1	5.6	12.0	2.9
有期契約職員(フルタイム)	675	70.1	△ 46.7	△ 38.1	△ 29.5	28.3	31.0	19.0	20.7	16.3	13.2	〇 28.0	13.6	6.5	10.4	6.8
有期契約職員(パートタイム)	2,742	△ 50.5	△ 33.6	△ 22.3	△ 14.3	△ 19.9	28.1	11.4	16.4	17.2	12.9	11.6	5.9	4.7	9.7	13.2

AQ15-2 運営主体【現在保育士就業中】		4	6	1	3	2	7	9	12	13	11	5	10	8	14	15
公設・公営	1,804	61.9	53.9	55.0	〇 49.8	29.2	26.0	19.1	16.0	13.3	6.0	16.1	10.8	4.7	7.8	6.7
公設・民営	850	64.9	48.2	48.5	36.0	34.2	29.4	15.6	18.2	15.1	12.7	11.8	10.1	6.0	12.0	6.5
民設・民営(社会福祉法人)	3,441	65.8	48.5	52.1	39.0	33.9	28.4	19.3	18.9	11.6	13.5	10.1	11.7	5.3	12.5	5.6
民設・民営(株式会社)	2,277	71.2	53.2	44.4	26.7	32.1	28.1	19.3	20.0	16.7	14.6	12.8	13.8	6.1	11.8	5.3
民設・民営(NPO法人)	262	61.8	43.9	△ 35.1	△ 26.0	29.4	26.3	16.0	14.5	19.5	13.7	9.2	10.7	2.7	8.4	9.2
民設・民営(その他)	745	59.6	43.6	40.1	27.7	27.5	26.0	16.1	15.3	16.4	17.9	13.0	9.0	5.0	11.9	9.5

AQ19 現在の職場への改善希望事項【現在保育士就業中】(複数回答)



AQ15-1 施設類型【現在保育士就業中】		4 給与・賞与等の改善	6 職員数の増員	1 事務・雑務の軽減	3 未消化(有給等)休暇の改善	2 勤務シフトの改善	7 職員間のコミュニケーション	9 責任範囲の縮小	12 相談体制の充実	13 研修機会の充実	11 園(など)の理念や運営方針	5 雇用の安定化(正社員登用)	10 評価制度の見直し	8 権限範囲の拡大	14 その他	15 特になし
	n															
全体	9,379	65.7	50.1	49.0	36.5	32.0	27.7	18.6	18.2	14.1	12.6	12.3	11.7	5.4	11.2	6.2
認可保育所	6,037	66.7	52.5	52.8	40.4	33.5	28.7	19.2	18.9	12.9	11.7	12.0	12.5	5.2	12.1	5.2
認証保育所	698	71.2	52.7	45.0	29.1	29.7	25.5	18.5	15.2	13.8	12.9	11.6	12.3	6.3	9.0	6.0
認定こども園	511	66.5	42.3	45.6	39.7	31.7	28.2	18.2	15.9	12.7	15.5	11.2	9.8	4.9	10.0	5.7
家庭的保育事業	78	△ 33.3	△ 16.7	39.7	△ 16.7	△ 14.1	△ 10.3	△ 3.8	10.3	10.3	5.1	9.0	△ 1.3	2.6	9.0	○ 25.6
小規模保育事業	431	59.2	42.7	39.7	△ 24.6	29.7	26.0	16.7	17.2	16.0	15.8	11.1	10.7	3.9	9.5	8.6
事業所内保育事業	161	64.0	△ 37.9	△ 37.3	△ 24.8	29.8	21.1	16.8	19.9	20.5	11.8	16.1	7.5	2.5	9.3	8.7
病児保育事業	30	60.0	△ 33.3	△ 36.7	△ 20.0	○ 46.7	△ 13.3	10.0	△ 6.7	16.7	10.0	10.0	6.7	3.3	3.3	0.0
ベビーシッター(居宅訪問型保育事業を含む)	44	△ 52.3	△ 18.2	△ 18.2	△ 11.4	22.7	18.2	9.1	11.4	20.5	9.1	18.2	2.3	2.3	11.4	○ 22.7
院内保育施設	75	74.7	45.3	△ 26.7	△ 10.7	37.3	20.0	28.0	12.0	9.3	21.3	14.7	13.3	6.7	10.7	8.0
ベビーホテル	16	56.3	△ 37.5	50.0	△ 18.8	△ 6.3	18.8	18.8	18.8	18.8	○ 31.3	○ 31.3	6.3	0.0	6.3	12.5
企業主導型保育事業	171	67.8	48.0	41.5	△ 23.4	28.7	25.1	21.1	19.9	18.1	○ 23.4	8.8	13.5	5.3	8.8	8.2
子育て広場	89	△ 53.9	△ 32.6	△ 29.2	△ 14.6	25.8	23.6	△ 6.7	19.1	21.3	3.4	6.7	7.9	9.0	5.6	13.5
学童クラブ	162	63.0	55.6	44.4	33.3	28.4	30.2	21.0	22.2	13.0	9.9	22.2	9.9	4.9	6.2	7.4
児童福祉施設(保育所を除く)	257	61.9	55.3	44.7	37.0	32.7	31.1	16.3	17.9	22.2	13.2	16.3	9.3	7.8	11.3	5.4
その他	619	61.6	47.2	44.1	32.5	26.7	26.8	17.6	17.3	18.9	15.2	13.4	9.7	7.8	11.6	8.9

2-15. 仕事の悩みを相談する相手 (AQ20)

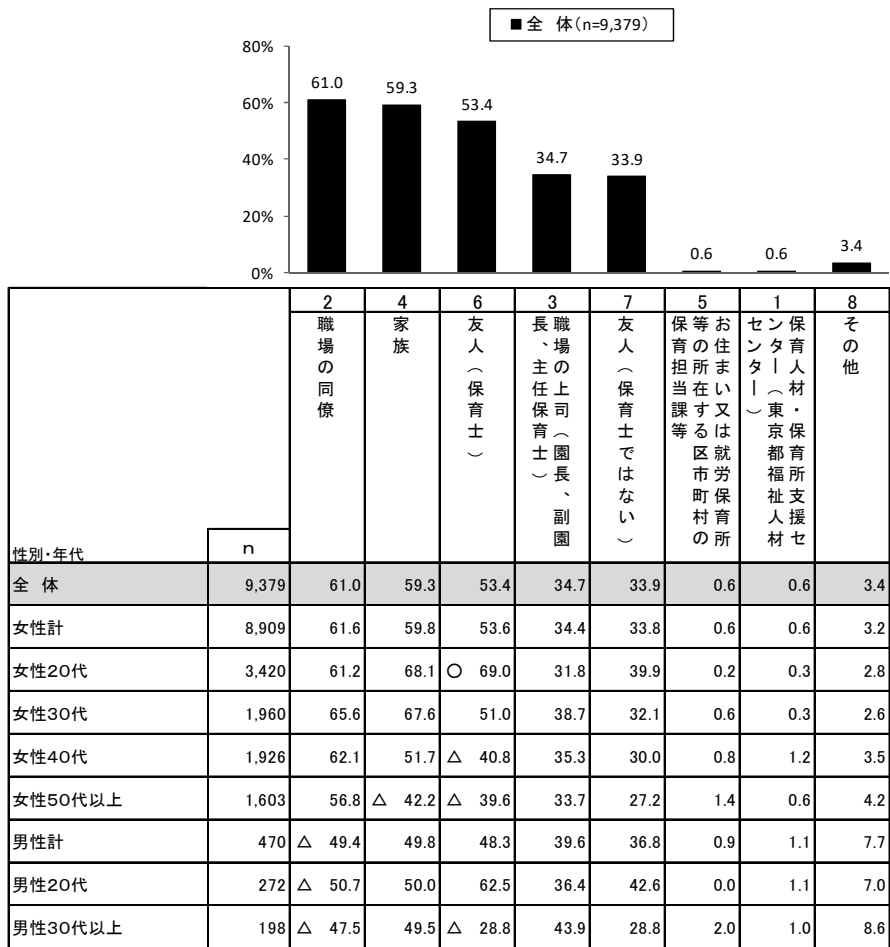
仕事の悩みを相談する相手については、全体で「職場の同僚」が6割強 (61.0%) で最も多く、次いで「家族」(59.3%)と「友人(保育士)」(53.4%)が過半数となった。

性・年代別で見ると、「職場の同僚」が『女性』は「50代以上」を除く全ての年代で6割を超えているのに対して、『男性』はいずれの年代も5割以下程度となっている。

また、男女ともに『20代』で「友人(保育士)」が6割を超えており、他層よりも高い。

AQ20 あなたが、仕事で悩んだときに相談する相手は誰(どこ)ですか？(○はいくつでも)

AQ20 仕事の悩みを相談する相手【現在保育士就業中】(複数回答)



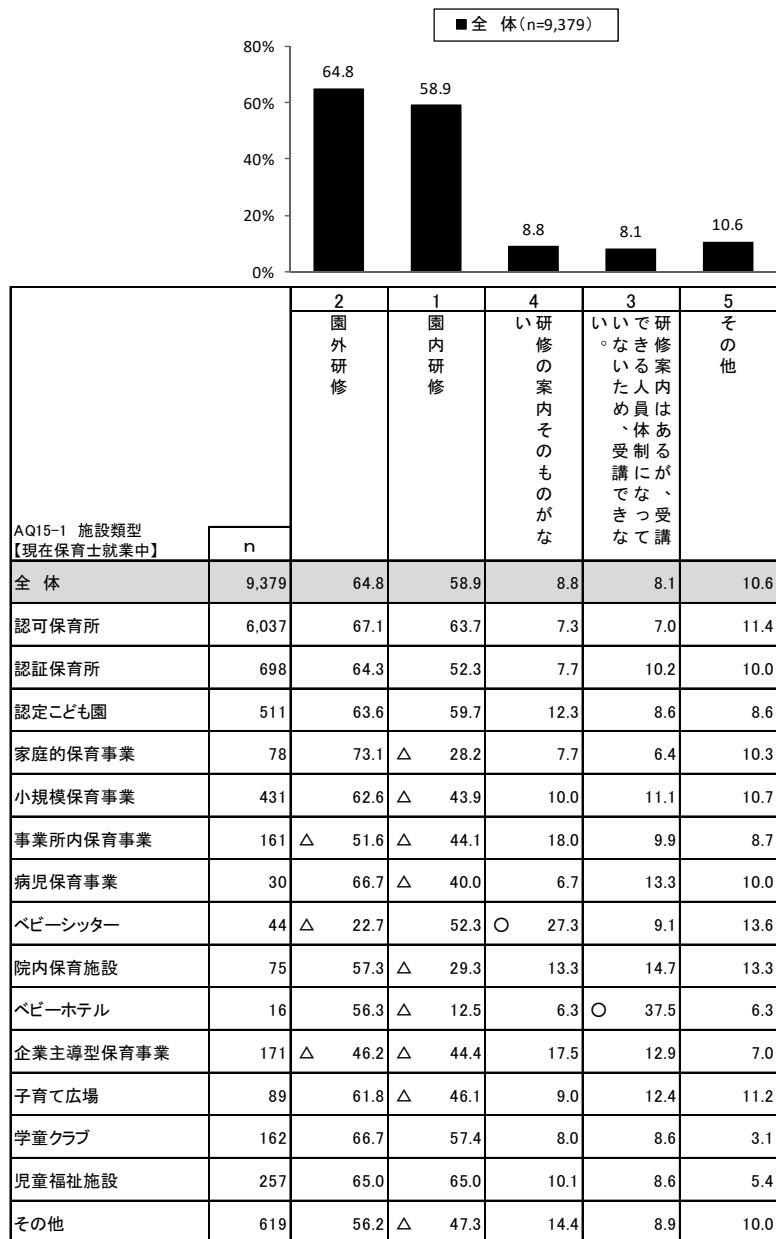
2-16. 研修受講の機会 (AQ21)

現在の職場における研修受講の機会については、全体で「園外研修」が6割強(64.8%)で最も多く、次いで「園内研修」が過半数(58.9%)となっている。

施設類型別で見ると、ほとんどの施設で「園外研修」が5割を超えているが、いずれの施設も「研修の案内そのものがない」が1割程度存在している。

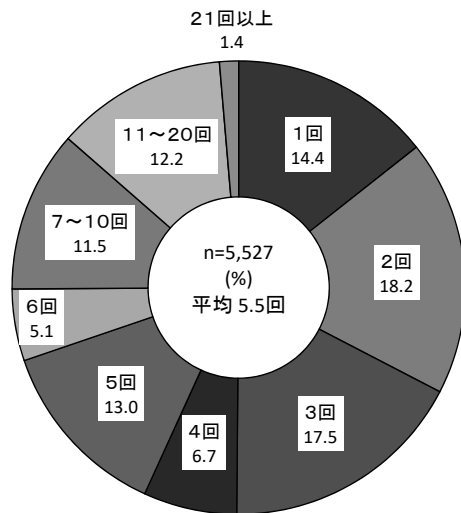
AQ21 あなたが現在働いている施設では、研修を受講する機会はどのくらいありますか？

AQ21 研修受講の機会【現在保育士就業中】(複数回答)



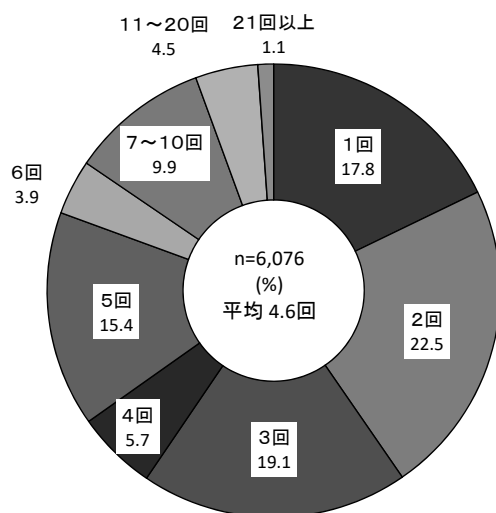
園内研修の年間受講機会数は、全体で「2回」(18.2%)が最も多く、次いで「3回」(17.5%)となっている。「園内研修」の平均年間受講機会数は 5.5 回である。

AQ21_1 年間受講機会数<園内研修>【現在保育士就業中】



園外研修の年間受講機会数は、全体で「2回」(22.5%)が最も多く、次いで「3回」(19.1%)となっている。「園外研修」の平均年間受講機会数は 4.6 回である。

AQ21_2 年間受講機会数<園外研修>【現在保育士就業中】



2-17. 保育士就業継続上の習得を希望する知識・技術 (AQ22)

習得を希望する知識・技術については、全体で7割強が「保育実技」(72.7%)、「特別な支援を必要とする子どもへの接し方」(71.5%)の習得を希望している。次いで「発達心理学」(68.4%)、「救命救急」(55.1%)となっている。

雇用形態別で見ると、「特別な支援を必要とする子どもへの接し方」はいずれも6割以上が希望しており、『有期契約職員(フルタイム)』(75.4%)と『有期契約職員(パートタイム)』(68.6%)では最も高い。

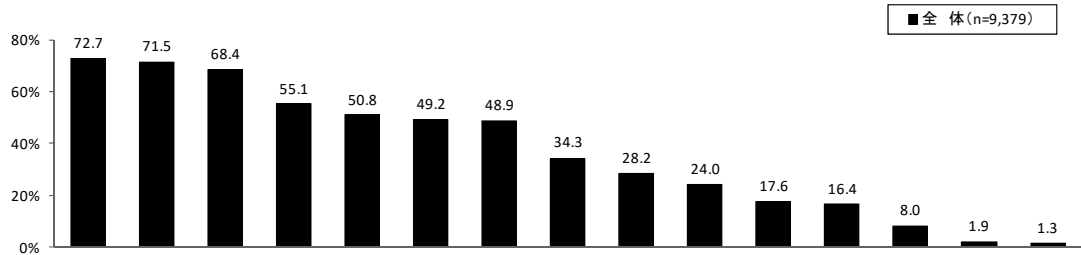
『正規職員』では「保育実技」が8割弱(79.8%)で最も高く、次いで「特別な支援を必要とする子どもへの接し方」も7割強(72.3%)と高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともに『20代』で「保育実技」が8割台、「保護者との対応の仕方」が6割台と他の年代よりも高い傾向にある。

AQ22 あなたは保育士として働き続けるにあたり、どのような知識や技術を習得したいと思いますか。

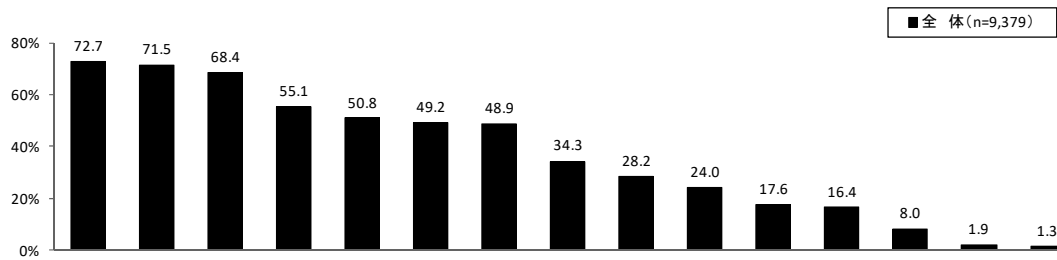
下記の中からお選びください。(〇はいくつでも)

AQ22 習得を希望する知識・技術【現在保育士就業中】(複数回答)



AQ15-4 雇用形態 【現在保育士就業中】	n	1	8	5	2	11	7	3	4	6	13	10	12	9	14	15
		保育実技	特別な支援を必要とする子どもへの接し方	発達心理学	救命救急	保護者との対応の仕方	応食育・食物アレルギー対応	安全管理	衛生管理	保育所保育指針	未のパソコンやタブレット端末の操作	地域の子育て支援	ショーン同僚とのコミュニケーション	め幼稚園教諭免許取得のため	その他	特に欲しいと思うことはない
全体	9,379	72.7	71.5	68.4	55.1	50.8	49.2	48.9	34.3	28.2	24.0	17.6	16.4	8.0	1.9	1.3
正規職員	5,962	79.8	72.3	69.8	54.6	59.1	52.2	51.6	34.8	34.0	25.7	19.6	18.9	7.2	2.0	0.7
有期契約職員(フルタイム)	675	68.9	75.4	72.3	55.0	43.4	49.6	46.2	31.6	22.4	24.6	15.0	14.7	11.0	1.9	1.9
有期契約職員(パートタイム)	2,742	△ 58.3	68.6	64.3	56.3	△ 34.7	42.7	43.4	33.7	△ 17.2	20.3	13.9	11.5	8.9	1.7	2.4
性別・年代																
女性計	8,909	72.5	71.9	68.5	55.1	50.4	49.4	48.5	34.0	28.0	23.9	17.4	15.8	7.9	1.9	1.3
女性20代	3,420	○ 85.2	71.3	68.5	54.4	○ 63.3	54.3	50.9	34.0	32.1	20.5	18.1	18.3	5.0	1.4	0.9
女性30代	1,960	75.1	75.9	72.6	60.7	53.9	54.1	51.1	36.1	34.0	27.5	21.0	17.7	10.4	2.2	0.7
女性40代	1,926	63.6	72.9	71.2	57.3	41.8	44.6	47.3	33.3	24.0	24.2	15.9	13.7	11.2	2.2	1.3
女性50代以上	1,603	△ 53.0	66.7	60.0	47.3	△ 28.9	△ 39.1	41.4	32.4	△ 16.8	26.5	13.4	10.6	7.0	2.2	3.2
男性計	470	76.0	63.8	66.8	55.1	58.7	45.7	56.2	38.5	32.8	26.4	21.7	○ 28.3	10.2	2.8	1.1
男性20代	272	○ 86.0	65.8	67.6	55.1	○ 66.2	50.7	58.8	39.3	37.9	30.9	22.8	○ 30.5	7.4	1.5	0.7
男性30代以上	198	△ 62.1	△ 61.1	65.7	55.1	△ 48.5	△ 38.9	52.5	37.4	25.8	20.2	20.2	25.3	14.1	4.5	1.5

AQ22 習得を希望する知識・技術【現在保育士就業中】(複数回答)



Q3 資格取得方法	n	1	8	5	2	11	7	3	4	6	13	10	12	9	14	15
		保育実技	特別な支援を必要とする子どもへの接し方	発達心理学	救命救急	保護者との対応の仕方	食育・食物アレルギー対応	安全管理	衛生管理	保育所保育指針	パソコンやタブレット端末の操作	地域の子育て支援	同僚とのコミュニケーション	幼稚園教諭免許取得のため	その他	特に欲しいと思うことはない
全体	9,379	72.7	71.5	68.4	55.1	50.8	49.2	48.9	34.3	28.2	24.0	17.6	16.4	8.0	1.9	1.3
専門(専修)学校の保育士養成課程	1,931	71.8	68.3	71.1	54.3	51.8	48.0	46.8	32.0	30.0	28.1	17.3	18.5	4.8	1.6	1.1
短期大学の保育士養成課程	2,440	71.4	69.3	65.5	51.1	51.5	48.3	45.1	29.2	27.6	26.1	15.4	14.6	3.0	1.6	1.6
大学の保育士養成課程	1,768	○ 84.7	75.5	67.8	59.3	○ 65.0	56.3	55.7	36.4	36.1	23.2	21.8	18.2	3.5	1.9	0.8
その他養成施設の保育士養成課程	278	△ 56.8	69.8	64.4	51.8	△ 30.2	40.3	46.0	33.5	18.7	27.0	14.0	12.2	3.2	1.1	2.9
保育士試験	2,962	68.7	73.1	69.8	56.9	43.1	47.4	49.5	38.8	23.8	19.9	17.5	15.8	17.4	2.5	1.4

2-18. よいと考える研修内容 (AQ22: 自由回答より抜粋)

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	AQ22 よいと考える研修内容(記入者計3,970人)
1	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	技量や勤続年数を問わず、すぐに実践・活用出来るような保育実技。例えば、簡単に作れるおもちゃや、集団遊び等。発達段階を考慮することが多い為、医学的な専門知識のある小児科医等から、発達の知識を聞ける研修。
2	女性	30～34歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	日頃困っていること(子どもへの対応、家庭での子どもとの接し方についての相談を受けた際の返答の仕方など)を直接話して、みんなで意見を出し合ったり、アドバイスしてもらえるような少人数のグループで行うような研修。
3	女性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	東京都からよく案内が来るが、パソコンやタブレット講習がなくて残念。そこがクリアできれば、正規や臨時保育士としての一歩が踏み出せるのに、と思う。
4	女性	20～24歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	大人数でなく少人数で話し合いながら様子を共有していけるような研修があったら良いと思う。障がいを持っての子や、そうでない子の関わり方全てにおいて。
5	女性	25～29歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	例えば美術の研修だったら、次の日からすぐに保育現場で実践できるような物を知りたい。導入の仕方なども具体的に教えてくださいと嬉しいです。
6	女性	45～49歳	その他養成施設の保育士養成課程	地域の子育て支援を伝える立場なのに、研修ではなく自分で調べたり、他部署からの情報を得て日々をしのいでいるので、地域の子育て支援と、近隣市の子育て支援などを一年に一度整理するためにも研修してほしい
7	女性	55～59歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	子育てで広場研修として、問題となった事例を取り上げ、パネルディスカッションなどを取り入れた研修。
8	女性	50～54歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	特別な支援が必要な子どもに対して、他の園ではどのように対応しているか、様々な事例から学べる機会があれば良いと思います。
9	女性	50～54歳	その他養成施設の保育士養成課程	0～2歳の子どもに合わせた運動について。大規模災害に備えて準備すること、訓練のしかたについて、東京都から各園に指導にきてもらいたい。
10	女性	30～34歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	無駄な手作業が多い。保育書類をもっと身軽にしたりパソコンを全体的に導入し、伝達作業などスムーズに行えるようにしたい。そのためのパソコンの研修などあったらいいと思う。
11	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	気になる研修があっても、定員数ですぐにいっぱいになってしまうので、定員数が多いものか、数を多くやってくれるものがあると嬉しいです。
12	女性	25～29歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	色々な保育所で働いてる方たちとの情報共有をして一緒に問題点や不安点を解決して行きたい。
13	男性	40～44歳	その他養成施設の保育士養成課程	保育所保育指針についての解説。タイトルが指針の解説になっていても、それを保育でどう生かすかという研修内容のものばかりで、本当に解説はしてもらえない。自分で勉強しなくてはならないのはよくわかっているが、家族がいるため若い時のように自分のことだけをしていられない現状がある。研修で無理に時間を作らなければその日の保育に追われ、指針の勉強までに至らない。
14	女性	30～34歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	ADHDやアスペルガー症候群の「疑い」のある子が増えて来ているので、そのような疑いのある子にはどのような対応をすべきか。その保護者へどのように知らせていくか。また、ADHDやアスペルガー症候群でありそうな保護者との関わり方について。
15	女性	65～69歳	その他養成施設の保育士養成課程	子どもの命に係わる、重要な事で、絶対に間違いが、許されない事なので、安全、衛生、食育を、希望します。
16	女性	20～24歳	保育士試験	海外(特に北欧)の保育士に相当する仕事のアドバイザーを招いての保育士業務の紹介や子供への接し方の教授を正当な時給、または日給が出る形で研修する。
17	女性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	保護者対応。障がい児と疑われる子どもの親への働きかけの仕方。
18	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	実際の現場を知る人から、教科書に出てこないようなケースの話を知りたい。特に、特別な配慮を必要とする子について。
19	女性	35～39歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	実際に保育に使える室内遊びや、アレルギー児の対応の仕方、担任を持っている年齢のことを詳しく勉強させてもらえたらと思います。
20	女性	50～54歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	保育士の仕事は、乳児から幼児を保育していくので、それぞれの特性の知識や人を育てるのに重要な学び啓発も必要なのはと。経営者や園長や主任、上に立つ者が、職場のチームワークが良くなるよう、保育士が向上していける環境づくりができるような働きができるような学びの場もあるといいですね。
21	女性	25～29歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	子育てに対する専門性が高まる研修(感染症や発達に関わること等)保育内容の引き出しが増えるような研修(年齢別での発達を促す製作や遊び、特別支援が必要な子どもへの適切な遊び等)保護者目線から子どもと保育士を見た感覚が理解できるような研修(自宅ではどのようなことが大変か、保育士に技術や精神面で何を求めるか、保育士はどのような存在か等)
22	女性	45～49歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	・ピアノやリトミックなどの歌や手遊びの更新・保育環境の様々な変化に対応出来るような内容の研修・今まで学んだことの再認識や反芻・要領の改編ごとに対応出来るような学習会

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	AQ22 よいとする研修内容(記入者計3,970人)
23	女性	35～39歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	まだ病名の付いていないグレーゾーンの子どもの保育(支援)の仕方。保護者への対応。
24	女性	50～54歳	その他養成施設の保育士養成課程	新卒で入ってくる若い保育士の方達への仕事に対する心構え。日常的なコミュニケーション術等保育の専門分野以外の事は現場では教えづらい指導しづらいのでそういった研修もして頂けると助かります。
25	女性	40～44歳	その他養成施設の保育士養成課程	救命や怪我の応急処置の研修は、定期的にあると良いと思う。また、地震、火事、水害、不審者など色々な場面を想定した保育士としての対応の仕方の訓練みたいなものが出る研修があったら良いと思った。小規模保育所は特に、園外にお散歩に出る為、不審者対応なども研修があると良いと思う。
26	女性	35～39歳	その他養成施設の保育士養成課程	幼児は小学校にむけての動きをするため、運動、読み書き、絵描きなどどう指導すればいいのか実演とかの研修があればいい
27	女性	55～59歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	時間をかけて保育士自身の悩みを打ち明けられる研修たとえば、日常的な体を動かすものとしてヨガやフラダンス、特に日本舞踊などの普段触れたことのない世界を知る機会があればいい。特に多文化共生の時代なので日本の文化をしっかりと学ぶ機会が欲しい着付けもできた方がいい
28	女性	25～29歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	子どもの惹きつけ方、保育技術、リーダーや補助の動きや連携の仕方、指導力(食事、着脱、排泄など)、保護者対応の話し方(保護者会や日々の伝達)、遊びについて。
29	女性	25～29歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	勤務内に受講できる研修。パソコン操作のようなものであれば、実際にパソコンを使いレジメ、園だより等を作ってみたり。対人間の受講内容であれば、グループワークのように座って受けるものだけでなく実技を取り入れる。
30	女性	45～49歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	子ども主体の保育がのぞめず、大人主体になりがちな職業である。子ども主体の保育になっていける考え方や実践の学び
31	女性	55～59歳	その他養成施設の保育士養成課程	より良い保育計画のたてかた、絵本の選び方読み聞かせ方について、問題のある子供達の接し方、保護者の悩みにどう寄り添うか...など
32	男性	20～24歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	特別な支援を必要とする子の接し方があれば良いと考えます。なぜなら、どこの園でも1人や2人はそういう子がいると思うので学校でやっても、研修としてあったらより役に立てるかなあと思うからです。

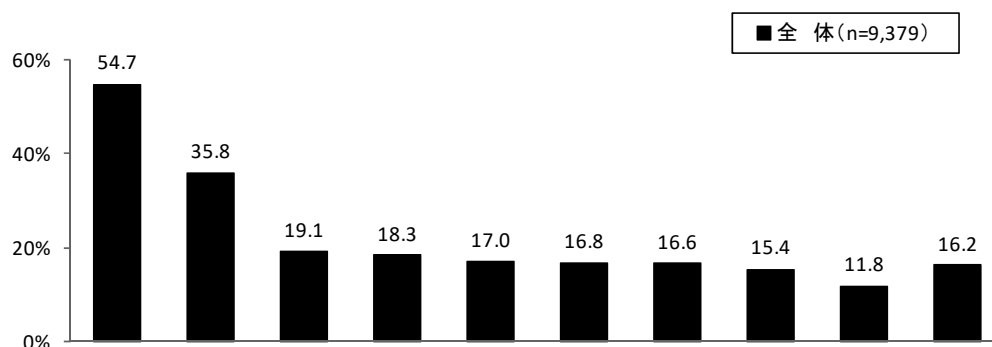
2-19. 現在の職場の福利厚生 (AQ23)

現在の職場の福利厚生については、全体で「住宅に関する手当・補助」が過半数(54.7%)で最も多く、「慶弔・災害見舞金」(35.8%)がこれに次いだ。他の選択肢はいずれも2割未満となっている。

運営主体別で見ると、『民設・民営(社会福祉法人)』では「住宅に関する手当・補助」が63.9%で最も多くなっている。

AQ23 あなたが現在働いている施設では、どのような福利厚生制度がありますか？(○はいくつでも)

AQ23 現在の職場の福利厚生【現在保育士就業中】(複数回答)



AQ15-2 運営主体 【現在保育士就業中】	n	1	4	9	6	2	7	3	5	8	10
		住宅に関する手当・補助	慶弔・災害見舞金	資格取得や自己啓発の支援	の法定の育児・介護休業への積み	社宅・寮	余暇施設や保養所などの運動施設	財形貯蓄制度	がん検診等の法定健康診断への積み	ショーン・活動の支援	その他
全体	9,379	54.7	35.8	19.1	18.3	17.0	16.8	16.6	15.4	11.8	16.2
公設・公営	1,804	51.0	○ 52.1	22.3	○ 28.4	23.2	○ 36.1	○ 45.2	○ 29.7	○ 26.2	16.7
公設・民営	850	53.9	34.9	18.8	15.4	11.9	13.6	11.9	12.1	9.9	16.1
民設・民営(社会福祉法人)	3,441	63.9	36.9	15.1	18.0	8.7	10.2	11.0	12.9	8.3	12.6
民設・民営(株式会社)	2,277	52.8	△ 25.6	21.9	14.1	○ 29.1	14.8	△ 5.8	11.3	9.1	17.3
民設・民営(NPO法人)	262	△ 36.6	30.5	○ 30.5	11.5	12.6	△ 5.7	△ 5.0	10.3	5.7	21.0
民設・民営(その他)	745	△ 34.8	△ 25.8	17.7	13.2	9.8	14.1	15.6	10.7	5.9	○ 27.0

2-20. 最も充実させてほしい福利厚生 (AQ24)

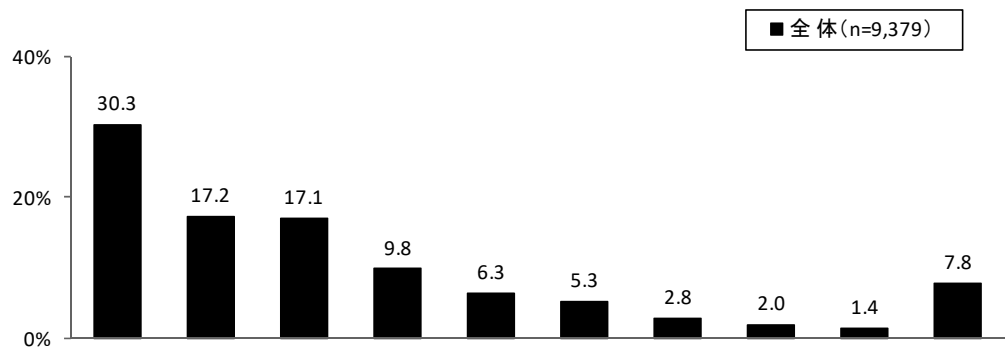
最も充実させてほしい福利厚生としては、全体で「住宅に関する手当・補助」が3割強(30.3%)で最も多く、次いで「法定の育児・介護休業への上積み」(17.2%)と「資格取得や自己啓発の支援」(17.1%)が2割弱となっている。

性・年代別で見ると、女性40代以上を除く全ての年代で「住宅に関する手当・補助」が最も高くなっており、特に『男性20代』(52.6%)、『女性20代』(43.5%)が他の年代よりも高い。

また、女性40代以上では「資格取得や自己啓発の支援」が3割弱と高くなっている。

AQ24 AQ23 の選択肢のうち、あなたが最も充実させて欲しいと思うものを一つお選びください。

AQ24 最も充実させてほしい福利厚生【現在保育士就業中】



性別・年代	n	1	6	9	5	3	7	8	4	2	10
		住宅に関する手当・補助	法定の育児・介護休業への上積み	資格取得や自己啓発の支援	がん検診等の法定健康診断への上積み	財形貯蓄制度	運動施設や保養所などの余暇施設	文化・レクリエーション活動の支援	慶弔・災害見舞金	社宅・寮	その他
全体	9,379	30.3	17.2	17.1	9.8	6.3	5.3	2.8	2.0	1.4	7.8
女性計	8,909	29.3	17.8	17.3	10.1	6.2	5.2	2.6	2.0	1.4	8.0
女性20代	3,420	43.5	17.7	8.8	5.0	7.5	5.1	3.4	2.5	2.4	4.2
女性30代	1,960	29.2	27.1	13.6	8.4	6.1	4.8	1.0	1.7	1.2	6.8
女性40代	1,926	17.7	13.5	27.9	13.7	5.9	5.7	2.2	1.7	0.5	11.2
女性50代以上	1,603	13.3	11.7	27.4	18.8	4.0	5.2	3.5	1.9	0.4	13.5
男性計	470	47.7	6.6	11.9	4.3	8.1	7.0	5.3	1.3	2.6	5.3
男性20代	272	52.6	6.6	7.4	1.5	8.1	7.4	8.1	1.1	3.3	4.0
男性30代以上	198	40.9	6.6	18.2	8.1	8.1	6.6	1.5	1.5	1.5	7.1

Q1-3&4 配偶者と子供の有無

配偶者と子供の有無	n	1	6	9	5	3	7	8	4	2	10
配偶者有・子供有	4,241	18.1	19.5	23.7	13.6	4.9	5.3	2.1	1.8	0.7	10.4
配偶者有・子供無	909	33.6	24.9	14.3	7.5	5.3	3.3	1.7	2.4	0.9	6.3
配偶者無・子供有	530	30.4	12.6	18.5	11.3	7.0	5.5	2.5	1.3	0.6	10.4
配偶者無・子供無	3,699	43.3	13.5	9.9	5.8	8.2	5.8	3.8	2.2	2.6	4.9

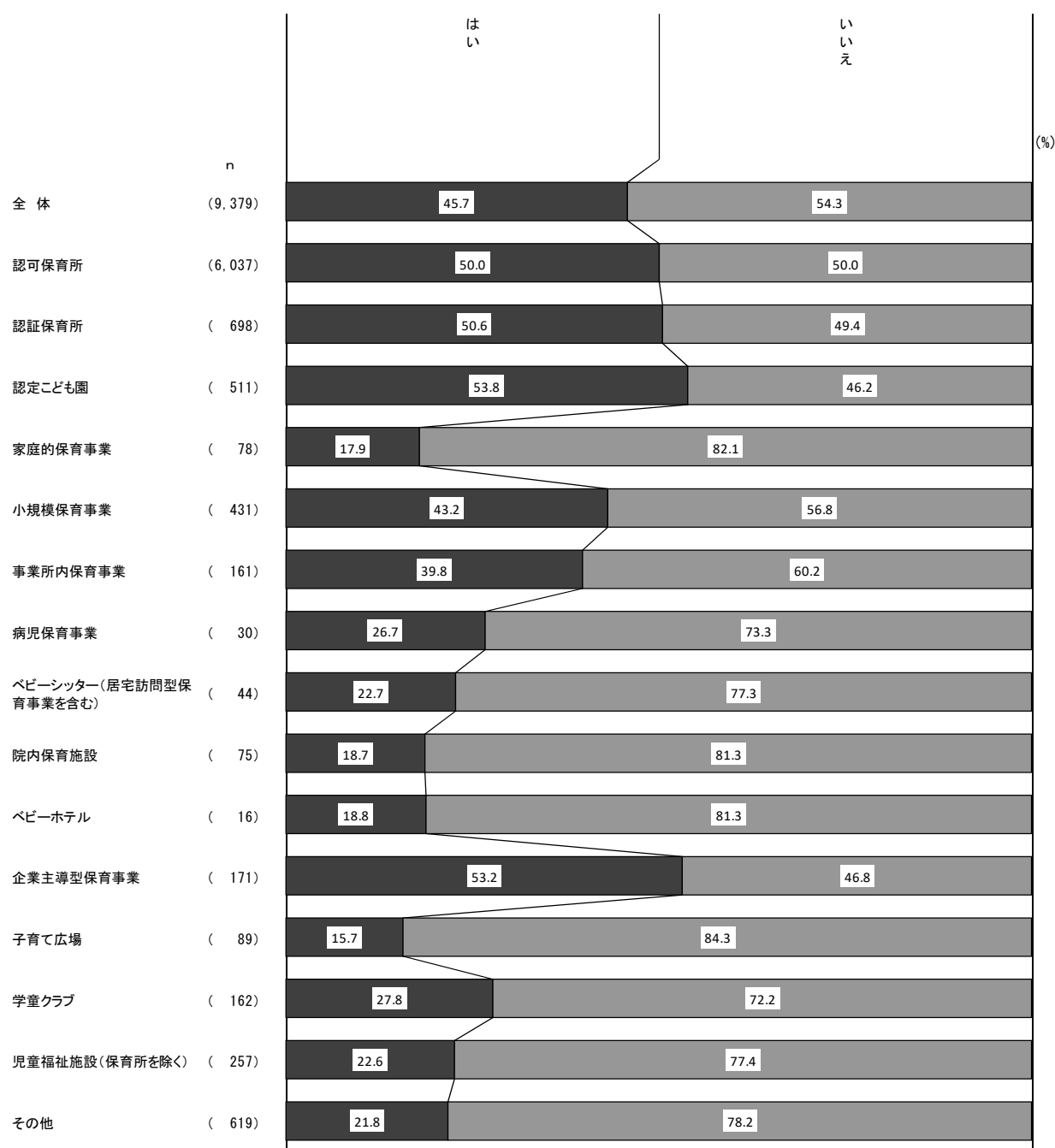
2-21. 保育業務支援システムの導入有無 (AQ25)

現在の職場が保育業務支援システムを導入しているかについては、全体で、「はい」(導入している)が5割弱(45.7%)で、「いいえ」(導入していない)(54.3%)をわずかに下回った。

施設類型別で見ると、「認可保育所」「認証保育所」「認定こども園」「企業主導型保育事業」は「はい」(導入している)が半数以上となっており、それ以外は「はい」(導入している)が「いいえ」(導入していない)を下回っている。

AQ25 あなたが現在働いている職場では、保育業務を支援するシステム(例えば、児童の登降管理を行うシステムなど)は導入されていますか。

AQ25 保育業務支援システムの導入有無【現在保育士就業中】(施設類型別)



2-22. 保育業務支援システムによる負担軽減 (AQ26)

現在の職場で導入した保育業務支援システムが業務負担の軽減につながっているかについては、全体で「ややそう思う」(36.3%)が最も多く、「あまりそう思わない」(34.0%)がこれに次いだ。

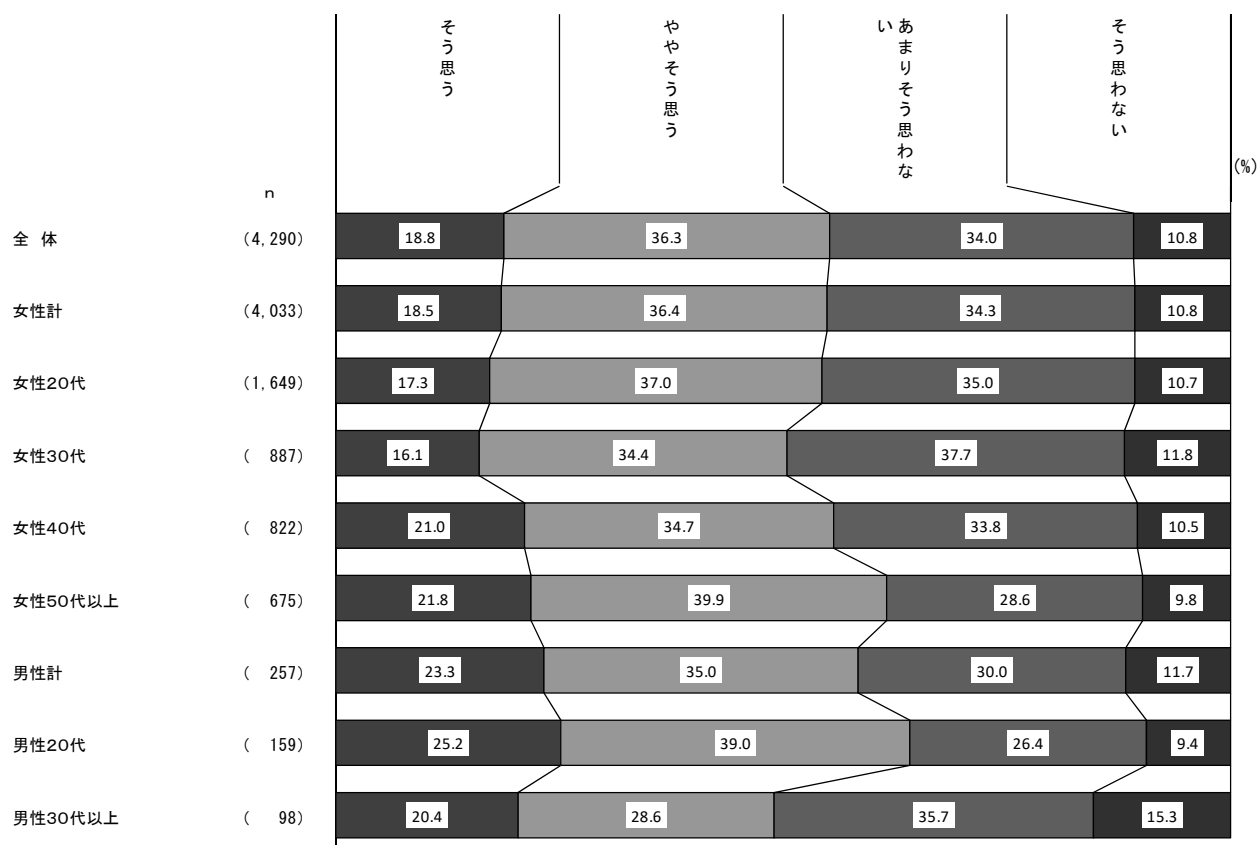
「そう思う」と「ややそう思う」の総計は過半数(55.1%)となり、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の総計(44.8%)を上回った。

性・年代別で見ると、『男性 30 代以上』を除く全ての年代で「そう思う」と「ややそう思う」の総計が「あまりそう思わない」と「そう思わない」の総計を上回っており、特に『女性 50 代以上』では 23.3 ポイント高くなっている。

AQ26 AQ25 で「はい」と回答した方にお聞きます。導入されたことで、業務負担の軽減につながっていると感じますか。

(AQ25 あなたが現在働いている職場では、保育業務を支援するシステム(例えば、児童の登降管理を行うシステムなど)は導入されていますか。)

AQ26 保育業務支援システムによる負担軽減【現在保育士就業中】(性・年代別)



2-23. 保育業務支援システムが負担軽減にならない理由 (AQ27)

現在の職場で導入した保育業務支援システムが負担の軽減にならない理由については、全体で「導入前と業務量が変わらない」が過半数(55.7%)で最も多く、「システムの使い勝手が悪い」(31.9%)がこれに次いだ。

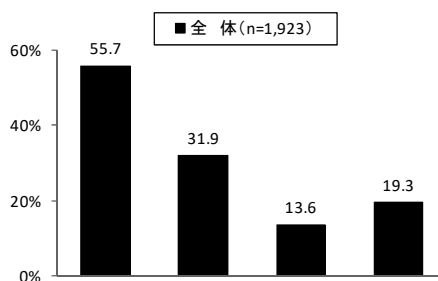
性・年代別で見ると、『女性』は『男性』よりも「システムの使い勝手が悪い」と感じていないが、「導入前と業務量が変わらない」と感じていることが分かる。

AQ27 AQ26 で「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した方にお聞きます。回答理由をお聞かせください。

(〇はいくつでも)

(AQ26 AQ25 で「はい」と回答した方にお聞きます。導入されたことで、業務負担の軽減につながっていると感じますか。)

AQ27 保育業務支援システムが負担軽減にならない理由【現在保育士就業中】(複数回答)



性別・年代	n	3	2	1	4
		な 導 い 入 前 と 業 務 量 が 変 わ ら	い シ ス テ ム の 使 い 勝 手 が 悪	シ ス テ ム 操 作 が 難 解	そ の 他
全 体	1,923	55.7	31.9	13.6	19.3
女性計	1,816	56.1	31.2	13.7	19.0
女性20代	754	58.6	32.6	16.4	17.4
女性30代	439	55.4	34.6	13.9	17.5
女性40代	364	50.8	28.0	9.9	24.5
女性50代以上	259	57.1	25.9	10.8	18.5
男性計	107	49.5	〇 43.0	12.1	25.2
男性20代	57	△ 40.4	〇 52.6	12.3	24.6
男性30代以上	50	60.0	32.0	12.0	26.0

2-24. 保育業務支援システムの導入希望 (AQ28)

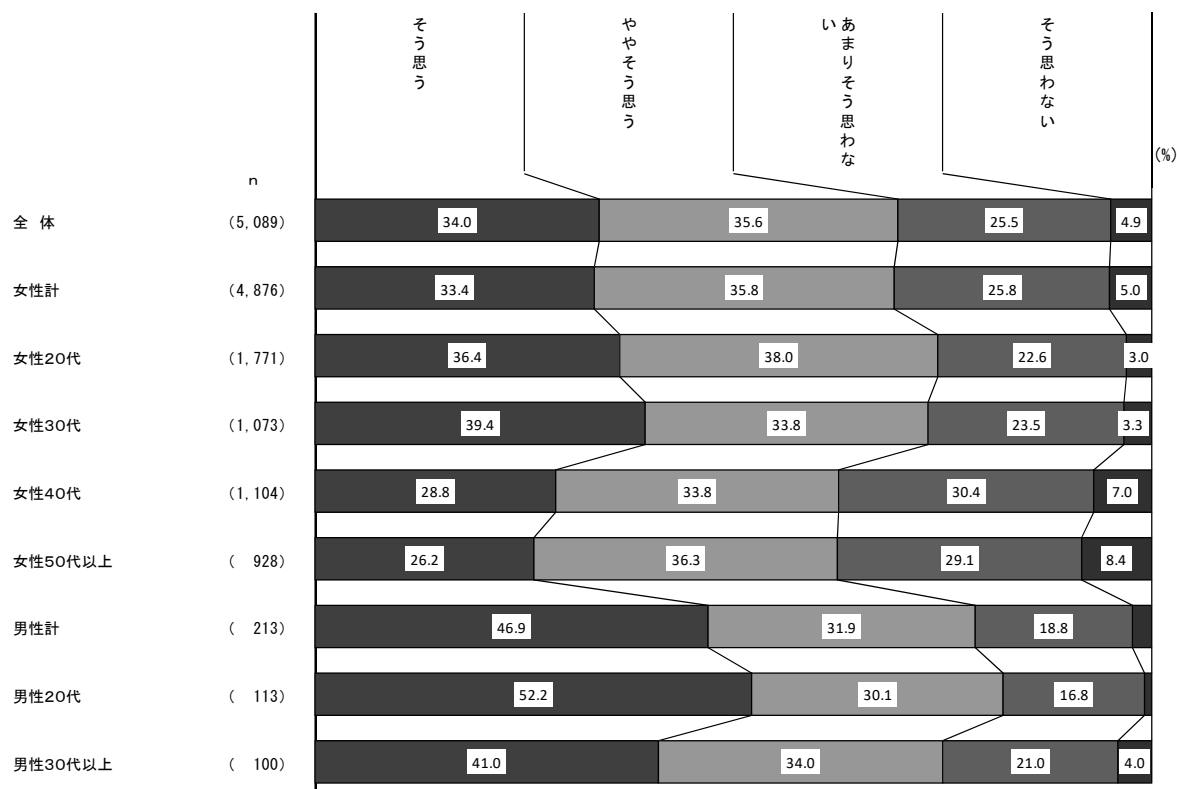
現職場における保育業務支援システム導入の希望については、全体で「ややそう思う」(35.6%)が最も多い。「そう思う」と「ややそう思う」の総計は7割弱(69.6%)で、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の総計(30.4%)を大きく上回った。

性・年代別で見ると、いずれの年代でも6割以上が保育業務支援システムの導入を希望している。

AQ28 AQ25 で「いいえ」と回答した方にお聞きします。今後、導入してほしいと思いませんか。

(AQ25 あなたが現在働いている職場では、保育業務を支援するシステム(例えば、児童の登降管理を行うシステムなど)は導入されていますか。)

AQ28 現職場の保育業務支援システム導入希望【現在保育士就業中】(性・年代別)



2-25. 保育士就業継続意向 (AQ29)

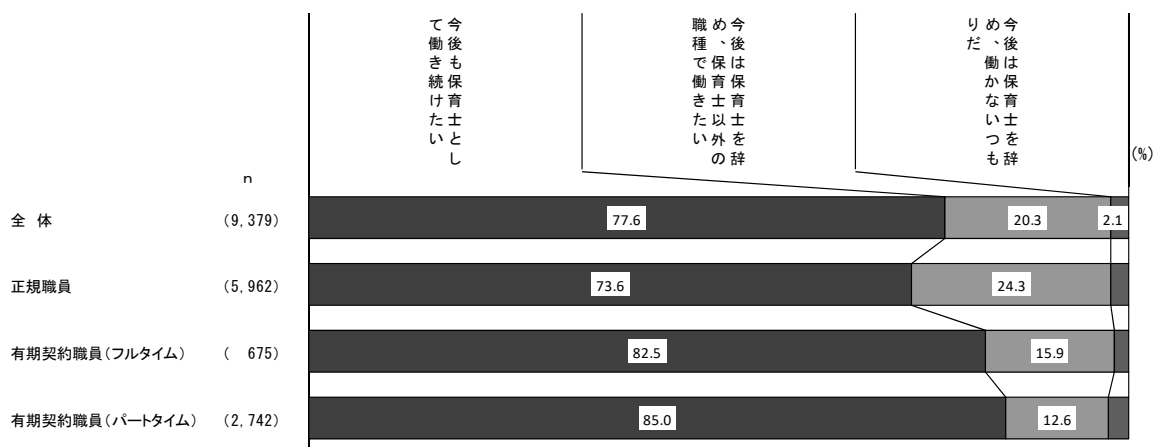
保育士就業継続意向については、全体で「今後も保育士として働きたい」と考えている人が約8割(77.6%)であった。他方、退職を考えている者の割合は約2割(「今後は保育士を辞め、保育士以外の職種で働きたい」(20.3%)、「今後は保育士を辞め、働かないつもりだ」(2.1%))となっている。

雇用形態別で見ると、特に『正規職員』で2割強(24.3%)が保育士以外への転職を希望しており、『有期契約職員(フルタイム)』(15.9%)、『有期契約職員(パートタイム)』(12.6%)より多くなっている。

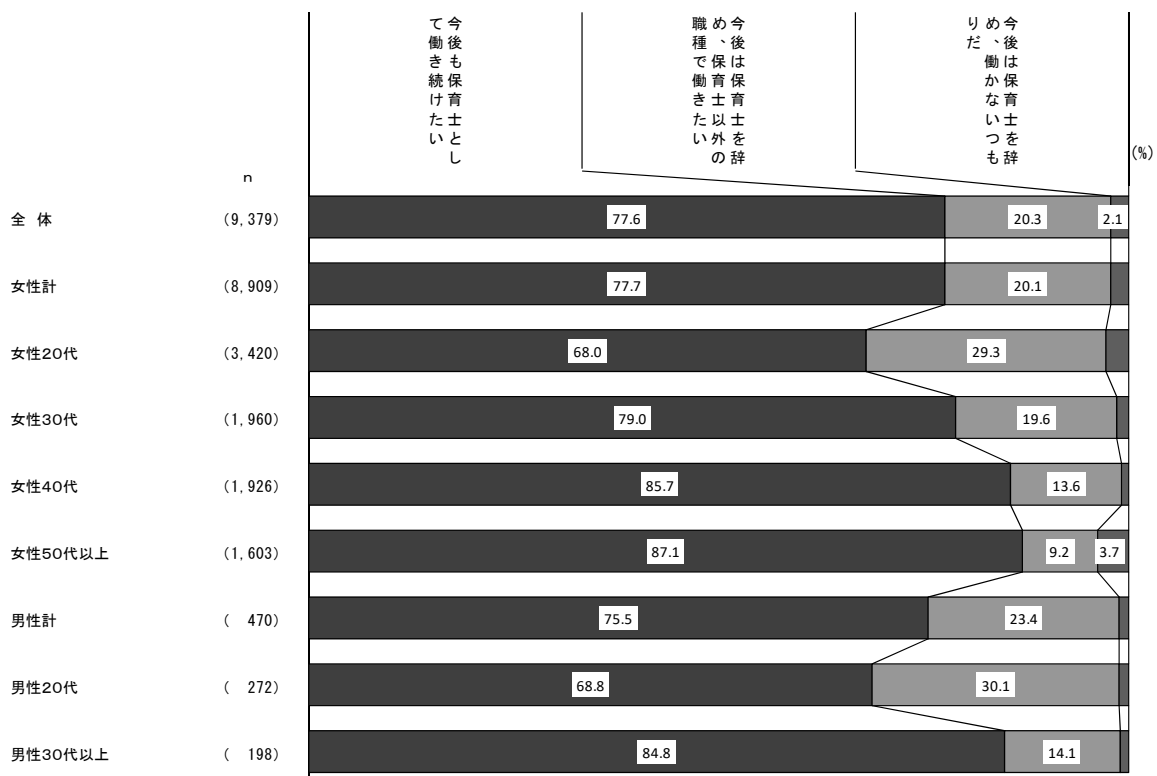
性・年代別で見ると、男女ともに『20代』で約3割(男性:30.1%、女性:29.3%)が保育士以外への転職を希望しており、他の年代よりも高くなっている。

AQ29 あなたは、今後も保育士として働きたいと思っていますか。(○は1つだけ)

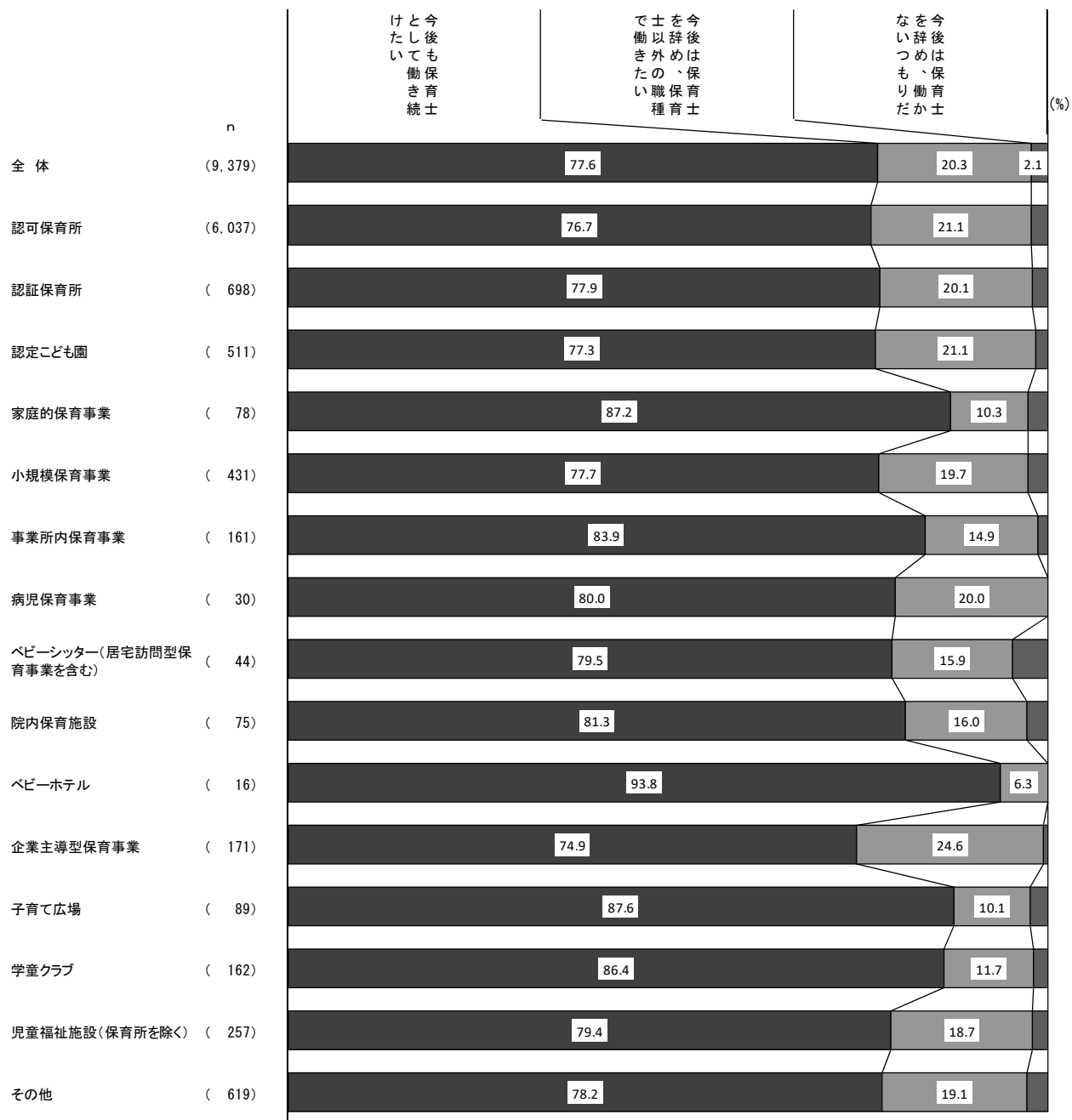
AQ29 保育士就業継続意向【現在保育士就業中】(雇用形態別)



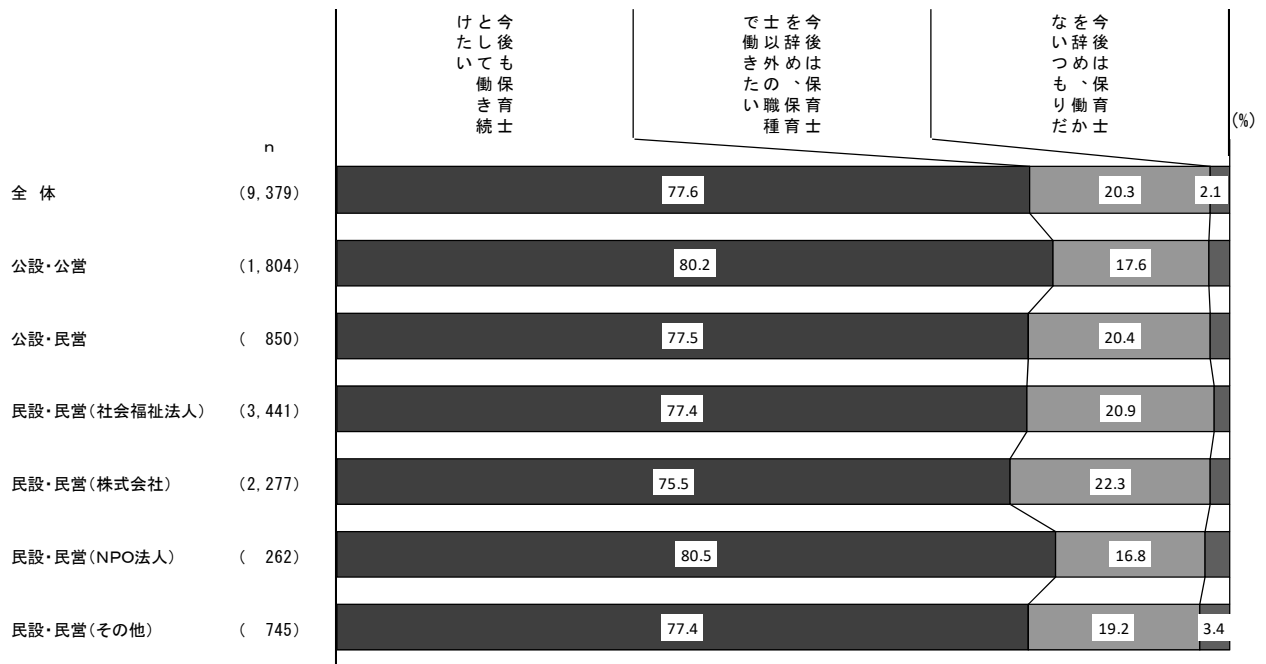
AQ29 保育士就業継続意向【現在保育士就業中】(性・年代別)



AQ29 保育士就業継続意向【現在保育士就業中】(施設類型別)

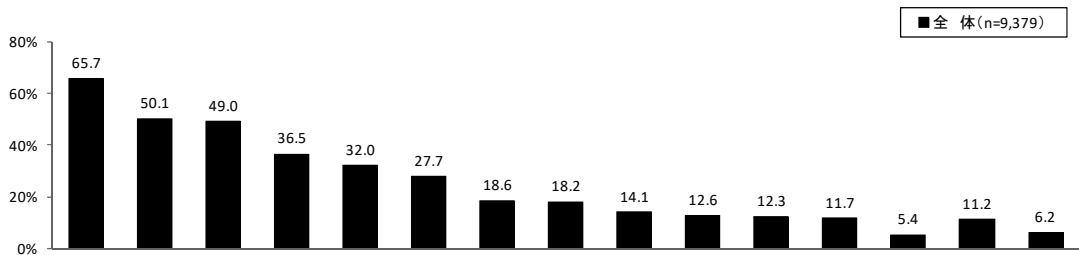


AQ29 保育士就業継続意向【現在保育士就業中】(運営主体別)



現在の職場への改善希望点を保育士就業継続意向別で見ると、『退職意向者(「今後は保育士を辞め、保育士以外の職種で働きたい」)』は「給与・賞与等の改善」「事務・雑務の軽減」「職員数の増員」などが6割(77.4%、62.2%、61.3%)を超えており『継続意向者(「今後も保育士として働きたい」)』よりも高い割合となっている。

AQ19 職場への改善希望事項【現在保育士就業中】(複数回答)



AQ29 保育士就業継続意向【現在保育士就業中】	n	AQ19 職場への改善希望事項【現在保育士就業中】(複数回答)														
		4 給与・賞与等の改善	6 職員数の増員	1 事務・雑務の軽減	3 善未消化(有給等)休暇の改善	2 勤務シフトの改善	7 職員間のコミュニケーション	9 責任範囲の縮小	12 相談体制の充実	13 研修機会の充実	11 針園(など)の理念や運営方針	5 雇用の安定化(正社員登用)	10 評価制度の見直し	8 権限範囲の拡大	14 その他	15 特にない
全体	9,379	65.7	50.1	49.0	36.5	32.0	27.7	18.6	18.2	14.1	12.6	12.3	11.7	5.4	11.2	6.2
今後も保育士として働きたい	7,276	62.6	46.9	45.4	33.6	28.7	25.7	15.2	16.8	14.3	10.8	11.7	9.9	4.6	10.6	7.3
今後は保育士を辞め、保育士以外の職種で働きたい	1,903	77.4	61.3	62.2	46.9	43.4	34.8	31.0	23.3	13.6	19.1	14.2	18.3	8.3	13.7	1.8
今後は保育士を辞め、働かないつもりだ	200	65.5	61.0	55.5	44.0	42.0	32.0	25.5	18.5	12.0	15.5	13.5	14.0	5.0	10.5	6.0

2-26. 保育士退職意向理由 (AQ30)

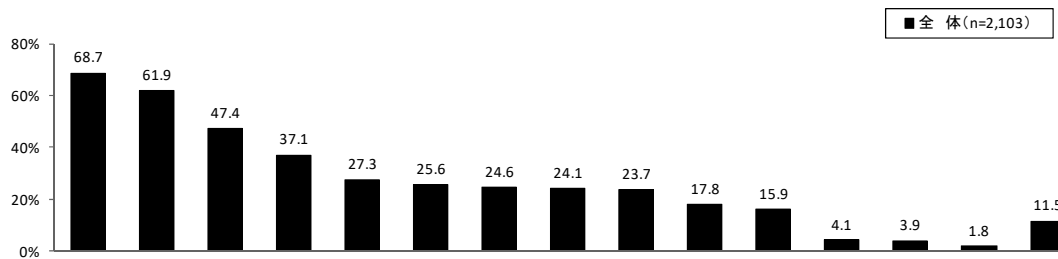
保育士退職意向理由について、全体で「給料が安い」が7割強(68.7%)で最も多く、「仕事量が多い」が6割強(61.9%)、次いで「労働時間が長い」(47.4%)と「職場の人間関係」(37.1%)となっており、主に勤務条件や職場環境に関わる項目が高い割合を示している。

雇用形態別で見ると、『正規職員』は「給料が安い」(72.7%)、「仕事量が多い」(69.8%)、「労働時間が長い」(56.6%)が他層より比較的高い。

AQ30 あなたが現在保育士としてお勤めされている保育所等を退職したいと考える理由としてあてはまるものをお答えください。

(○はいくつでも)

AQ30 保育士退職意向理由【現在保育士就業中】(複数回答)



AQ15-4 雇用形態 【現在保育士就業中】	n	6	7	8	9	12	11	10	3	4	2	1	13	5	14	15
		給料が安い	仕事量が多い	労働時間が長い	職場の人間関係	他業種への興味	職業適性に対する不安	保護者対応の大変さ	子育て・家事	健康上の理由(体力含む)	妊娠・出産	結婚	家族の事情(介護等)	転居	配偶者の意向	その他
全体	2,103	68.7	61.9	47.4	37.1	27.3	25.6	24.6	24.1	23.7	17.8	15.9	4.1	3.9	1.8	11.5
正規職員	1,575	72.7	69.8	56.6	39.6	28.2	28.4	29.0	26.7	20.7	21.6	19.9	3.4	4.3	1.6	9.8
有期契約職員(フルタイム)	118	68.6	△ 51.7	△ 31.4	36.4	24.6	24.6	16.1	14.4	27.1	11.0	6.8	5.1	2.5	3.4	13.6
有期契約職員(パートタイム)	410	△ 53.4	△ 34.4	△ 16.3	27.8	24.9	△ 15.1	△ 10.2	17.1	○ 34.1	△ 5.1	△ 3.2	6.6	2.7	2.0	17.3

性別・年代	n	6	7	8	9	12	11	10	3	4	2	1	13	5	14	15
女性計	1,988	68.1	61.9	47.6	36.9	27.3	25.0	24.4	25.4	24.3	18.5	16.0	4.3	3.9	1.8	11.5
女性20代	1,093	74.5	70.3	57.2	40.9	33.2	31.5	27.6	25.4	18.4	26.3	○ 26.7	1.6	5.1	0.6	8.3
女性30代	412	67.2	59.2	42.5	33.7	22.8	18.0	24.8	○ 40.8	26.5	18.2	6.3	4.9	4.1	3.6	11.2
女性40代	276	59.1	△ 48.6	△ 33.0	29.7	21.7	17.8	18.8	19.6	○ 34.1	△ 1.4	△ 0.4	6.2	1.1	2.2	17.0
女性50代以上	207	△ 48.3	△ 41.1	△ 26.6	31.9	△ 12.6	△ 14.5	△ 14.0	△ 1.9	○ 38.6	△ 0.0	△ 0.0	○ 15.5	1.0	3.9	○ 21.7
男性計	115	○ 79.1	61.7	43.5	40.0	27.8	○ 35.7	27.8	△ 2.6	△ 12.2	△ 6.1	13.0	0.9	2.6	0.9	11.3
男性20代	85	○ 84.7	65.9	48.2	35.3	25.9	○ 36.5	28.2	△ 1.2	△ 11.8	△ 7.1	16.5	0.0	3.5	1.2	8.2
男性30代以上	30	63.3	△ 50.0	△ 30.0	○ 53.3	33.3	33.3	26.7	△ 6.7	△ 13.3	△ 3.3	△ 3.3	3.3	0.0	0.0	20.0

Q1-3&4 配偶者と子供の有無	n	6	7	8	9	12	11	10	3	4	2	1	13	5	14	15
配偶者有・子供有	643	△ 58.5	△ 49.5	△ 33.4	29.5	19.0	△ 15.6	18.2	○ 34.2	27.8	△ 6.4	△ 0.9	7.2	2.5	3.4	16.6
配偶者有・子供無	219	63.9	60.3	48.9	34.2	24.7	22.4	28.8	33.8	30.1	○ 39.3	9.1	5.5	5.9	6.8	12.3
配偶者無・子供有	101	73.3	62.4	△ 36.6	33.7	△ 16.8	△ 13.9	22.8	15.8	27.7	△ 2.0	△ 1.0	5.9	1.0	0.0	14.9
配偶者無・子供無	1,140	75.0	69.2	55.9	42.2	33.5	32.9	27.5	17.3	19.7	21.5	○ 26.9	2.0	4.5	0.0	8.2

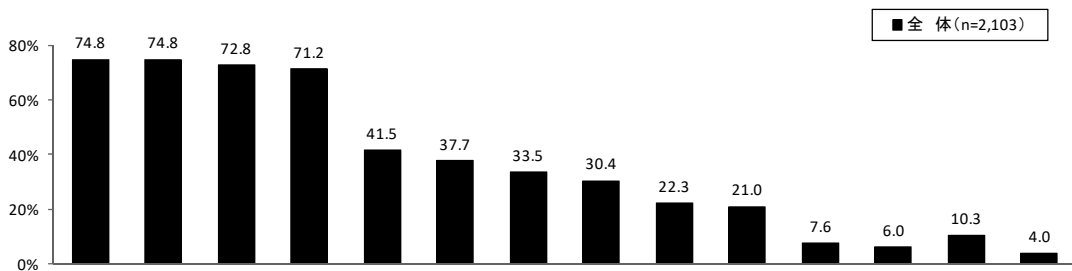
2-27. 保育士を辞めた場合の復職条件 (AQ31)

保育士復職条件については、全体で「勤務日数」、「給与等」(74.8%)が最も多く、次いで「勤務時間」(72.8%)、「通勤時間」(71.2%)が7割強となっている。

配偶者・子供の有無別で見ると、「働くことが可能な家庭の状況」においては『配偶者有・子供有』(39.8%)が4割弱と最も高く、最も低い『配偶者無・子供無』(23.7%)と比べて、16.1ポイント差が出ている。

AQ31 あなたが退職した場合で、再び保育士として働くとしたら、どのような条件を求めますか。また()内に具体的数字もあわせてご記入ください。(〇はいくつでも)

AQ31 保育士復職条件【現在保育士就業中】(複数回答)



Q1-3&4 配偶者と子供の有無	n	1	4	2	3	5	6	8	10	7	9	12	11	13	14
		勤務日数	給与等	勤務時間	通勤時間	雇用形態 (正社員採用)	勤雇用形態 (パート・非常)	自身のキャリアアップが可能なと感じる	働くことが可能な家庭の状況	施設の運営方針への納得感	自身の健康状況の改善	研修等の再教育プログラム	求人情報の提供	その他	どのような保育士としての条件があってもいい
全体	2,103	74.8	74.8	72.8	71.2	41.5	37.7	33.5	30.4	22.3	21.0	7.6	6.0	10.3	4.0
配偶者有・子供有	643	72.6	66.3	70.8	70.5	△ 30.3	46.8	28.6	39.8	21.3	18.0	8.6	5.6	10.7	3.3
配偶者有・子供無	219	76.7	73.1	76.3	74.0	37.0	41.6	29.7	37.4	21.5	23.3	5.0	5.0	15.1	3.2
配偶者無・子供有	101	79.2	81.2	76.2	75.2	50.5	28.7	35.6	31.7	25.7	22.8	13.9	8.9	8.9	6.9
配偶者無・子供無	1,140	75.2	79.3	73.1	70.8	47.8	32.5	36.8	23.7	22.6	22.0	7.0	6.1	9.2	4.3

AQ15-4 雇用形態【現在保育士就業中】

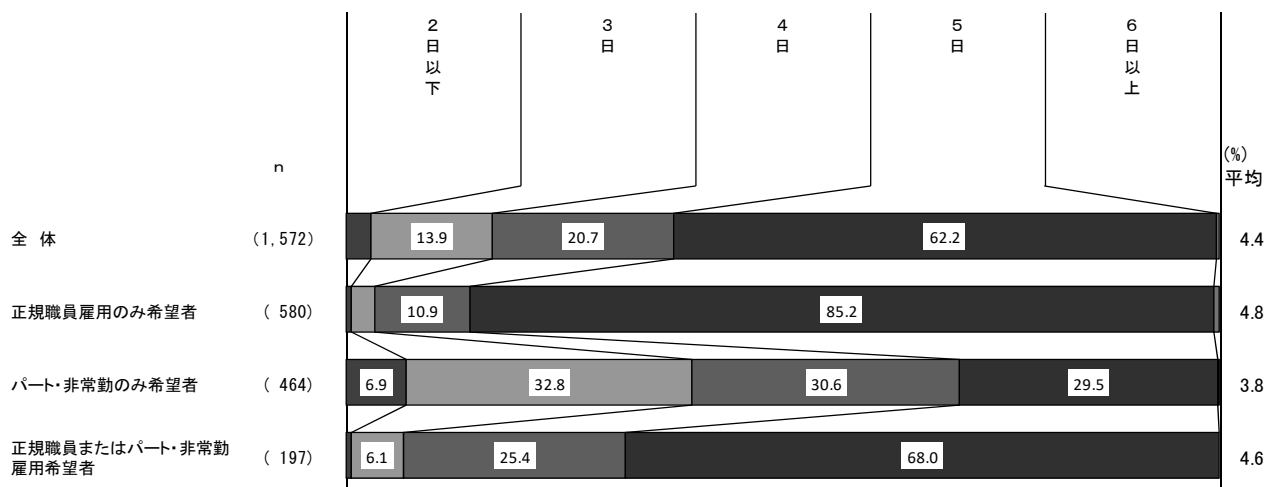
雇用形態	n	1	4	2	3	5	6	8	10	7	9	12	11	13	14
正規職員	1,575	77.3	75.2	72.6	79.2	48.6	32.1	△ 22.5	34.7	20.7	30.0	5.8	6.8	10.0	3.7
有期契約職員(フルタイム)	118	72.9	71.2	74.6	76.3	32.2	○ 52.5	△ 22.0	23.7	22.0	25.4	4.2	7.6	10.2	4.2
有期契約職員(パートタイム)	410	65.4	△ 64.1	64.9	△ 57.3	△ 16.8	○ 54.9	△ 21.5	31.5	21.7	○ 33.7	7.3	10.7	11.5	5.1

希望条件数字記入項目では全体で、平均勤務日数は 4.4 日、平均勤務時間は 6.9 時間、平均通勤時間(片道)は 28.7 分、平均年収は 323.4 万円である。

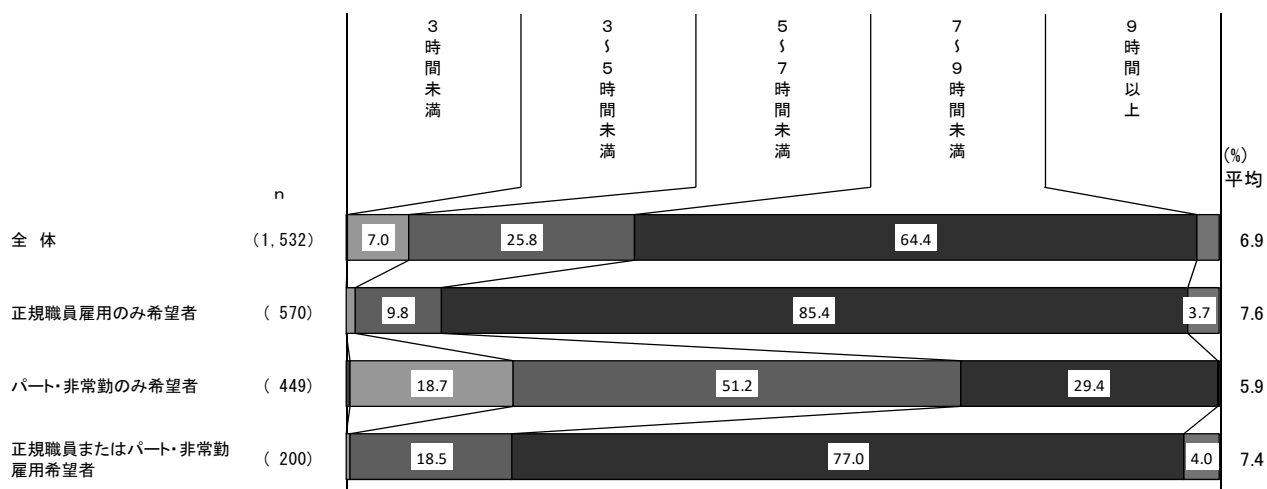
希望する雇用形態別で見ると、『正規職員雇用のみ希望者』は、勤務日数週 4.8 日、勤務時間 7.6 時間、通勤片道 31.0 分、年収 364.2 万円、『パート・非常勤のみ希望者』は勤務日数 3.8 日、勤務時間 5.9 時間、通勤時間片道 26.1 分、年収 220.1 万円、『正規職員またはパート・非常勤雇用希望者』は勤務日数 4.6 日、勤務時間 7.4 時間、通勤時間片道 29.9 分、年収 345.2 万円となっている。

<条件(具体的数字)記入項目(希望する雇用形態別)>

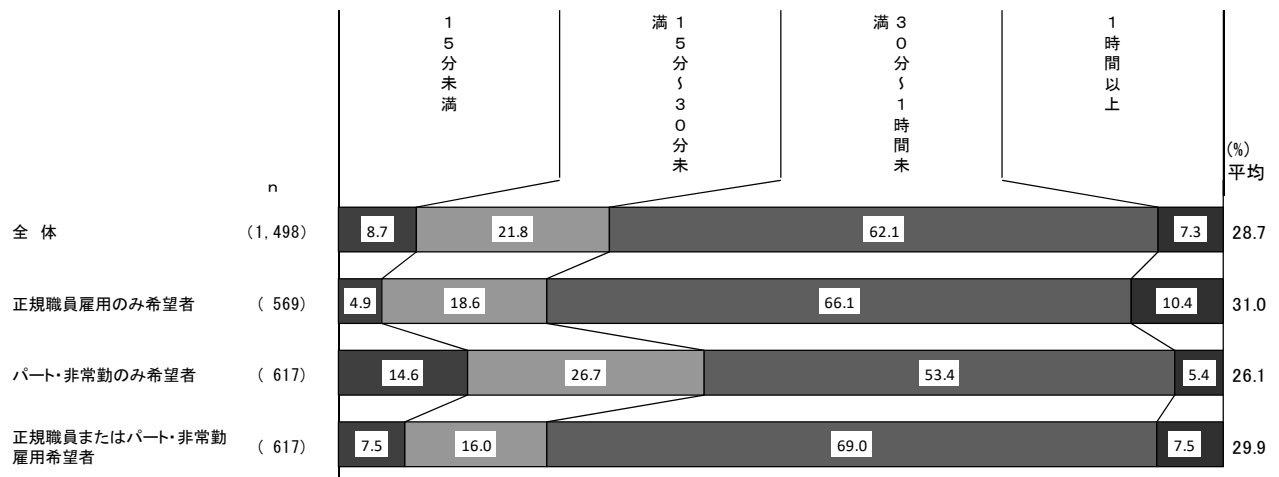
AQ31_1 保育士復職条件<勤務日数:週>【現在保育士就業中】



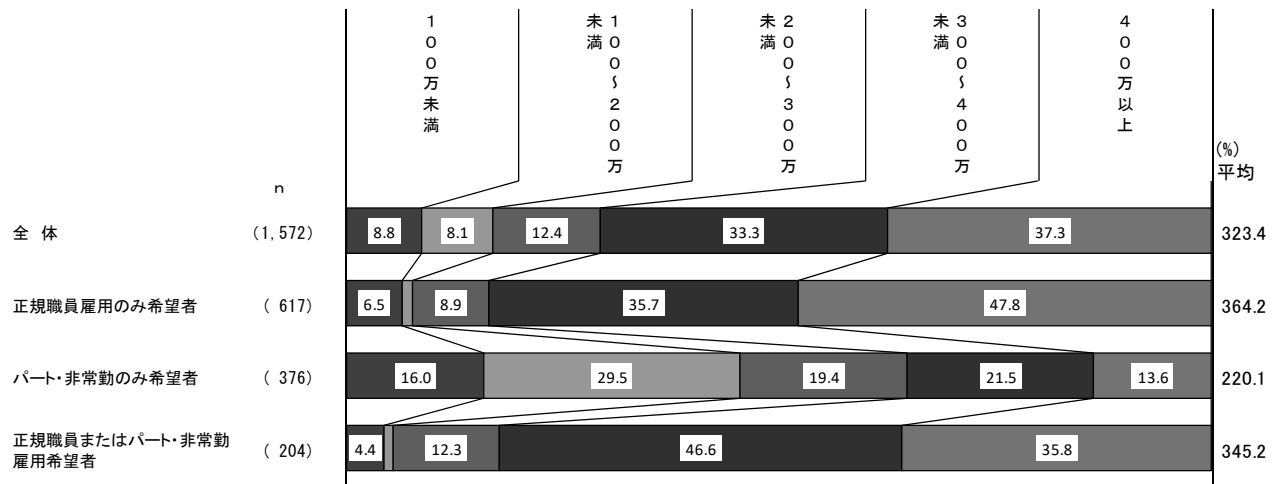
AQ31_2 保育士復職条件<勤務時間:日>【現在保育士就業中】



AQ31_3 保育士復職条件<通勤時間:片道>【現在保育士就業中】



AQ31_4 保育士復職条件<給与等:年収>【現在保育士就業中】

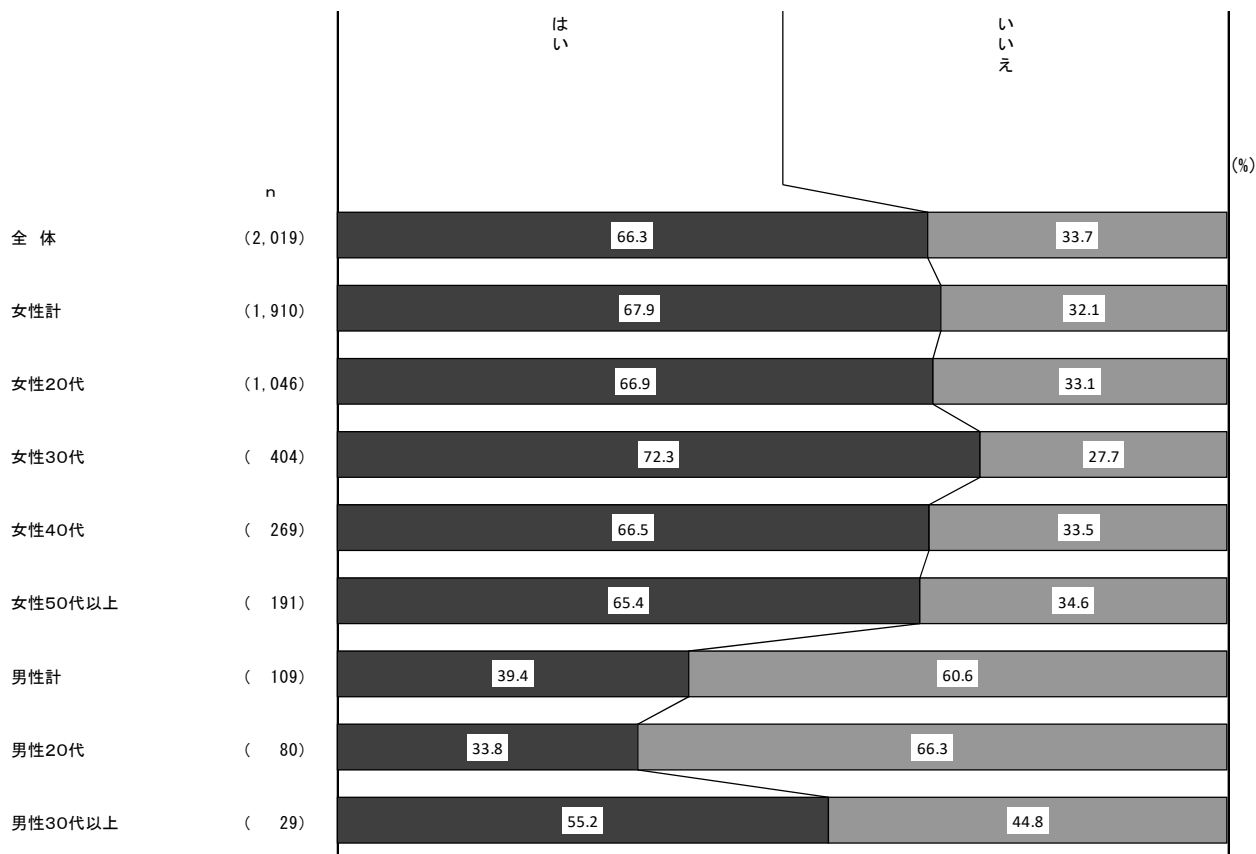


2-28. 保育士を辞めた場合の時間単位勤務での復職意向 (AQ32)

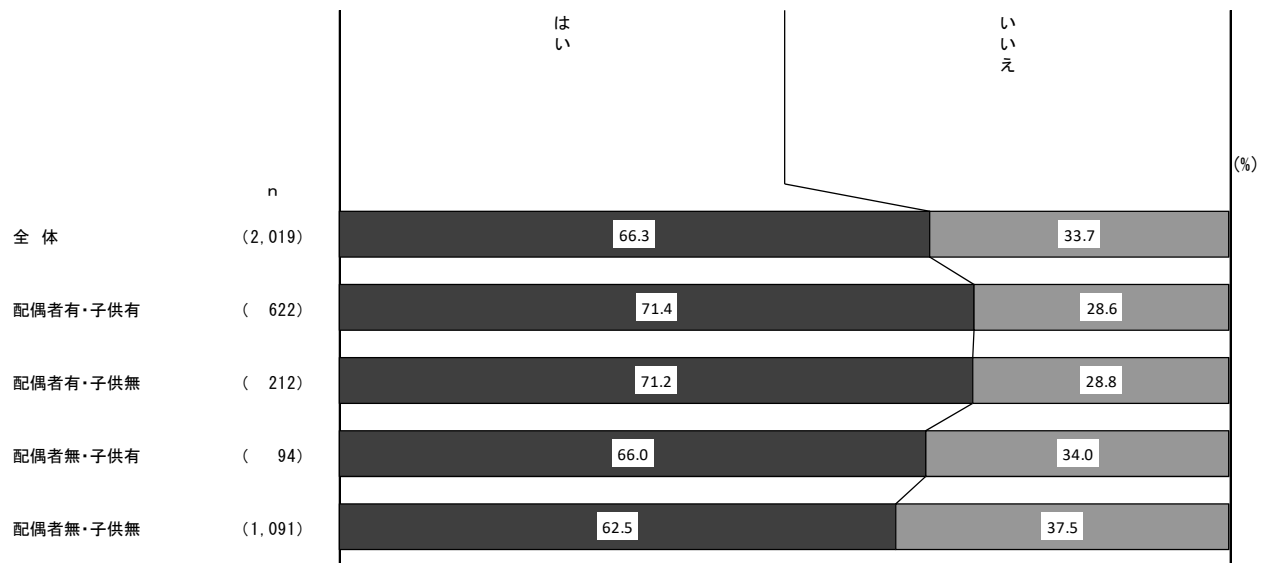
保育士を辞めた場合の時間単位勤務での復職意向については、全体で「はい」(66.3%)が「いいえ」(33.7%)を大きく上回った。
 性・年代別で見ると、『男性 20 代』では「いいえ」が 66.3%と最も多い。

AQ32 あなたが退職した場合で、時間単位の勤務が可能であれば復職したいという意向がありますか。

AQ32 保育士を辞めた場合の時間単位勤務での復職意向【現在保育士就業中】(性・年代別)



AQ32 保育士を辞めた場合の時間単位勤務での復職意向【現在保育士就業中】
(配偶者・子供の有無別)

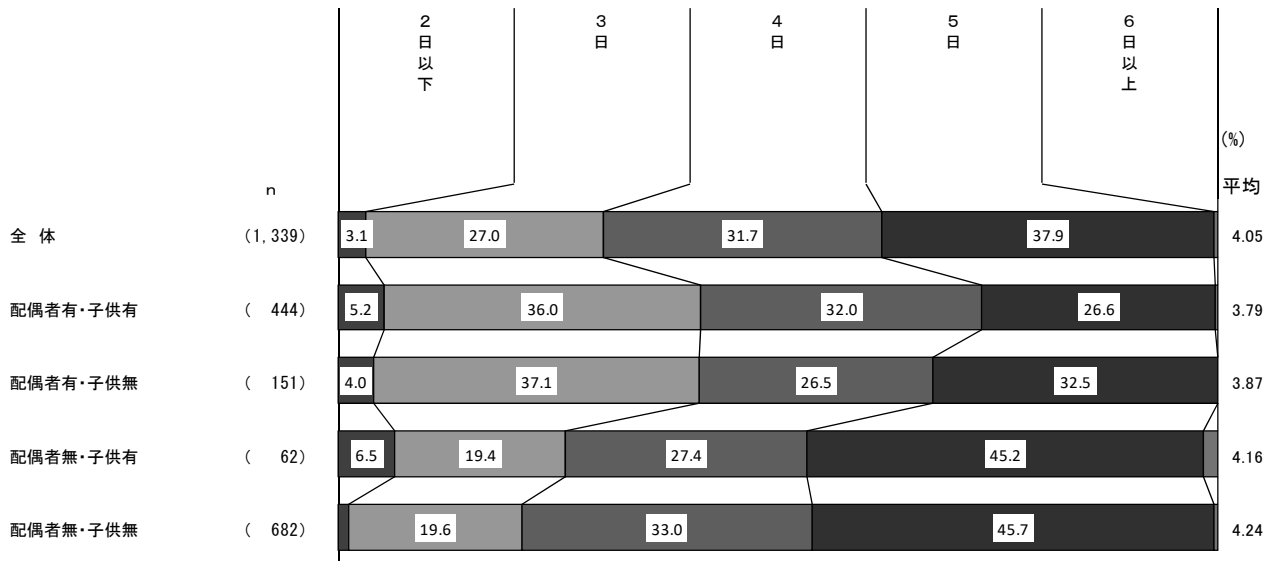


2-29. 保育士を辞めた場合の時間単位勤務に求める条件 (AQ33)

保育士を辞めた場合の時間単位勤務に求める条件のうち、週間勤務日数については、全体で「5日」が4割弱(37.9%)で最も多く、次いで「4日」が約3割(31.7%)、「3日」が3割弱(27.0%)となっている。
配偶者・子供の有無別で見ると、『配偶者無』が『配偶者有』に比べて「5日」の割合が高い。

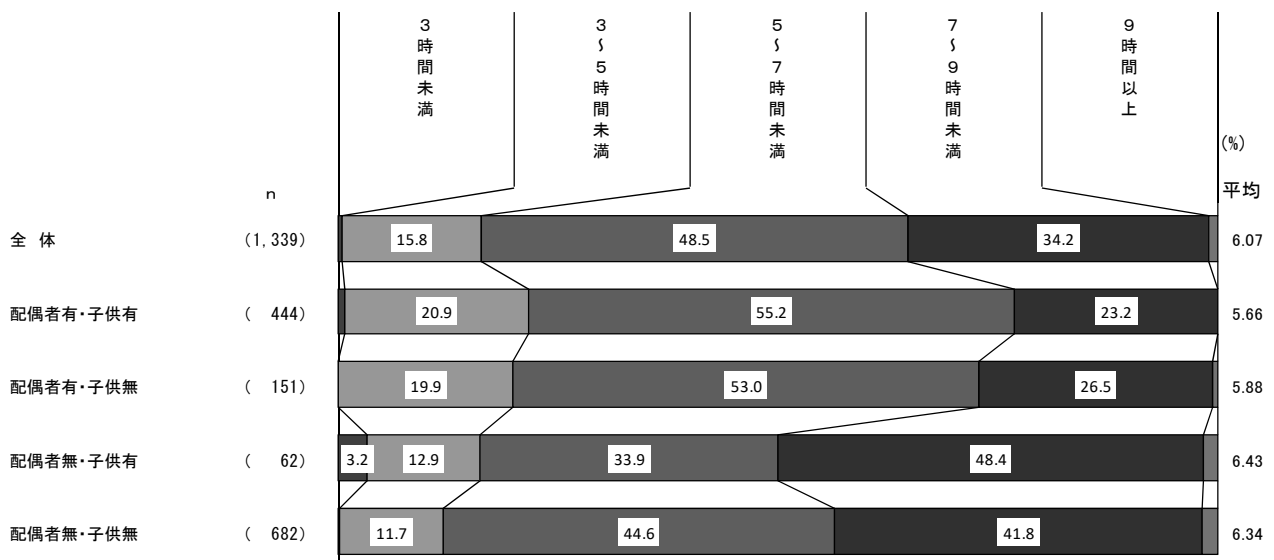
AQ33 時間単位で勤務する場合に求める条件をお聞かせください。

AQ33_1 時間単位勤務に求める条件<勤務日数:週>【現在保育士就業中】(配偶者・子供の有無別)



日別勤務時間は、全体で「5～7時間未満」が5割弱(48.5%)で最も多く、次いで「7～9時間未満」が3割強(34.2%)、「3～5時間未満」が2割弱(15.8%)となっている。
配偶者・子供の有無別で見ると、『配偶者無』が『配偶者有』に比べて「7～9時間未満」の割合が高い。

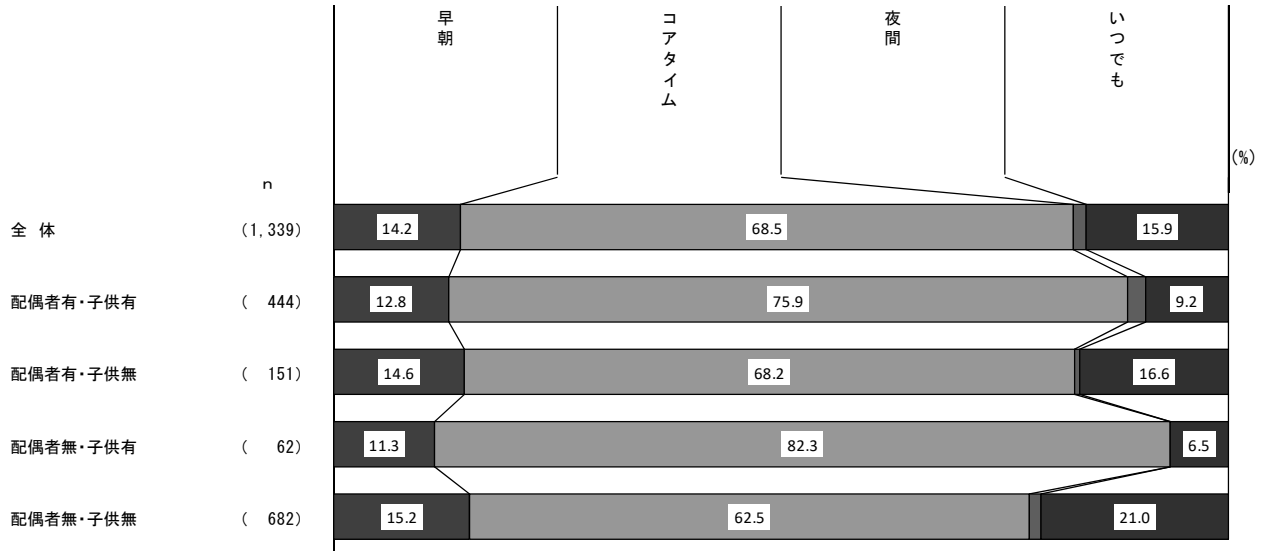
AQ33_2 時間単位勤務に求める条件<勤務時間:日>【現在保育士就業中】(配偶者・子供の有無別)



勤務時間帯は、全体で「コアタイム」が7割弱(68.5%)を占め、次いで「いつでも」が2割弱(15.9%)、「早朝」が1割強(14.2%)となっている。

配偶者・子供の有無別で見ると、『子供無』で「いつでも」の割合が高い。

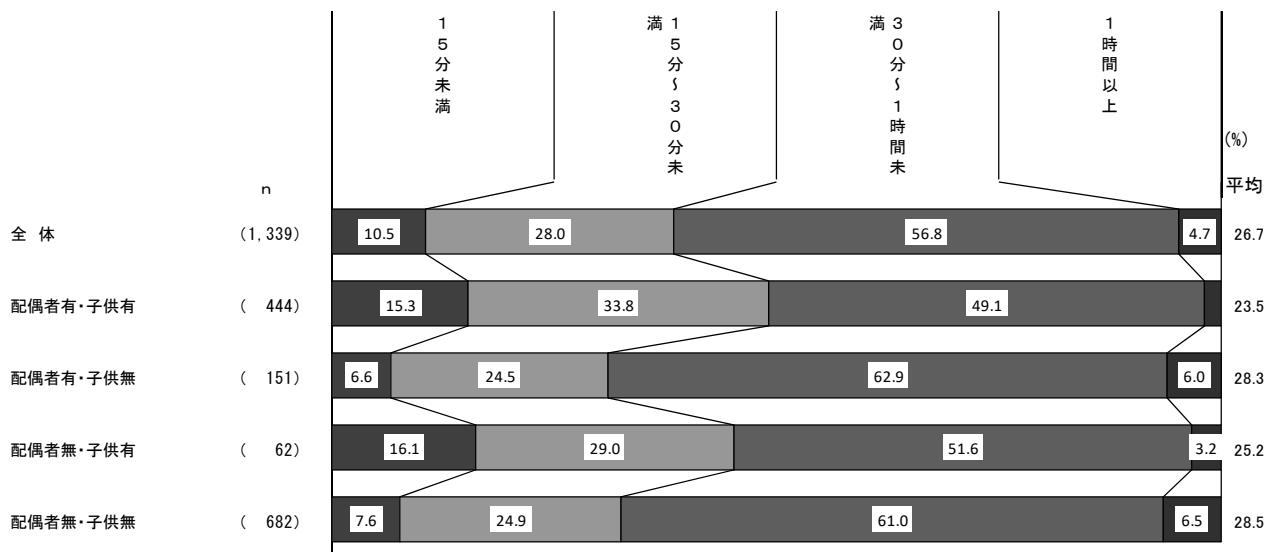
AQ33_3 時間単位勤務に求める条件<勤務時間帯>【現在保育士就業中】(配偶者・子供の有無別)



片道通勤時間は、全体で「30分～1時間未満」が過半数(56.8%)を占め、次いで「15分～30分未満」が3割弱(28.0%)、「15分未満」が1割強(10.5%)となっている。

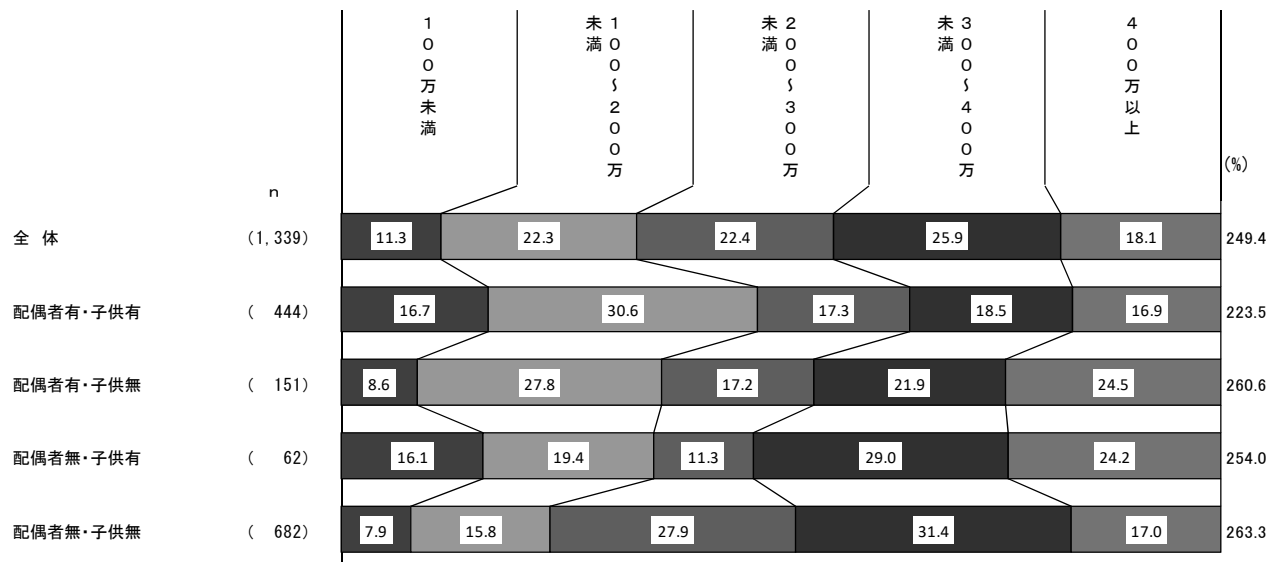
配偶者・子供の有無別で見ると、配偶者の有無ではなく、子供の有無によって求める条件が異なると考えられる。

AQ33_4 時間単位勤務に求める条件<通勤時間:片道>【現在保育士就業中】(配偶者・子供の有無別)



年収は、全体で「300～400万未満」が3割弱(25.9%)で最も多く、次いで「200～300万未満」(22.4%)、「100～200万未満」(22.3%)となっている。

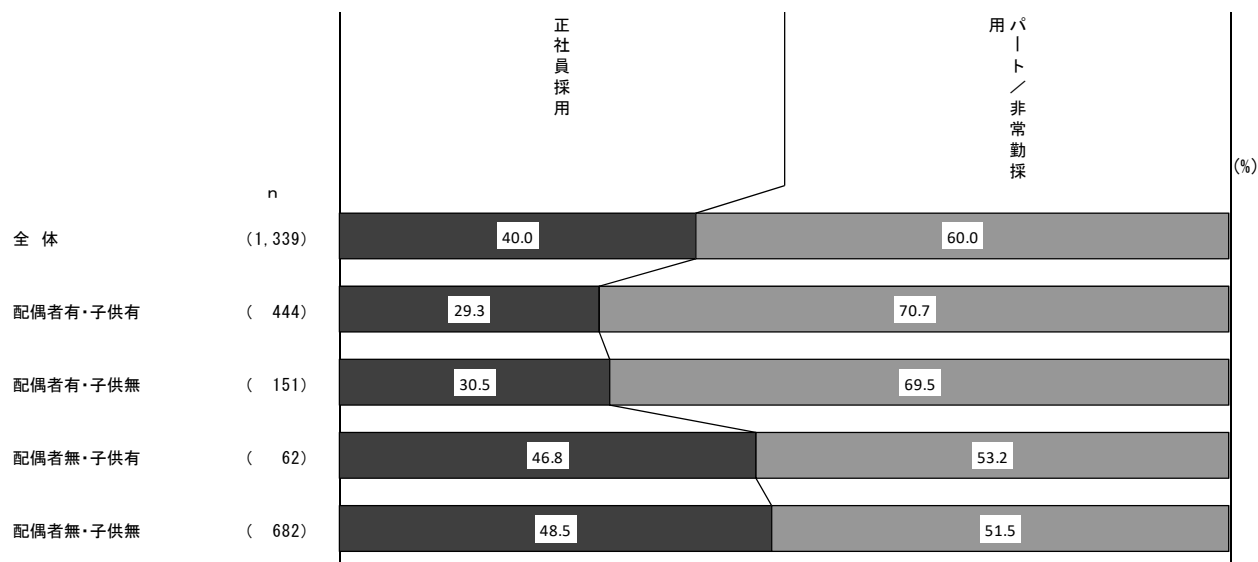
AQ33_5 時間単位勤務に求める条件<給与等:年収>【現在保育士就業中】(配偶者・子供の有無別)



雇用形態は、全体で「パート/非常勤採用」が6割(60.0%)で、「正社員採用」の4割(40.0%)を上回った。

配偶者・子供の有無別で見ると、「正社員採用」では『配偶者無』の割合が高い。

AQ33_6 時間単位勤務に求める条件<雇用形態>【現在保育士就業中】(配偶者・子供の有無別)



2-30. 「保育士として働くことへの不安」や「働くために支援が必要だと感じていること」、「理想とする保育」(AQ35：自由回答より抜粋)

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	AQ35から主に「保育士として働くことへの不安」について抜粋(記入者計7,090人)
1	男性	20～24歳	保育士試験	男性という点で、将来的には別のステージに立つべきなのかという不安や、将来家庭を持ちたいと考えるときに、今の給与では中々踏み切ることが躊躇いがある。業務負担面から言うと、1人が背負う負担を削減し、その分を子どもたちの心に寄り添うことに集中できる環境を整えることが大切であると考えます。
2	女性	25～29歳	短期大学の保育士養成課程	保育士の仕事が専門職と認識されておらず、ただ子どもと遊んでいるだけとしか捉えられていない事が悲しくなります。大事な乳幼児期の子ども達にたくさんの経験(他者との関わり、様々な事物との触れ合い、生活習慣を身に付けるなど)ができる保育をしていき、子ども達が成長していけるようにしたいと思っています。これから少しでも多くの人に保育士の仕事について知っていただける機会が増えれば良いと思います。保育士の給与が全体的に低いと、将来の事などを考えると、この仕事を続けていきたいとは思っていますが、今後家庭を築いていくことなどには不安を感じます。少しでも保育士の待遇が良くなってくれる事を願います。
3	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	一人暮らしをしたいと思っているが、今の給料では厳しく、結婚をしたとしても相手の給料に頼ってしまうことになることに不安を感じます。やりがいを感じ、できることなら続けたいと思っているので、働いて自分で余裕を持って暮らしていけるくらいの給料改善をして頂きたいです。
4	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	自分の保育技術に自信が持てず、教え子たちが適切な発達をしていけるのかが不安。業務のわりに給料が少ないので潜在保育士がふえるため、現場の人手が足りなくなり1人にかかる負担が増えていて悪循環に思える。いくらためになる研修を受けても、保育士1人にかかる負担が多いとゆとりを持って子どもと1:1で対応するのが難しい。人手不足で子どもへの対応に制限がかかるのは本末転倒であると思う。
5	女性	30～34歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	子どもの人数に対する保育士の人数の基準に無理がある。事故に繋がらないか常に不安がある。日々の保育以外のことをする余裕がない。サービス残業になる。掃除や洗濯、園設備の管理などを行う職員がいてほしい。
6	女性	30～34歳	保育士試験	現在は独身の為正社員として働いていますが、結婚し子供ができた場合、正社員で働きつづけるには不安があります。(持ち帰り業務が多い為)
7	女性	40～44歳	短期大学の保育士養成課程	子どもは好きなので続けたいが、年齢的に体力が厳しくなっている。いつまで続けられるか不安。保育士の負担が多く、こどもたちひとりひとりとじっくり関わることが難しいのもう少しゆとりをもった職員数で働けたらと思う。
8	女性	45～49歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	不安は、やはり住むことです。現在借家制度を利用して都内に住みながら保育士をしています。この制度がなくなったら、家賃を自力で払って自活していただくだけの所得がなく、仕事を続けられなくなります。
9	女性	50～54歳	短期大学の保育士養成課程	高齢になると乳幼児の保育に、体力的に不安があるが、若い保育者だけだと、保育、子供についての知識が少なく心もとない。保育士は、若い人、子育てを終えた人、高齢者それぞれの年齢層に合わせた働き方で園を運営していくのがいいと思う。
10	女性	50～54歳	短期大学の保育士養成課程	今は保育士不足だが、いずれは保育士が余ってくるのではと不安。また、東京都からの住宅補助手当はいつまでもだしてもらえないか不安。賃金(給料、ボーナスなどの特別賞与)の低さ。一般企業よりも、大きく安いことが不安。保育士と園に補助金などをいただけてほしい。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	AQ35から 主に「働くために支援が必要だと感じていること」について抜粋(記入者計7,090人)
1	女性	25～29歳	保育士試験	家庭で子育てをする人たちに、もっと支援がいくよになると良いと思います。(育児休業支援制度の改善)
2	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	子どもの成長の中で最も大切な時期を支えているという仕事に見合った働き方を保育に関わる人のために、時間、給与、様々な部分を見直し支援をしてもらえたら、もっと働きやすくなるのではと思う。
3	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	働くためにまずはお給料をあげてほしい。やりがいよりも給料の低さ、休みの少なさへの不満が多く辞めようとするため、その支援があると良いと心底思います。
4	女性	30～34歳	大学の保育士養成課程	子どもの生きる力をのばすための保育を目標にしている。ひとりひとりの良さを理解した上で、必要な手立てや支援、また保護者への支援も考えながら保育をしている。しかし、子どもに対する保育士の人数が少ない気がする。子どもの様々な問題が増えている中(発達障害や家庭環境など)、子どもに対する保育士の人数確保がぎりぎり、適切な配慮が出来ていないのが現実。子どもを預ける身としても、ちゃんと見てもらえているのか心配になる。また発達障害の診断も難しいため、加配にならないケースも多々ある。子どもの為にも、働く保育士のためにも、その点を見直してほしい。
5	女性	35～39歳	短期大学の保育士養成課程	自分の子供に負担がかなりかかってしまうため、特別な手当てや、時短など、支援があると助かる。
6	女性	30～34歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	国の配置基準の改善、保育所保育指針の改善(子どもを『これが理想』と型にはめるのではなく、ひとりひとり『どんなあなたでも認められるんだよ』という内容に変更して欲しい)
7	女性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	保育士不足が出ているのに、復帰しようとする人の子供が保育園に入れず、働けない状況は如何なものかと思った。そこに無資格の人を雇わないといけな。仕事が増え、続けていけるか不安と復帰しようとする人の支援してほしい。
8	女性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	正規職員を目指しても、どうしてもシフト制の勤務なので、家庭に子供を持つと、離れざるを得ません。そもそも預けられている子供の長時間保育に疑問を持つこともあります。保育士の殆どの先生が、家庭保育を推奨しています。家庭で、親子の時間を大切にしたいと願っています。保育園が夕刻には終わることができるように、子育て支援の仕方を見直して欲しいです。
9	女性	45～49歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	来年度から書類全般のICT化が導入されるそうだがパソコンがほとんどできないため 学ぶ為の支援を望みます。
10	女性	55～59歳	短期大学の保育士養成課程	幼稚園教諭や子育ての経験、幼児教室講師の経験を生かして今の職場でお世話になっていますが若い先生方が活躍できる支援をお願いしたいです。長く続けていける支援とか。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	AQ35から 主に「理想とする保育」について抜粋(記入者計7,090人)
1	女性	20～24歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	理想の保育は、メリハリがあり、遊ぶときにはおもいっきり楽しく遊びを楽しめる保育を目指しています。
2	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	理想とする保育は、親と共育でできる保育。家庭での出来事、園での出来事を共有し合い、子どもたちが安心して生活できるような環境を作りたい。また、保護者は一緒に子育てしていくパートナーとして、日頃のコミュニケーションを大切に、連携をとっていきたい。
3	女性	35～39歳	保育士試験	理想とする保育としては、子どもに対する保育士の割合や非常勤(パート)等を増やし、あくせとした保育から子どもと関わる時間を増やせる保育をしたいと切に願う。働くための支援としては、国がもっと保育士も妊娠して良い!と強くアピールして欲しい。女性が多い職場で妊娠育休職場復帰が割合として低いと思うし、働いても妊娠したくても辞めなきゃならない状況にある(妊娠した状態で働けない保育環境)。
4	女性	35～39歳	保育士試験	理想とする保育は、1日の時間をその日のその時間になって、「今日何しよー。」と言うような行き当たりばったりな保育ではなく、ある程度子供と過ごす過ごし方を計画しているような保育です。
5	女性	30～34歳	保育士試験	業務に追われずに子どもと伸び伸びと関わり合え、人間関係も良好な職場環境が理想。体調を崩したら病院など、お金が掛かるのでその分給料を上げてもらえたら有難い。子どもを持った時にフルタイムで働けるか不安。必要性のない研修はやめた方がいいと思う。(一般企業向けのものなど。)
6	女性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	19:00にはみんなお迎えがきて手を繋いで帰宅できる保育。親のニーズと子どもの負担のバランスをしっかり見極められる保育。次世代を担う子どもの土台作りの時期をもっと真剣に考えてほしい。育て直しができるうちに。
7	女性	45～49歳	保育士試験	給料が低いので将来が不安。理想とする保育はとにかく褒めて伸ばす。色々な事に挑戦できる環境の園。
8	女性	45～49歳	短期大学の保育士養成課程	とにかく、子供たち1人1人が自分のスタート地点から日々少しずつでも成長していけるよう、環境を整えて進めて行ける保育。その結果、喜怒哀楽を存分に経験し楽しく登園出来る事に繋がるような保育です。
9	女性	50～54歳	短期大学の保育士養成課程	先生達とのコミュニケーションがとれ楽しく仕事ができ働きやすい環境が理想!更に母子家庭なので給料アップや福利厚生が充実してほしい
10	女性	60～64歳	保育士試験	出産、育休後も安心して働く事の出来る職場、子育てしながらでもしっかりとした協力体制がありそれぞれの保育士の立場を支援してもらえる職場が理想です。

3. 過去に保育士就業経験がある者の実態

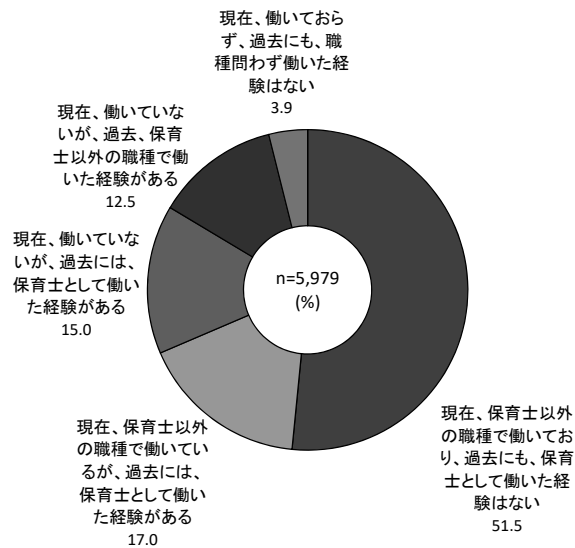
3-1. 現在の就業状況 (BQ6)

現在の就業状況については、「現在、保育士以外の職種で働いており、過去にも、保育士として働いた経験はない」が過半数(51.5%)を占め、「現在、保育士以外の職種で働いているが、過去には、保育士として働いた経験がある」が1割半ばを超え(17.0%)、「現在、働いていないが、過去には、保育士として働いた経験がある」も1割半ば(15.0%)となっている。

BQ6 あなたの現在の就業状況(自営・パートを含む)をお答えください。(○は1つだけ)

※現在、休職中の方(産休・育休含む)は、「働いている」としてお答えください。

BQ6 現在の就業状況



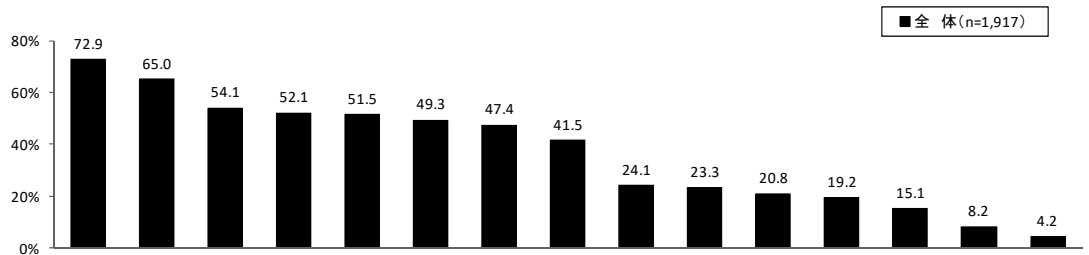
3-2. 過去職場選択時に重視した項目 (BQ7)

過去に保育士として働いた職場を選択した際に重視した項目は、全体で「勤務地」が7割強(72.9%)で最も多く、次いで「職場の人間関係」が6割半ば(65.0%)、「勤務時間・交代制の融通がきく」が5割半ば(54.1%)となっている。

性・年代別で見ると、「勤務地」では『女性』(73.6%)が『男性』(54.7%)よりも18.9ポイント高い。「やりがい」では『男性』(58.7%)が『女性』(47.0%)よりも11.7ポイント高い。

BQ7 あなたが保育士として職場を選ぶ際、どのようなことを重視していましたか。(〇はいくつでも)

BQ7 過去職場選択時に重視した項目【過去保育士就業経験有】(複数回答)



性別・年代	n	8	4	12	9	2	13	1	6	5	3	14	10	7	11	15
		等勤務地 (自宅から近い)	職場の人間関係	勤務時間・交代制の融通がきく	給与が高いこと	保育理念への共感	休暇が多い・とりやすい	やりがい	福利厚生の実現度	園(など)の施設や設備充実度(新しさ等)	法人や園(など)の評判	職員の数	プー界給制度(キャリアアップ)	研修制度の実現度	寮や家賃補助制度の有無	その他
全体	1,917	72.9	65.0	54.1	52.1	51.5	49.3	47.4	41.5	24.1	23.3	20.8	19.2	15.1	8.2	4.2
女性計	1,842	73.6	65.5	55.2	52.2	52.1	49.7	47.0	42.0	24.4	23.3	20.9	19.2	15.1	8.0	3.8
女性20代	403	63.5	73.7	48.1	〇 64.3	49.4	55.1	38.7	〇 55.1	〇 35.0	25.8	21.8	22.6	14.4	14.4	5.2
女性30代	608	80.3	69.4	61.2	57.1	56.3	55.6	47.4	50.3	27.6	28.5	23.2	22.7	14.8	8.2	2.8
女性40代	437	75.5	67.0	60.4	49.9	52.6	50.6	47.6	34.6	18.8	21.1	19.5	17.6	16.9	6.2	4.3
女性50代以上	394	71.6	△ 49.5	47.5	△ 35.0	47.7	△ 34.3	54.1	△ 23.9	14.7	15.5	18.0	12.2	14.5	3.3	3.3
男性計	75	△ 54.7	△ 53.3	△ 26.7	49.3	△ 38.7	△ 38.7	〇 58.7	△ 29.3	17.3	22.7	18.7	20.0	14.7	13.3	〇 14.7
男性20代	28	△ 42.9	60.7	△ 17.9	46.4	△ 39.3	△ 32.1	57.1	35.7	25.0	14.3	17.9	28.6	14.3	14.3	〇 17.9
男性30代以上	47	△ 61.7	△ 48.9	△ 31.9	51.1	△ 38.3	42.6	〇 59.6	△ 25.5	△ 12.8	27.7	19.1	14.9	14.9	12.8	12.8

3-3. 初就業時に保育関係の求人を得るために利用した機関等 (BQ8)

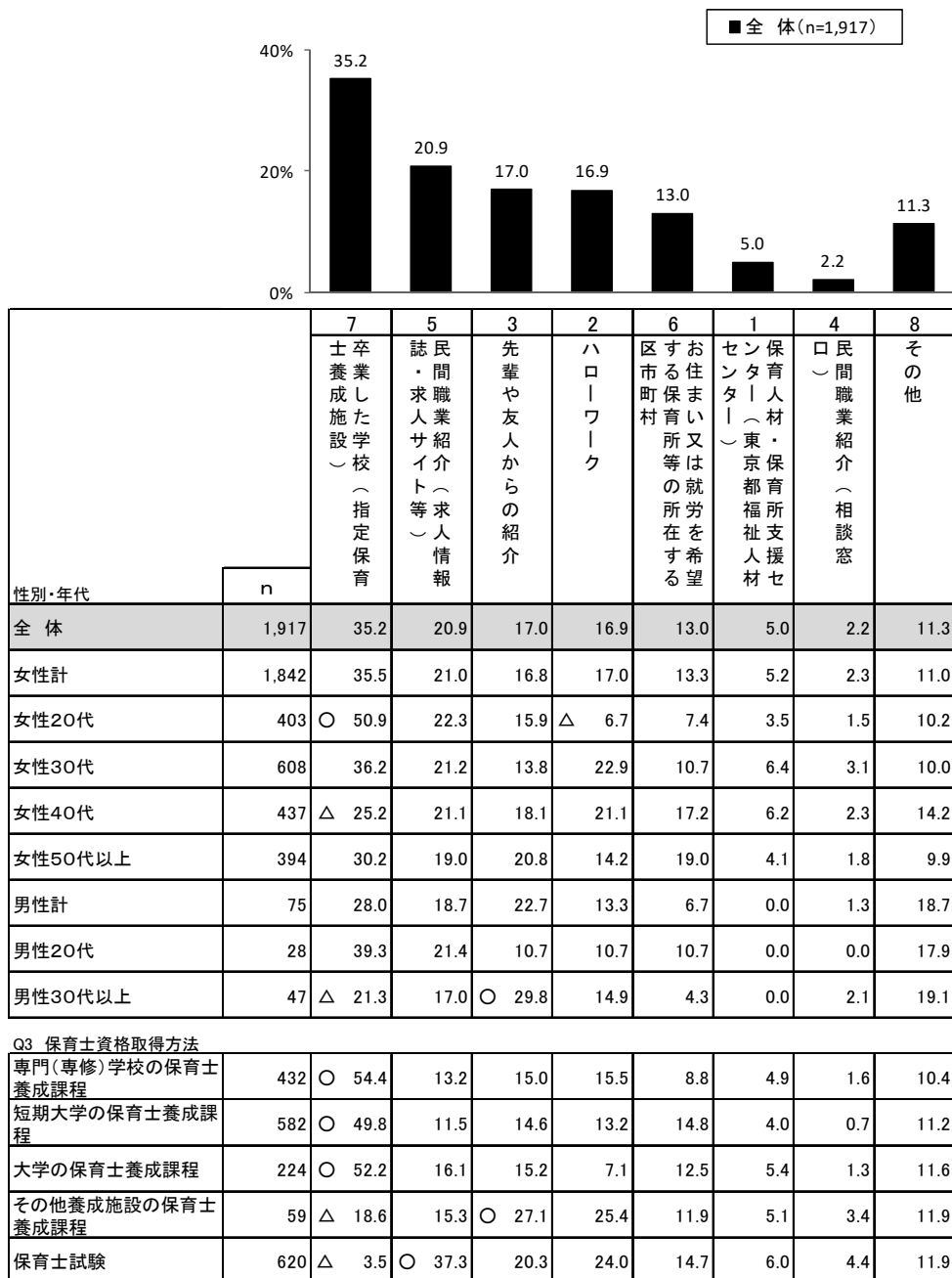
保育士として初めて就業した際に保育関係の求人を得るために利用した機関等は、全体で「卒業した学校」(35.2%)が最も多く、次いで「民間職業紹介(求人情報誌・求人サイト等)」(20.9%)と「先輩や友人からの紹介」(17.0%)と「ハローワーク」(16.9%)が2割前後となっている。

性・年代別で見ると、男女とも『20代』では「卒業した学校」が最も多く、女性30～40代では「ハローワーク」が多くなっている。

資格取得方法別で見ると、『その他養成施設の保育士養成課程』を除く『養成施設』では「卒業した学校」が、『保育士試験』では「民間職業紹介(求人情報誌・求人サイト等)」が最も多くなっている。

BQ8 あなたが初めて保育士として就職した際、どのようなところから得た情報を活用しましたか。(〇はいくつでも)

BQ8 初就業時に保育関係の求人を得るために利用した機関等【過去保育士就業経験有】(複数回答)



3-4. 就業前後の保育士イメージ (BQ9・BQ10)

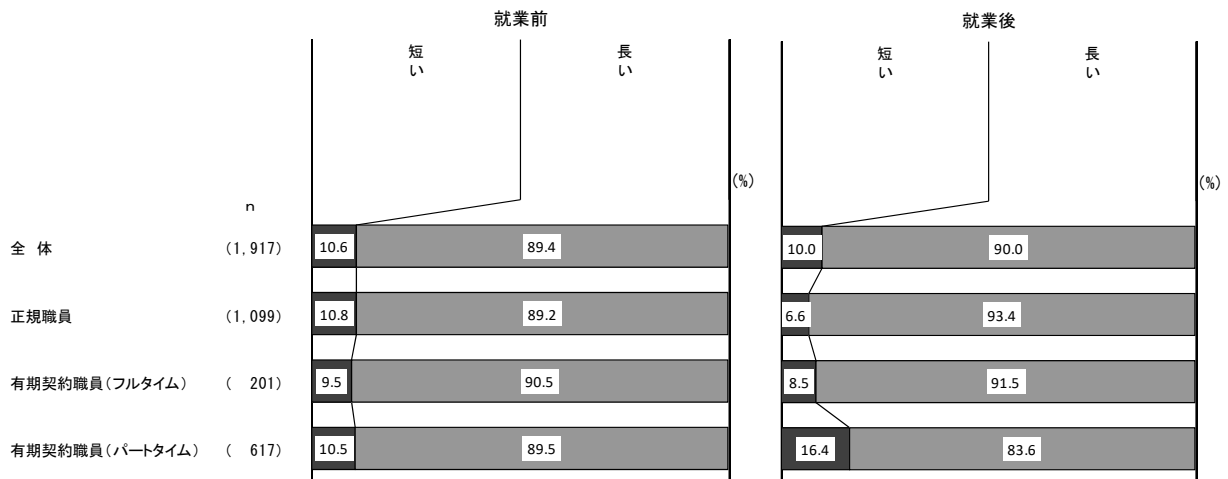
就業前にもっていた保育士イメージについては、給与の「低い」(94.2%)、体力面の「きつい」(92.0%)が9割を超え、勤務時間の「長い」(89.4%)、休暇の「少ない」(87.1%)、精神面の「きつい」(83.1%)、保護者対応の「大変」(81.6%)が8割を超え、マイナスイメージが目立つが、他方、やりがいの「ある」(97.5%)が他のどの選択肢よりも高い回答率となり、モチベーションの高さがうかがえる。

就業前後で特にイメージの変化が見られた項目は、保育以外業務の「多い」(就業前 73.4%→就業後 91.3%)、将来性の「ある」(就業前 69.1%→就業後 55.3%)であり、マイナスイメージが若干強まっている。逆の変化があったのは、人間関係の「大変」(就業前 73.0%→就業後 68.2%)、保護者対応の「大変」(就業前 81.6%→就業後 67.8%)で、就業後に「良好」と捉える者の割合が増加している。

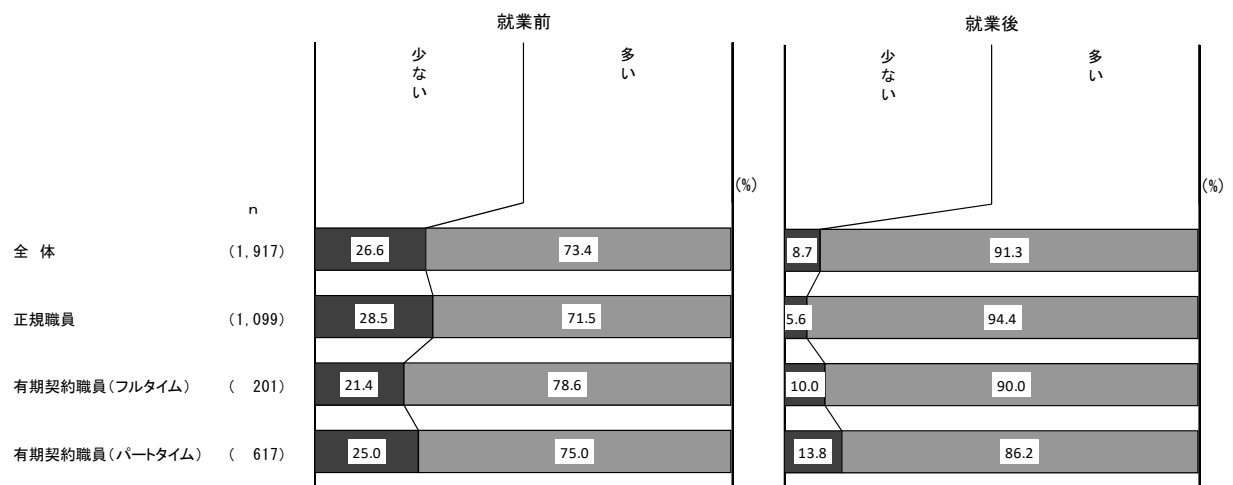
BQ9 保育士として働く前、保育士についてどのような印象をもっていましたか。次の1から11についてあなたのイメージに近い方の選択肢をそれぞれ1つずつお選びください。

BQ10 保育士として実際に働いていたとき、あなたは保育士についてどのような印象を持っていましたか。次の1から11についてあなたのイメージに近い方の選択肢をそれぞれ1つずつお選びください。

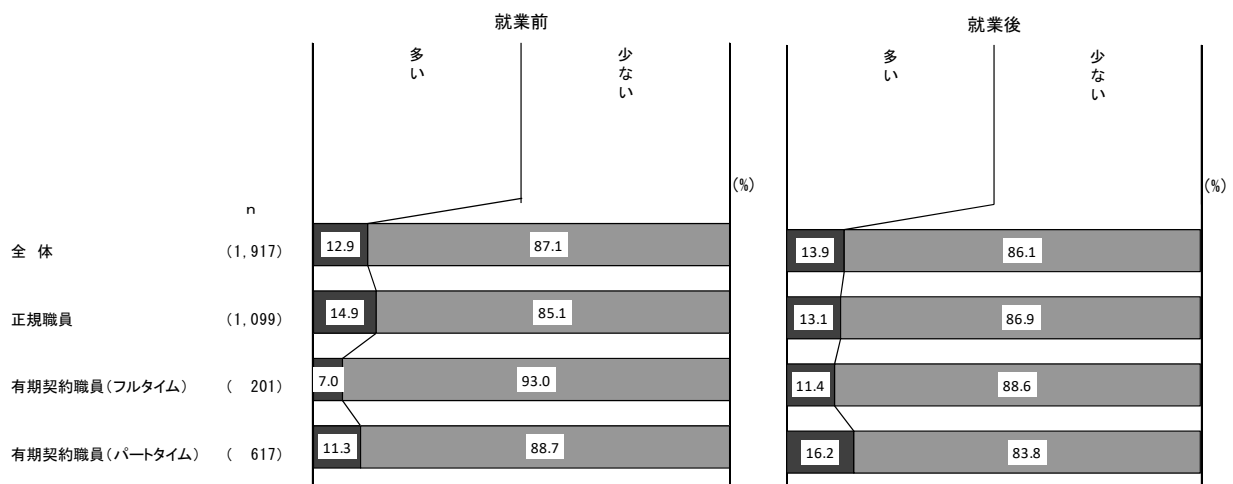
BQ9・10_1 就業前後の保育士イメージ<勤務時間>【過去保育士就業経験有】(雇用形態別)



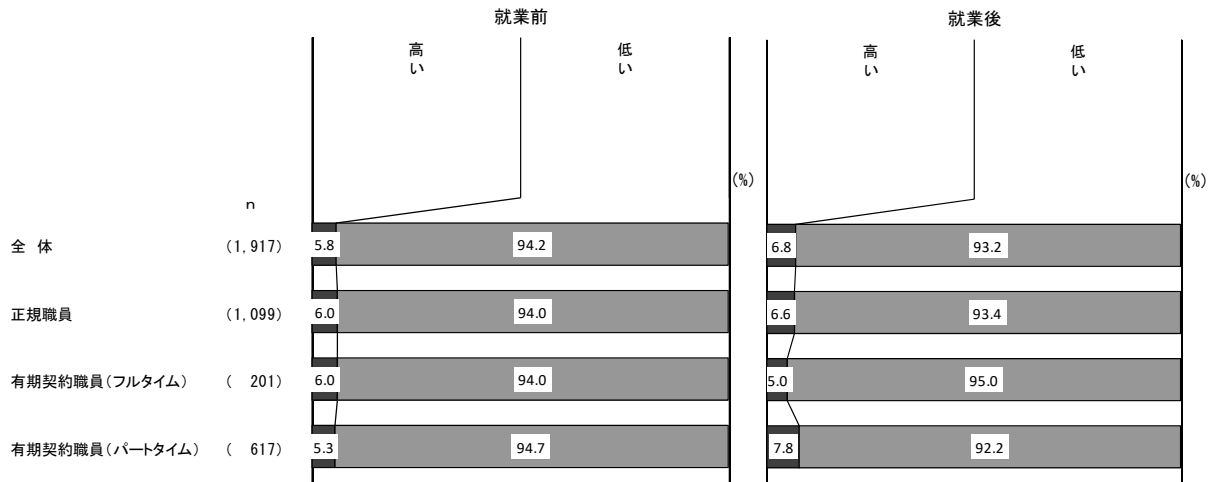
BQ9・10_2 就業前後の保育士イメージ<保育以外の業務>【過去保育士就業経験有】(雇用形態別)



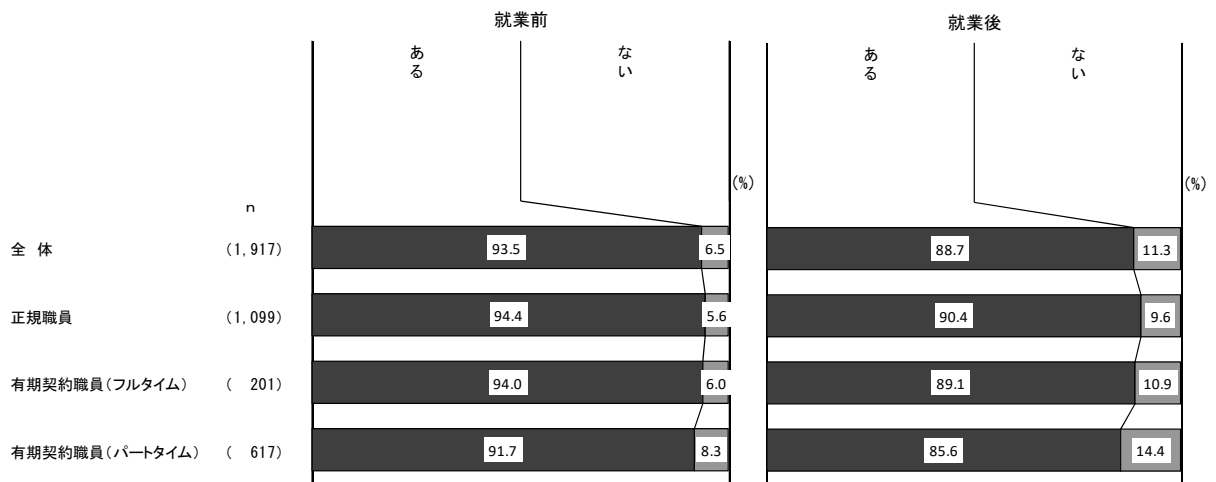
BQ9・10_3 就業前後の保育士イメージ<休暇>【過去保育士就業経験有】(雇用形態別)



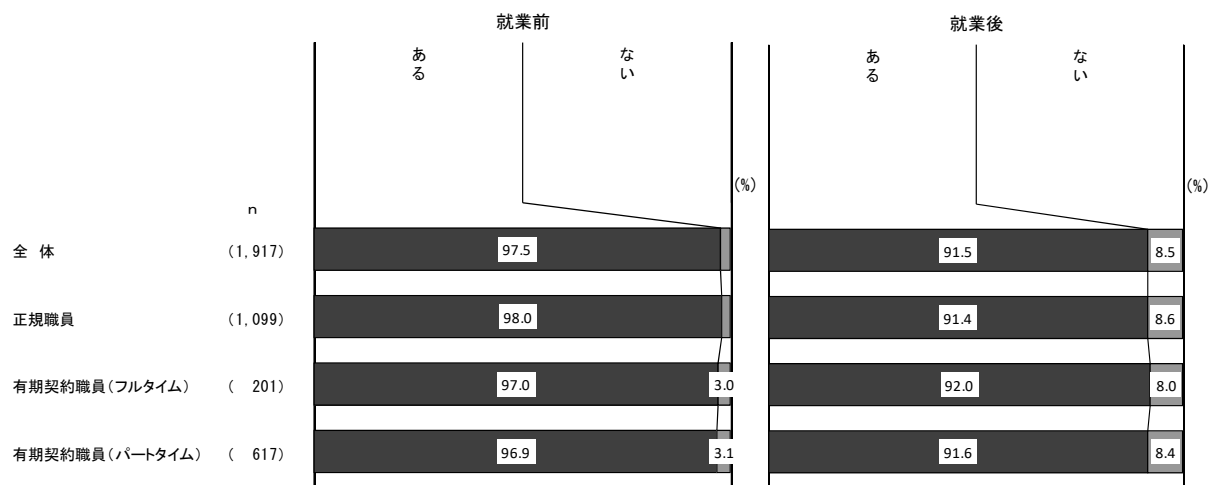
BQ9・10_4 就業前後の保育士イメージ<給与>【過去保育士就業経験有】(雇用形態別)



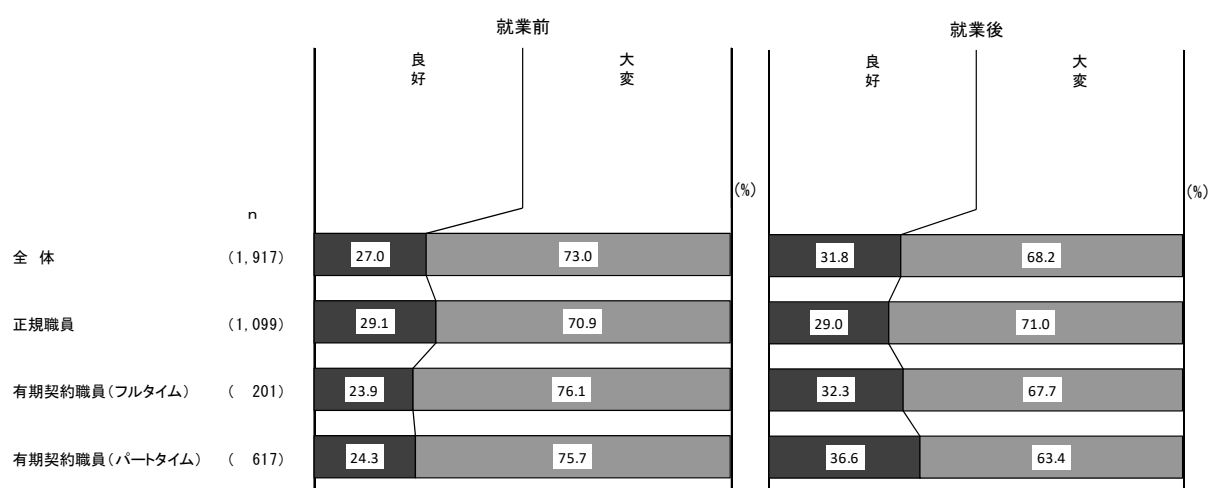
BQ9・10_5 就業前後の保育士イメージ<専門性>【過去保育士就業経験有】(雇用形態別)



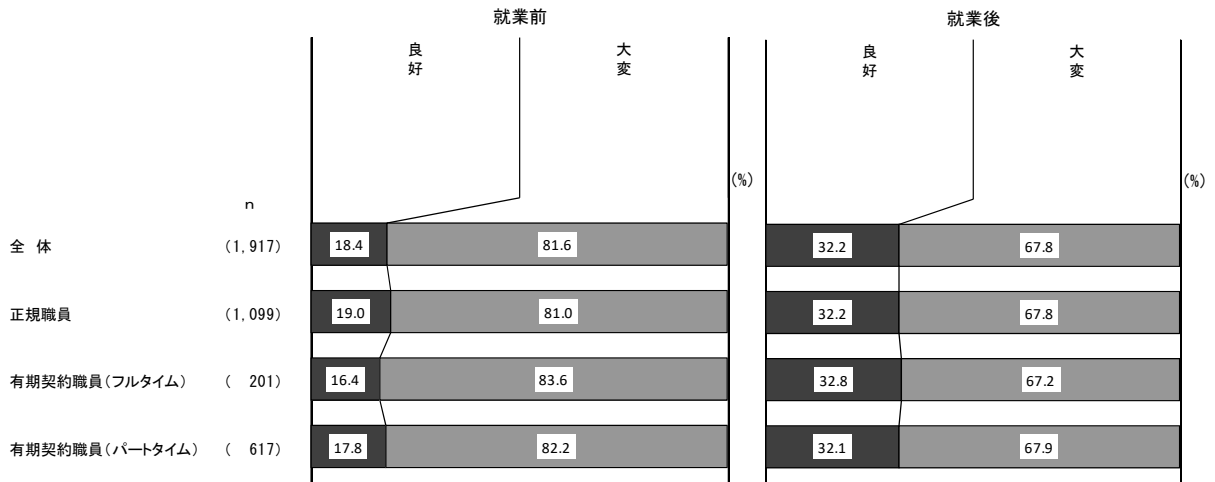
BQ9・10_6 就業前後の保育士イメージ<やりがい>【過去保育士就業経験有】(雇用形態別)



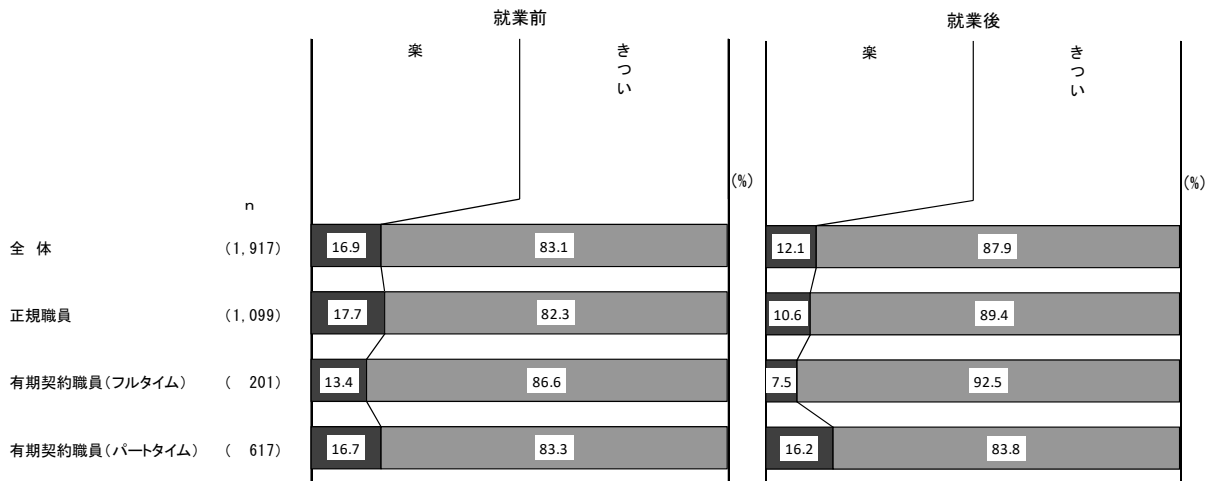
BQ9・10_7 就業前後の保育士イメージ<人間関係>【過去保育士就業経験有】(雇用形態別)



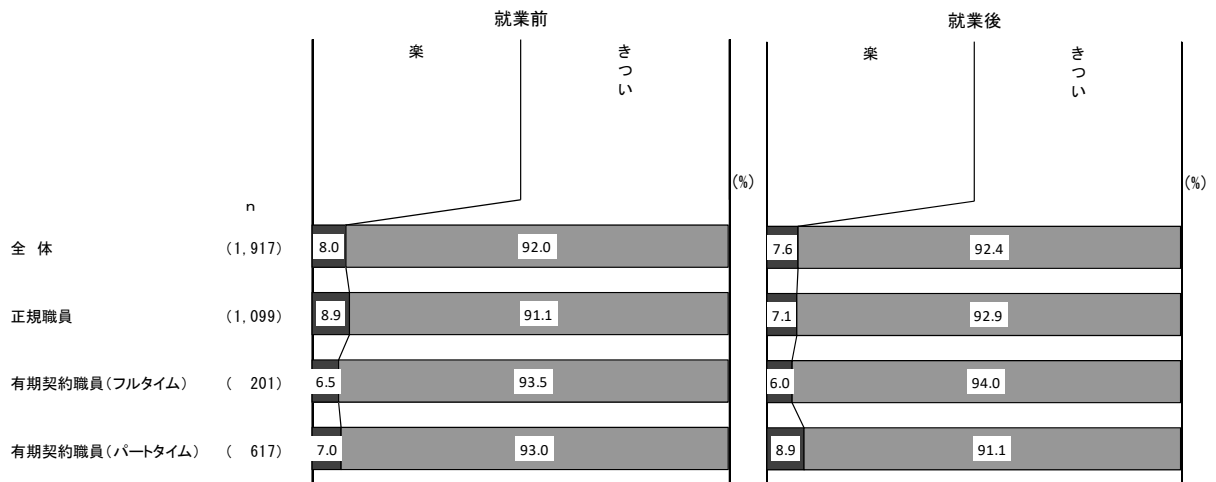
BQ9・10_8 就業前後の保育士イメージ<保護者対応>【過去保育士就業経験有】(雇用形態別)



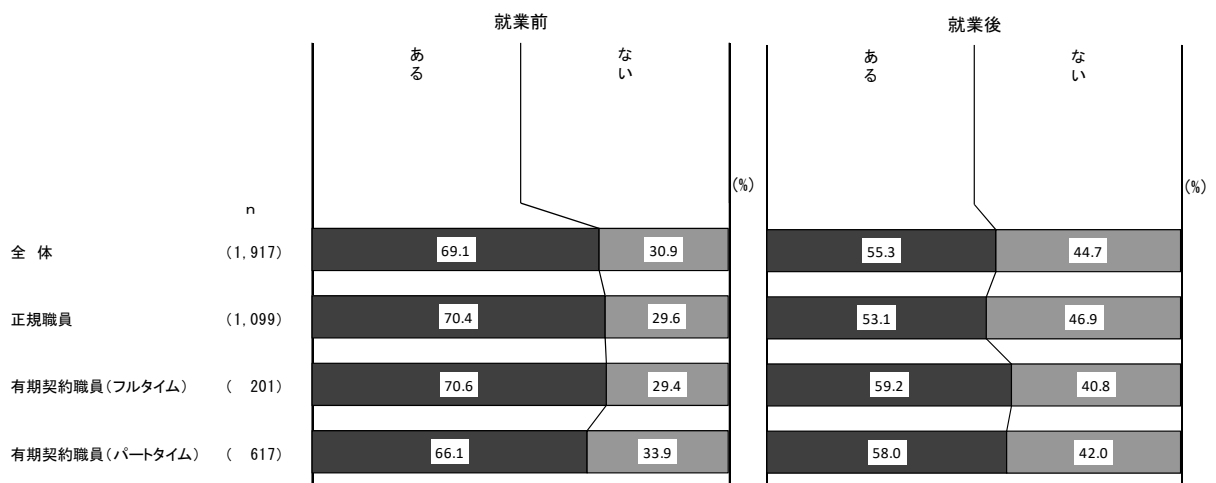
BQ9・10_9 就業前後の保育士イメージ<精神面>【過去保育士就業経験有】(雇用形態別)



BQ9・10_10 就業前後の保育士イメージ<体力面>【過去保育士就業経験有】(雇用形態別)



BQ9・10_11 就業前後の保育士イメージ<将来性>【過去保育士就業経験有】(雇用形態別)



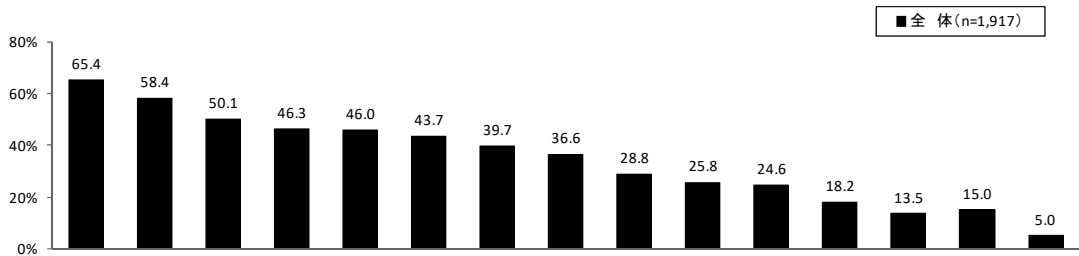
3-5. 負担に感じたこと (BQ11)

保育士として負担に感じたことについては、全体で「行事」(65.4%)が6割を超えて最も多く、次いで「保育計画書の作成」(58.4%)と「保護者対応」(50.1%)が半数を超えている。そのほか、「職員間の情報共有・打合せ」(46.3%)と「保育日誌の記入」(46.0%)が5割弱の結果となった。

性・年代別で見ると、「行事」と「保育計画書の作成」では男女ともに20代で7割を超えている。『男性20代』では「保育日誌の記入」が75.0%と他層よりも高くなっている。

BQ11 あなたが保育士として働いていた当時、負担に感じることはありましたか。あてはまるものに○をしてください。(○はいくつでも)

BQ11 負担に感じたこと【過去保育士就業経験有】(複数回答)



性別・年代	n	3	1	7	10	4	5	6	8	12	9	11	2	13	14	15
		行事(準備含む)	保育計画書の作成	保護者対応	職員間の情報共有・打合せ	保育日誌の記入	保育教材の準備	掲示物の作成	連絡帳の記入	監査等への対応	子どもの安全に関する(午睡・感染症などの記入)	職員の育成	保育計画書の作成	地域への対応	その他	特になし
全体	1,917	65.4	58.4	50.1	46.3	46.0	43.7	39.7	36.6	28.8	25.8	24.6	18.2	13.5	15.0	5.0
女性計	1,842	65.3	58.3	50.1	46.3	45.8	43.5	39.8	36.5	28.8	25.6	24.2	17.9	13.4	14.8	5.0
女性20代	403	○ 76.7	○ 72.0	56.6	○ 58.1	54.6	○ 55.8	47.4	37.2	32.5	27.3	25.8	23.1	13.4	15.9	1.0
女性30代	608	69.6	63.7	55.4	45.2	46.9	44.7	42.6	36.2	34.9	27.8	27.8	20.1	15.3	13.7	3.9
女性40代	437	59.0	49.7	42.3	41.2	40.7	37.3	35.2	34.6	26.3	23.1	23.6	15.1	14.4	17.6	6.2
女性50代以上	394	△ 54.1	△ 45.4	43.7	41.4	40.6	35.8	32.7	38.6	△ 18.5	23.4	17.5	12.2	9.1	12.2	9.4
男性計	75	68.0	61.3	52.0	48.0	52.0	49.3	38.7	38.7	29.3	29.3	○ 34.7	25.3	17.3	21.3	5.3
男性20代	28	71.4	○ 71.4	50.0	46.4	○ 75.0	○ 57.1	46.4	46.4	25.0	35.7	21.4	○ 32.1	17.9	○ 28.6	3.6
男性30代以上	47	66.0	55.3	53.2	48.9	38.3	44.7	34.0	34.0	31.9	25.5	○ 42.6	21.3	17.0	17.0	6.4

BQ13-4 雇用形態【過去保育士就業経験有】

雇用形態	n	3	1	7	10	4	5	6	8	12	9	11	2	13	14	15
正規職員	1,099	72.7	68.1	55.1	50.7	49.2	50.3	45.1	39.1	35.8	28.2	29.1	20.4	16.6	15.6	2.6
有期契約職員(フルタイム)	201	67.2	56.7	50.2	52.7	48.8	40.8	35.3	36.8	26.9	23.9	25.4	21.4	11.4	14.9	3.0
有期契約職員(パートタイム)	617	△ 51.9	△ 41.7	41.3	36.5	39.4	△ 32.9	31.6	32.1	△ 17.2	22.0	16.2	13.1	8.8	14.1	9.9

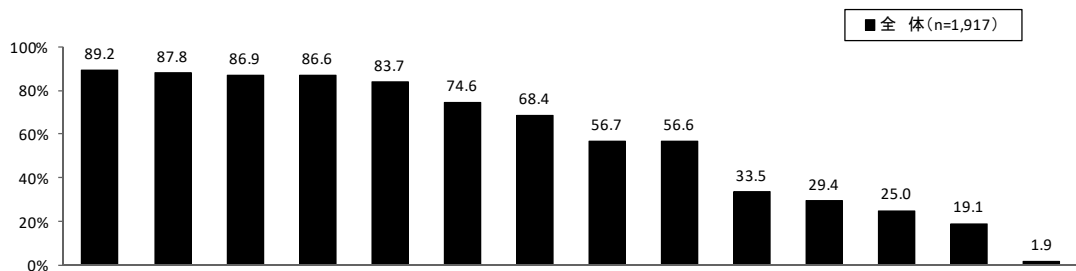
3-6. 保育士自身が行うべきと考える業務 (BQ12)

保育士自身が行うべきと考える業務については、全体で「保護者対応」が9割弱(89.2%)と最も高く、「保育日誌の記入」(87.8%)、「連絡帳の記入」(86.9%)、「職員間の情報共有・打合せ」(86.6%)、「保育計画書の作成」(83.7%)が8割を超えている。

性・年代別で見ると、全体的に大きな差は見られないが、「職員の育成」については『女性50代以上』で43.1%と他層よりも低くなっている。

BQ12 以下の保育士の業務のうち、保育士自身が行う必要があると、あなたが考えるものをお選びください。(〇はいくつでも)

BQ12 保育士自身が行うべきと考える業務【過去保育士就業経験有】(複数回答)



性別・年代	n	業務内容													
		3	10	11	6	7	5	8	2	1	9	4	12	13	14
全体	1,917	89.2	87.8	86.9	86.6	83.7	74.6	68.4	56.7	56.6	33.5	29.4	25.0	19.1	1.9
女性計	1,842	89.2	88.0	87.1	86.9	84.0	74.6	68.5	56.4	56.6	33.4	29.4	24.3	18.9	1.6
女性20代	403	89.8	85.4	85.4	88.6	84.1	73.9	71.0	58.8	54.6	37.5	34.2	26.1	24.1	1.7
女性30代	608	90.6	89.6	88.2	87.8	86.3	77.5	69.7	64.3	56.6	31.1	32.1	26.6	19.9	0.8
女性40代	437	88.8	88.6	86.0	87.4	81.2	74.6	66.8	54.9	55.6	31.8	26.1	25.4	16.9	2.5
女性50代以上	394	86.8	87.6	88.3	83.0	83.2	70.8	66.0	43.1	59.6	34.8	23.9	17.8	14.2	1.8
男性計	75	89.3	82.7	82.7	81.3	77.3	74.7	65.3	64.0	57.3	34.7	30.7	41.3	25.3	8.0
男性20代	28	92.9	78.6	85.7	85.7	82.1	82.1	75.0	60.7	57.1	46.4	32.1	35.7	28.6	10.7
男性30代以上	47	87.2	85.1	80.9	78.7	74.5	70.2	59.6	66.0	57.4	27.7	29.8	44.7	23.4	6.4

BQ13-4 雇用形態【過去保育士就業経験有】

雇用形態	n	3	10	11	6	7	5	8	2	1	9	4	12	13	14
正規職員	1,099	89.5	89.3	87.7	86.9	85.3	75.6	70.3	57.9	59.4	36.3	31.0	26.2	21.9	2.2
有期契約職員(フルタイム)	201	90.0	89.1	84.6	86.6	81.1	70.6	67.7	60.7	53.2	30.3	30.8	25.9	17.9	2.5
有期契約職員(パートタイム)	617	88.3	84.8	86.2	86.2	81.8	74.1	65.2	53.2	52.7	29.5	26.1	22.5	14.6	1.1

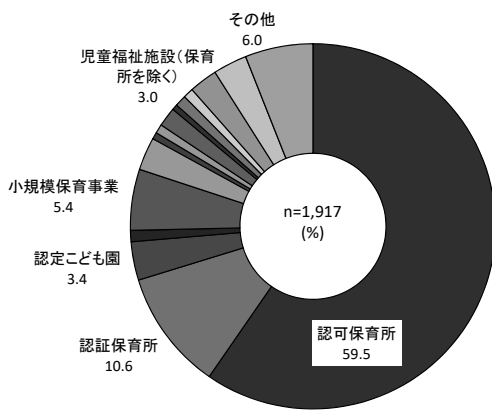
3-7. 過去就業施設の条件 (BQ13)

過去保育士として就業していた当時の就業施設類型は、全体で「認可保育所」が6割弱(59.5%)で最も高い。次いで「認証保育所」が1割強(10.6%)、他はいずれも1割未満である。「認可+認証」で全体の約7割を占める。

BQ13 過去、保育士としてお勤めされていた施設は下記のそれぞれの項目のいずれにあたりますか。

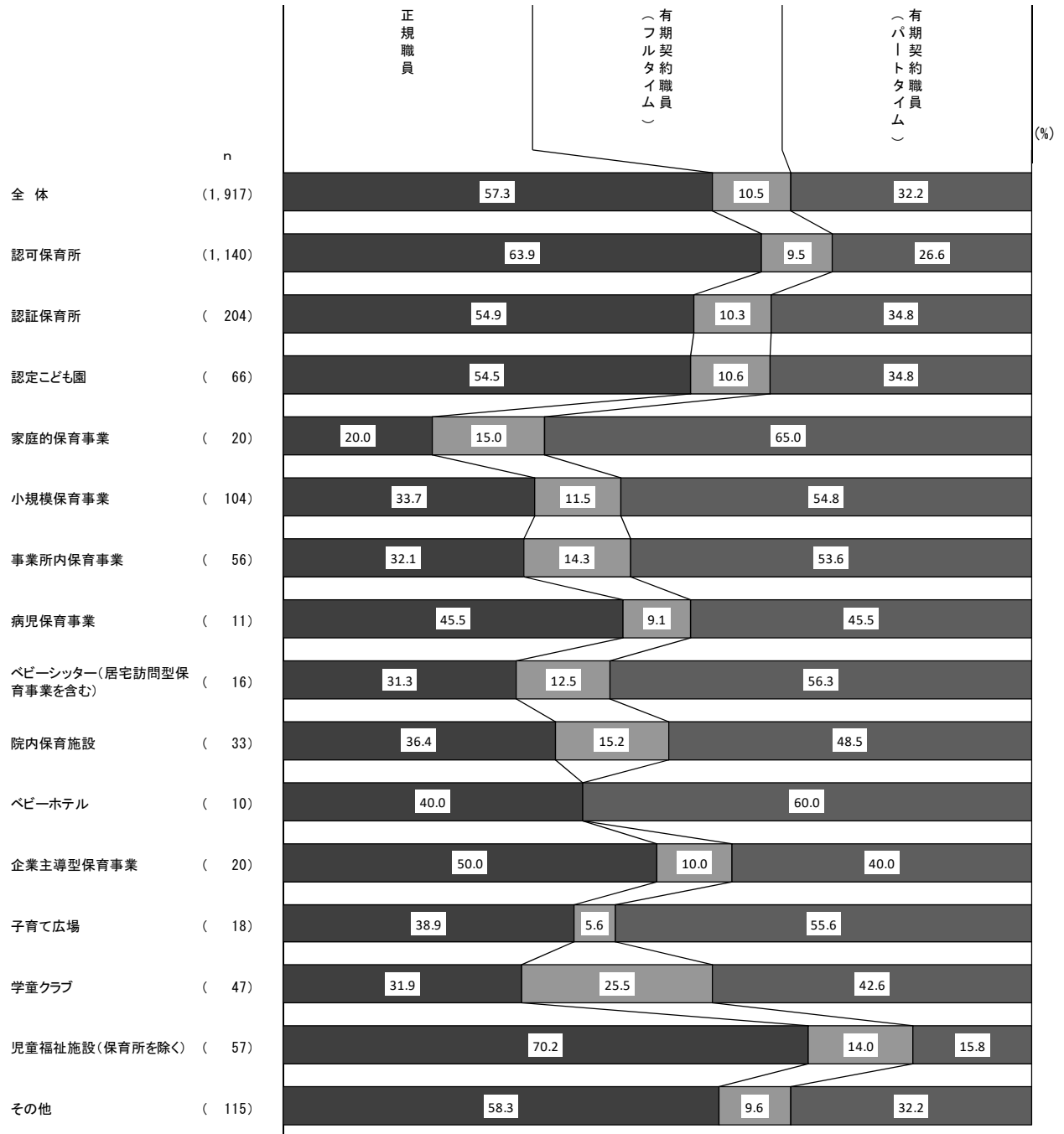
また、あなたの雇用条件としてあてはまるものをお選びください。複数の施設で働いていた方は、直近で働いていたところについてお答えください(以下同様に)。(〇は各1つつ)

BQ13_1 過去就業施設類型【過去保育士就業経験有】



全体	100.0
認可保育所	59.5
認証保育所	10.6
認定こども園	3.4
家庭的保育事業	1.0
小規模保育事業	5.4
事業所内保育事業	2.9
病児保育事業	0.6
ベビーシッター(居宅訪問型保育事業を含む)	0.8
院内保育施設	1.7
ベビーホテル	0.5
企業主導型保育事業	1.0
子育て広場	0.9
学童クラブ	2.5
児童福祉施設(保育所を除く)	3.0
その他	6.0

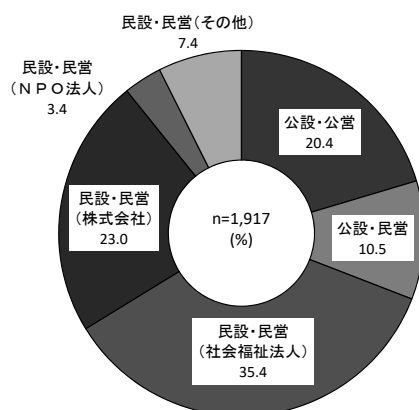
BQ13_1 過去就業施設雇用形態【過去保育士就業経験有】(施設類型別)



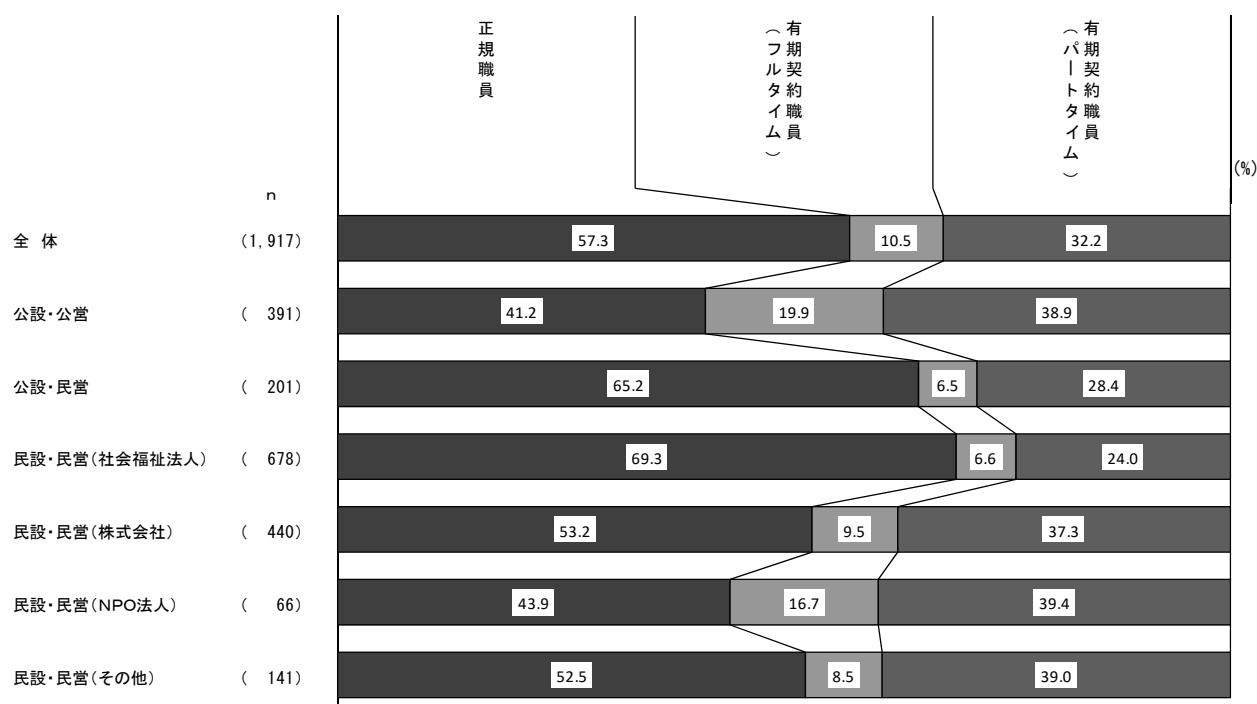
過去の就業施設運営主体は、全体で「民設・民営(社会福祉法人)」が4割弱(35.4%)で最も多く、次いで「民設・民営(株式会社)」が2割強(23.0%)、「公設・公営」(20.4%)となっている。

「民設・民営(社会福祉法人)」では『正規職員』が7割弱(69.3%)であるが、「公設・公営」では4割程度(41.2%)にとどまっている。一方で、『有期契約職員(フルタイム)』では「公設・公営」が約2割(19.9%)と最も多くなっている。

BQ13_2 過去就業施設運営主体【過去保育士就業経験有】



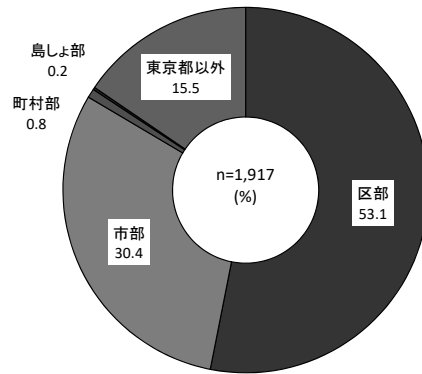
BQ13_2 過去就業施設雇用形態【過去保育士就業経験有】(運営主体別)



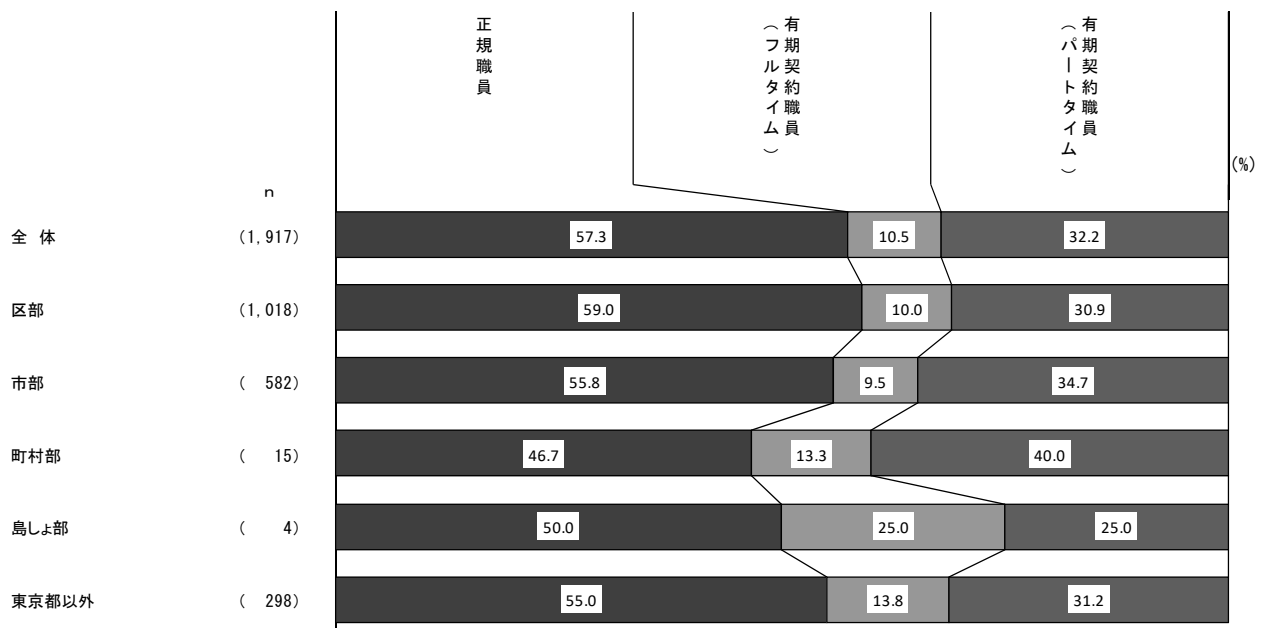
就業場所は、全体で「区部」が過半数(53.1%)、「市部」が3割(30.4%)、また「東京都以外」も2割弱(15.5%)見られる。

就業場所による雇用形態に大きな違いは見られない。

BQ13_3 過去就業施設場所【過去保育士就業経験有】



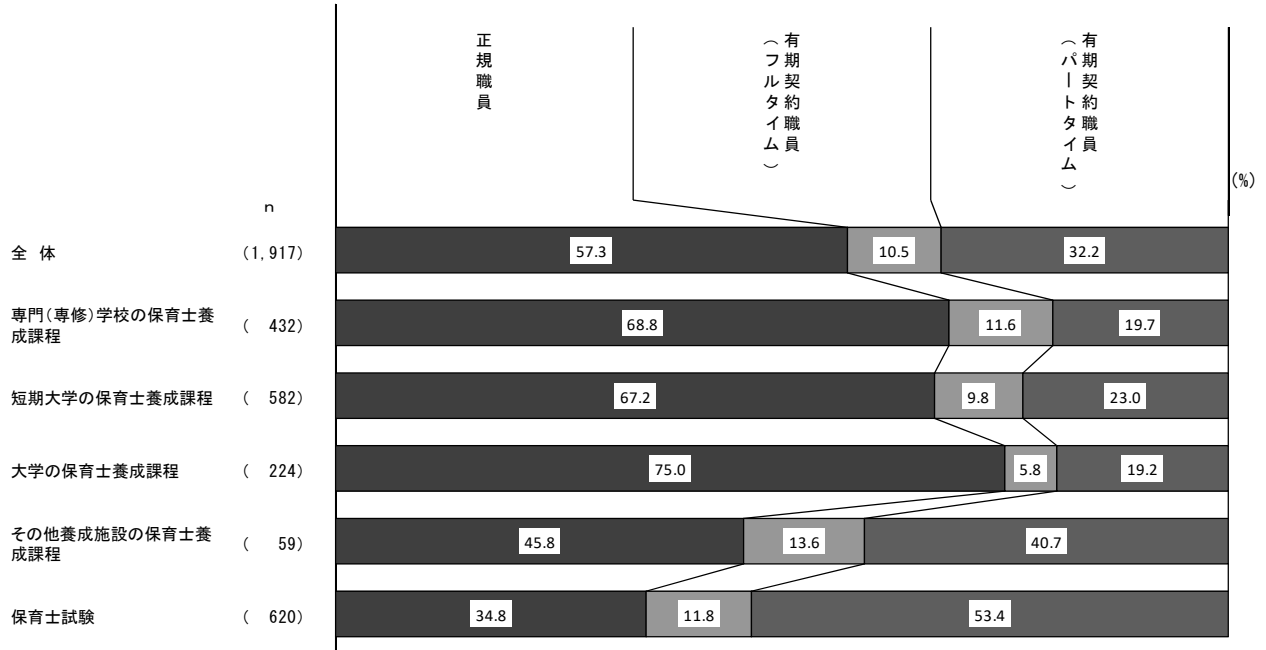
BQ13_3 過去就業施設雇用形態【過去保育士就業経験有】(就業場所別)



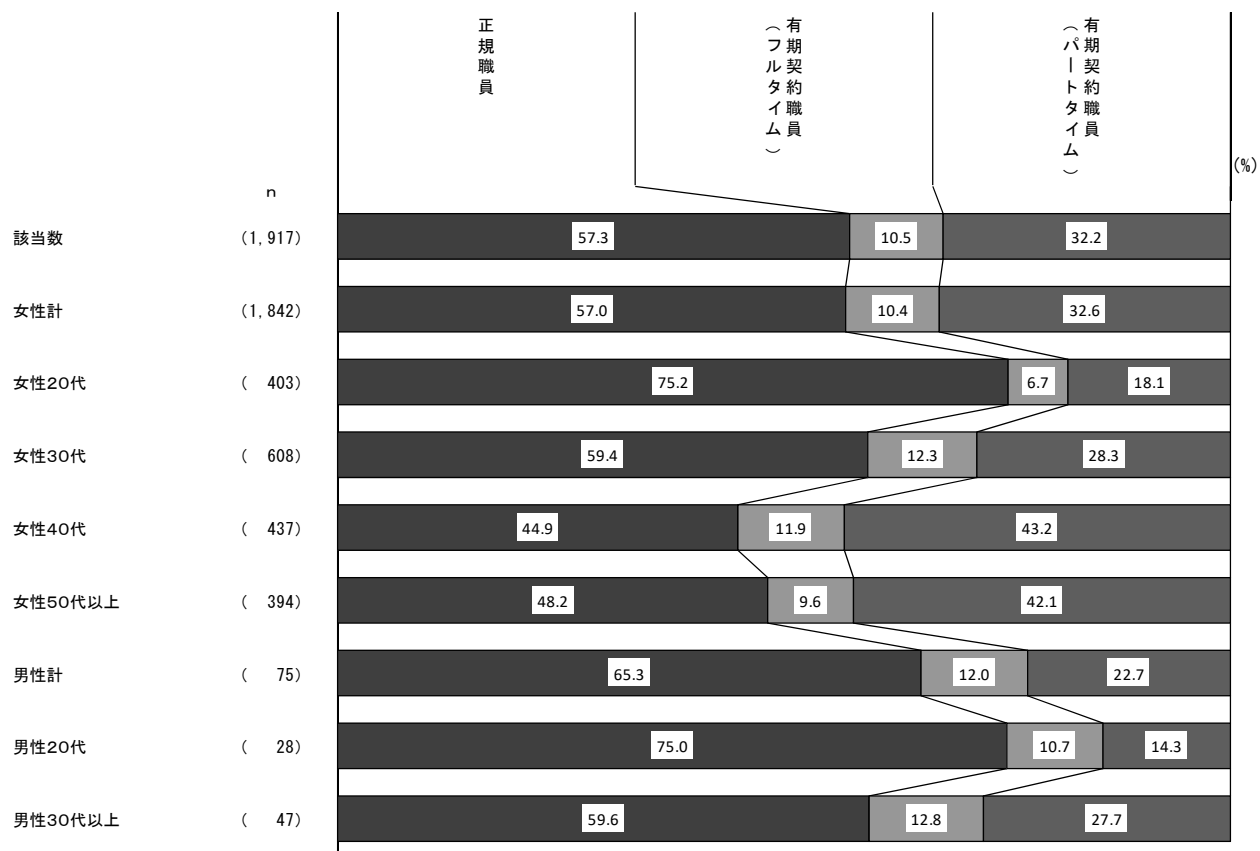
雇用形態は、全体で「正規職員」が過半数(57.3%)、「有期契約職員(フルタイム)」が1割強(10.5%)、「有期契約職員(パートタイム)」が3割強(32.2%)である。

資格取得方法別で見ると、『保育士試験』では「有期契約職員(パートタイム)」が5割強(53.4%)と多く、『大学の保育士養成課程』では「正規職員」が7割半ば(75.0%)と多くなっている。

BQ13_4 過去職場の雇用形態【過去保育士就業経験有】(資格取得方法別)



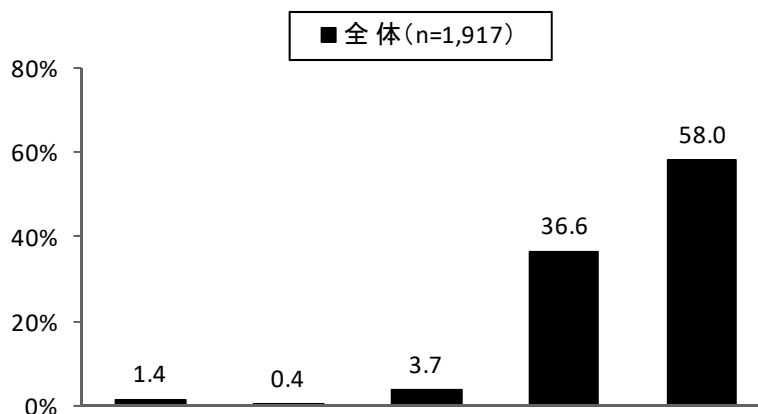
BQ13_4 過去就業施設雇用形態【過去保育士就業経験有】(性・年代別)



過去に保育士として就業していた当時の役職は、全体で「なし」が過半数(58.0%)で最も多く、次いで「その他」が4割弱(36.6%)となっている。「園長」「副園長」「主任」の合計は1割未満(5.5%)である。

性・年代別で見ると、「園長」「副園長」「主任」の合計では『女性』よりも『男性』が多く、「なし」についても『男性』の方が多い。

BQ13_5 過去就業施設の役職【過去保育士就業経験有】(性・年代別)



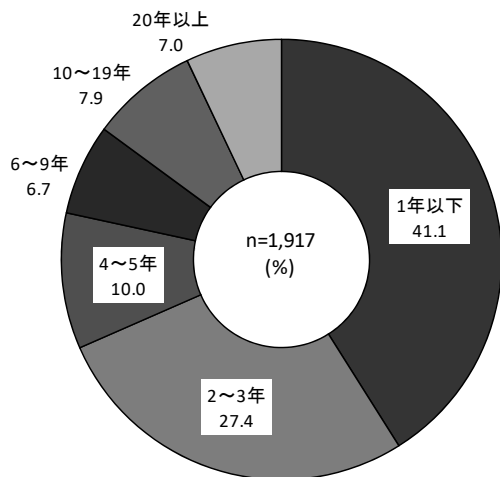
性別・年代	n	1	2	3	4	5
		園長	副園長	主任	その他	なし
全体	1,917	1.4	0.4	3.7	36.6	58.0
女性計	1,842	1.3	0.3	3.5	37.0	57.8
女性20代	403	0.0	0.0	0.5	39.7	59.8
女性30代	608	0.5	0.2	3.6	40.5	55.3
女性40代	437	2.3	0.7	5.3	34.3	57.4
女性50代以上	394	2.8	0.5	4.6	32.0	60.2
男性計	75	4.0	1.3	6.7	26.7	61.3
男性20代	28	0.0	0.0	0.0	△ 17.9	○ 82.1
男性30代以上	47	6.4	2.1	10.6	31.9	48.9

3-8. 保育士を辞めてからの経過年数 (BQ14)

保育士を辞めてからの経過年数は、「1年以下」が4割強(41.1%)で最も多く、「2~3年」が3割弱(27.4%)、「4~5年」が1割(10.0%)となっている。

BQ14 あなたは保育士を辞めて何年になりますか。(1年未満の方は1年とお書きください。)

BQ14 保育士を辞めてからの経過年数【過去保育士就業経験有】



3-9. 保育士を辞めた理由 (BQ15)

保育士を辞めた理由について、全体で「職場の人間関係」が3割強(33.5%)で最も多く、次いで「給与が安い」(29.2%)、「仕事量が多い」(27.7%)、「労働時間が長い」(24.9%)となっている。

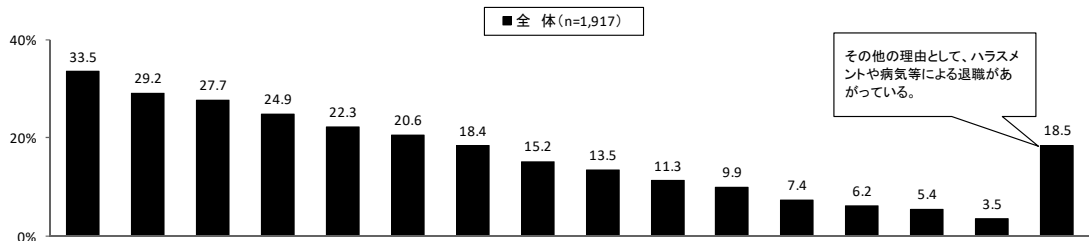
雇用形態別で見ると、『正規職員』が多くの項目で最も高いポイントとなっており、特に「労働時間が長い」(33.3%)では次点の『有期契約職員(フルタイム)』を12.4ポイント上回っている。

配偶者・子供の有無別で見ると、『配偶者無・子供無』が「職場の人間関係」、「給料が安い」、「仕事量が多い」、「労働時間が長い」、「健康上の理由」、「他業種への興味」等で他層よりも多くなっている。

運営主体別で見ると、「給料が安い」で『民設・民営』が『公設・公営』を上回っており、特に『民設・民営(株式会社)』(40.0%)、『民設・民営(NPO法人)』(39.4%)では約4割となっている。

BQ15 あなたが保育士として就業された保育所等を退職した理由としてあてはまるものをお答えください。(〇はいくつでも)

BQ15 保育士を辞めた理由【過去保育士就業経験有】(複数回答)



BQ13-4 雇用形態 【過去保育士就業経験有】	n	9	6	7	8	2	4	1	12	3	5	11	10	13	15	14	16
		職場の人間関係	給料が安い	仕事量が多い	労働時間が長い	妊娠・出産	健康上の理由(体力含む)	結婚	他業種への興味	子育て・家事	転居	職業適性に対する不安	保護者対応等の大変さ	家族の事情(介護等)	雇用期間満了	配偶者の意向	その他
全体	1,917	33.5	29.2	27.7	24.9	22.3	20.6	18.4	15.2	13.5	11.3	9.9	7.4	6.2	5.4	3.5	18.5
正規職員	1,099	39.2	31.2	34.8	33.3	21.7	24.2	24.4	14.3	12.9	13.1	11.4	9.8	4.3	1.0	3.9	18.0
有期契約職員(フルタイム)	201	34.3	28.4	25.9	20.9	22.4	21.9	20.4	10.4	12.9	11.9	11.9	4.0	5.0	13.9	4.0	19.4
有期契約職員(パートタイム)	617	△ 23.0	△ 25.8	△ 15.6	△ 11.2	△ 23.3	△ 13.6	△ 7.0	△ 18.5	△ 14.7	△ 7.8	△ 6.6	△ 4.2	△ 9.9	△ 10.5	△ 2.8	△ 19.0

Q1-3&4 配偶者と子供の有無

配偶者・子供有	1,181	25.7	24.4	22.4	20.3	○ 33.4	14.8	22.2	12.2	20.1	12.0	4.9	5.5	7.1	5.2	4.5	15.6
配偶者有・子供無	228	38.6	27.2	32.0	29.8	△ 8.3	24.1	○ 31.6	14.5	△ 3.5	○ 22.4	14.0	10.1	4.8	4.8	3.9	22.8
配偶者無・子供有	102	35.3	38.2	30.4	25.5	13.7	22.5	11.8	8.8	12.7	8.8	9.8	5.9	5.9	10.8	4.9	22.5
配偶者無・子供無	406	○ 52.7	○ 41.9	○ 39.9	○ 35.2	△ 0.0	○ 34.7	△ 1.5	○ 26.1	△ 0.2	3.4	○ 22.2	11.8	4.2	4.9	0.2	23.4

BQ13-2 運営主体【過去保育士就業経験有】

公設・公営	391	26.1	△ 18.7	19.9	17.6	23.3	18.4	17.9	15.1	20.2	13.8	9.0	5.9	7.7	13.3	4.1	12.3
公設・民営	201	32.8	25.4	24.4	22.4	21.4	19.9	21.4	15.4	11.4	12.4	7.5	7.5	6.5	5.5	3.0	18.9
民設・民営(社会福祉法人)	678	34.5	27.3	31.4	27.6	25.2	19.8	23.3	14.9	12.2	11.5	11.1	7.2	5.0	2.9	4.7	20.4
民設・民営(株式会社)	440	38.4	○ 40.0	30.9	30.0	19.8	24.3	11.8	15.2	10.9	8.9	10.7	8.0	5.5	3.2	2.5	20.2
民設・民営(NPO法人)	66	36.4	○ 39.4	33.3	22.7	15.2	18.2	△ 7.6	21.2	○ 24.2	10.6	7.6	10.6	10.6	3.0	0.0	25.8
民設・民営(その他)	141	33.3	34.0	23.4	20.6	17.7	20.6	17.0	14.2	7.1	9.2	9.2	9.2	7.1	3.5	2.1	17.0

3-10. 再就業する場合の希望条件 (BQ16)

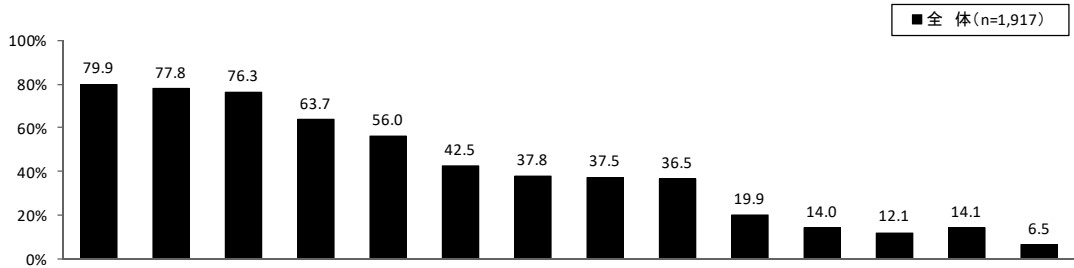
再就業する場合に希望する条件について、全体で「通勤時間」が約8割(79.9%)で最も多く、次いで「勤務日数」(77.8%)と「勤務時間」(76.3%)も8割弱となっており、働き方を重視している傾向が見られる。そのほか、「給与等」が6割強(63.7%)、「雇用形態 パート・非常勤採用」が過半数(56.0%)となっている。

過去雇用形態別で見ると、『有期契約職員(パートタイム)』は『正規職員』よりも、「働くことが可能な家庭の状況」(46.2%)、「雇用形態 パート・非常勤採用」(63.0%)において5ポイント以上高い。

また、配偶者と子供の有無別で見ると、『配偶者有・子供有』は「働くことが可能な家庭の状況」が5割強(52.8%)、「雇用形態 パート・非常勤採用」が7割弱(66.5%)と他層より高くなっている。

BQ16 あなたが今後、保育士として働く場合に求める条件をお聞かせください。また()内に具体的数字もあわせてご記入ください。(〇はいくつでも)

BQ16 再就業する場合の希望条件【過去保育士就業経験有】(複数回答)



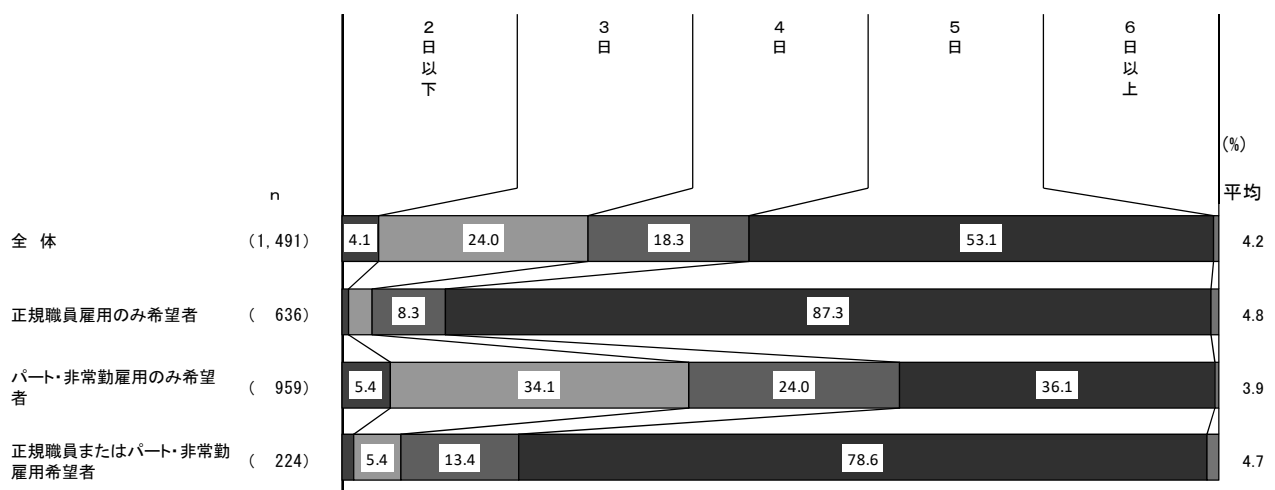
BQ13-4 雇用形態 【過去保育士就業経験有】	n	3	1	2	4	6	10	8	5	7	9	12	11	13	14
		通勤時間	勤務日数	勤務時間	給与等	雇用形態 パート・非常勤採用	働くことが可能な家庭の状況	自身のキャリアアップが可能なこと	雇用形態 正社員採用	施設の運営方針への納得感	自身の健康状況の改善	研修等の再教育プログラム参加	求人情報の提供	その他	どの保育士としての条件があってもいい
全体	1,917	79.9	77.8	76.3	63.7	56.0	42.5	37.8	37.5	36.5	19.9	14.0	12.1	14.1	6.5
正規職員	1,099	79.7	76.6	76.2	66.5	52.7	40.3	37.1	43.7	37.8	21.0	12.4	12.0	15.0	7.3
有期契約職員(フルタイム)	201	79.1	79.1	75.1	64.2	52.7	43.3	44.8	42.8	36.3	22.4	15.4	11.4	13.9	6.5
有期契約職員(パートタイム)	617	80.6	79.4	76.8	58.5	63.0	46.2	36.6	24.8	34.2	17.2	16.5	12.3	12.5	5.2
'Q1-3&4 配偶者と子供の有無															
配偶者有・子供有	1,181	84.0	81.8	79.9	61.2	66.5	52.8	34.6	28.8	34.7	15.2	12.9	11.5	13.2	4.7
配偶者有・子供無	228	76.3	74.6	71.9	61.8	53.5	39.5	41.2	39.9	42.1	19.7	12.3	12.3	16.2	8.8
配偶者無・子供有	102	75.5	72.5	76.5	71.6	43.1	23.5	35.3	42.2	30.4	20.6	16.7	17.6	15.7	6.9
配偶者無・子供無	406	71.2	69.2	68.0	70.0	30.3	19.2	45.6	60.3	39.9	33.5	17.7	12.1	15.0	10.3

希望条件数字記入項目では全体で、平均勤務日数は4.2日、平均勤務時間は6.5時間、平均通勤時間(片道)は30.6分、平均年収は255.6万円である。

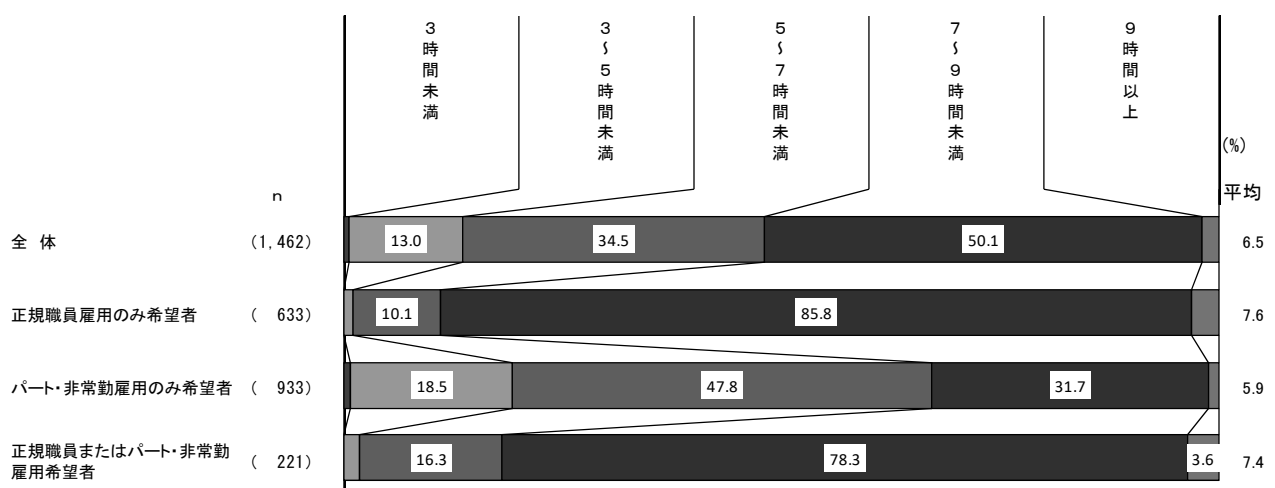
希望する雇用形態別で見ると、『正規職員雇用のみ希望者』は、勤務日数週4.8日、勤務時間7.6時間、通勤片道33.2分、年収321.5万円、『パート・非常勤雇用のみ希望者』は勤務日数3.9日、勤務時間5.9時間、通勤時間片道28.9分、年収200.6万円、『正規職員またはパート・非常勤雇用希望者』は勤務日数4.7日、勤務時間7.4時間、通勤時間片道31.1分、年収309.2万円となっている。

<条件(具体的数字)記入項目(希望する雇用形態別)>

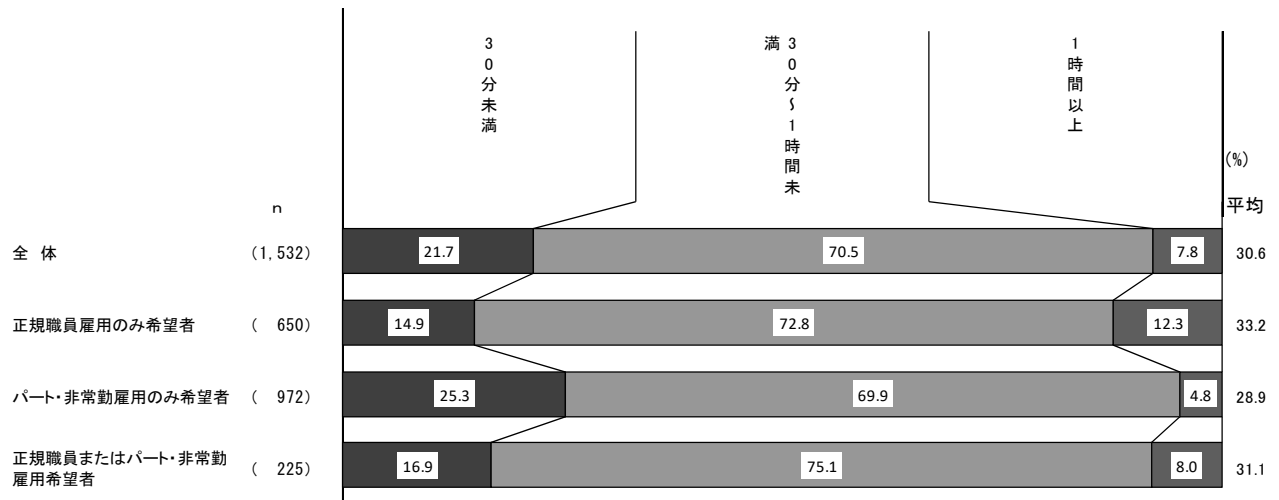
BQ16_1 再就業する場合の希望条件<勤務日数:週>【過去保育士就業経験有】



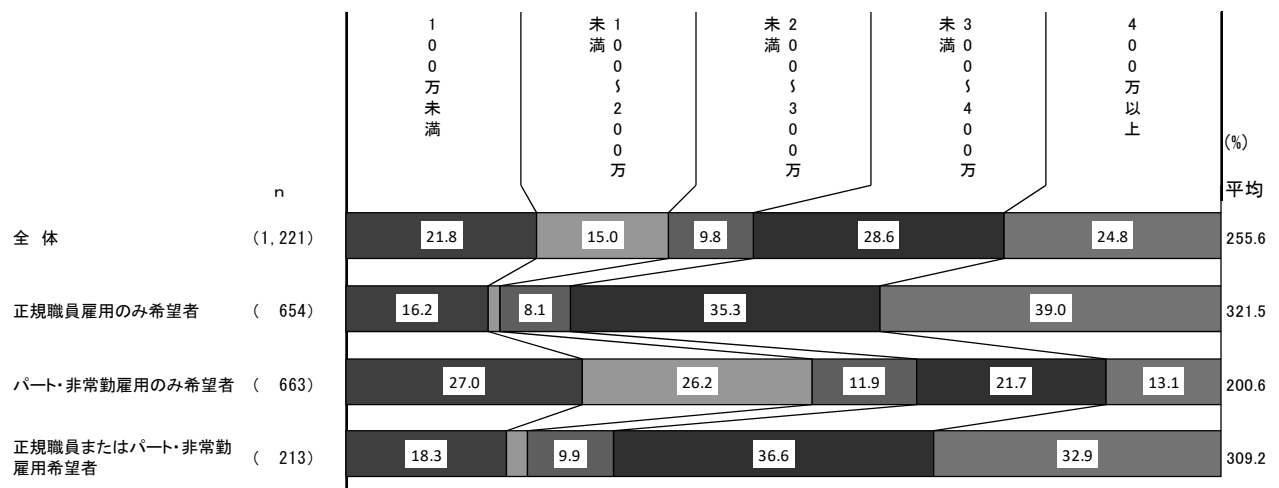
BQ16_2 再就業する場合の希望条件<勤務時間:日>【過去保育士就業経験有】



BQ16_3 再就業する場合の希望条件＜通勤時間:片道＞【過去保育士就業経験有】



BQ16_4 再就業する場合の希望条件＜給与等:年収＞【過去保育士就業経験有】



3-11. 時間単位勤務での復職意向 (BQ17)

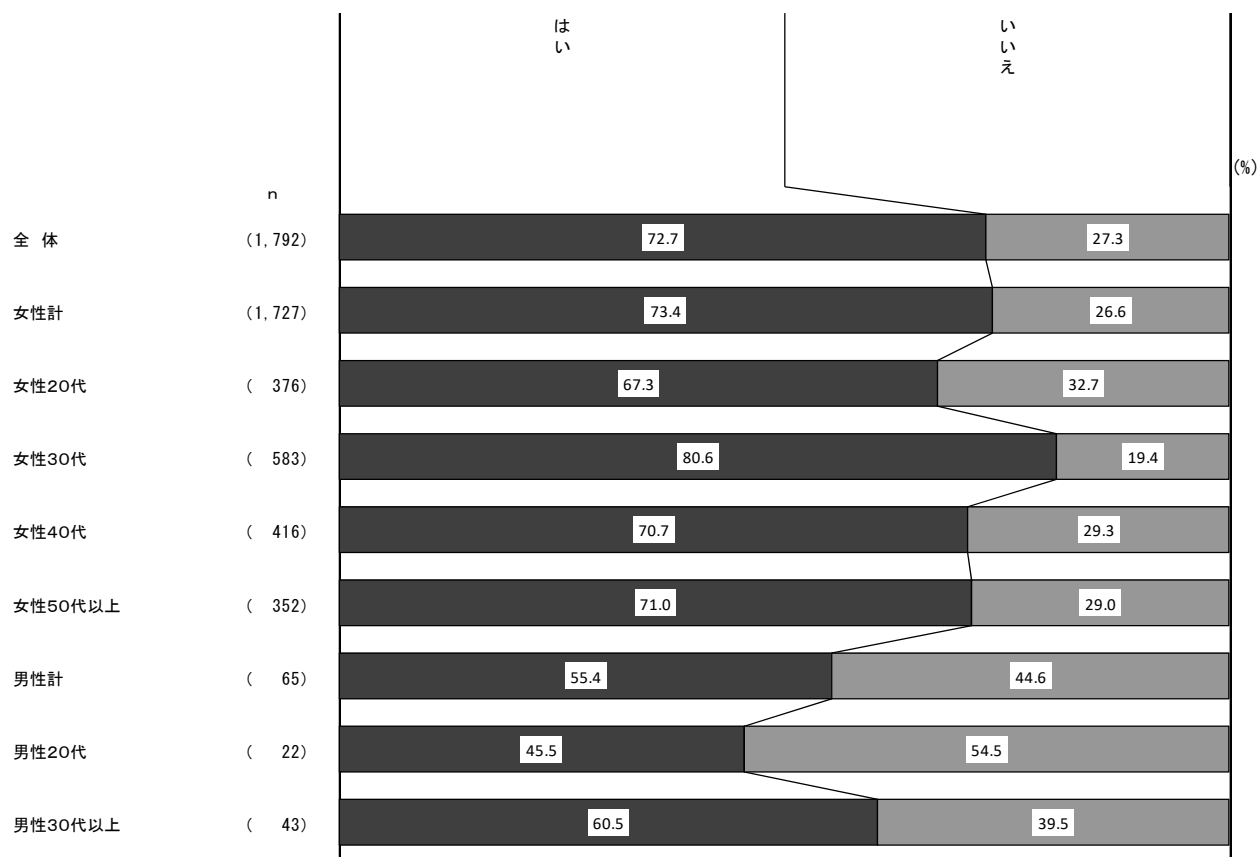
保育士の時間単位勤務での復職意向については、全体で「はい」が7割を超え(72.7%)、「いいえ」(27.3%)を大きく上回った。

性・年代別で見ると、『男性 20代』を除く全ての層で「はい」が「いいえ」を上回っており、時間単位勤務であれば復職したいと考えている者が多いことがうかがえる。

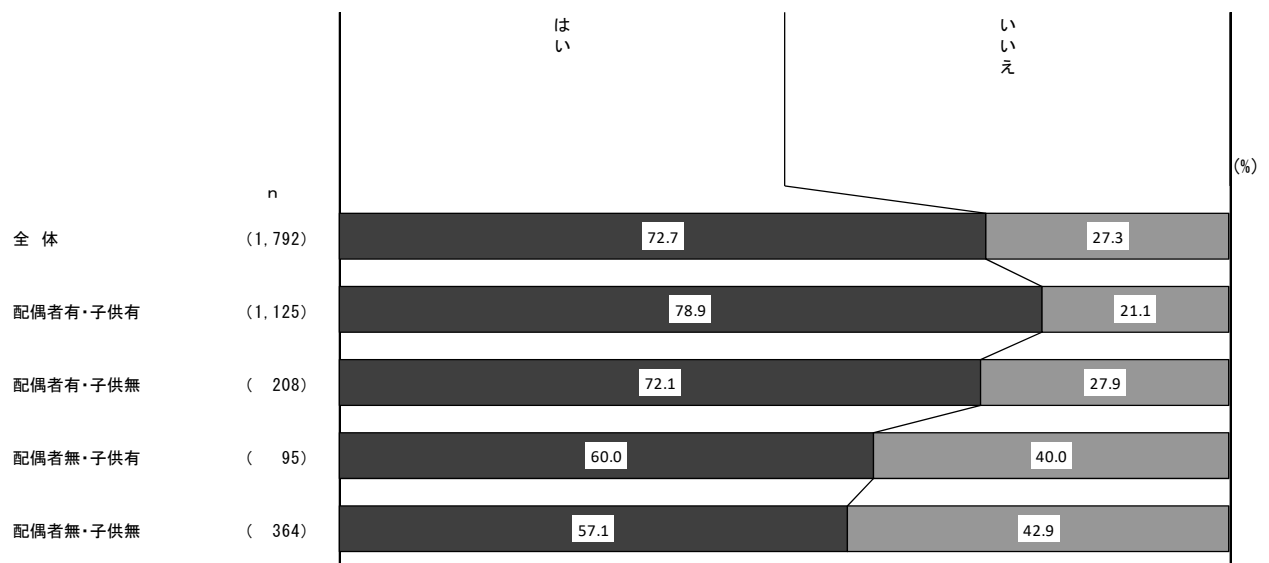
特に、『女性 30代』では8割以上(80.6%)が時間単位勤務での復職意向を示している。

BQ17 時間単位の勤務が可能であれば復職したいという意向がありますか。

BQ17 時間単位勤務での復職意向【過去保育士就業経験有】(性・年代別)



BQ17 時間単位勤務での復職意向【過去保育士就業経験有】(配偶者・子供の有無別)



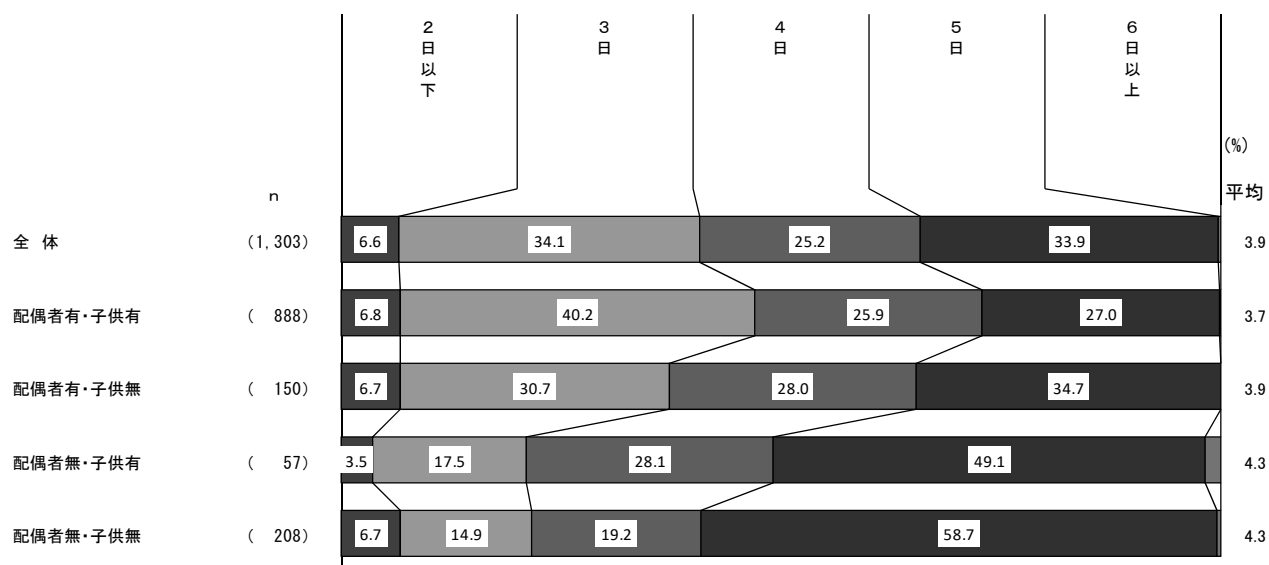
3-12. 時間単位勤務に求める条件 (BQ18)

保育士の時間単位勤務に求める条件のうち、週間勤務日数については、全体で「3日」(34.1%)が最も多く、次いで「5日」(33.9%)、「4日」(25.2%)となっている。

配偶者・子供の有無別で見ると、『配偶者有・子供有』では「3日」、それ以外の層では「5日」が最も多くなっている。

BQ18 時間単位で勤務する場合に求める条件をお聞かせください。

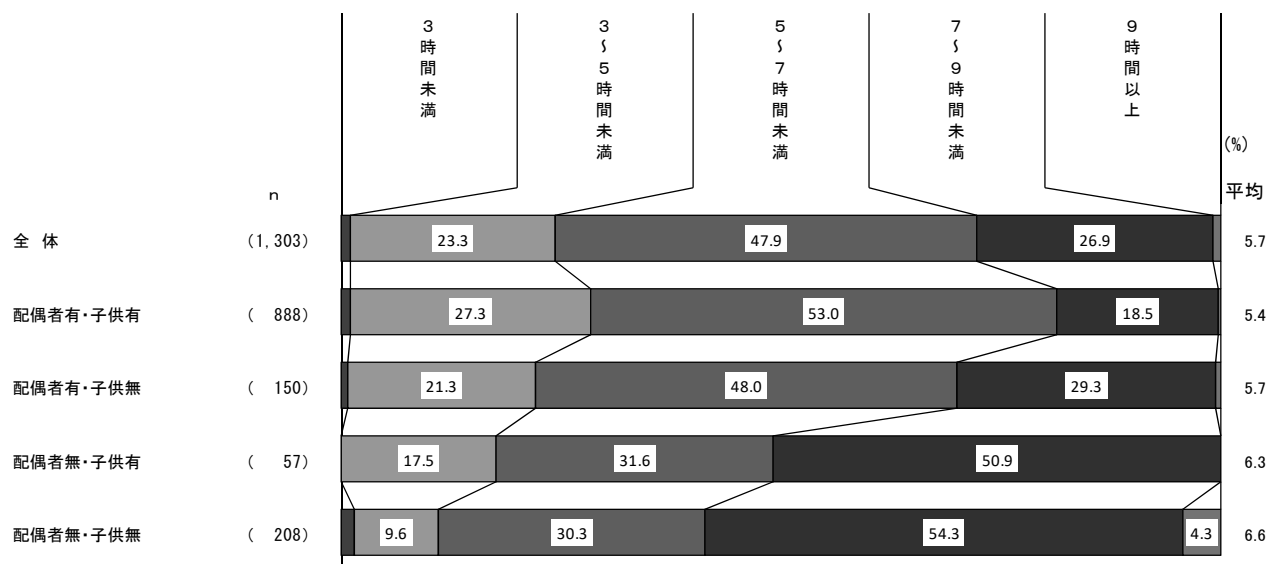
BQ18_1 時間単位勤務に求める条件<勤務日数:週>【過去保育士就業経験有】
(配偶者・子供の有無別)



日別勤務時間は、全体で「5～7時間未満」が5割弱(47.9%)で最も多く、次いで「7～9時間未満」(26.9%)、「3～5時間未満」(23.3%)となっている。

配偶者・子供の有無別で見ると、『配偶者有』では「5～7時間未満」、『配偶者無』では「7～9時間未満」が最も多くなっている。

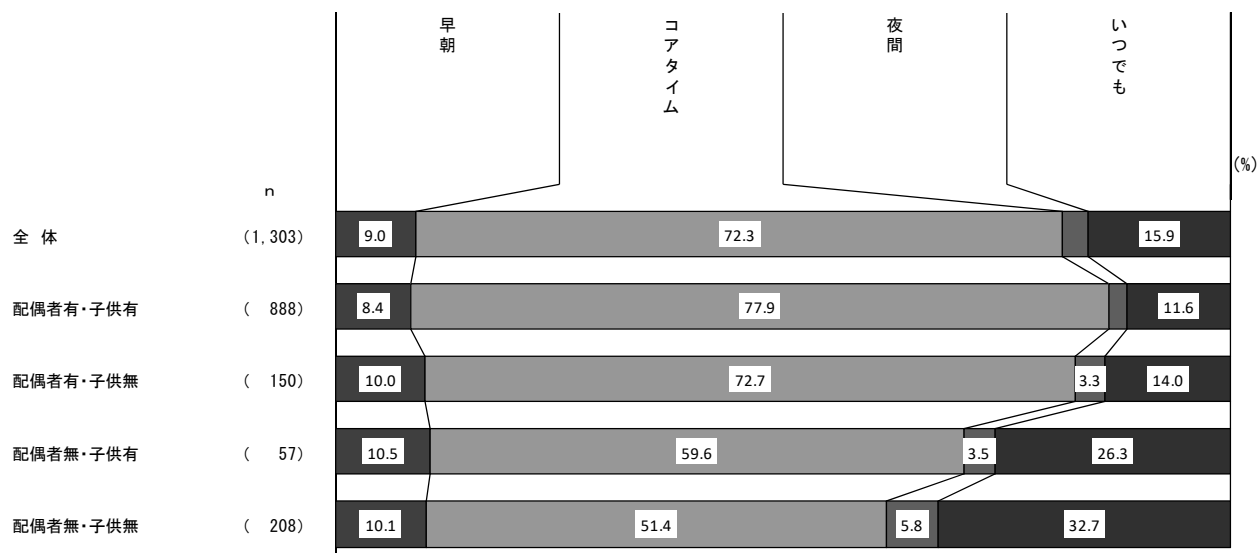
BQ18_2 時間単位勤務に求める条件<勤務時間:日>【過去保育士就業経験有】
(配偶者・子供の有無別)



勤務時間帯は、全体で「コアタイム」が7割強(72.3%)を占めている。そのほか、「いつでも」(15.9%)が2割弱、「早朝」が1割未満(9.0%)となっている。

配偶者・子供の有無別でみると、『配偶者無』が『配偶者有』に比べて「いつでも」の割合が高い。

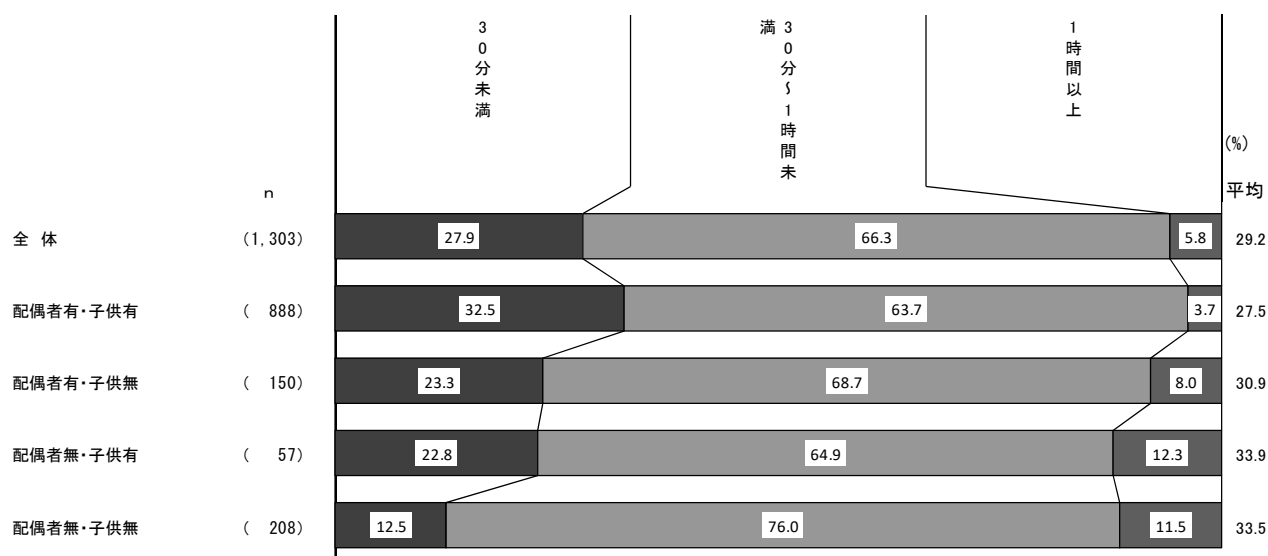
BQ18_3 時間単位勤務に求める条件<勤務時間帯>【過去保育士就業経験有】
(配偶者・子供の有無別)



片道通勤時間は、全体で「30分～1時間未満」が7割弱(66.3%)を占めている。そのほか、「30分未満」が3割弱(27.9%)、「1時間以上」が1割未満(5.8%)となっている。

配偶者・子供の有無別で見ると、『配偶者有・子供有』では「30分未満」の割合が他層に比べて高い。

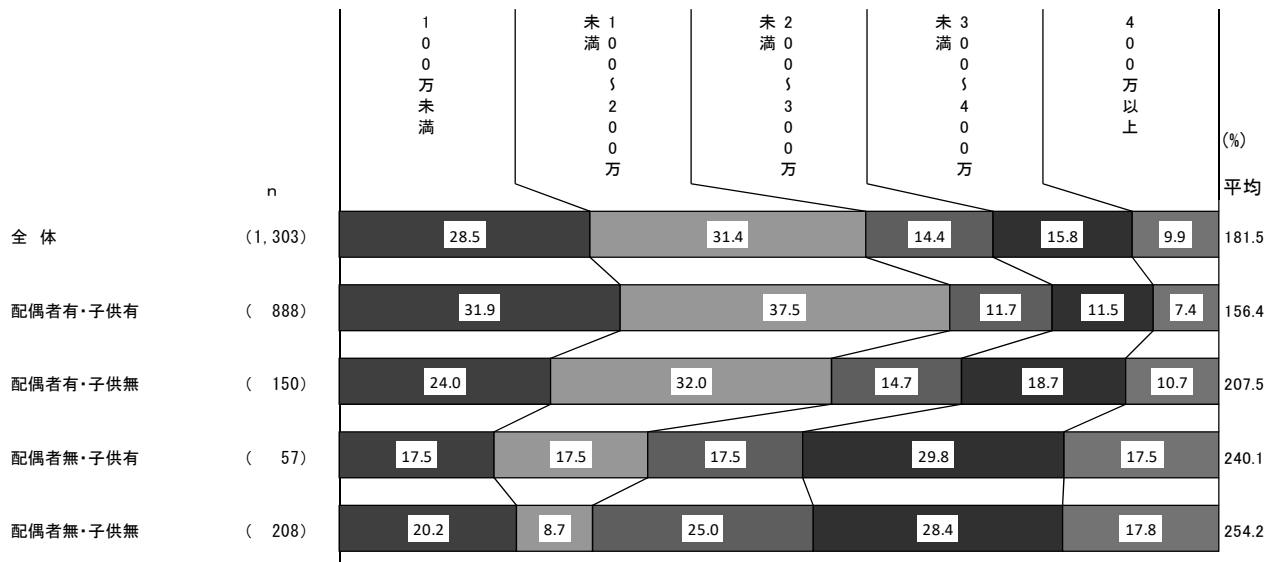
BQ18_4 時間単位勤務に求める条件<通勤時間:片道>【過去保育士就業経験有】
(配偶者・子供の有無別)



年収は、全体で「100～200 万未満」が3割強(31.4%)で最も多く、次いで「100 万未満」が3割弱(28.5%)、「300～400 万未満」(15.8%)と「200～300 万未満」(14.4%)が1割強となっている。

配偶者・子供の有無別で見ると、『配偶者無』が『配偶者有』に比べて高い年収を求める傾向がうかがえる。

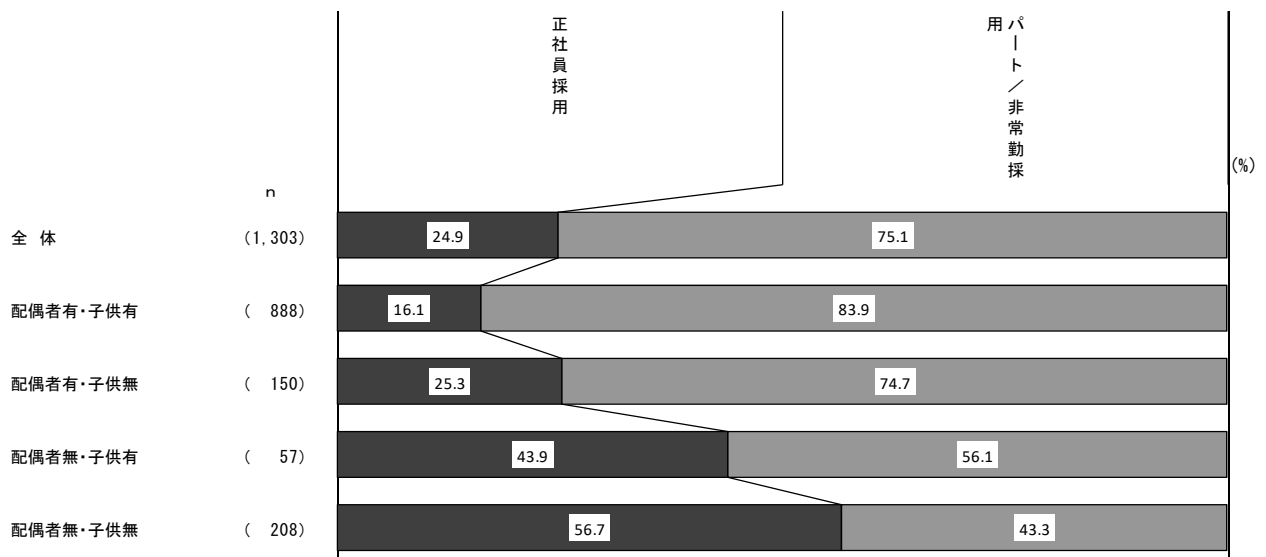
BQ18_5 時間単位勤務に求める条件<給与等:年収>【過去保育士就業経験有】
(配偶者・子供の有無別)



雇用形態は、全体で「パート/非常勤採用」が7割を超え(75.1%)、「正社員採用」(24.9%)を大きく上回った。

配偶者・子供の有無別で見ると、『配偶者無・子供無』では「正社員採用」の割合が高くなっている。

BQ18_6 時間単位勤務に求める条件<雇用形態>【過去保育士就業経験有】
(配偶者・子供の有無別)



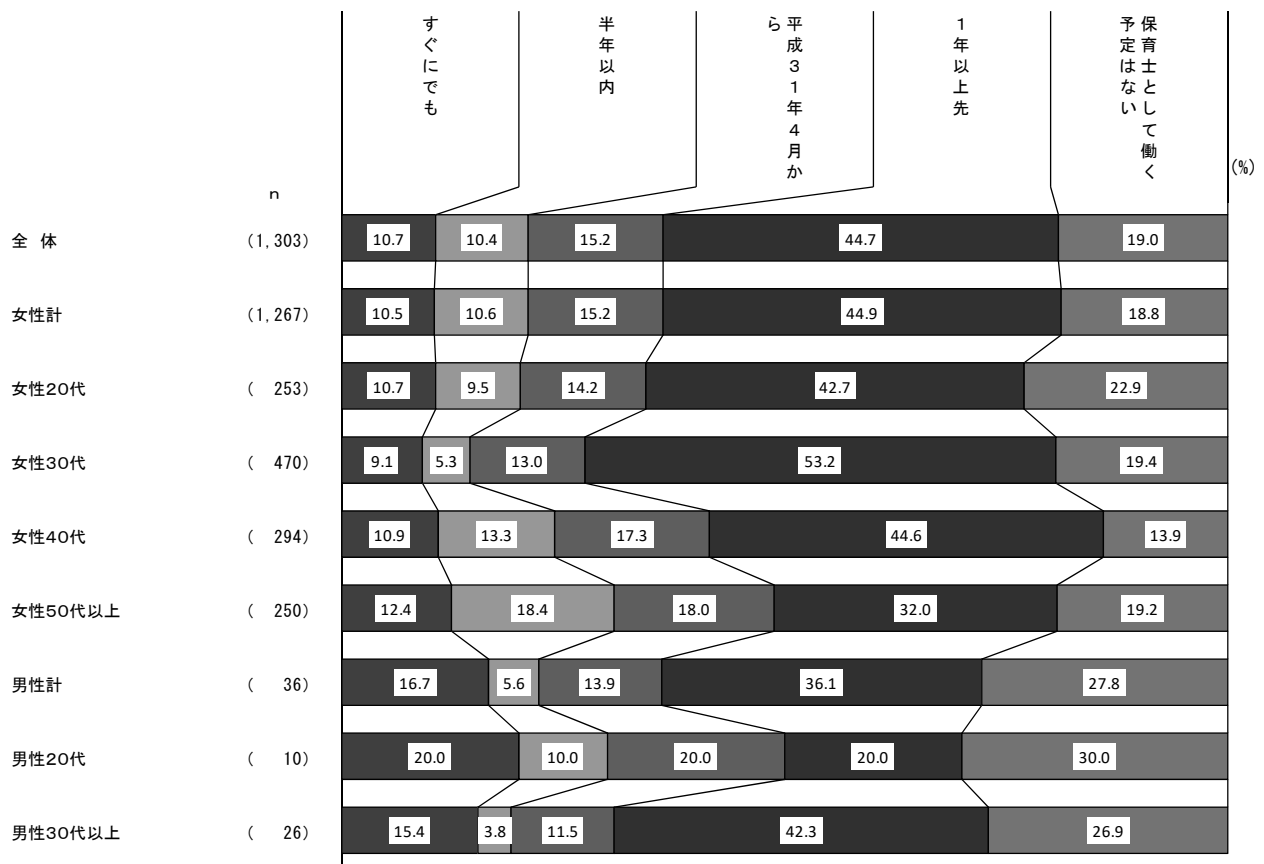
3-13. 都内における保育士復職意向 (BQ19)

都内での保育士復職意向について、全体で「1年以上先」が半数近く(44.7%)で最も多く、そのほか、「平成31年4月から」(15.2%)、「すぐにでも」(10.7%)、「半年以内」(10.4%)が1割台となり、「保育士として働く予定はない」は2割弱(19.0%)となっている。

性・年代別で見ると、『男性20代』を除く全ての層で「1年以上先」が最も多く、特に『女性30代』では過半数(53.2%)となっている。

BQ19 あなたは、近い将来、「東京都内で保育士として働きたい」とお考えですか。

BQ19 都内における保育士復職意向【過去保育士就業経験有】(性・年代別)



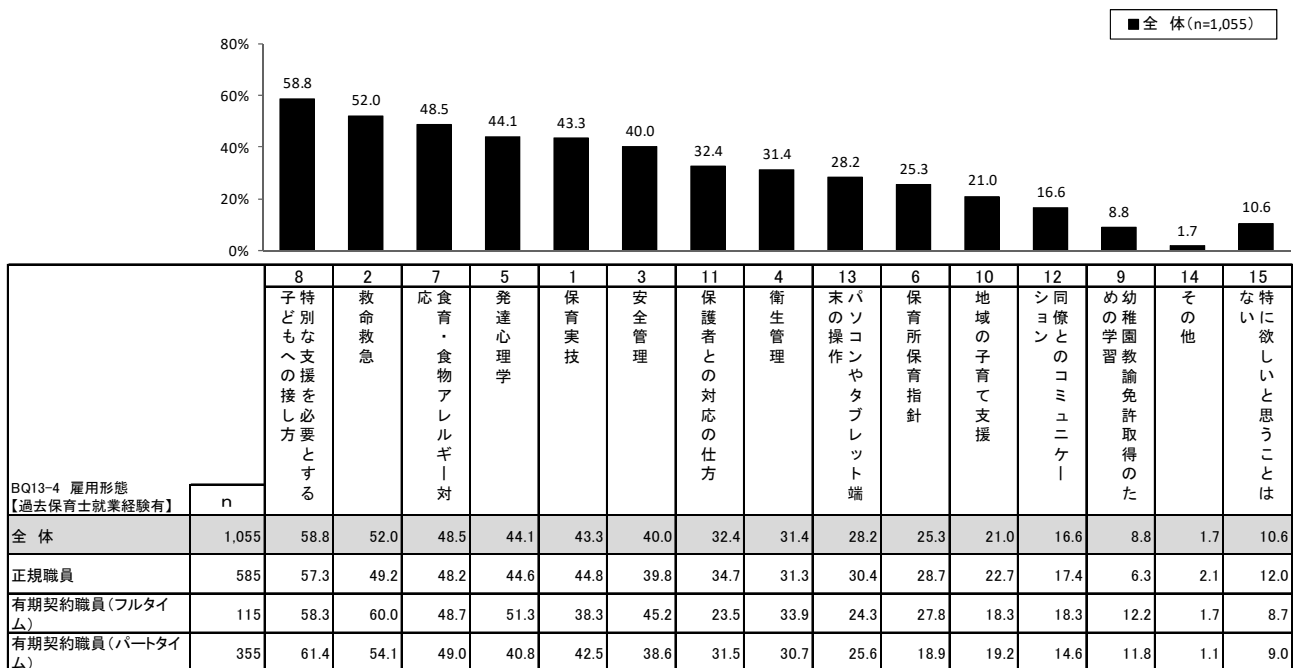
3-14. 保育士再就業時の習得を希望する知識・技術 (BQ25)

全体で5割以上が「特別な支援を必要とする子どもへの接し方」(58.8%)の習得を希望している。次いで「救命救急」(52.0%)、「食育・食物アレルギー対応」(48.5%)、「発達心理学」(44.1%)、「保育実技」(43.3%)となっている。

雇用形態別で見ると、「救命救急」においては『有期契約職員(フルタイム)』(60.0%)と『有期契約職員(パートタイム)』(54.1%)が『正規職員』(49.2%)よりも高い。

BQ25 今後保育士として働くまでに、以下のような知識や技術を習得する機会を欲しいと思いますか。欲しいと思うものをいくつでもお選びください。(〇はいくつでも)

BQ25 保育士再就業時の習得を希望する知識・技術【過去保育士就業経験有】(複数回答)



3-15. よいと考える研修内容 (BQ25 : 自由回答より抜粋)

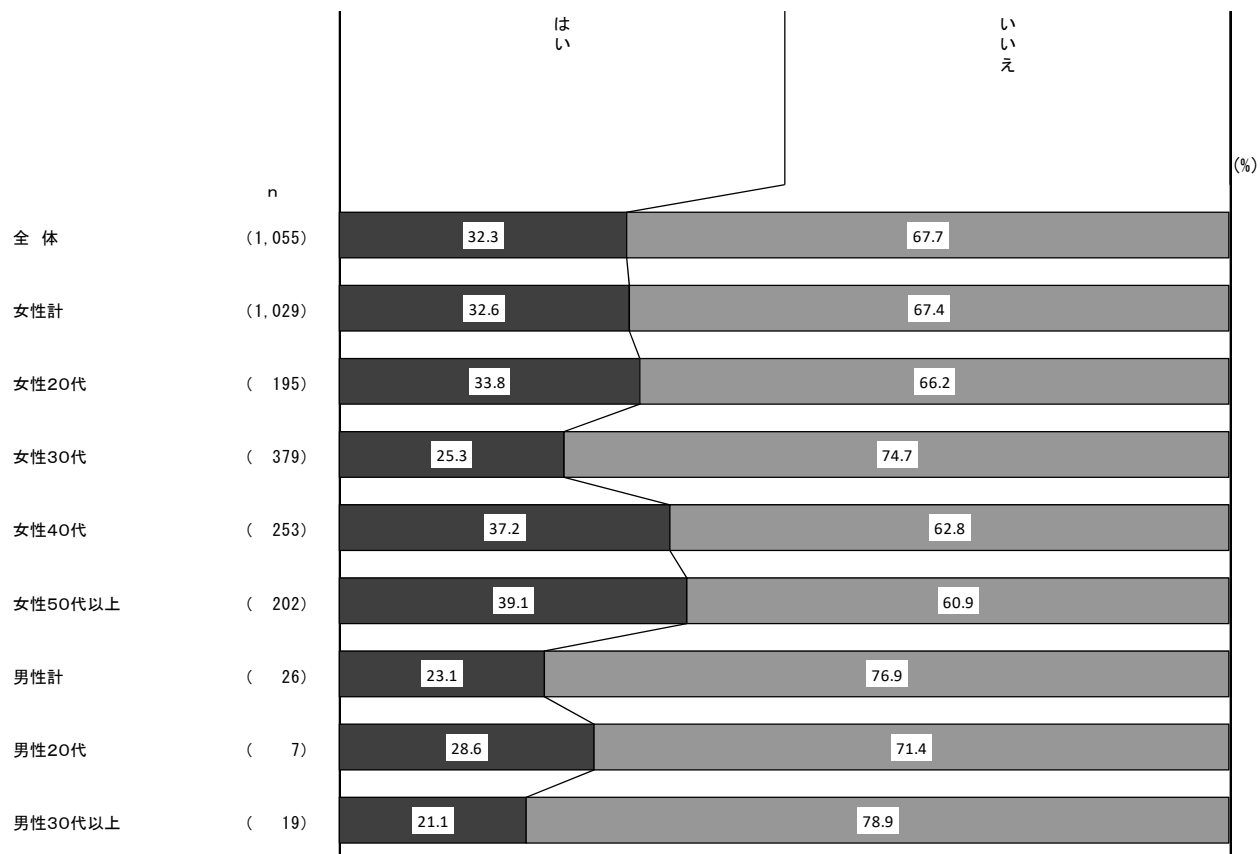
No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	BQ25 よいと考える研修内容(回答者計374人)
1	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	アレルギー対策についての研修。震災対策の研修。病気・怪我の対策の研修
2	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	保護者クレームの対応の仕方・子供の心理
3	女性	20～24歳	保育士試験	保育の環境整備の仕方や、手遊び、リトミックなどの実技的なもの、すぐに保育に役立てられるもの
4	女性	20～24歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	専門的知識が身につく
5	男性	20～24歳	大学の保育士養成課程	アレルギーの研修絵。本を伝える研修。社会人のマナーの研修。ミルクの作り方の研修。
6	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	アナフィラキシーショックなどアレルギー反応が子供に出してしまった時の具体的な対応の実践演習
7	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	新しく改訂された保育所保育指針について主に変更点の説明などの講義
8	女性	25～29歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	一度保育の職を離れた人が復帰するにあたってどのようなことが必要であるか。特に人の命を預かる場なので救命救急や安全確保などの研修があれば参加したいと思います。
9	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	子どもの遊び展開へのアプローチ
10	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	ベテラン保育士から、現場ですぐに活用できる技術や接し方、身体に負担の少ない子どもの抱っこのしかたなど教わりたいです。
11	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	子どもへの日々の言葉がけや関わり方の研修。実際にあった保育の事例をもとに、保育者の対応方法はどのようなものがあるか。実践的な保育者の対応方法、保育技術。
12	女性	30～34歳	保育士試験	自然の見方を学ぶ機会がほしい。こどもたちの自然への興味に対応したいから。
13	女性	30～34歳	大学の保育士養成課程	ブランクのある人もスムーズに現場に戻ることのできるような研修。また、保育所で働いたことのない人も自信を持って働けるような研修。
14	女性	30～34歳	大学の保育士養成課程	怪我や体調の変化などの対処の仕方やはアレルギーのお子さんも多いので、急に発作など起きた場合の対応の仕方など
15	女性	30～34歳	短期大学の保育士養成課程	子供を産んで気づいた子育ての悩みごと。もっと保護者に寄りそえる保育が出来るように保護者目線の研修を受けてみたかった。
16	女性	30～34歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	日々の生活の中に取り入れられる手遊びや絵本から、運動会等の行事に絡められる具体的な研修があると、とても為になると感じます。座学より、実践的な研修が個人的には好きでした。
17	男性	35～39歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	パリの保育業務との違いを見比べる研修があれば、日本の保育士離れは無くなると思われま。
18	女性	35～39歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	実際に保育している様子をみたい。楽器や体操などを教えている様子を見てみたい。
19	女性	35～39歳	短期大学の保育士養成課程	幼稚園教諭になるための研修。また、発達障害の子が多いので、接し方について。保育技術について。
20	女性	35～39歳	保育士試験	応用行動分析学
21	女性	40～44歳	その他養成施設の保育士養成課程	自分が昭和の人間なので先生になる若い子たちの感覚が理解できず溝ができることも多い、今の子の実態を知る機会があれば注意の仕方とか…
22	男性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	保育指針や、ルソー、など元々の子どもの教育や人権について学ぶ機会があれば良いと思います。
23	女性	40～44歳	大学の保育士養成課程	自閉症や発達障害のような見た目ではわかりにくく、個人差のあるものに対する、知識と対応力などを養える講座。また近隣保育園との親睦を深められるようなイベントなど。
24	女性	40～44歳	保育士試験	コミュニケーションスキルの向上、パソコン関係の技術(日々の記録、掲示物、お便りを効果的に作成する技術)、リスクマネジメント課題発見・解決能力向上
25	男性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	保育士として働くのであれば将来的に施設運営に関わる立場になることを想定するので、施設運営についての研修が必要だと思う。また、これからは積極的に情報開示をしていく必要があると思われるので、情報の取り扱いなどについて学ぶ必要があると思う。
26	女性	45～49歳	保育士試験	地域の方との交流を事例から学ぶ、地域の子育て支援の事例を学ぶ、児童の権利擁護を事例を通して学ぶ、保育の質を高める実践的な方法を、グループワークを通して学ぶ。
27	女性	45～49歳	短期大学の保育士養成課程	色々な仕事を整理して、振り分け、取り組める能力を養いたい。仕事の優先順位を明確にしていきたい。パソコン入力により、業務を軽減したかった。
28	女性	45～49歳	保育士試験	パソコンやタブレットを使って、写真も取り入れたりして 掲示物作成や 連絡帳や書類を作ることができる
29	女性	45～49歳	短期大学の保育士養成課程	父兄に対する、会話が苦手な職員が多くなっていると感じるので、人間関係が上手になる研修会。

3-16. 保育関係の就職先を探しているか (BQ26)

保育関係の就職先を探しているかについては、「はい」が3割強(32.3%)、「いいえ」が7割弱(67.7%)となっている。
 性・年代別で見ると、『男性』よりも『女性』の方が「はい」の割合が高い。

BQ26 あなたは、現在、保育関係の就職先をお探ですか？

BQ26 保育関係の就職先を探しているか【過去保育士就業経験有】(性・年代別)



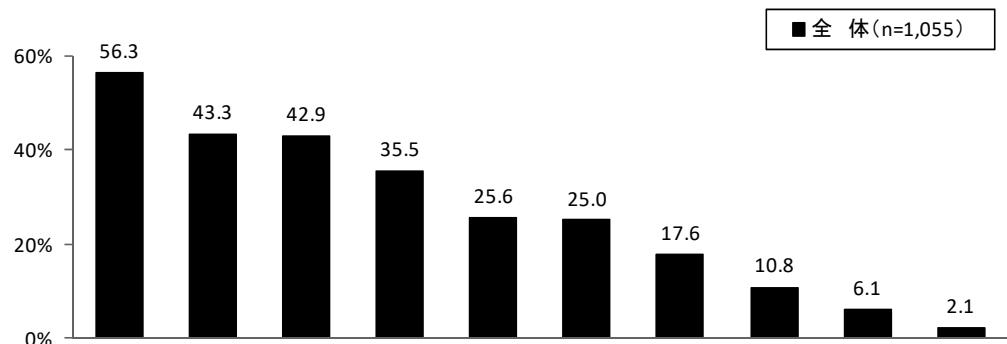
3-17. 保育関係の求人を得るために利用する(したい)機関等 (BQ27)

保育関係の求人を得るために利用する(したい)機関等については、「ハローワーク」が5割半ば(56.3%)で最も多く、次いで「保育人材・保育所支援センター(東京都福祉人材センター)」「民間職業紹介(求人情報誌・求人サイト等)」(42.9%)が4割台となっている。

性・年代別で見ると、特に『女性30代』では「ハローワーク」の割合が高い。

BQ27 あなたが、保育関係の求人情報を得るために利用する(したい)機関等を教えてください。(〇はいくつでも)

BQ27 保育関係の求人を得るために利用する(したい)機関等【過去保育士就業経験有】(複数回答)



性別・年代	n	2	1	6	7	3	4	5	6	8	10
		ハローワーク	センター(人材・保育所支援センター)	民間職業紹介(求人情報誌・求人サイト等)	区市町村の住まい又は就労を希望する	先輩や友人からの紹介	保育士仲間	等以前の勤め先からの紹介	(相談窓口) 民間職業紹介	(卒業した学校) 指定した学校(養成施設)	その他
全体	1,055	56.3	43.3	42.9	35.5	25.6	25.0	17.6	10.8	6.1	2.1
女性計	1,029	56.8	43.1	43.2	35.3	25.6	24.8	17.7	10.7	5.7	2.0
女性20代	195	△ 45.6	39.5	47.2	28.2	23.1	30.8	15.9	11.3	14.4	3.1
女性30代	379	○ 66.8	45.9	43.8	37.5	27.4	30.6	22.4	12.7	5.3	1.3
女性40代	253	58.1	42.7	44.7	35.2	27.3	19.4	17.0	9.1	3.2	1.6
女性50代以上	202	47.0	42.1	36.6	38.1	22.3	△ 14.9	11.4	8.4	1.5	3.0
男性計	26	△ 38.5	50.0	△ 30.8	42.3	26.9	34.6	15.4	15.4	○ 19.2	3.8
男性20代	7	57.1	42.9	△ 28.6	○ 57.1	△ 14.3	28.6	14.3	○ 28.6	14.3	0.0
男性30代以上	19	△ 31.6	52.6	△ 31.6	36.8	31.6	○ 36.8	15.8	10.5	○ 21.1	5.3

3-18. 「保育士として働くことへの不安」や「働くために支援が必要だと感じていること」、「理想とする保育」(BQ29:自由回答より抜粋)

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	BQ29から 主に「保育士として働くことへの不安」について抜粋(記入者計1,412人)
1	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	職員間の人間関係が不安。一度辞めてるので、スランプがあっても大丈夫かが不安。自分の子どもを入れたい、保護者から入れて良かったと思う保育を行いたい。
2	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	労働量に比べるともお給料が低いと思います。安いからと辞めてしまう人もよくいると聞きます、あたしもその中の1人です。もっと上がらないのかなと思うのと、転職して保育士に戻っても安すぎたら生活ができないしと思ったりもしています。そこが1番の不安です。
3	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	保育の現場でまた働きたいという思いは強いが、以前とは違い自分も家庭や子どもを持ちその上での就職になるため不安が大きい。家庭や子どもを犠牲にして、言ってしまうと他の子どもの成長に携わるのは違うように思うからだ。自分が働く職場の姉妹園や近所の保育園、家の近くの保育園や幼稚園に我が子がお世話になることができたら通しやすいのかもしれない。
4	女性	30～34歳	保育士試験	人手が足りないし、管理職の育成がきちんとされていないため、子どもを預かる時に不安を感じた。無資格の人を多く採用しているが、それでは専門職の意味がない。幼児期は、人格形成に大事な時期であるため、毎日をただ業務にお任せ過ごしているような感じがする。保育士の人材育成を高等教育化し、もう少しレベルを上げて子どもの大事な時期をよりよく過ごせるようにしていければと思う。
5	女性	30～34歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	いずれまた保育士として働きたいと考えていますが、何年待っても子どもを保育園に預けられないため復帰することができません。時間が経てば経つほど現場での経験を忘れてしまいそうな気がして復帰への不安も年々大きくなっています。
6	女性	35～39歳	大学の保育士養成課程	自分の家庭との両立、親や職場仲間との関係の構築が不安。絶対に正規職員には家庭があつたら戻れないという確信がある今の職場の現状が早く家庭を持っても気楽に職場復帰できたり正規職員になりたい!と思える環境になっていくと欲しいと願います。受け持った子どもを愛おしいと感じてよりいい保育を!と考えても残務処理や雑務の多さで潰されてしまい、たくさんいい先生がいなくなってしまうことは本当にもったいない現状です。
7	女性	40～44歳	短期大学の保育士養成課程	子どもの行事を優先したいので、午前中数時間で週2～3日の仕事ならできると思うが、なかなかそういうスポット的な募集はしていない。子どもや家庭を犠牲にしてまで働くことに対して不安があるが、空いている時間に働きたい気持ちもある。
8	女性	40～44歳	短期大学の保育士養成課程	今の保育は昔の保育とどう変わっているかわからないので保育士として働けるのか不安です。また自分の子どもにも負担をかけるような仕事はできないと思っている。子どもを1番に考えたいので、わがままかもしれませんが、子どもの行事、急な病気に臨機応変対応してもらえたらとらきやすくなるのではないかと思います。
9	女性	50～54歳	保育士試験	不安。時間の都合がつかない時に子供達の為にとか他の先生はお子さんの都合があるからなど無理を強いられた。疲れが溜まりました。
10	女性	50～54歳	保育士試験	資格はとったものの、プランクがありすぎてこの仕事ができるのか体力、知識とも不安があり飛び込めない

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	BQ29から 主に「働くために支援が必要だと感じていること」について抜粋(記入者計1,412人)
1	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	私は幼稚園教諭をしておりますが、友人に保育士として働いている者がいます。その人と比べてしまうと勤務時間や長期休みを多く頂いているのにも関わらず、お給料もなかなか変わらず頂いてしまっている現実はなんだか違うのかなと疑問を持っています。将来の子どもたちのためにも今の保育士さんのためにも少しでも支給の面での支援を考え直してほしいです。
2	男性	25～29歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	とりえず給料が少ない。そのくせ、やる事は多くて今は子どもだけじゃなくご両親のヒアリングやケアまでしなくてはならなくなってきていて、何に重きを置くのか考えなくてはならなくなってきていると感じていた。子どもに置くべきだろうけどもそれと同じくらい保護者支援が大切になってきている。そこまでやっていたら大変だと思う。様々な準備があり、残業代も無いような状況頑張って仕事をしても生活するのが大変だし、特に養わなければいけないとなると安定はしないし収入としては少なすぎる。もっと賃金の底上げをして欲しい。
3	女性	30～34歳	短期大学の保育士養成課程	保育士の子どもは優先的に保育園に入れられるなどの支援が必要だと思います。そして、パート保育士の給料をもっと上げてもらえるとう嬉しです。
4	女性	35～39歳	短期大学の保育士養成課程	まずは働きたくてもいわゆるワンオペ育児で、祖父母の協力も得られない状況で、なかなか一歩を踏み出せない。我が子の長期休みに自分の仕事を休めない。そういう状況だと、いくら行政が保育士の復職支援のようなことをしていただいても、なかなか難しい。保育園に通う子どもたちにとっても、たまにしか来ない、長期休みはない、そういう先生ばかりでは安心して生活が成り立たないと思うので、余計に自分がそういう立場と割り切って就労するのも実際抵抗がある。今のご時世、我が子の命を守るにも精一杯。仕事でも他の子どもたちの命を預からなくてはならない、という気持ちの余裕がないのも事実。
5	男性	40～44歳	大学の保育士養成課程	『保育士』への保護者・運営者・国を含めた社会から理解(現在、企業主導型保育事業の助成業務についておりますが、助成額自体も、また自製後の保育士に支払われる給与も決して多くはありません。また多忙による現場保育士の負担の高まりから退職を余儀なくされる事例も目の当たりにしています。元・保育士という観点から本事業に携わる中で、現場保育士への支援を続けていきたいと思ひます)
6	女性	40～44歳	保育士試験	子育て支援をする立場ではあるが、その仕事を全うする為に自分の家庭が犠牲になってしまった(早番遅番等のシフト)本末転倒だと思う。幼児や低学年の児童を子育て中の保育士には早番遅番等のシフトは極力控えてもらいたいと思った。子育てが一段落した方 早番遅番の時間帯だけ保育に入れる方や 各保育園の職員数も増やしてもらえれば有給等も取得しやすく子育て世代の保育士が仕事を続けやすい環境になるのではと思う。また、国家資格を取得しての仕事にしては給料が低いとも思う。元々事務職の仕事をしていた私の場合 その差をかなり感じた。同じように選択肢のある保育士資格保有者は 他業種を選択してしまうのは当たり前だと思う。
7	女性	40～44歳	保育士試験	過去には放課後等ディサービスに勤めておりました。現在は相談支援専門員として障害児・者と関わらせていただいております。通常の保育園や学童保育ももちろんですが、障害児・者や病児保育、ケアのできる保育士もますます必要だと思います。また、発達障害や障害を抱える子どもたちの支援ができる人材を育てることも急務だと考えます。
8	女性	45～49歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	現在保育園ではないですが、ベビーシッターの運営会社現場管理者として働いております。保育園には戻るつもりはございませんが、利用者の支援が大きすぎ、働き手の保育士を軽んじていると思います。
9	女性	55～59歳	短期大学の保育士養成課程	今は母の介護中なのでディサービスに依っている短時間で働ける所、急に仕事中にいけなくてもフォローしていただける支援
10	女性	65～69歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	人命をつつがなく、安全に保育するための適正な人材が確保されていること。長時間労働にならないための人材支援があること。適正なスペースが基準にしたがって設置されていること。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	BQ29から 主に「理想とする保育」について抜粋(記入者計1,412人)
1	女性	25～29歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	実際の現場は保育士不足による忙しさにより 余裕なく、本来可愛いく愛しい子ども達がそう思えなくなってしまう、また、仲間の教育も厳しくあたってしまう。保育士にとってそんな心苦しい事はありません。ただ給料など待遇改善すれば良い話ではないです。以前務めていた所が株式会社で経営拡大の為の保育士不足だったかはわかりませんが、残業、持ち帰りの仕事が少ないように考えて頂きたい。理想の保育は心からの笑顔で子ども達と楽しくふれあい、仲間・保護者様一緒に心から子ども達の成長を喜び共感していきたいですね。
2	女性	30～34歳	大学の保育士養成課程	あきらかに給与が見合っていない。保育所、児童養護施設どちらでも働いていたが給与の低さ、業務量の多さ心理的負担が大きかった。また、子どもが好きな人が集まる仕事なのに保育士自身が産休などを取りづらいため、理想としては給与の向上と産育休の取得向上。そして、保育士になるための適性テストをすべきです。保育士に向いていない又は質の悪い保育士が増えすぎている。足りないからといって、人数を増やすためにむやみに保育士を増やすことは良くない。
3	男性	35～39歳	保育士試験	「理想とする保育」子ども・保護者・保育者のみんなが幸せになる保育
4	女性	35～39歳	短期大学の保育士養成課程	保育士間の風通しがよく、子供第一の考えで職員が丸となって運営している園が理想です。結婚していつかはまた復帰したいと考えております。ブランクがあるのでその前に勉強できる機会があると大変助かります。
5	女性	35～39歳	保育士試験	人出不足で休みが取りにくい、子どもたちの命を預かる責任が重く保護者対応など保育以外で気を使わなければならないところなど、大変な仕事なのに給料が一般企業に比べ低いので、モチベーションを上げるためにも給料を上げたり休みがとりやすい環境になればいいと思う。理想とする保育は1人ひとりの成長がゆっくり見られる時間があるとやりがいもうまれると思う。やることに追われ時間で動いている感じがある。
6	女性	40～44歳	保育士試験	圧倒的に保育士の数が不足している。少ない保育者数で大人数の子どもを保育する環境では、安全に保育することで精一杯で、子どもの気持ちを汲んだ理想の保育などできない。また、子どもの午睡(昼寝時)に呼吸の確認をすることは、真面目に保育をしようと思えば思うほど神経をすりへらす。モニターやセンサーの導入など、合理的な方法で保育の負担を減らすような設備を積極的に導入してほしい。
7	女性	40～44歳	短期大学の保育士養成課程	保育士として働きたいが、自分の子供の預け先がない。勤務時間と希望時間が合わないのになかなか一歩が踏み出せない。保育士として保育園で働いたことがないので、保育園のことは情報でしかわかりませんが、どこで働くにしても、子供の個性を大切に臨機応変に動けるチームワーク、情報共有など預ける側も預かる側も双方が信頼、安心できるような保育が理想です。
8	女性	45～49歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	保育士として働きたい気持ちはあるが、日々の雑務に追われる現実がある。(日々の取り組みや保育行事や職員会議や連絡会)この忙しさと裏腹にお給料がとても安く働かずに見合っていない。毎日休憩とは名ばかりの、子ども達がお昼寝している中保育日誌を書いたり、現場から離れる時間がなく、リフレッシュする時間もないまま、日々の保育に追われていると思う。お給料の改善や職場環境の改善をして保護者が働いている間安心して預けられる園が理想である。
9	女性	50～54歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	重労働の割に時給(給料)が安く、やりがいはありますが、それを上回るストレスを抱えることも多くプロフェッショナルとして認められていない事に不満を感じます。理想とする保育:保育士の働く環境の改善によって、その現場にあった柔軟なアイデアが生まれるものと考えます。
10	女性	55～59歳	短期大学の保育士養成課程	子どもや保護者、また保育士が明るく元気な挨拶が交わされている保育園が理想だと思います。誰かが我慢したりしていると笑顔が無くなってしまいます。

4. 保育士としての就業経験がない者の実態

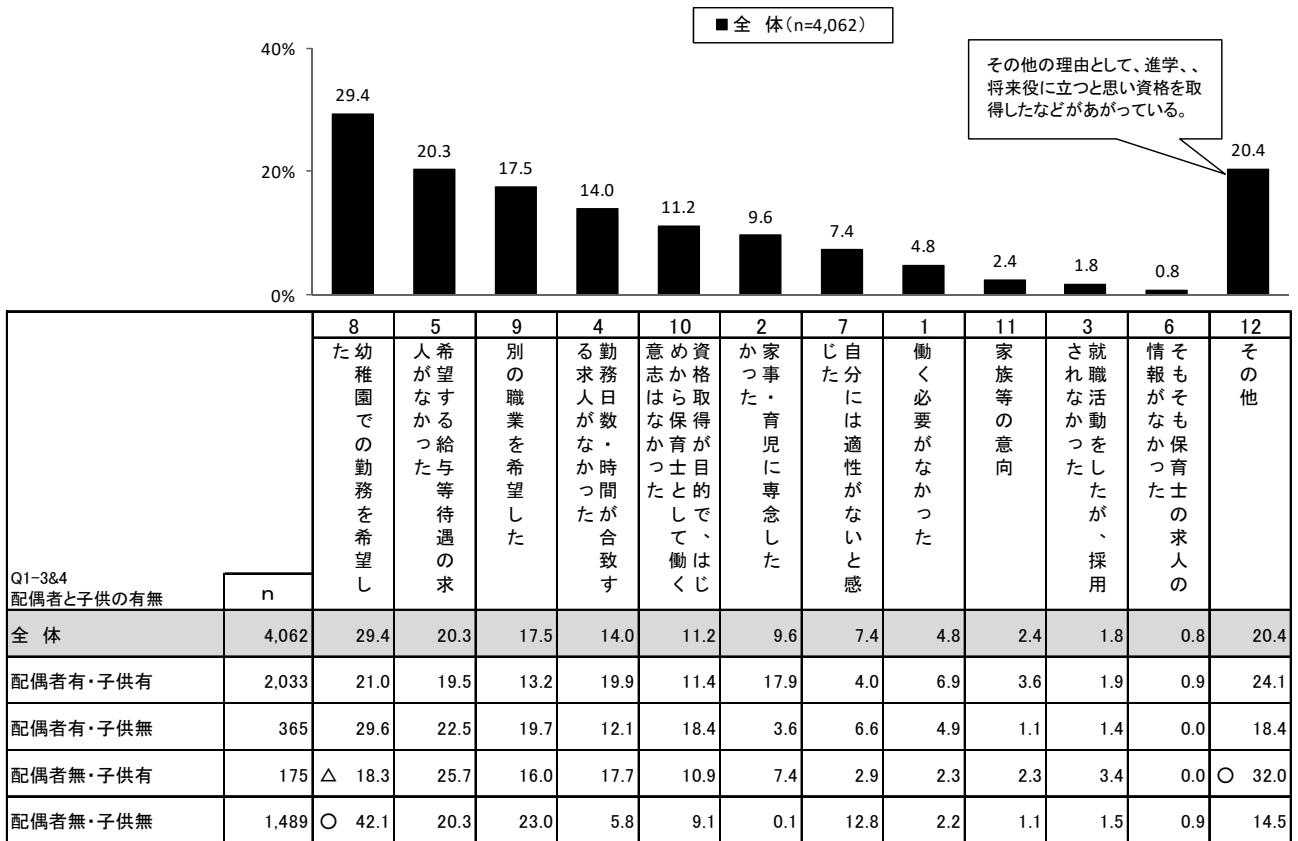
4-1. 保育士として未就業の理由 (BQ20)

保育士として未就業の理由について、全体で「幼稚園での勤務を希望した」が3割弱(29.4%)で最も多く、次いで「希望する給与等待遇の求人がなかった」が約2割(20.3%)、「別の職種を希望した」が2割弱(17.5%)となっている。

配偶者と子供の有無別で見ると、「幼稚園での勤務を希望した」については、『配偶者無・子供無』でその割合が高くなっている。

BQ20 あなたが保育士として働かなかった理由は何か。あてはまるものすべてをお答えください。(〇はいくつでも)

BQ20 保育士として未就業の理由【保育士就業経験無】(複数回答)



4-2. 保育士として就業する場合の希望条件 (BQ21)

保育士として就業する場合の希望条件については、全体で「勤務日数」(71.8%)と「通勤時間」(71.3%)が7割を超えており、次いで「勤務時間」(67.7%)、「給与等」(62.4%)となっている。

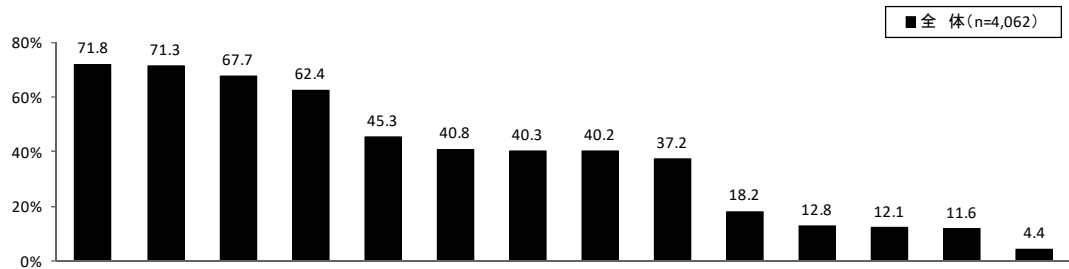
「どのような条件でも保育士として働くつもりはない」は4.4%のみであり、現在未就業者であっても条件次第で就業に繋がる可能性があるといえる。

配偶者と子供の有無別で見ると、『子供有』では『子供無』より「勤務日数」「通勤時間」「勤務時間」を挙げる割合が高い。

一方で「自身のキャリアアップが可能/やりがいを感じられること」では、『子供無』が『子供有』よりも割合が高くなっている。

BQ21 あなたが今後、保育士として働く場合に求める条件をお聞かせください。また()内に具体的数字もあわせてご記入ください。(〇はいくつでも)

BQ21 保育士として就業する場合の希望条件【保育士就業経験無】(複数回答)



Q1-3&4 配偶者と子供の有無	n	1	3	2	4	5	8	7	6	10	12	9	11	13	14
		勤務日数	通勤時間	勤務時間	給与等	雇用形態 正社員採用	自身のキャリアアップが可能なこと	施設の運営方針への納得感	雇用形態 パート・非常勤	働くことが可能な家庭の状況	研修等の再教育プログラム参加	自身の健康状況の改善	求人情報の提供	その他	どのような条件があっても保育士として働くつもりはない
全体	4,062	71.8	71.3	67.7	62.4	45.3	40.8	40.3	40.2	37.2	18.2	12.8	12.1	11.6	4.4
配偶者有・子供有	2,033	73.0	75.1	70.3	52.9	△ 33.0	36.7	39.0	○ 52.5	46.5	17.8	8.2	12.1	12.7	3.3
配偶者有・子供無	365	68.2	65.2	63.6	62.2	42.2	46.3	43.8	43.0	35.1	25.5	19.2	13.2	12.3	3.8
配偶者無・子供有	175	73.7	73.1	69.7	66.9	47.4	41.1	40.0	33.1	29.1	21.7	14.3	15.4	10.9	5.1
配偶者無・子供無	1,489	70.8	67.5	64.9	○ 75.0	○ 62.6	44.9	41.2	△ 23.6	△ 25.9	16.5	17.2	11.5	10.1	5.8

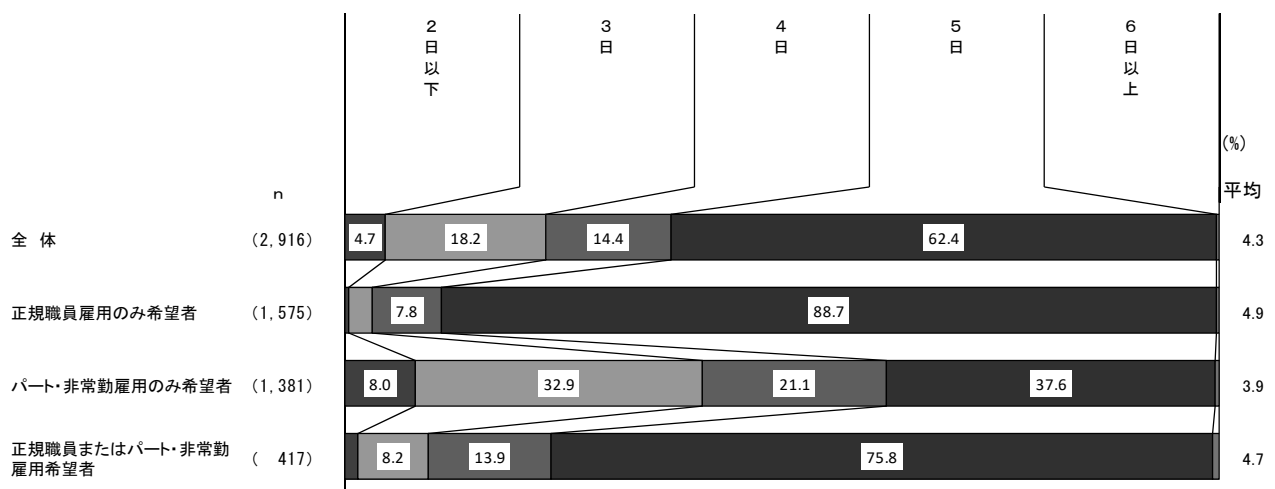
希望条件数字記入項目では全体で、平均勤務日数は4.3日、平均勤務時間は6.8時間、平均通勤時間(片道)は33.3分、平均年収は301.3万円である。

過去に保育士経験がある者と比べて、いずれの平均値も高い。

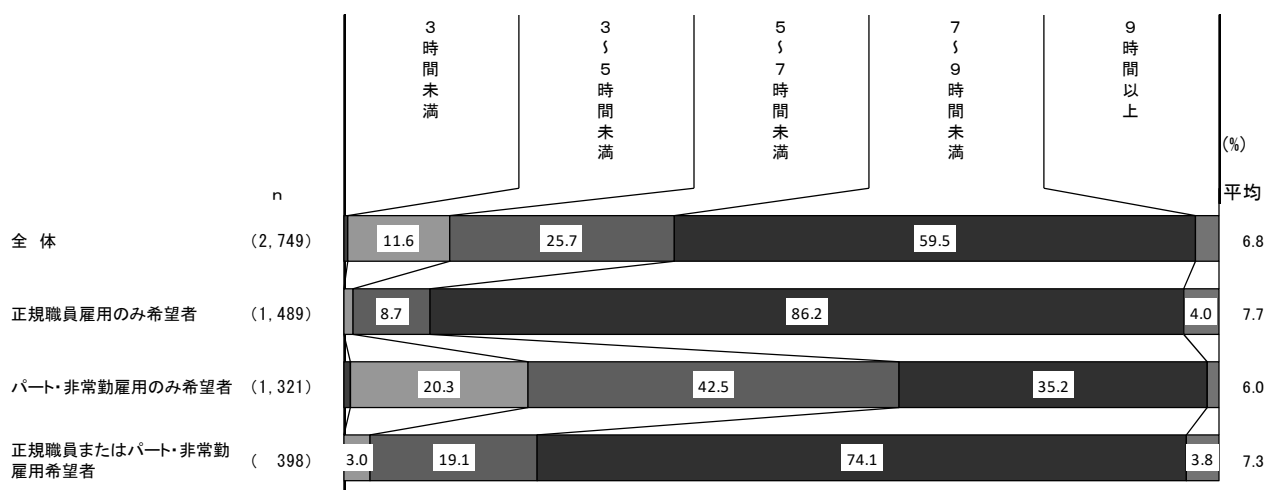
希望する雇用形態別で見ると、『正規職員雇用のみ希望者』は、勤務日数週4.9日、勤務時間7.7時間、通勤片道35.9分、年収332.4万円、『パート・非常勤雇用のみ希望者』は勤務日数3.9日、勤務時間6.0時間、通勤時間片道31.1分、年収226.9万円、『正規職員またはパート・非常勤雇用希望者』は勤務日数4.7日、勤務時間7.3時間、通勤時間片道34.8分、年収307.2万円となっている。

<条件(具体的数字)記入項目(希望する雇用形態別)>

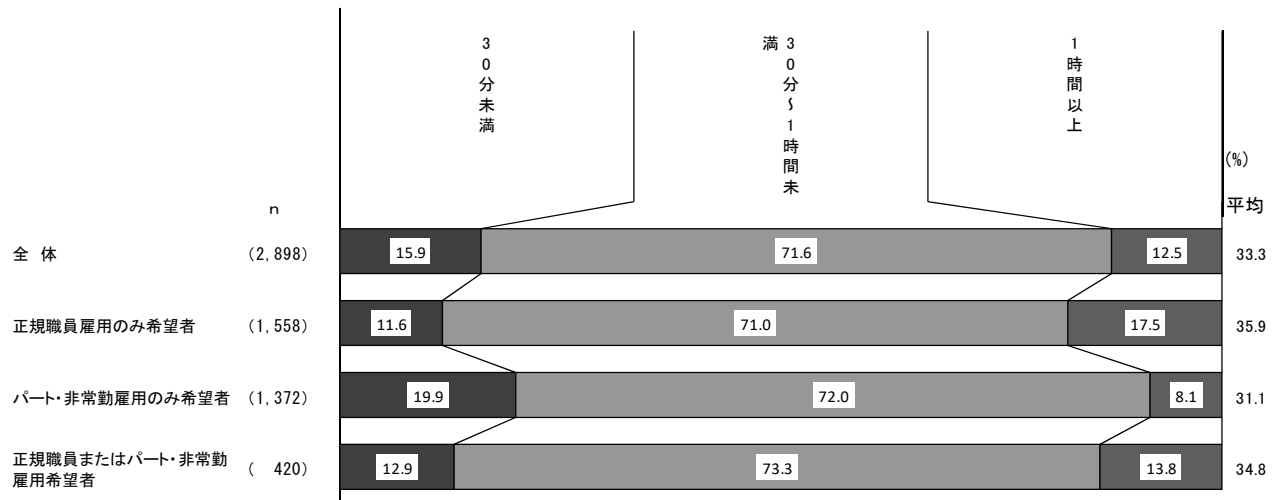
BQ21_1 保育士として就業する場合の希望条件<勤務日数:週>【保育士就業経験無】



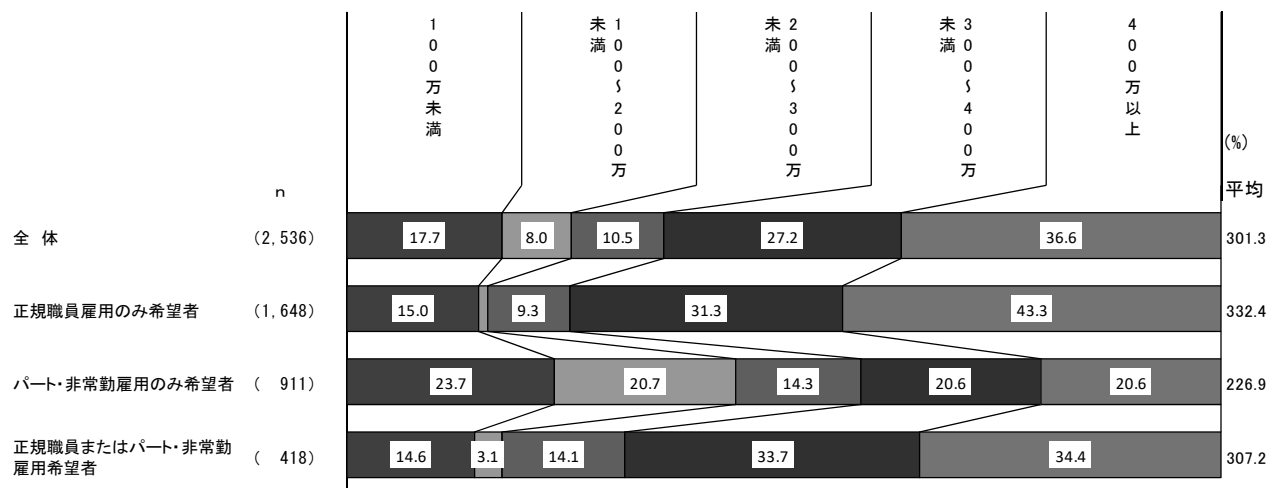
BQ21_2 保育士として就業する場合の希望条件<勤務時間:日>【保育士就業経験無】



BQ21_3 保育士として就業する場合の希望条件＜通勤時間:片道＞【保育士就業経験無】



BQ21_4 保育士として就業する場合の希望条件＜給与等:年収＞【保育士就業経験無】



4-3. 時間単位勤務での就業意向 (BQ22)

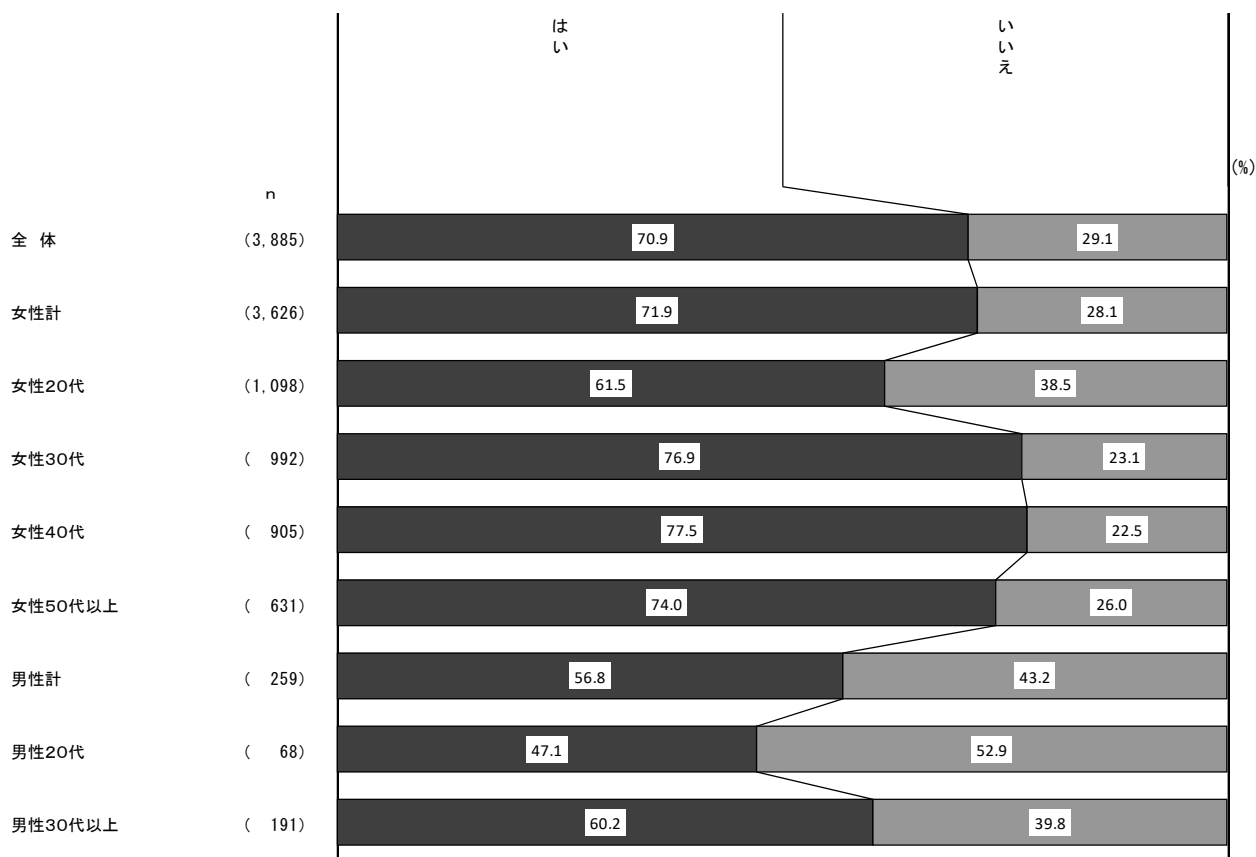
保育士の時間単位勤務での就業意向については、全体で「はい」が7割を超え(70.9%)、「いいえ」(29.1%)を大きく上回った。

性・年代別で見ると、『男性 20 代』を除く全ての層で「はい」が「いいえ」を上回っており、時間単位勤務であれば就業したいと考えている者が多いことがうかがえる。

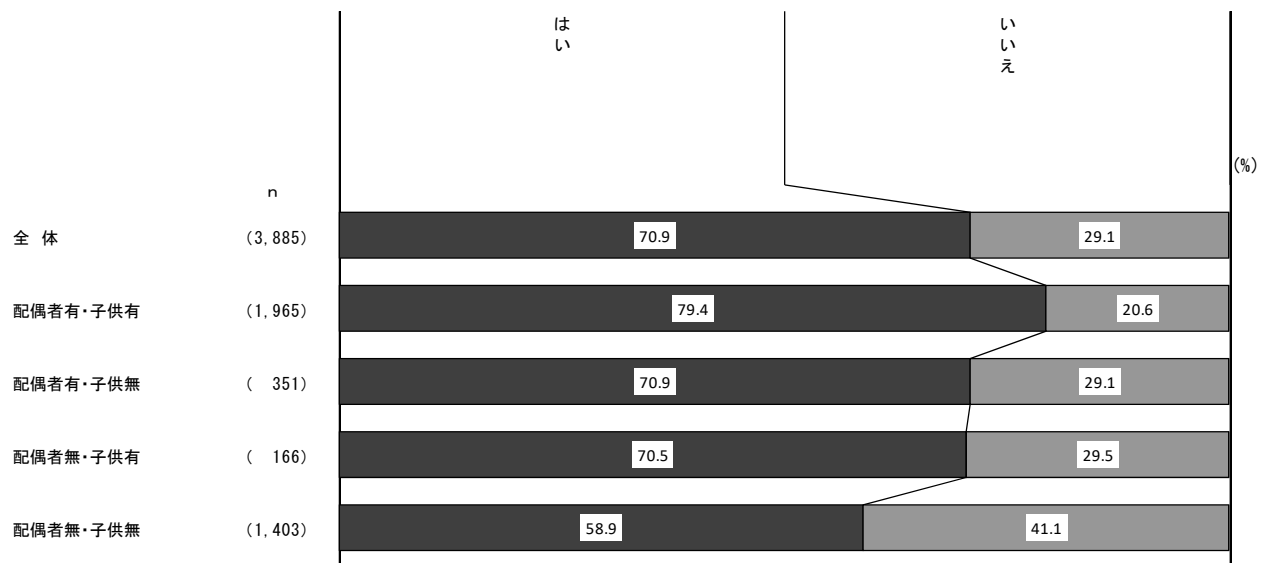
特に女性 30 代以上では、7割以上が時間単位勤務での就業意向を示している。

BQ22 時間単位の勤務が可能であれば保育士として働きたいという意向がありますか。

BQ22 時間単位勤務での就業意向【保育士就業経験無】(性・年代別)



BQ22 時間単位勤務での就業意向【保育士就業経験無】(配偶者・子供の有無別)



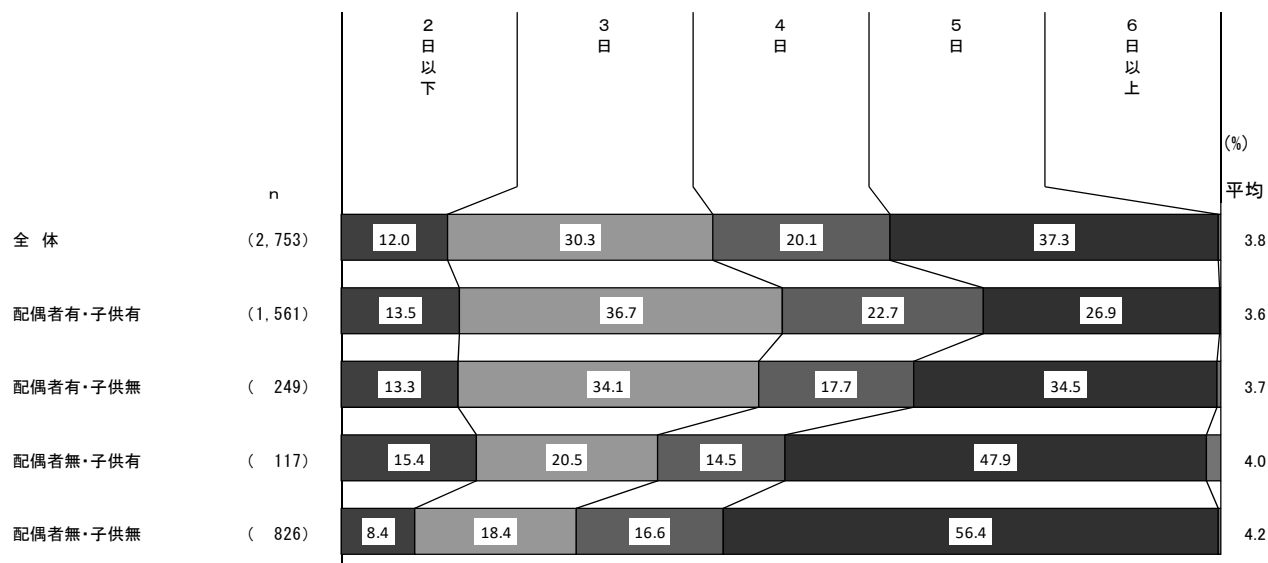
4-4. 時間単位勤務に求める条件 (BQ23)

保育士の時間単位勤務に求める条件のうち、週間勤務日数については、全体で「5日」が4割弱(37.3%)で最も多く、次いで「3日」(30.3%)が3割強、「4日」が約2割(20.1%)となっている。

配偶者・子供の有無別で見ると、『配偶者有・子供有』では「3日」、それ以外では「5日」が最も多くなっている。

BQ23 時間単位で勤務する場合に求める条件をお聞かせください。

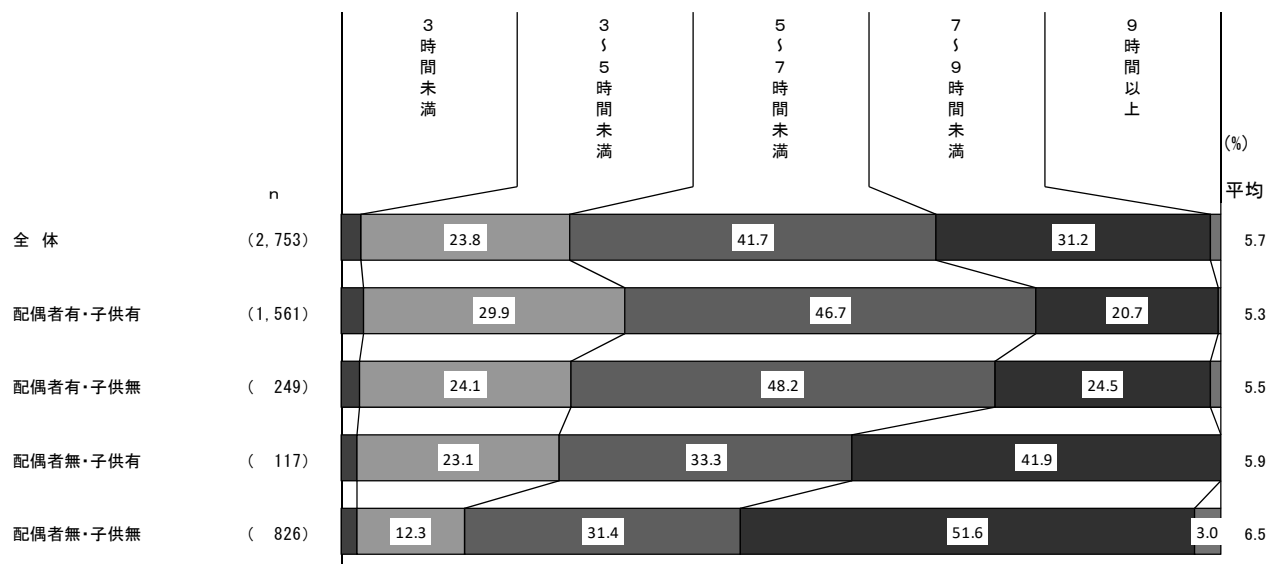
BQ23_1 時間単位勤務に求める条件<勤務日数:週>【保育士就業経験無】(配偶者・子供の有無別)



日別勤務時間は、全体で「5～7時間未満」が4割強(41.7%)と最も多く、次いで「7～9時間未満」(31.2%)、「3～5時間未満」(23.8%)となっている。

配偶者・子供の有無別で見ると、『配偶者有』では「5～7時間未満」、『配偶者無』では「7～9時間未満」が最も多くなっている。

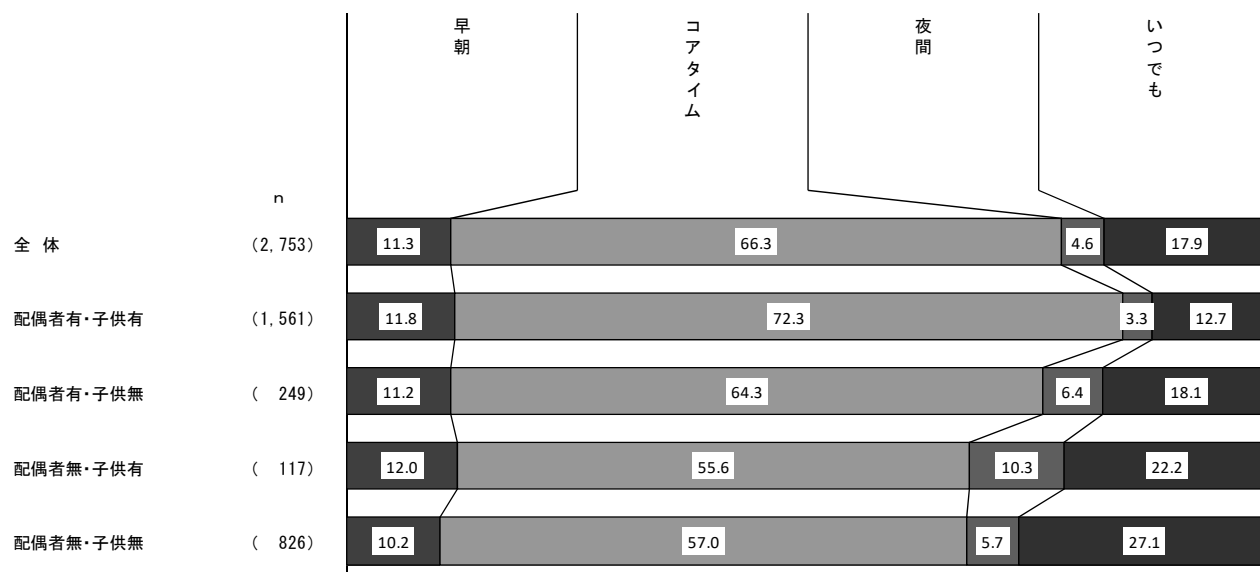
BQ23_2 時間単位勤務に求める条件<勤務時間:日>【保育士就業経験無】(配偶者・子供の有無別)



勤務時間帯は、全体で「コアタイム」が7割強(66.3%)を占めている。そのほか、「いつでも」(17.9%)と「早朝」(11.3%)が2割未満となっている。

配偶者・子供の有無別で見ると、『配偶者無』が『配偶者有』に比べて「いつでも」の割合が高い。

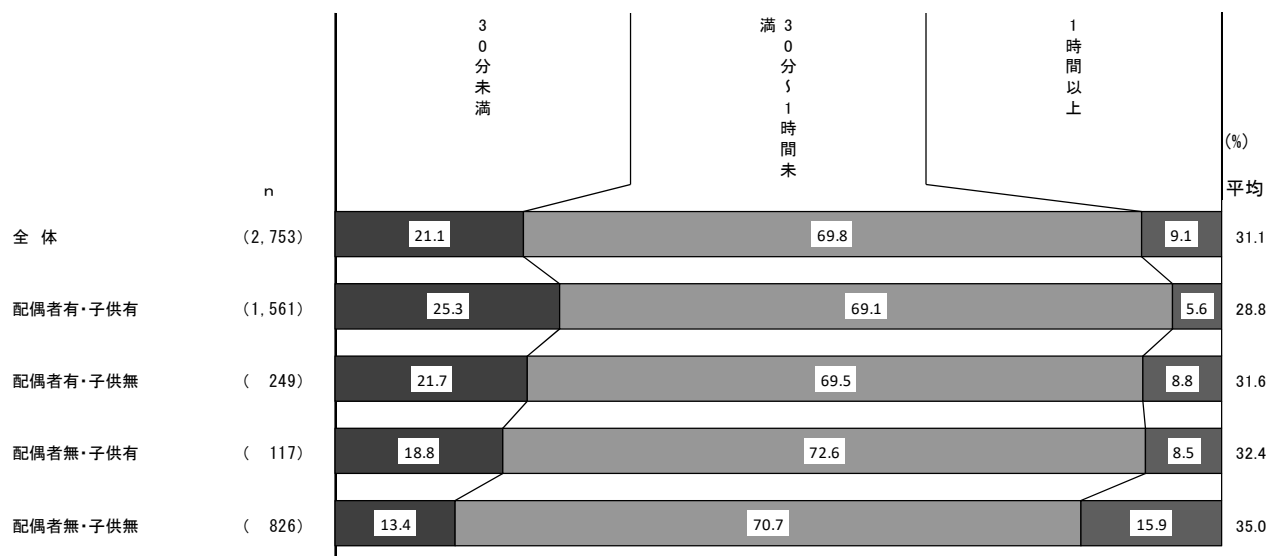
BQ23_3 時間単位勤務に求める条件<勤務時間帯>【保育士就業経験無】(配偶者・子供の有無別)



片道通勤時間は、全体で「30分～1時間未満」が7割弱(69.8%)を占めている。そのほか、「30分未満」が約2割(21.1%)、「1時間以上」が約1割(9.1%)となっている。

配偶者・子供の有無別で見ると、『配偶者有・子供有』では「30分未満」が他層と比べて多くなっている。

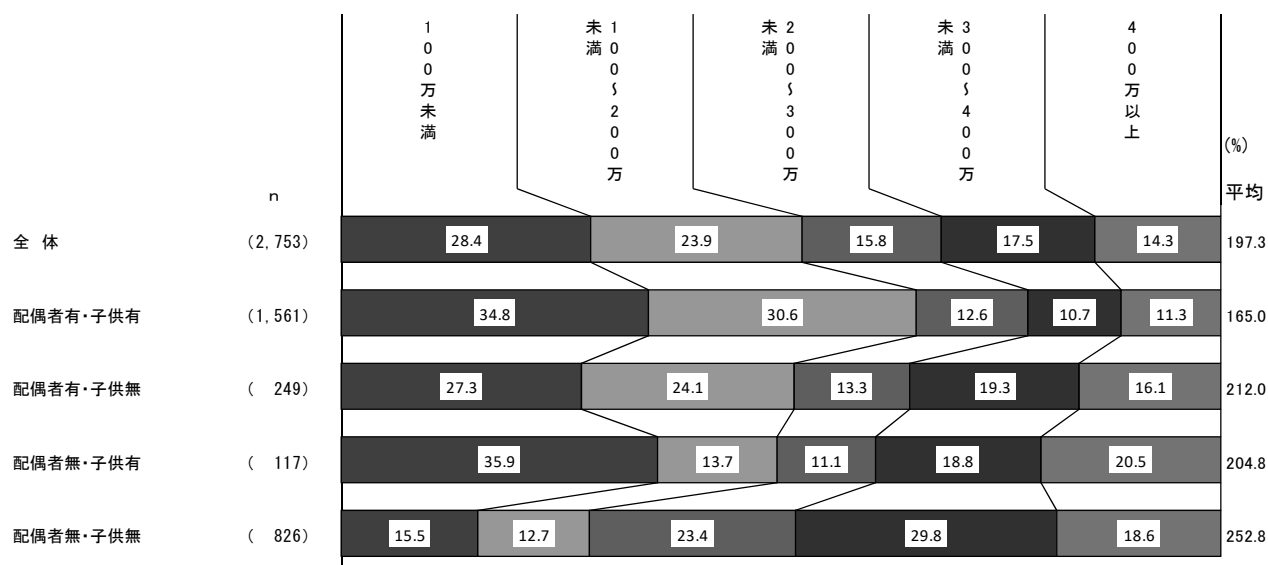
BQ23_4 時間単位勤務に求める条件<通勤時間:片道>【保育士就業経験無】
(配偶者・子供の有無別)



年収は、全体で「100万未満」が3割弱(28.4%)と最も多く、次いで「100～200万未満」が2割強(23.9%)となっている。そのほか、「300～400万未満」(17.5%)、「200～300万未満」(15.8%)、「400万以上」(14.3%)が2割弱となっており、各選択肢に回答が分散している。

配偶者・子供の有無別で見ると、『配偶者無』や『子供無』の方が高い年収を求める傾向がうかがえる。

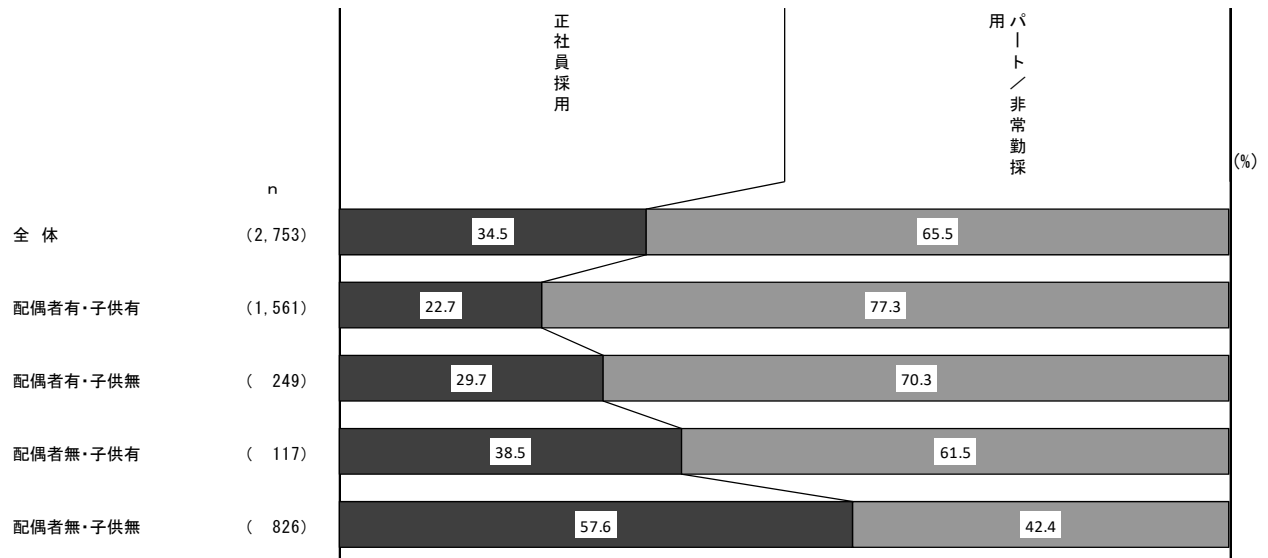
BQ23_5 時間単位勤務に求める条件<給与等:年収>【保育士就業経験無】(配偶者・子供の有無別)



雇用形態は、全体で「パート/非常勤採用」が7割弱(65.5%)となり、「正社員採用」(34.5%)を大きく上回った。

配偶者・子供の有無別で見ると、『配偶者無・子供無』では「正社員採用」の割合が高くなっている。

BQ23_6 時間単位勤務に求める条件<雇用形態>【保育士就業経験無】(配偶者・子供の有無別)



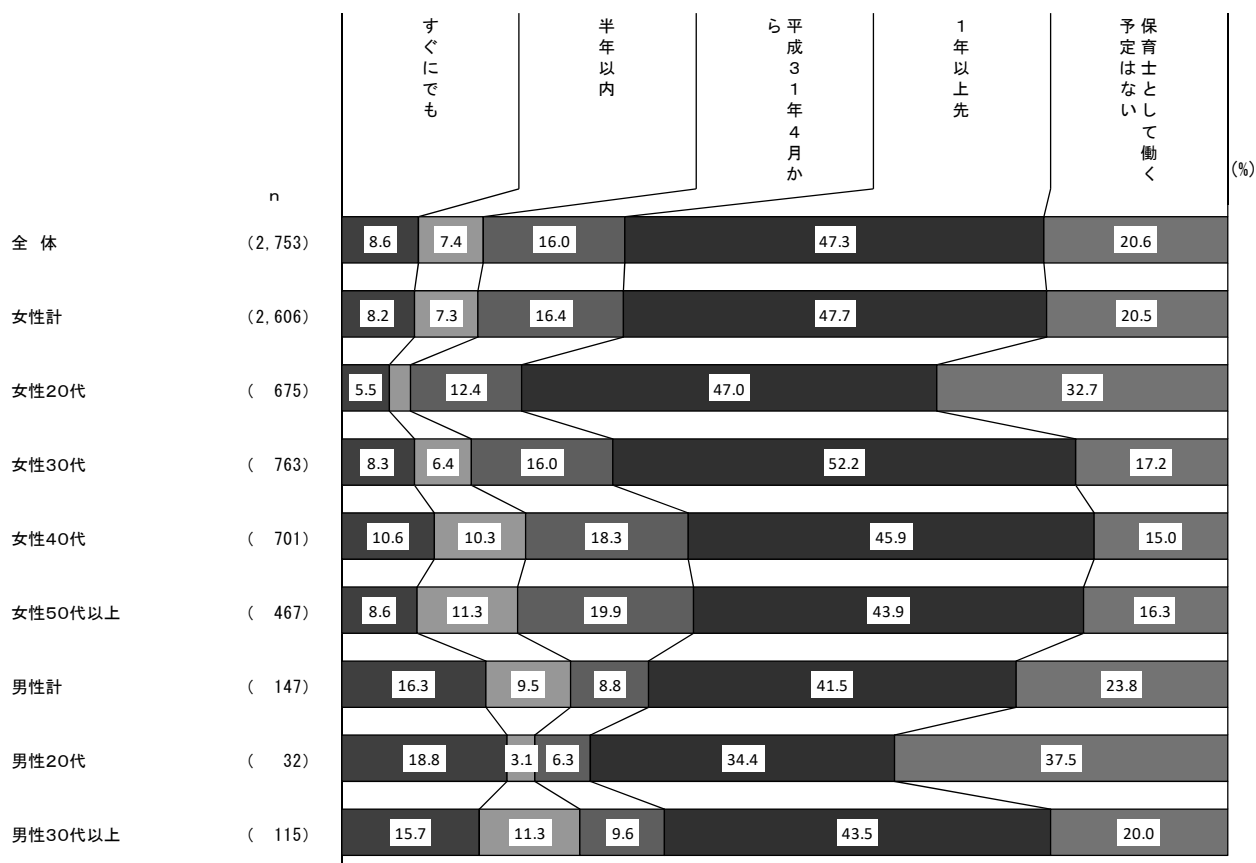
4-5. 都内における保育士就業意向 (BQ24)

都内での保育士就業意向について、全体で「1年以上先」が半数近く(47.3%)で最も多く、そのほか、「平成31年4月から」(16.0%)、「すぐにでも」(8.6%)、「半年以内」(7.4%)が1割前後となっている。「保育士として働く予定はない」は約2割(20.6%)となっている。

性・年代別で見ると、「すぐにでも」の割合は『女性』よりも『男性』の方が高い。

BQ24 あなたは、近い将来、「東京都内で保育士として働きたい」とお考えですか。

BQ24 都内における保育士就業意向【保育士就業経験無】(性・年代別)

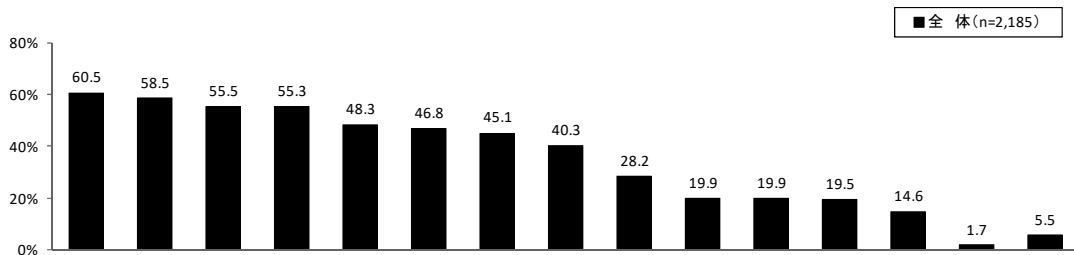


4-6. 保育士就業時の習得を希望する知識・技術 (BQ25)

全体の約6割(60.5%)が「救命救急」の習得を希望している。次いで「特別な支援を必要とする子どもへの接し方」(58.5%)、「保育実技」(55.5%)、「食育・食物アレルギー対応」(55.3%)となっている。

BQ25 今後保育士として働くまでに、以下のような知識や技術を習得する機会を欲しいと思いますか。欲しいと思うものをいくつでもお選びください。(〇はいくつでも)

BQ25 保育士就業時の習得を希望する知識・技術【保育士就業経験無】(複数回答)



Q1-3&4 配偶者と子供の有無	n	2	8	1	7	3	11	5	4	10	6	13	12	9	14	15
		救命救急	特別な支援を必要とする子どもへの接し方	保育実技	食育・食物アレルギー対応	安全管理	保護者との対応の仕方	発達心理学	衛生管理	地域の子育て支援	保育所保育指針	端末の操作やタブレット	同僚とのコミュニケーション	幼稚園教諭免許取得のため	その他	特に欲しいと思うことはない
全体	2,185	60.5	58.5	55.5	55.3	48.3	46.8	45.1	40.3	28.2	19.9	19.9	19.5	14.6	1.7	5.5
配偶者有・子供有	1,352	61.5	57.8	52.9	53.3	47.5	45.3	44.0	40.2	28.2	18.3	20.0	16.4	18.0	1.8	5.4
配偶者有・子供無	180	63.3	54.4	64.4	59.4	57.2	51.1	41.7	46.1	30.0	25.6	20.0	23.9	12.8	0.6	6.1
配偶者無・子供有	95	56.8	51.6	41.1	43.2	36.8	34.7	36.8	26.3	25.3	16.8	24.2	15.8	9.5	3.2	7.4
配偶者無・子供無	558	57.7	62.9	61.3	60.9	49.5	51.1	50.4	41.2	28.1	22.4	19.0	26.2	7.9	1.4	5.2

4-7. よいと考える研修内容 (BQ25: 自由回答より抜粋)

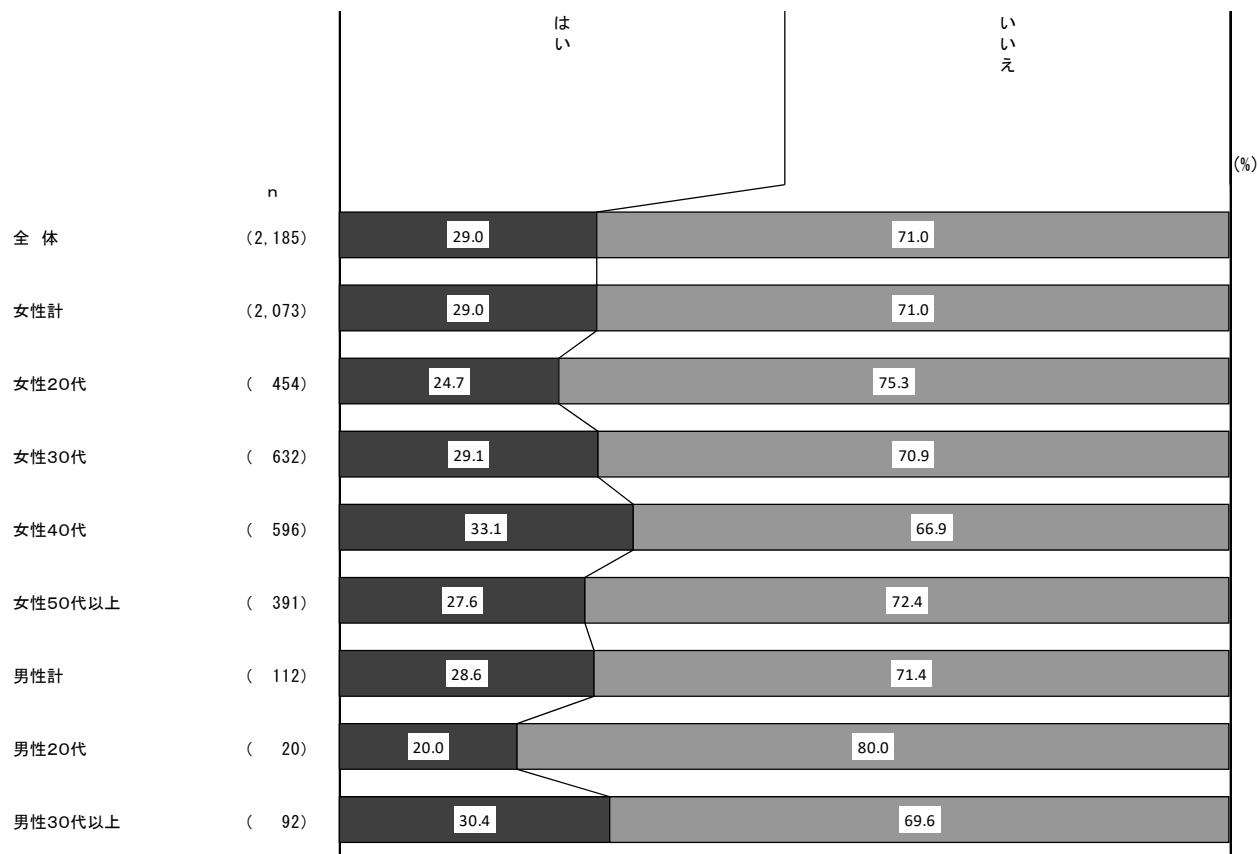
No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	BQ25 よいと考える研修内容(回答者計728人)
1	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	手遊びや日常の保育で役立つゲーム、行事に使える踊りなど、保育知識よりもすぐ実践できる技術を多く学びたいと思っています。
2	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	発達を理解した「楽しい、面白い言葉掛け研修」言葉掛けが上手くいくと保育も円滑に進むので、働く環境の悪い保育士にとってのストレスが少し軽減するのではないかと。保育が楽しめる人が増えれば、労働環境に勝るやりがいを感じられると思う。
3	女性	20～24歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	子育てや地域の現状把握に関する研修や特別な支援が必要となる子と保護者への関わり方。災害時の対応方についての研修があれば良いのではないかと考えます。
4	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	アナフィラキシーショックなどアレルギー反応が子供に出してしまった時の具体的な対応の実践演習
5	男性	20～24歳	大学の保育士養成課程	緊急事態が起きた際の対応の仕方保護者との関わり方
6	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	エプロンシアターやパネルシアターなどの実技は、ひとつエプロンプレゼントなどなにか持ち帰れるものがあればいいと思う。
7	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	現在の、世の中の保育状況を理解した上で、今後どのような保育が求められるかを議論し、実際に保育現場に生かせる内容を発見できる研修。
8	女性	30～34歳	保育士試験	特別な支援を必要とする子供について、専門的な内容を学べる研修があればいいと思います。障害児や病児などの保育に特化した研修を受けてみたいです。
9	男性	30～34歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	現役の職員複数人で更に各年齢層・性別を揃えた上での実体験を交えた講義。様々な取り組みや考え方を学べる研修であれば参加したい。
10	女性	30～34歳	その他養成施設の保育士養成課程	ピアノが苦手なので、初心者でも色々対応ができるピアノの弾きかたなど。
11	女性	30～34歳	その他養成施設の保育士養成課程	住んでいる地域で、自分が受けたい受講内容の講座を受ける。その際、1日単位ではなく、小時間で学べるものの方が行く気が出る。長い講座や研修だとそれだけでやる気が起きなくなる。
12	女性	35～39歳	大学の保育士養成課程	現代の保護者が抱える不安やストレスの実情と仕組みを理解し、協力のあり方を考察・工夫するとともに、実現化への知識と体制を得るための研修。
13	女性	35～39歳	保育士試験	私は保育士資格は取得したものの、実際に保育士として働いた経験がないため実習のような研修期間がほしいです
14	女性	35～39歳	保育士試験	集団生活に対応できない子、加配が必要な子に対しての配慮や接し方、保護者との関わり方についての研修があったら参加したい
15	女性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	大学などで実際に学生に保育の基本を教えてください先生をお呼びして研修会を開く。研修会の中でグループになって現場の状況の共有をする。トラブルや、保護者への対応の基本的な知識の再確認。保育者自身のメンタルケア。基本的な保育者として子どもに向き合う時の意識の再確認など、初心、基礎に戻る。是非上記のことを含めた講座を実施して下さると嬉しいです。研修会も費用がかかります。園によっては経営ワンマンになり、現場の保育者の実態が見えていない経営者も多くいると思います。経営者側の研修会、調査も大事なのではないかと思ひます。
16	女性	40～44歳	保育士試験	リスク管理、職場の業務効率化、人材育成など、経験に関係なく全員が学べる機会があれば意識改革にもなり良いと思う。
17	男性	40～44歳	保育士試験	体育指導(逆上がり、自転車に乗れない等の指導の仕方)健康指導(子どもがよくかかる病気、その対応の仕方)
18	女性	45～49歳	短期大学の保育士養成課程	中高年の潜在保育士は、働きたたくても親の介護や自身の子育てでなかなか時間がとれなかったり、更年期や体力の自信の無さで保育士はもう無理と敬遠している人が多いと思います。そんな状況でも働いているかたがいらっしゃるならば、どのように働いているのか、具体的なお話を聞かせていただける機会があればと思います。
19	女性	50～54歳	保育士試験	タッチケアとしてマッサージは親子に良い効果があります。乳児期から幼児期までの親子のマッサージを覚え、保護者に指導できるようになれる研修があると良いと思います。保育園、幼稚園でも保育士がマッサージを積極的にできればいいと思います。
20	女性	55～59歳	保育士試験	アレルギーを持つ子供が多いので食物などどの様なものを食べるとどう反応が出るのか詳しく知りたい。またアレルギーが出た時具体的にどの様な対応の仕方が知りたい。
21	男性	55～59歳	保育士試験	自身が、積極的に外部の研修等に参加できる環境が欲しい。その条件は雇用主と相談で。自分の研修であれば実費でも研修をしたい。大学院等の研究を。
22	女性	55～59歳	短期大学の保育士養成課程	実務経験がないので実習的な形が望ましい
23	女性	55～59歳	その他養成施設の保育士養成課程	お人形ではなく、実際の乳児にミルクを飲ませたり、沐浴させたりといった実習をしないと、保育士として働くには不安です。
24	男性	60～64歳	保育士試験	保護者絵へのフィードバックの考え方、方法(実際的な内容で、いくつかの実際例を加えた内容)
25	女性	70歳以上	保育士試験	各保育所固有の問題について、個別に行われる研修があればいいと思う。例えば、延長保育を必要とする場合が多いのであれば、その対応に特化した研修などです。

4-8. 保育関係の就職先を探しているか (BQ26)

保育関係の就職先を探しているかについては、「はい」が3割弱(29.0%)、「いいえ」が7割強(71.0%)となっている。
 性・年代別で見ると、『女性 40代』と『男性 30代以上』において「はい」の割合が3割を超えている。

BQ26 あなたは、現在、保育関係の就職先をお探しですか？

BQ26 保育関係の就職先を探しているか【保育士就業経験無】(性・年代別)



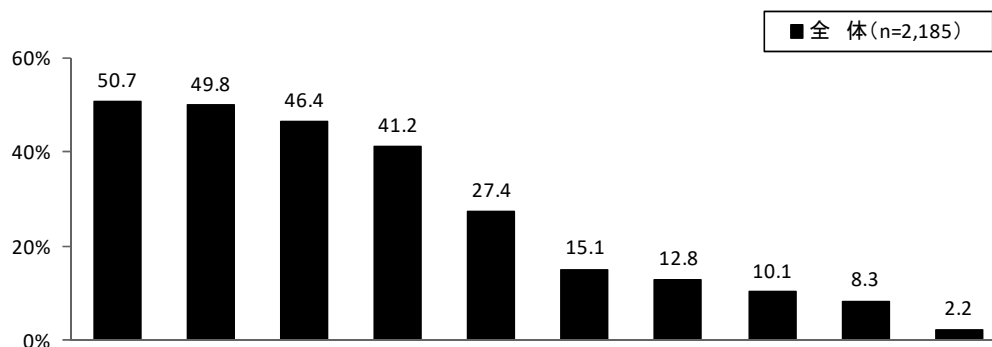
4-9. 保育関係の求人を得るために利用する(したい)機関等 (BQ27)

保育関係の求人を得るために利用する(したい)機関等については、「保育人材・保育所支援センター(東京都福祉人材センター)」が約5割(50.7%)で最も多く、次いで「ハローワーク」(49.8%)、「民間職業紹介(求人情報誌・求人サイト等)」(46.4%)、「お住まい又は就労を希望する保育所等の所在する区市町村」(41.2%)となっている。

性・年代別で見ると、『男性 30代以上』では「保育人材・保育所支援センター(東京都福祉人材センター)」の割合が他層と比べて高い。

BQ27 あなたが、保育関係の求人情報を得るために利用する(したい)機関等を教えてください。(〇はいくつでも)

BQ27 保育関係の求人を得るために利用する(したい)機関等【保育士就業経験無】(複数回答)



性別・年代	n	1	2	7	8	3	4	6	9	5	10
		センター(東京都福祉人材センター)	ハローワーク	民間職業紹介(求人情報誌・求人サイト等)	区市町村	先輩や友人からの紹介	保育士仲間	民間職業紹介(相談窓)	卒業した学校(指定保育)	以前の勤め先からの紹介	その他
全体	2,185	50.7	49.8	46.4	41.2	27.4	15.1	12.8	10.1	8.3	2.2
女性計	2,073	50.3	49.9	46.7	41.2	27.2	14.6	12.5	10.1	8.4	2.2
女性20代	454	46.9	△ 34.4	△ 32.2	△ 26.4	○ 39.0	○ 38.5	9.5	○ 33.5	10.8	2.2
女性30代	632	50.2	58.7	53.2	42.4	23.1	10.3	15.3	4.1	9.5	2.4
女性40代	596	52.3	54.0	53.5	45.1	24.5	7.6	12.9	3.4	6.7	2.3
女性50代以上	391	51.2	47.6	42.7	50.4	24.0	△ 4.6	10.7	3.1	6.4	1.5
男性計	112	58.9	48.2	40.2	41.1	31.3	23.2	18.8	9.8	6.3	3.6
男性20代	20	45.0	△ 30.0	40.0	△ 25.0	○ 50.0	○ 55.0	20.0	○ 35.0	0.0	5.0
男性30代以上	92	○ 62.0	52.2	40.2	44.6	27.2	16.3	18.5	4.3	7.6	3.3

4-10. 「保育士として働くことへの不安」や「働くために支援が必要だと感じていること」、「理想とする保育」(BQ29：自由回答より抜粋)

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	BQ29から 主に「保育士として働くことへの不安」について抜粋(記入者計2,740人)
1	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	就職を考えた際に、平均的な給与が低く保育士の職に就くことに不安があり、一般企業へ就職しました。自身のキャリアを考えた際にもっと分かりやすい給与体系、休暇取得等の説明があればよかったですと思います。
2	男性	20～24歳	保育士試験	給与の体制において、家庭を持つことへの不安を抱かない給与の体制。また、勤務時間における家庭との両立が図られる体制が必要だと感じます。
3	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	定時に上がりにくい、休みを取りにくいなど現実的に考えて働きやすい環境を確保するのが難しそうで不安。
4	女性	25～29歳	短期大学の保育士養成課程	現在幼稚園教諭として働いています。保育現場で働く者として仕方のないことかも知れませんが、行事やそれに伴う休日の出勤、自宅への持ち帰りの仕事などの負担が大きく、今後保育士として働く機会があったならば、同じことなのかな、と不安があります。また、どの求人を見ても感じますが、その負担に対する給与面での釣り合いがとられていない所が多く、保育の世界の厳しさを感じています。
5	女性	30～34歳	保育士試験	低賃金であることや勤務時間の長さが気になっています。責任感が求められ、かつ体力も必要な重労働であるにも関わらず、立場や年収が低く、長く働くには不安がある仕事だと思います。
6	女性	35～39歳	短期大学の保育士養成課程	現在妊活中で、いずれは保育士として勤めたいが、子育てや家事と両立できるか不安。(直近で幼稚園で教諭として13年勤めたが、激務により家事や妊活との両立が難しく、退職した為)
7	女性	40～44歳	その他養成施設の保育士養成課程	子どもの命を預かる責任の重さ、最近では保護者対応が大変すぎる、早朝・延長保育が求められてパートでは働きづらい、などが不安な点です。給与に魅力がないのも問題だと思います。
8	女性	40～44歳	保育士試験	一度も保育士として働いたことがないため、非常勤勤務やパートの場合の事故保険などの保証がきちんとされているのかは不安に感じます。未経験の場合、何らかのサポートがあると足を踏み入れやすいような気がします。
9	女性	45～49歳	保育士試験	若い保育士さんとかやっていけるかが心配。現場が分からないのが不安です。
10	女性	55～59歳	保育士試験	保育士の仕事というものは、溢れんばかりの愛情と慈愛をもって望むべき仕事であり、どの子にも公平に接し、成長を楽しめるようでありたい、特に保育者の心のゆとりと穏やかでいられるように、生活の不安がないように、経済的なレベル、待遇をあげるべきだと思います。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	BQ29から 主に「働くために支援が必要だと感じていること」について抜粋(記入者計2,740人)
1	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	幼稚園教諭も同じだが、とにかく給料が低い。時給換算した方が絶対に稼げると思える毎日を過ごしていると思うのでもう少しそういった面での支援を考えてほしい。子どもは好きで保育関係で働きたいのに時間外労働が多すぎて体がついていかに働けないという状況が多いと思う。
2	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	保育士に限らず、幼稚園教諭にも家賃手当などがあつたり、休職制度を設けてほしい。また、インフルエンザの予防接種については、教員など、学校関係者のみは無料で受けられるようにしてほしい。そういった支援が必要だと思う。保育士は改善されつつあるが幼稚園教諭も同じく色々改善が必要だと思う。
3	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	保育士のイメージは、体力的・仕事量に見合わない給料だということです。支援が必要なのは人手を増やすことだと思います。理想の保育は、子どもがのびのびと過ごせる環境が整っていることです。その為にはまず、保育士の環境が整うことが大切だと考えます。
4	女性	30～34歳	その他養成施設の保育士養成課程	子どもたちやその保護者を第一に考えた保育現場を見てきた。確かにそれは質の高い保育士を養成するのに重要なことかもしれない。しかし、自分の子どもの子育てを犠牲にして、他人の子どもを子育てできるはずがない。保育士の中にもまた、子育て支援を必要としている保護者の一人でもある人がいる、と私は思っている。
5	男性	35～39歳	大学の保育士養成課程	地域に応じた子育て家庭のニーズの把握が今後必要になると感じる。女性の社会進出に係る政策の一環で共働き家庭の為の保育施設が必要とされているのは理解しているが、全ての家庭が共働きとは限らず、大方の保育所の様な自由保育よりも幼稚園の様な集団保育や幼児教育が求められている事も確かである。子育ての負担が掛かり易い女性への支援よりも、保育施設に預けられる子どもの為を考えた保育を推進してほしい。
6	女性	35～39歳	保育士試験	まだ自分の意志がはっきり表現出来ない子どもを預かり、時には子どもたちを守らないと行けない立場の保育士の給与が低すぎると感じます。国が保育園側に支援してくれたとしても保育士個人の給与面に反映されているとは思えません。
7	女性	40～44歳	保育士試験	事故などをおこさない万全の体制に関連する支援と、持ち帰り残業がないようにする人員確保。
8	女性	45～49歳	保育士試験	保育園が足りないをよくニュースで見ますが、フルタイムで働く父母、さらに上場企業に勤める父母の子どもは、企業が保育施設を作れば、少しは保育士不足が解消に繋がるのではないかと考えています。それには、行政からの支援や要請が必要となるので、国と民間企業が協力して、子どもの養護と親、保育士に寄り添う支援を考えていただけたら、いい方向に変わっていくと思います。
9	女性	50～54歳	その他養成施設の保育士養成課程	気持ちに余裕を持って、子どもたちの健やかな成長や保護者の支援のために貢献できる職場環境。
10	女性	55～59歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	女性の活躍が求められる今日ですが、その支援の実際はまだまだ女性の選択肢を増やしているとはいえないと感じています。保育園の増設はもちろんですが、それ以外にも子どもの育つ過程に必要なあらゆる支援も同じように充実させて頂きたいとおもっています。サポート体制が整っていけば、働きながら子どもを迎えたい夫婦は増えると感じています。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	BQ29から 主に「理想とする保育」について抜粋(記入者計2,740人)
1	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	預かっている子どもの人数に対しての保育者の数が少なかったり、また認可されていない保育所での事故がないように保育士資格を持たない人が預かることがないことが当たり前になってほしいです。理想はすぐに子どもを預けることができる保育所、保育者の数、その為に幼稚園も同様に賃金の引き上げだと思います。家にも持ち帰ってする仕事もあり、労働時間に対しての賃金が安いです。
2	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	人間関係が良くないとよく聞きます。子どもを育成する人間が、人が気分を害する言動をするのは良くないと思いますが、きっとそういう人は自分の中で何か満たされていないことがあると思うので、労働時間をきちんと守ることや給料を少しUPさせるなど、不満がないように働けることが理想だと思います。心にゆとりがあれば、子どもに対する保育も質が良くなると思います。
3	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	保育士の年収の低さは気になります。割に合っていないと感じますが、年収を上げたことで加わった保育士によって保育の質が下がってしまわないかも疑問です。理想は各家庭の年収が増え、できる限り乳児期・幼少期は保護者と過ごす時間が増えることだと思います。幼稚園に通える家庭が増えることを願います。
4	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	とにかく給与が低い。労働内容やその質に給与が見合っていない。勤務時間や残業時間が長すぎる。働きながら自身のQOLを維持・向上できない。全ての子どもと保育に関わる人が幸せでいられることが理想。
5	女性	30～34歳	保育士試験	常勤は、制作物や行事などの準備で残業が多いと聞きます。自分も子育てしながら、働く時は、どんな仕事でも家庭と両立できるかを基本に考えます。直接的に子どもに関わるだけが、保育の仕事ではないと思うので、間接的に関わられる仕事があってもいいのかなと思います。(制作物の下準備など)大人の理想は人それぞれ違うので、子どもに合わせた保育ができればいいと思います。
6	女性	35～39歳	保育士試験	給与、就業時間、待遇などが一般企業と同程度であることを最低限の理想とします。また園の運営方針や安全性の確保が納得できるものであることも必要だと感じています。地域の協力も得られるような保育ができれば理想的だと思います。
7	女性	40～44歳	短期大学の保育士養成課程	現在の仕事を通して、保育士の質が下がっていると感ずることがあり、それだけ余裕のない現場だと感じざるを得ません。遊び中心、子ども主体、子どもを中心に考えた穏やかな保育が私の理想です。
8	女性	45～49歳	その他養成施設の保育士養成課程	保育士として働きたいと思っていますが、保育園ではなかなか休みを取ることができないという現状があります。休みが取りやすく、家庭を犠牲にしないように働くことができることが一番の理想です。
9	女性	50～54歳	保育士試験	保育士の経験による適切な賃金や勤務年数が短くても確実に取得できる休暇が必要と思います。保育士が精神的に余裕を持ち、子ども一人一人の個性を大切に關わる保育が理想です。
10	女性	55～59歳	保育士試験	保育士としての経験はなくても、こどもの育ちに関わる社会の中で、50代の貢献できそうな職種があると応募しやすいです。50代は自分自身の将来の健康(腰痛)や親の介護、配偶者の健康など、働きたいが無理は出来ない状態です。そういう状態を配慮してもらえ職場や相談業務や話し相手などの分野の保育士もあるのが理想です。

